Nikon

デジタル一眼レフカメラ

使用説明書

Jp

この使用説明書について

この使用説明書では、次の方法で知りたいことを簡単に探し出すことができます。

⚠安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは🕮xviii～xxivをご覧ください。

「見て聞くマニュアル」デジチューター

インターネット上でD3Sの操作方法を、動画や作例写真を交えながら説明しています。下記アドレスのホームページをご覧ください。

http://www.nikondigitutor.com/

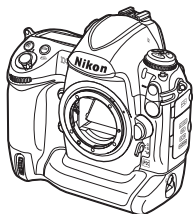
カメラと付属品を確認する

お使いになる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。

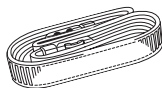
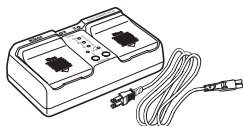
※コンパクトフラッシュカード（CFカード）は別売です。

❏ D3Sカメラ本体（□3）

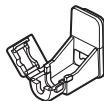
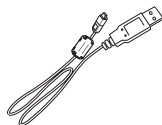
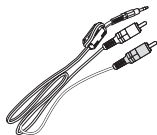
❏ ボディーキャップ BF-1B（□32、397）

❏ アクセサリーシューカバー BS-2（□18）

❏ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL4a（端子カバー付）（□26、29）

❏ クイックチャージャー MH-22（電源コード/接点保護カバー（2個）付）（□26）

❏ ストラップ AN-DC5（□18）

❏ オーディオビデオケーブル EG-D2（□280）

❏ USBケーブルUC-E4（□266、270）

❏ USBケーブルクリップ（□266）

❏ 保証書
❏ 使用説明書（本書）
❏ Quick Guide（クイックガイド）
❏ ソフトウェアインストールガイド
❏ Software Suite（ソフトウェアスイート）CD-ROM
❏ 登録のご案内

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

使用説明書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- コンパクトフラッシュカード（CF カード）をメモリーカードと表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- この使用説明書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

ヘルプ機能について

このカメラにはヘルプ機能が付いています。メニュー操作時などに、液晶モニターでその項目の意味などを調べることができます。詳しくは🕮25をご覧ください。

商標説明

- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は米国SanDisk 社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime は米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- PictBridge ロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

目的別かんたん検索

使いたいことや知りたいことから、説明が記載されているページを簡単に調べられます。

特長的な機能について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	🕮
FXフォーマット（35mm判カメラに準じた画角）から撮像範囲を変更したい	撮像範囲を変更する	82
より高画質なRAW画像で撮影したい	14ビット記録	91
液晶モニターを見ながら撮影したい	ライブビュー撮影	56
動画を撮影したい	動画の撮影	68
暗い被写体の動画を撮影したい	高感度動画撮影モード	74
2枚のメモリーカードを使って画像を記録したい	画像記録モード	94
撮影する画像の仕上がり具合を簡単に設定して撮影したい	ピクチャーコントロール	176
白とびや黒つぶれの少ない画像を撮影したい	アクティブD-ライティング	187
不規則な動きをする被写体に自動的にピントを合わせ続けたい	3D-トラッキング	310
撮影時にカメラが水平になっているか確認したい	水準器表示	360
ピントが合う位置をレンズごとや一括で微調節したい	AF微調節	361
撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付いたゴミやほこりを掃除したい	イメージセンサークリーニング	401
液晶モニターがすぐに消えないようにしたい	液晶モニターのパワーオフ時間	320

カメラの設定について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
ファインダー内表示や上面表示パネル、背面表示パネルの表示がすぐに消えないようにしたい	半押しタイマー	47、319
内蔵時計の時刻を設定したい	地域と日時	34、352
旅行先の現地時刻に合わせたい	地域と日時	34、352
メニュー表示時や再生時の液晶モニターの明るさを調整したい	液晶モニターの明るさ	347
露出インジケーターの＋/－方向を変えたい	インジケーター表示の＋/－方向	345
メニューに表示される言語を変えたい	言語（Language）	352
各メニューで設定した内容を、他のD3Sでも同じ設定にしたい	カメラ設定の保存と読み込み	358
カメラの設定を初期状態に戻したい	ツーボタンリセット	208
撮影メニューの設定を初期状態に戻したい	撮影メニューのリセット	297
カスタムメニューの設定を初期状態に戻したい	カスタムメニューのリセット	306

カメラの操作について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
カメラでメニューの内容を知りたい	ヘルプを使う	25
メニューの操作方法を知りたい	メニューの操作方法	22
よく使うメニューだけを表示したい	マイメニュー	382
最近設定したメニュー項目を自動的に表示させたい	最近設定した項目	386
液晶モニターや上面表示パネルの警告表示の内容を知りたい	警告メッセージ	429

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	🕮
バッテリーの残量を確認したい	バッテリーの残量を確認する	45
バッテリーの状態を正確に知りたい	電池チェック	355
画像ファイル番号が、メモリーカードを換えても連番になるようにしたい。ファイル番号をリセットして1から始めたい	連番モード	323
カメラを掃除したい	カメラとレンズのお手入れ	400

撮影について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	🕮
使用中のメモリーカードであと何コマ撮影できるのか知りたい	メモリーカードの残量を確認する	46
大きくプリントするための画像を撮影したい	画質モード、画像サイズ	88、92
撮影できるコマ数を増やしたい	画質モード、画像サイズ	88、92
ファインダー内がはっきり見えるように調節したい	視度調節	43
オートフォーカスの設定を変更したい	フォーカスに関する設定	95
ピントを合わせる位置を変えたい	フォーカスポイント	100
単写（1コマ撮影）と連写（連続撮影）を切り換えたい	レリーズモード	108
連続撮影速度を最速にしたい	連続撮影速度について、高速連続撮影	110、322
ISO感度を変えたい	ISO感度	116
自分が設定した感度で適正露出が得られないときに自動的にISO感度を上げたい	感度自動制御	118
画像を明るく、または暗く撮影したい	露出補正	139

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
花火や天体の写真、自動車のライトの流れを撮影したい	長時間露出で撮影する（バルブ撮影）	133
同じ被写体の露出を変えながら撮影したり、フラッシュの光量を変えながら撮影したい	AEブラケティング、フラッシュブラケティング	141
ホワイトバランスを変えて何コマか同時に撮影したい	WBブラケティング	146
アクティブD-ライティングの設定を変えながら撮影したい	ADLブラケティング	150
ホワイトバランスを変えたい	ホワイトバランス	154
別売のフラッシュの設定を変更したい	フラッシュモード	201
複数のコマを重ねて1枚の画像を撮りたい	多重露出撮影	210
撮影時に音声メモを録音したい	音声メモを録音する	256
適正露出の基準を変えたい	基準露出レベルの調節	318
シャッターボタンを押したときの、カメラのブレを最小限に抑えたい	露出ディレーモード	326
動画の画像サイズやマイク感度、記録先スロットに関する設定をしたい	動画の設定	72

再生について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
撮影した画像をカメラで見たい	画像を1コマずつ再生する	232
撮影した動画を再生したい	動画を再生する	75
撮影した画像の情報を詳しく知りたい	画像情報を表示する	235
再生時に画像の一部がチカチカと点滅するのを直したい	ハイライト表示	237、286
いらない画像を1コマずつ消したい	画像を削除する	250
いらない画像をまとめて消したい	削除	252

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
画像を拡大して表示したい	画像を拡大表示する	247
撮影した画像を誤って削除しないようにしたい	プロテクト	249
画像を表示できないようにしたい	非表示設定	285
撮影した画像の中の非常に明るい部分（ハイライト部）を確認したい	再生画面設定（ハイライト）	237、286
撮影した画像でピント合わせに使用したフォーカスポイントを確認したい	再生画面設定（フォーカスポイント）	236、286
撮影直後に画像を自動的に表示したい	撮影直後の画像確認	291
画像に音声メモを付けたい	再生時に音声メモを録音する	259
画像をスライドショーにしてカメラで見たい	スライドショー	292

画像編集について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
逆光やフラッシュの光量不足で暗くなってしまった部分を明るくしたい	D-ライティング	367
フラッシュで瞳が赤くなってしまった画像を修正したい	赤目補正	368
画像から必要な部分だけを切り抜きたい	トリミング	369
撮影した画像をモノクロやセピア色に変えたい	モノトーン	371
撮影した画像の色調を変えたい	フィルター効果、カラーカスタマイズ	371、372
RAW画像をカメラでJPEG画像に変換したい	RAW現像	376
2コマのRAW画像を合成したい	画像合成	373
動画の必要な部分を抜き出したい	動画を編集する	77

出力関連について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
画像をテレビで見たい	画像をテレビで見る	280
画像をハイビジョン（高画質）テレビで見たい	HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する	282
パソコンに画像を転送したい	画像をパソコンに転送する	264
画像を印刷したい	画像をプリンターで印刷する	269
カメラとプリンターを直接接続して印刷したい	ダイレクトプリント	269
日付を入れて印刷したい	日付プリント	272

アクセサリーについて

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
使えるメモリーカードを知りたい	使用できるCFカード	447
使えるレンズを知りたい	使用できるレンズ	388
使えるスピードライト（フラッシュ）を知りたい	使用できるスピードライト	194
使えるパソコン用ソフトウェアを知りたい	使用できるアクセサリー	397
使えるアクセサリーを知りたい（ACアダプター、リモートコード、ファインダー用アクセサリーなど）	使用できるアクセサリー	394

目次

ホワイトバランスに関する設定 153

画像処理に関する設定 175

フラッシュ撮影に関する設定 191

撮影の便利な機能 207

画像の再生 231

音声メモ機能 255

パソコン、プリンター、テレビとの接続 263

メニューガイド 283

資料 387

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

 △記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

 ●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告（カメラとレンズについて）

表示	内容
分解禁止	**分解したり修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
バッテリーを取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかにバッテリーを取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。 バッテリーを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
使用禁止	**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと** 失明や視力障害の原因となります。
発光禁止	**車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。
警告	**ストラップが首に巻き付かないようにすること** 特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと。 首に巻き付いて窒息の原因となります。
使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
警告	**指定のバッテリーまたは専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意（カメラとレンズについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
保管注意	**製品は幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
使用注意	**逆光撮影では、太陽を画角から充分にずらすこと** 太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。
保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
移動注意	**三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。
使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
バッテリーを取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（バッテリーやACアダプター）を外すこと** バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。 ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪影響を与え、火災の原因になることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠ 危険（専用リチウムイオン充電池について）

禁止	**バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**バッテリーをショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL4aに対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。 Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4aは、D3Sに対応しています。
危険	**バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告（専用リチウムイオン充電池について）

保管注意	**バッテリーは幼児の手の届かない所に置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱・破裂の原因となります。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときには、充電をやめること** 液もれ、発熱・破裂の原因となります。

警告（専用リチウムイオン充電池について）

警告

バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

警告

バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

注意（専用リチウムイオン充電池について）

注意

バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。

警告（クイックチャージャーについて）

分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

プラグを抜く

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。

ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

⚠ 警告（クイックチャージャーについて）

警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
禁止	**電源コードを傷つけたり加工したりしないこと** **また、重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないこと** 電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。
感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因になることがあります。
禁止	**専用バッテリーチャージャーを海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠ 注意（クイックチャージャーについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置注意	**製品は幼児の手の届かないところに置くこと** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

⚠ 危険（時計用リチウム電池について）

危険	**電池からもれた液が目に入った時はすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告（時計用リチウム電池について）

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池に表示された警告・注意を守ること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**CR1616型リチウム電池以外を使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
保管注意	**電池は幼児の手の届かない所に置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
警告	**電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
禁止	**充電式電池以外は充電しないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**電池を廃棄する時はテープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、直ちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/

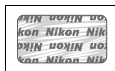
●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL4a には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。

- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。
  http://www.nikon-image.com/jpn/support/manual/
  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットマニュアルの画像（🕮162）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

お使いになる前に

ここでは、カメラをお使いになる前にあらかじめ知っておいていただきたいことや、カメラ本体の各部名称を説明します。

はじめに

ニコンデジタル一眼レフカメラをお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

アクセサリーについてのご注意

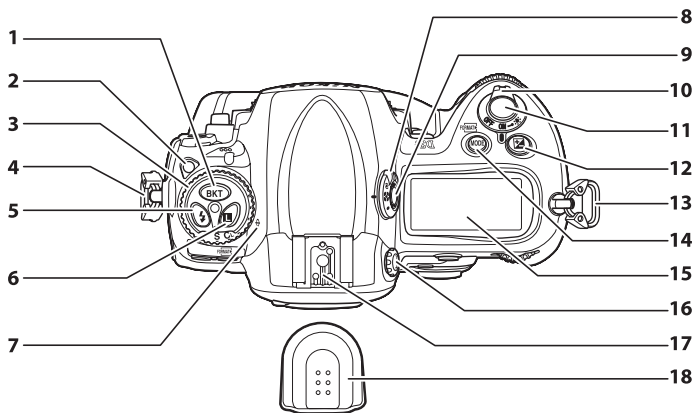
このカメラには、ニコン製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

カメラなどの点検サービスについて

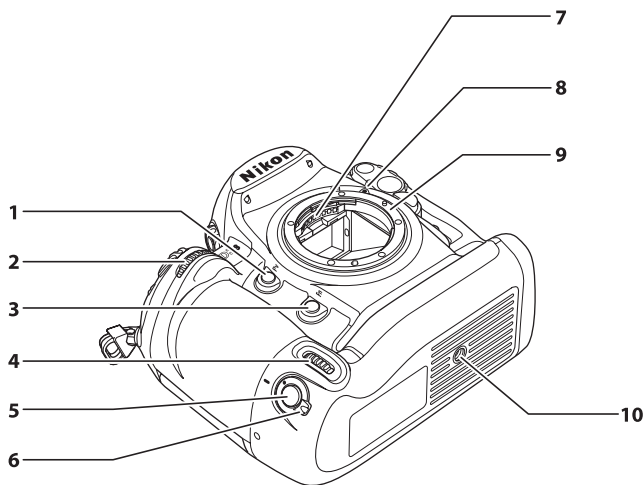
カメラは精密機械ですので、1〜2年に1度は定期点検を、3〜5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズや別売スピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

各部の名称と機能

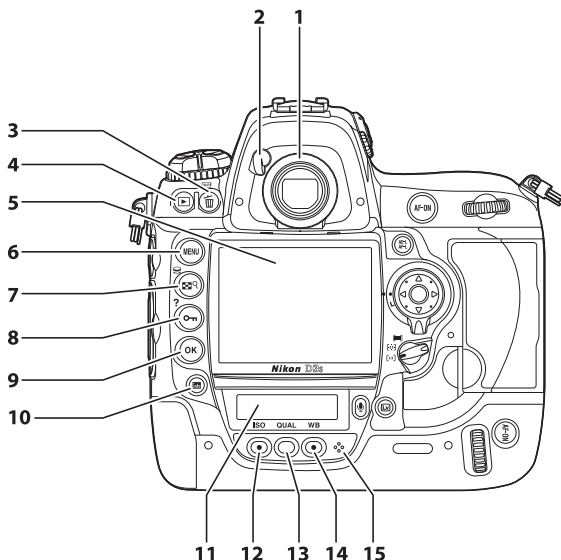
カメラ本体

No.	名称	ページ
1	**BKT** オートブラケティングボタン	142、146、150、213、341
2	レリーズモードダイヤルロックボタン	109
3	レリーズモードダイヤル	109
4	ストラップ取り付け部（吊り金具）	18
5	⚡ フラッシュモードボタン	202
6	L コマンドロックボタン	135
7	-⊖- 距離基準マーク	106
8	測光モードダイヤル	123
9	測光モードダイヤルロックボタン	123
10	電源スイッチ	10、45
11	シャッターボタン	50、51
12	☒ 露出補正ボタン	139
13	ストラップ取り付け部（吊り金具）	18
14	**MODE** 露出モードボタン	125、127、128、130
	FORMAT フォーマットボタン	41
15	上面表示パネル	8
16	視度調節ノブ	43
17	フラッシュ取り付け部（アクセサリーシュー）	18、192
18	アクセサリーシューカバー	18、192、413

カメラ本体（つづき）

1	ミラー	114、404
2	セルフタイマーランプ	113
3	マイク（動画用）	69、73
4	シンクロターミナルカバー	193
5	10ピンターミナルカバー	226、398
6	シンクロターミナル	193
7	10ピンターミナル	226、398
8	USB端子カバー	266、270
9	レンズ取り外しボタン	33
10	端子カバー	280、282
11	USB端子	266、270
12	外部マイク入力端子	73
13	オーディオビデオ端子	280
14	HDMIミニ端子	282
15	DC入力端子（別売のACアダプター EH-6を接続します）	394
16	フォーカスモードセレクトダイヤル	96、105
17	バッテリー室着脱ノブ	29
18	バッテリー室カバー	29
19	露出計連動レバー	439
20	ボディーキャップ	397

1	**Pv** プレビューボタン .... 69、124、339
2	サブコマンドダイヤル........ 341
3	**Fn** ファンクションボタン .... 85、205、332
4	縦位置サブコマンドダイヤル 338
5	縦位置シャッターボタン
6	縦位置シャッターボタンロックレバー....................... 337
7	レンズ信号接点
8	レンズ着脱指標..................... 32
9	レンズマウント...........32、106
10	三脚ネジ穴

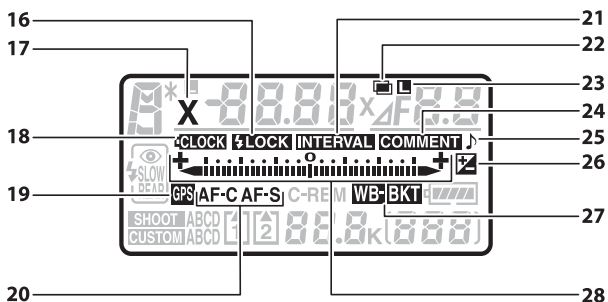
マイク、スピーカーについてのご注意

マイクやスピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。マイクやスピーカーに磁気製品を近づけないでください。

カメラ本体（つづき）

1	アイピース 44
2	アイピースシャッターレバー 44
3	削除ボタン ....53、250 FORMAT フォーマットボタン 41
4	再生ボタン ....52、232
5	液晶モニター ....52、56、232
6	MENU メニューボタン .....22、283
7	サムネイル/拡大ボタン ....245、247
8	プロテクトボタン....... 249 ? ヘルプボタン 25
9	OKボタン.......................... 25
10	info インフォボタン 14
11	背面表示パネル............10、324
12	ISO ISO感度ボタン .... 116 ツーボタンリセットボタン 208
13	QUAL 画質モード/ 画像サイズボタン..........89、93
14	WB ホワイトバランスボタン ....155、160、161 ツーボタンリセットボタン 208
15	マイク（音声メモ用）.......... 256

1	ファインダー接眼窓...............43
2	AE-L AF-L AE/AFロックボタン .... 102、103、340
3	**AF-ON** AF作動ボタン ....58、69、97
4	メインコマンドダイヤル 341
5	マルチセレクター..................23
6	フォーカスポイントロック レバー.................................. 100
7	メモリーカードアクセス ランプ............................ 40、51
8	メモリーカードカバー...........37
9	開閉ロックボタンカバー ...... 37 開閉ロックボタン（カバー下） ....37 スピーカー（カバー下） ....76、262
10	AF-ON 縦位置AF作動ボタン........315
11	🎙 音声ボタン .... 73、257、259
12	Lvライブビューボタン ....57、61、68
13	AFエリアモードセレクト ダイヤル 98
14	縦位置メインコマンド ダイヤル 338

上面表示パネル（説明のため、全ての表示を点灯させています）

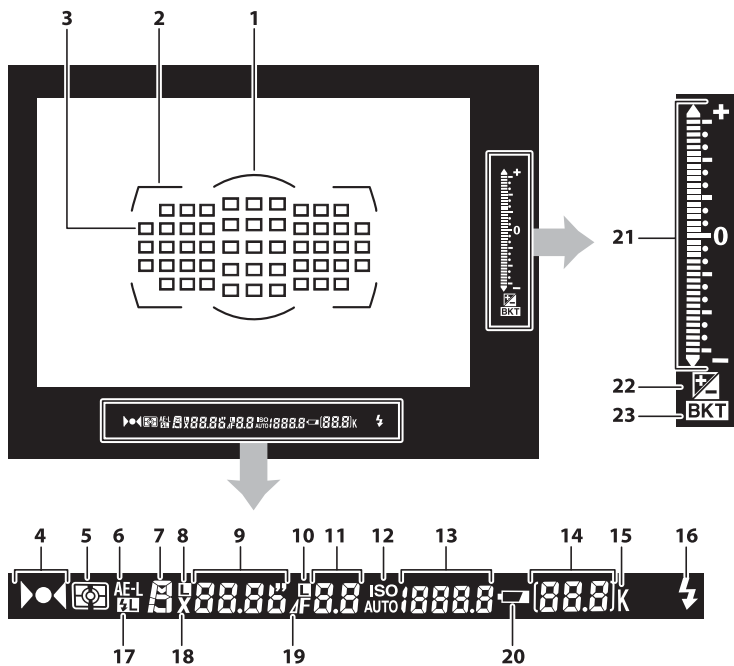
1	シャッタースピード .... 127、131 露出補正値 .... 139 オートブラケティングコマ数 .... 142 WBブラケティングコマ数 ..... 146 インターバル回数............... 219 非CPUレンズ焦点距離 .... 225 ISO感度 116
2	シャッタースピードロックマーク 135
3	プログラムシフトマーク 126
4	露出モード 124
5	フラッシュモード............... 201
6	撮影メニュー設定表示........ 295
7	カスタムメニュー設定表示... 306
8	メモリーカードマーク（スロット1）.................. 39、41
9	メモリーカードマーク（スロット2）.................. 39、41
10	記録可能コマ数...........46、448 連続撮影可能コマ数 .... 111、448 PCカメラモード表示.......... 268
11	絞り込み段数マーク .... 129、391
12	絞り値 .... 128、131 絞り込み段数............ 129、391 オートブラケティング補正ステップ....................... 143 WBブラケティング補正ステップ .... 147 ADLブラケティング撮影コマ数........................... 150 インターバルタイマー撮影コマ数 .... 219 非CPUレンズ開放絞り値.... 225 PC接続中マーク.................. 268
13	バッテリー残量表示 45
14	撮影コマ数............................. 42 ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ取得モード表示.................... 165 手動設定レンズNo.................225
15	1000コマ以上補助表示......... 46

16	FVロックマーク................... 205	25	電子音マーク........................ 321
17	フラッシュシンクロマーク... 327	26	露出補正マーク.................... 139
18	時計用バッテリーチェックマーク............................36、409	27	ブラケティングマーク オートブラケティング..... 141 WBブラケティング.......... 146 ADLブラケティング 150
19	GPS通信マーク.................... 228	28	インジケーター 露出.................................. 132 露出補正........................... 139 オートブラケティング..... 142 WBブラケティング.......... 146 ADLブラケティング .... 150 PC接続中.......................... 268 水準器................................ 335
20	フォーカスモードマーク 96		
21	インターバルタイマー設定マーク 219		
22	多重露出マーク.................... 211		
23	絞り値ロックマーク............ 136 多重露出（連続）マーク 213		
24	画像コメント入力設定マーク.. 353		

背面表示パネル（説明のため、全ての表示を点灯させています）

表示パネルの照明（イルミネーター）について

電源スイッチを☀マークの方向に回すと、上面表示パネルと背面表示パネルのイルミネーターを点灯します。電源スイッチを放すと、イルミネーターは6秒間点灯し続けます。ただし、シャッターをきるか、もう一度☀マークの方向に回すと消灯します。

1	画質モード 88
2	記録可能コマ数マーク 324
3	画像サイズ 92
4	ISO感度マーク..................... 116 感度自動制御設定マーク 118
5	ISO感度 .... 116 減感/増感設定表示.............. 117 記録可能コマ数.......................46 音声メモ録音/再生残り時間 .... 259 ホワイトバランス微調整量 .... 160 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ番号........ 172 ホワイトバランス色温度 ....154、161 PC接続中マーク 268
6	1000コマ以上補助表示......... 46 ホワイトバランス 色温度表示............................ 161
7	画像記録モード表示 .... 94 画質モード.............................. 88
8	WBブラケティング マーク 146
9	撮影モード音声メモ録音 設定表示 257
10	音声メモ録音状態表示 .... 259、260
11	音声メモ録音モード表示 257
12	ホワイトバランスモード .... 154 ホワイトバランス微調整設定 マーク 160

ファインダー（説明のため、全ての表示を点灯させています）

1	中央部重点測光参照エリア φ12mm......122
2	AFエリアフレーム......43、61、65
3	フォーカスポイント表示......100、312、313 スポット測光エリア......122
4	ピント表示......50、106
5	測光モード......122
6	AEロックマーク......137
7	露出モード......124
8	シャッタースピードロックマーク......135
9	シャッタースピード......127、131
10	絞り値ロックマーク......136
11	絞り値......128、131 絞り込み段数......129、391
12	ISO感度マーク......116 感度自動制御設定マーク......119
13	ISO感度......116
14	撮影コマ数......324 記録可能コマ数......46、448 連続撮影可能コマ数......51、111、448 ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ取得モード表示......165 露出補正値......139 PC接続中マーク......268
15	1000コマ以上補助表示......46
16	レディーライト※......198、205、440
17	FVロックマーク......205
18	フラッシュシンクロマーク......327
19	絞り込み段数マーク......129、391
20	バッテリー残量表示......45
21	インジケーター 露出......132 露出補正......139 水準器......335
22	露出補正マーク......139
23	オートブラケティングマーク......141

※別売のスピードライト（0194）使用時のみ点灯します。スピードライトの充電が完了してフラッシュ撮影できることを示します。

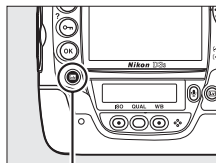
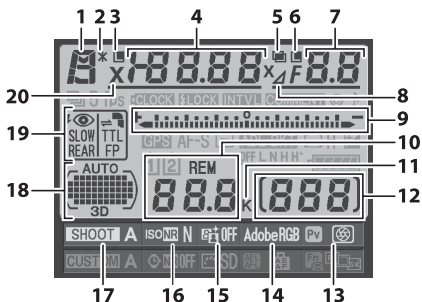
ファインダーについてのご注意

カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

高温、低温下での液晶表示について

表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

インフォ画面（説明のため、全ての表示を点灯させています）

infoボタンを押すと、液晶モニターに「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、撮影コマ数、記録可能コマ数、AFエリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます。

infoボタン

インフォ画面を消灯・点灯するには

次の場合は、インフォ画面が消灯します：

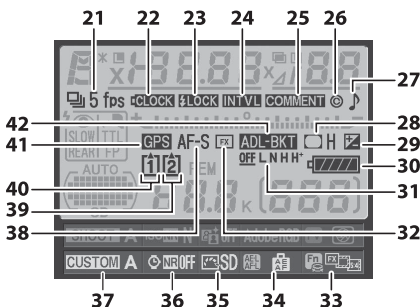
- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面の表示中に、infoボタンを2回押す
- 操作を行わないまま約10秒経過する

インフォ画面が消灯しているときは、infoボタンを押すと点灯します。

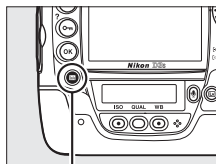
関連ページ

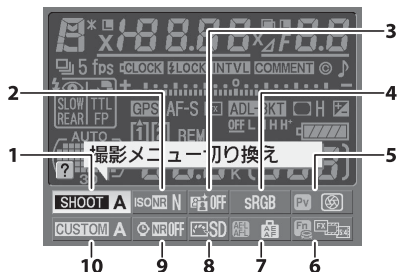
- 液晶モニターの点灯時間を変更する → c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（□320）
- インフォ画面の表示を手動で白黒反転する → d6［**インフォ画面の表示設定**］（□325）

インフォ画面（つづき）

（説明のため、全ての表示を点灯させています）

21	1コマ撮影/連続撮影表示.... 108 連続撮影速度 110
22	時計用バッテリーチェックマーク ....36、409
23	FVロックマーク.................. 205
24	インターバルタイマー設定マーク 219
25	画像コメント入力設定マーク 353
26	著作権情報設定マーク........ 357
27	電子音マーク 321
28	ヴィネットコントロールマーク 302
29	露出補正マーク.................... 139
30	バッテリー残量表示...............45
31	ADLブラケティング度合い表示 151
32	撮像範囲表示 82
33	**Fn**ボタンの機能表示 332
34	AE/AFロックボタンの機能表示 340
35	ピクチャーコントロールマーク 177
36	長秒時ノイズ低減マーク 303
37	カスタムメニュー設定表示 ... 306
38	フォーカスモードマーク 96
39	メモリーカードマーク（スロット2）...................39、41
40	メモリーカードマーク（スロット1）...................39、41
41	GPS通信マーク 228
42	オートブラケティングマーク .... 141 WBブラケティングマーク .... 146 ADLブラケティングマーク 150

撮影時の設定を変更する

インフォ画面を表示中にもう一度info ボタンを押すと、表示されている撮影時の設定を変更できるようになります。

- マルチセレクターで項目を選んで OK ボタンを押すと、設定したいメニュー項目へ直接ジャンプします。

infoボタン

- インフォ画面からジャンプできるメニュー項目は次の通りです。

1	撮影メニュー切り換え........ 295	6	**Fn**ボタンの機能..................... 332
2	高感度ノイズ低減................ 303	7	AE/AFロックボタンの機能 ... 340
3	アクティブD-ライティング... 188	8	ピクチャーコントロール 176
4	色空間.................................. 189	9	長秒時ノイズ低減................ 303
5	プレビューボタンの機能 339	10	カスタムメニュー切り換え ... 306

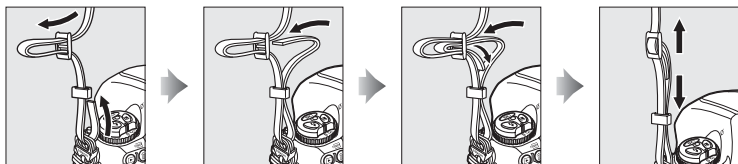
インフォ画面のガイド表示

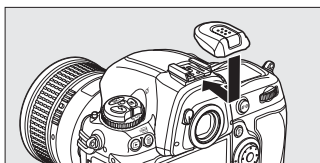
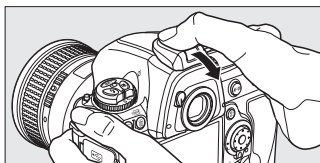
選択しているメニュー項目名を表示します。カスタムメニュー d7［**インフォ画面のガイド表示**］（□325）では、ガイドを表示させないようにできます。

Pv、Fn、AE-L/AF-Lのアイコン表示について

Pv、Fn、AE-L/AF-Lのアイコンが表示されている場合は、プレビューボタン、**Fn**ボタンまたはAE/AFロックボタンの押し時の動作（□332、339、340）に設定している機能を表示し、Pv、Fn、AE-L/AF-Lのアイコンが表示されている場合は、コマンドダイヤル併用時の動作（□336）に設定している機能を表示します。両方の動作に機能を設定している場合は、ボタン押し時の動作を表示しますが、サムネイル/縮小ボタンを押すと、コマンドダイヤル併用時の動作を表示することができます。

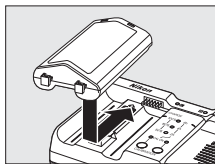
ストラップの取り付け方

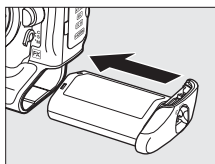
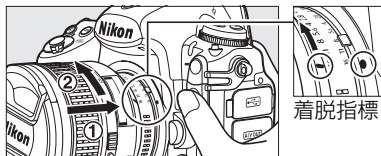
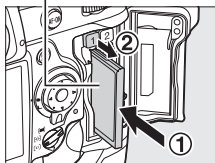
ストラップの取り付け手順は次の通りです。

アクセサリーシューカバー BS-2の取り付け、取り外し方

このカメラには、フラッシュ取り付け部の写り込みを防止したり、接点を保護するために、アクセサリーシューカバー BS-2が付属しています。取り付けるには、カバーを右図の向きでカメラのアクセサリーシューに差し込みます。

アクセサリーシューカバーを取り外すには、親指でカバー全体を押さえながら、右図の矢印の方向にスライドさせます。

- アクセサリーシューカバーを取り外すときは、カメラをしっかりと支えてください。

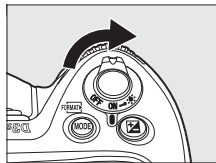
すぐに撮影する方のために

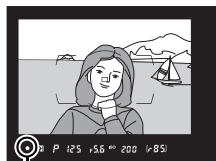
次の手順で操作すると、すぐに撮影ができます。

1 バッテリーを充電する（□26）

2 充電したバッテリーをカメラに入れる（□29）

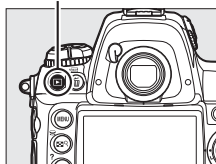
- カメラにバッテリーを入れる前に、バッテリー室カバーをバッテリーに取り付けてください。

3 レンズを取り付ける（□32）

4 メモリーカードを入れる（□37）

日時を設定するには、□34をご覧ください。

ファインダーを見やすくするには、□43をご覧ください。

5 カメラの電源をONにする（□45）

6 フォーカスモードセレクトダイヤルをS（シングルAFサーボ）にする（□49、96）

7 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する（□50、51）

ピント表示

8 撮影した画像を確認する（□52）

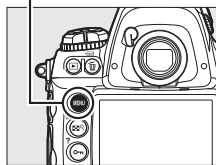
ボタン

基本操作

ここではメニューの操作方法や撮影前の準備、基本的な撮影と再生を説明します。

メニューの操作方法

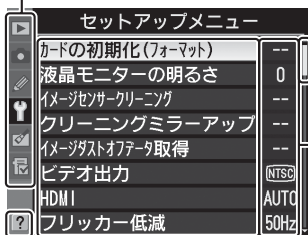
撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

MENUボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。

MENUボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます

▶	**再生メニュー（□284）**		**セットアップメニュー（□346）**
	撮影メニュー（□294）		**画像編集メニュー（□363）**
	カスタムメニュー（□304）		**マイメニュー／ 最近設定した項目（□382）※**

※ どちらかに設定できます。初期設定は［**マイメニュー**］です。

項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

各項目の設定をアイコンで表示します

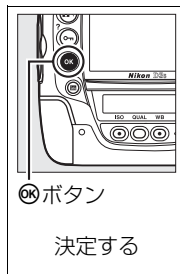
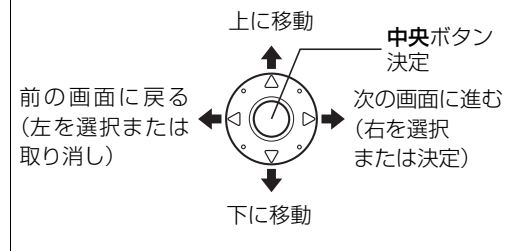
メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

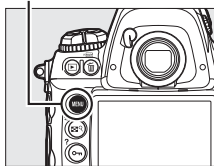
?

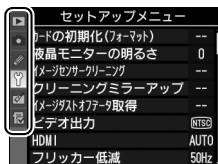
ヘルプがある場合に表示します（□25）
このアイコンを表示しているときに（?）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します

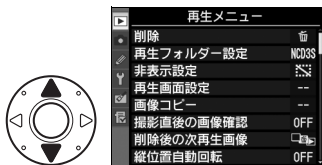
メニュー項目の設定

メニューの操作には、マルチセレクターとⓄⓚボタンを使います。

■ メニュー項目の設定方法

1 メニュー画面を表示する

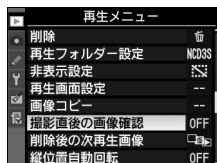
- MENUボタンを押します。

2 メニューのタブを選ぶ

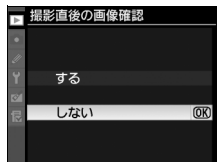
- ◀を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。

3 メニューを切り換える

- ▲または▼を押して、メニューのタブを切り換えます。

4 選んだメニューに入る

- ▶を押して、選んだメニューに入ります。

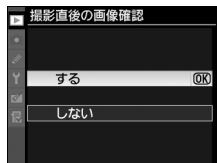
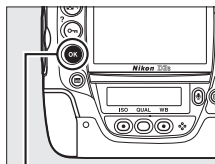
5 メニュー項目を選ぶ

- ▲または▼で項目を選びます。

6 設定内容を表示する

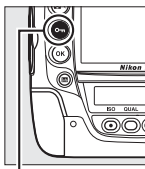
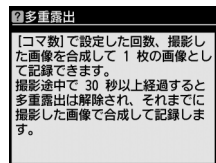
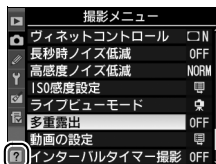
- ▶を押して設定内容を表示します。

7 設定内容を選ぶ

- ▲または▼で設定内容を選びます。

8 決定する

Ⓞボタン

- Ⓞボタンを押して設定内容を決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、MENUボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し（□51）してください。

ヘルプを使う

メニュー画面の左下にヘルプマーク?が表示されているときは、O-n（?）ボタンを押している間、その項目の説明（ヘルプ）を見ることができます。

- 説明が2ページ以上ある場合は、O-n（?）ボタンを押しながらマルチセレクターの▼を押して、次のページを表示してください。
- O-n（?）ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。

O-n（?）ボタン

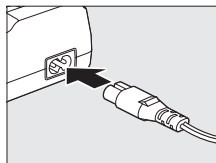
☑ メニュー項目の設定について

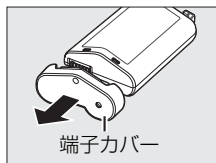
- カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- Ⓞボタンの代わりにマルチセレクターの▶や**中央**ボタンを押しても決定できますが、画像の削除やメモリーカードの初期化などの重要な設定項目については、Ⓞボタンしか使えないことがあります。

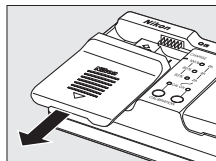
撮影前の準備

バッテリーを充電する

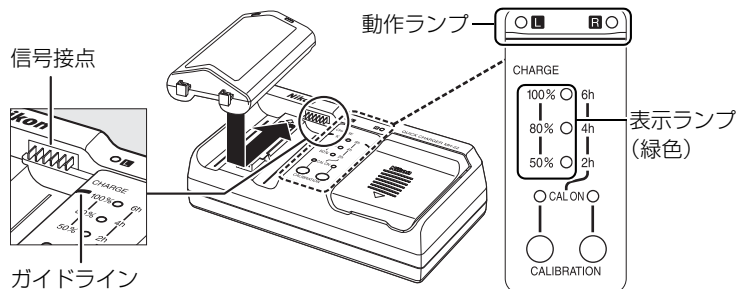
付属のLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4aは、お使いになる前に付属のクイックチャージャー MH-22でフル充電してください。使い切ったバッテリー 1個を充電するには約2時間25分かかります。

1　クイックチャージャーと電源コードを接続する

2　電源プラグをコンセントに差し込む

3　バッテリーの端子カバーを取り外す

4　クイックチャージャーの接点保護カバーを外す

- クイックチャージャーの接点保護カバーを図の方向にスライドさせて外します。

キャリブレーション機能について

バッテリー容量を正確に表示できるかどうか検査し、調整するキャリブレーション機能についての詳しい内容は、「クイックチャージャーMH-22の キャリブレーションについて」 をご覧ください（□445）。

5 バッテリーを充電する

- バッテリーの先端（端子部）をクイックチャージャーのガイドラインに合わせて置き、矢印の方向にカチッと音がして止まるまでスライドさせて装着します。
- バッテリーを装着した側（LまたはR）の動作ランプが点滅し、充電が始まります。
- 充電した容量に応じて表示ランプが点灯し、3つの表示ランプが全て消灯して動作ランプが点灯したら、充電は完了です。使い切ったバッテリーを充電するには、約2時間25分かかります。
- 充電の状態は動作ランプと表示ランプで確認できます。

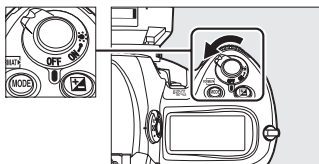
		充電状態			
		50%未満	50%以上、80%未満	80%以上、100%未満	100%
動作ランプL/R		点滅	点滅	点滅	点灯
表示ランプ	100%	消灯	消灯	点滅	消灯
	80%	消灯	点滅	点灯	消灯
	50%	点滅	点灯	点灯	消灯

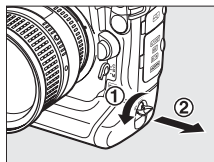
6 充電が完了したら、セットしたときと逆の手順でバッテリーをクイックチャージャーから取り外し、電源プラグをコンセントから抜く

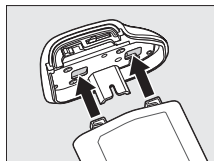
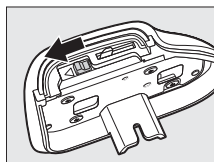
付属の電源コードについてのご注意

付属の電源コードは、クイックチャージャー MH-22以外の機器に接続しないでください。この電源コードは、日本国内専用（AC 100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、ニコンオンラインショップ（http://shop.nikon-image.com/）でもお求めいただけます。

カメラにバッテリーを入れる

1 カメラの電源をOFFにする

2 バッテリー室カバー BL-4を取り外す

- バッテリー着脱ノブを引き起こして↺方向に回し（①）、バッテリー室カバーを取り外します（②）。

3 バッテリー室カバーをバッテリーに取り付ける

- バッテリーを取り付ける前に、バッテリー室カバー取り外しノブの矢印（◀）が見える位置にある場合は、矢印（◀）の方向に端までスライドさせてから取り付けてください。
- 右図のようにバッテリー端の2つの突起をバッテリー室カバーに差し込みます。バッテリー室カバー取り外しノブが矢印（◀）の見える位置まで戻ると、取り付け完了です。

バッテリーを出し入れするときは

バッテリーをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

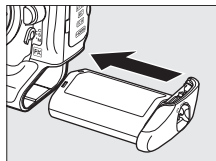
バッテリー室カバーをバッテリーから取り外すときは

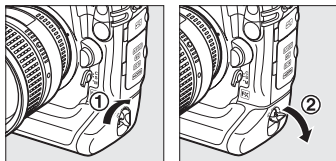
バッテリー室カバー取り外しノブを、表示されている矢印（◀）の示す方向に端までスライドさせて、バッテリー室カバーからバッテリー本体を引き出します。

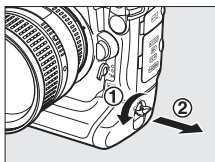
バッテリー室カバーについて

- バッテリーはバッテリー室カバーを取り付けた状態でも充電できます。
- バッテリーの充電中などに、取り外したバッテリー室カバーをカメラ本体に取り付けると、ほこりの侵入を防げます。
- D2シリーズ用のバッテリー室カバー BL-1は、このカメラには使えません。

4 カメラにバッテリーを入れる

- バッテリーは右図で示されている向きで奥までしっかりと入れてください。

5 バッテリー着脱ノブをロックする

- バッテリー着脱ノブを右図のように回してから（①）、凹みに倒して収納します（②）。
- カメラの操作中にバッテリーが外れないように、バッテリー着脱ノブがしっかりとロックされていることをご確認ください。

バッテリーを取り出すには

バッテリーをカメラから取り出す場合は、電源をOFFにし、バッテリー着脱ノブを引き起こしてから↺方向に回してバッテリーを引き出します。

バッテリーとクイックチャージャーの使用上のご注意

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□xviii～xxiv)、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」(□411～414)をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。周囲の温度が5～35℃の室内で充電してください。バッテリーの性能を充分に発揮するために、約20℃以上で充電することをおすすめします。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの［**電池チェック**］(□355)で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、充分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。
- バッテリーをカメラやクイックチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーを取り付けてください。
- クイックチャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- クイックチャージャー MH-22 に対応していないバッテリーは、使用しないでください。

使用できるバッテリーについて

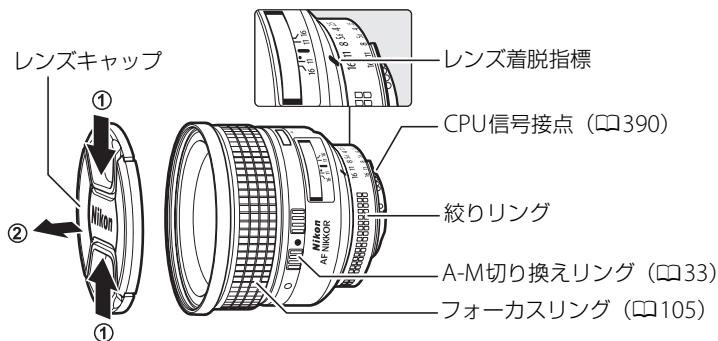
このカメラでは、付属のLi-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL4aのほか、EN-EL4も使えます。

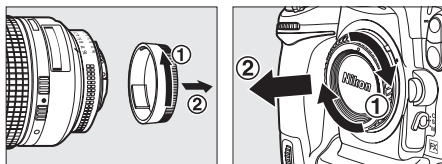
Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL4aについて

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL4aは、カメラと通信を行い、バッテリーの残量などをカメラに正確に伝えることができます。これによって上面表示パネルでバッテリー残量を6段階で確認することができる(□45)ほか、セットアップメニューの［**電池チェック**］でより詳しいバッテリー残量や、直前の充電からの合計撮影回数、バッテリーの劣化度を表示することができます(□355)。

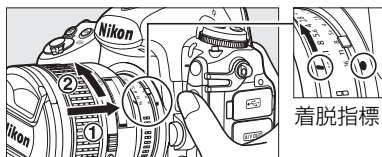
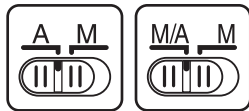
レンズを取り付ける

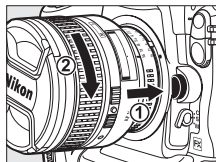
レンズを取り付けるときは、カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。

この使用説明書では、AF Nikkor 85mm f/1.4D（IF）のレンズを使用して、説明しています。各部名称は次の通りです。

1 カメラの電源をOFFにする

2 レンズの裏ぶたとカメラのボディーキャップを外す

3 レンズとカメラの着脱指標を合わせ（①）、矢印の方向にレンズを回す（②）

- カチッと音がするまでレンズを回します。

着脱指標

- レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンは押さないでください。
- A-M切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチのあるレンズを使用する場合は、**A**（オートフォーカス）または**M/A**（マニュアル優先オートフォーカス）に合わせてください。

■ レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら（①）、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し（②）、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。

絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズ（□390）を取り付ける場合は、最小絞り（最大値）にして、ロックしてください。

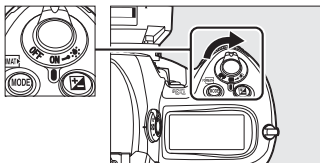
撮像範囲について

DXレンズを装着すると、撮像範囲がDXフォーマットに切り替わります（□82）。

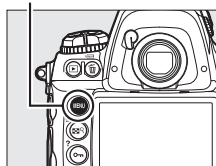
日付と時刻を設定する

カメラの内蔵時計を合わせます。画像に正しい日時を記録するために、お使いになる前に次の手順で場所と日時を設定してください。

1 カメラの電源をONにする

電源スイッチ

2 セットアップメニューの［地域と日時］を選ぶ

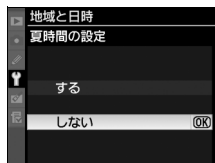
MENUボタン

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**地域と日時**］を選びます。
- ご購入後、初めて電源をONにしてMENUボタンを押したときは、セットアップメニュー画面で[**地域と日時**]が選ばれています。
- メニューの操作方法については、「メニューの操作方法」をご覧ください (🕮22)。

3 現在地を設定する

- ［地域と日時］画面で［**現在地の設定**］を選びます。
- ［現在地の設定］画面で表示される地図上で、現在地が黄色くハイライトされるようにしてから、OKボタンを押してください。

- 世界地図の上に選択中のタイムゾーンに含まれる主な都市名や、UTC（協定世界時）との時差が表示されます。

4 夏時間を設定する

- ［地域と日時］画面で［**夏時間の設定**］を選びます。
- 現在地で夏時間（サマータイム）制を実施しているときは、［**する**］に、実施していないときは［**しない**］にして、OKボタンを押してください。
- ［**する**］にすると、［**しない**］のときよりも時刻が1時間進みます。

5 日付と時刻を合わせる

- ［地域と日時］画面で［**日時の設定**］を選びます。
- ［日時の設定］画面でマルチセレクターを操作して現在地の日時に合わせてから、OKボタンを押してください。

6 日付の表示順を選ぶ

- ［地域と日時］画面で［**日付の表示順**］を選びます。
- 液晶モニターに表示する日付の年、月、日の表示順を選んで㊋ボタンを押します。

7 メニュー操作を終了する

- シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、メニュー操作を終了して、撮影できる状態になります。

ご購入時の時計用バッテリーチェックマーク（CLOCK）の点滅について

［**地域と日時**］で現在地、夏時間、日時の設定を確認してください。［日時の設定］画面で㊋ボタンを押すと、上面表示パネルの時計用バッテリーチェックマーク（CLOCK）は消灯します。

時計用電池について

カメラの内蔵時計は、市販のCR1616リチウム電池で作動しており、寿命は約4年です。半押しタイマー作動中に上面表示パネルに時計用バッテリーチェックマーク（CLOCK）が点灯した場合は、電池残量が残りわずかですので、市販の新しいCR1616リチウム電池に交換してください。時計用電池の交換方法については、「時計用電池の交換について」（□409）をご覧ください。

カメラ内蔵の時計について

カメラの内蔵時計は、一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定してください。

GPSによる日時合わせ（□229）

GPS機器（□226）との接続時には、GPS機器が取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。

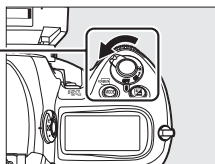
Nikon Transferによる日時合わせ

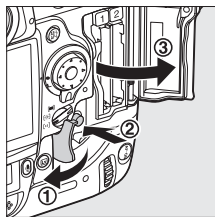
パソコンとカメラを接続し、付属のソフトウェアNikon Transferを使用することにより、パソコンの日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせられます（Mac OS X version 10.5.7を除く）。Nikon Transferは付属のSoftware Suite CD-ROMを使ってインストールできます。

メモリーカードを入れる

撮影した画像は、メモリーカードに記録されます。このカメラは、スロット1とスロット2のメモリーカードスロットを装備しており、2枚のメモリーカードを同時に使用することができます。メモリーカードは付属していないため、別途お買い求めください（□447）。

1 カメラの電源をOFFにする

電源スイッチ

2 メモリーカードカバーを開ける

- 開閉ロックボタンカバーを開き（①）、開閉ロックボタンを押すと（②）、メモリーカードカバーが開きます（③）。

メモリーカードを出し入れするときは

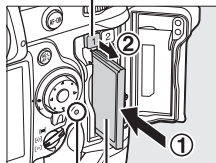
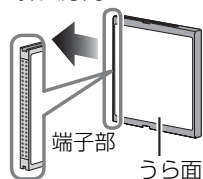
- メモリーカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- メモリーカードとメモリーカードイジェクトレバーを同時に押さないでください。カメラとメモリーカードを破損するおそれがあります。

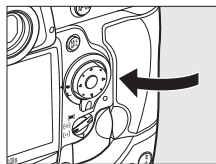
使用できるメモリーカードについて

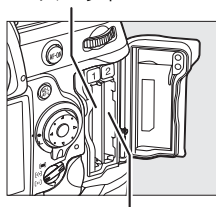
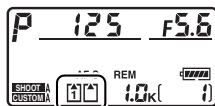
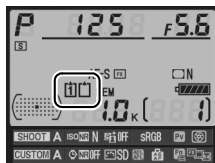
このカメラで使用できるメモリーカードは、Type IのコンパクトフラッシュカードI（CFカード）のみです。Type IIのCFカードやマイクロドライブは使用できません。

3 メモリーカードを入れる

- メモリーカードを1枚だけ使用するときは、スロット1に入れてください。
- メモリーカードのうら面を液晶モニター側に向け、奥まで確実に押し込んでください（①）。メモリーカードが正しく挿入されると、メモリーカードイジェクトレバーが出てくる（②）とともに、メモリーカードアクセスランプ（緑色）が数秒間点灯します。

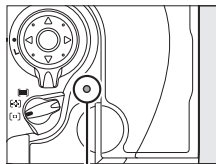
向きをまちがえて挿入すると、カメラおよびメモリーカードが破損するおそれがあります。正しい方向で挿入していることを必ずご確認ください。

4 メモリーカードカバーを閉める

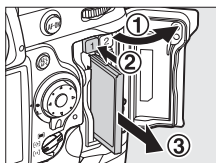
- このカメラに他の機器で使ったメモリーカードを初めて入れたときは、メモリーカードを初期化してください（□41）。

メモリーカードを2枚使用する場合

- スロット1とスロット2の両方にメモリーカードを入れると、スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します（[**画像記録モード**]（□94）が初期設定の［**順次記録**］のとき）。撮影で主に使いたいメモリーカードは、スロット1に入れてください。

- 上面表示パネルとインフォ画面には、使用中のスロットが右図のように表示されます（例：スロット1とスロット2の両方にメモリーカードが入っている場合）。

上面表示パネル

インフォ画面

■ メモリーカードを取り出すときは

1 カメラの電源をOFFにする

- メモリーカードアクセスランプが消灯していることを確認し、電源をOFFにします。

2 メモリーカードカバーを開け（①）、カードを取り出す

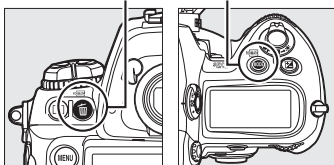
- メモリーカードイジェクトレバーを奥に押し込むと（②）、メモリーカードが出てきます（③）。

メモリーカードを初期化（フォーマット）する

他の機器で使ったメモリーカードを初めて入れたときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。**メモリーカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要な画像がある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください（□264）。

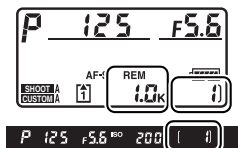
1 カメラの電源をONにする

2 2つのFORMATボタンを同時に押す

- 赤色のFORMATマークがついたMODEボタンと削除ボタンを同時に2秒以上押します。
- 上面表示パネルにFor（フォーマット）とメモリーカードマークが、ファインダー内下表示にはForが点滅します。
- メモリーカードが2枚入っている場合は、上面表示パネルのメモリーカードマークが点滅している側のスロットに入っているメモリーカードを初期化します。Forが点滅しているときにメインコマンドダイヤルを回すと、初期化するスロットを切り換えられます。

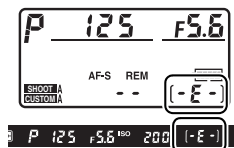
- Forが点滅状態のまま約6秒経過すると、初期化はキャンセルされます。FORMATボタン（MODEボタンと削除ボタン）以外のボタンを押したときも、初期化をキャンセルします。

3 Forが点滅している間に、もう一度2つのFORMATボタンを同時に押す

- 初期化が始まります。初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。

- 初期化が完了すると、上面表示パネルとファインダー内下表示の撮影コマ数が1になり、上面表示パネルの記録可能コマ数表示部にこれから撮影できるコマ数が表示されます。

メモリーカード取り扱い上のご注意

- カメラにメモリーカードが2枚入っている場合、FORMATボタンを押すと、スロット1（□39）のメモリーカードマークが先に点滅します。
- カメラの使用後はメモリーカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- メモリーカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やメモリーカードの故障の原因となります。
  - –メモリーカードの着脱をしないでください
  - –カメラの電源をOFFにしないでください
  - –バッテリーを取り出さないでください
  - –ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- メモリーカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。

メモリーカードが入っていないときの表示について

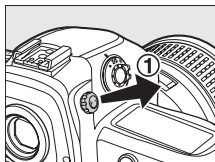
メモリーカードが入っていないときは、上面表示パネルとファインダー内下表示の撮影コマ数表示部に[-E-]マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、上面表示パネルの[-E-]マークは点灯します。

関連ページ

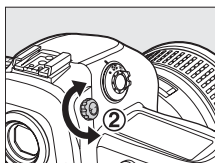
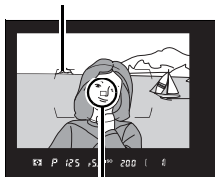
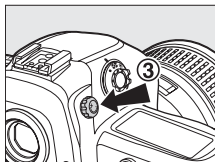
メニュー操作でメモリーカードを初期化する → **Y**[**カードの初期化（フォーマット）**]（□347）

ファインダーを見やすくする（視度調節）

撮影する前に、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

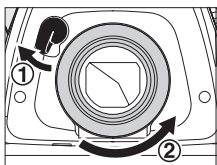
1 レンズキャップを取り外し、カメラの電源をONにする

2 視度調節ノブを引き出す（①）

3 視度調節ノブを回して調節する（②）

- ファインダーをのぞきながら視度調節ノブを回し、フォーカスポイントまたはAFエリアフレームの枠が最もはっきり見えるように調節してください。

4 視度調節ノブを戻す（③）

視度調節について

視度調節してもファインダー内がはっきり見えない場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします（□395）。

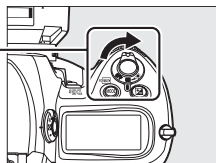
アイピースを取り外すには

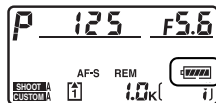
別売の接眼補助レンズを取り付けるには、アイピース（DK-17）を取り外す必要があります。アイピースシャッターを閉じてロックを解除し（①）、アイピースを図の方向に回して取り外します（②）。

バッテリーとメモリーカードの残量を確認する

撮影を始める前に、バッテリーの残量と記録可能コマ数を確認してください。

1 カメラの電源をONにする

- 上面表示パネル、背面表示パネルとファインダー内の表示が点灯します。

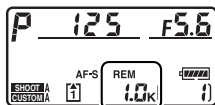
電源スイッチ

2 バッテリーの残量を確認する

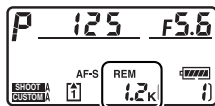
- 上面表示パネルまたはファインダー内下表示のバッテリー残量表示を確認します。

上面表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備してください。
（点滅）	（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

- AC アダプター EH-6（別売）を使用した場合、バッテリーの残量は表示されません。

3 メモリーカードの残量を確認する

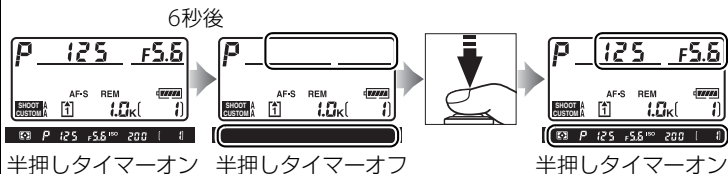
- 上面表示パネルで記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）を確認します。

- 記録可能コマ数がゼロの場合、右図のように上面表示パネルにとFuLLが、ファインダー内下表示にFuLが点滅します。

記録可能コマ数が1000コマ以上の場合

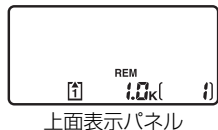
記録可能コマ数が1000 コマ以上あるときは「K」マークが点灯します。「K」は1000倍を意味しており、たとえば1260コマ撮影できるときは、右のように表示されます。

バッテリー残量表示について

上面表示パネルのバッテリー残量表示の目盛が約1秒ごとに増減する場合は、電池残量の計算中です。この場合、正確なバッテリー残量が表示されるまでに約3秒かかります。

半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）とオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、上面表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］（□319）で変更できます。

電源OFFの時の表示について

バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、上面表示パネルのメモリーカードマークと記録可能コマ数、撮影コマ数が点灯します。メモリーカードの種類によっては、電源がOFFのときにメモリーカードを挿入しても、まれにこれらの表示が点灯しないことがあります。この場合、カメラの電源をONにすると点灯します。

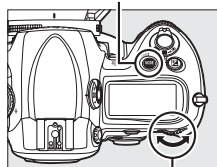
上面表示パネル

カメラの基本的な設定を行う

撮影するための基本的な設定を行います。

1 露出モードを**P**（プログラムオート）に設定する

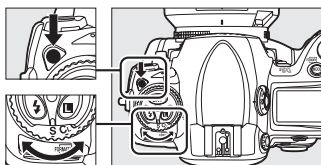
MODEボタン

メインコマンドダイヤル

- MODEボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して**P**に設定すると、露出が適正になるようにシャッタースピードと絞り値をカメラが自動的に決定するプログラムオートで撮影できます。

2 レリーズモードダイヤルを**S**（1コマ撮影）に設定する

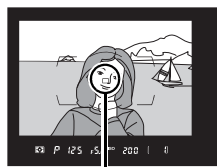
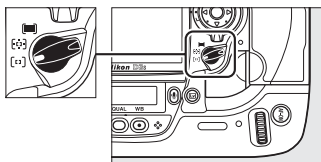
レリーズモードダイヤルロックボタン

レリーズモードダイヤル

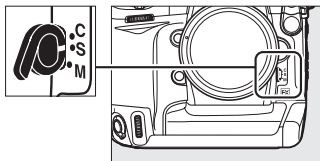
- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを**S**に設定すると、シャッターを押すたびに1コマずつ撮影できます。

3 AFエリアモードセレクトダイヤルを〔▫〕（シングルポイントAF）に設定する

AFエリアモードセレクトダイヤル

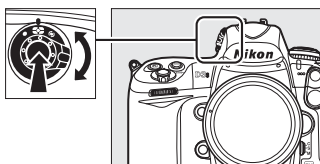
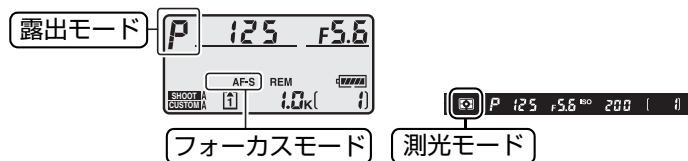
フォーカスポイント

- AFエリアモードセレクトダイヤルを〔▫〕に設定すると、自分が選んだフォーカスポイント（ピントを合わせる位置）でピントを合わせることができます。

4 フォーカスモードセレクトダイヤルをS（シングルAFサーボ）に設定する

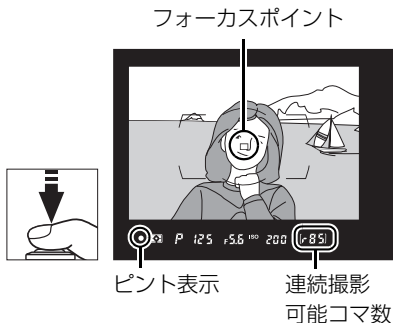
フォーカスモードセレクトダイヤル

- フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**に設定すると、シャッターボタンの半押しでフォーカスポイントに重なる被写体にピント合わせを行い、ピントが合うと撮影できます。

5 測光モードダイヤルを（マルチパターン測光）に設定する

測光モードダイヤル

- 測光モードダイヤルロックボタンを押しながら、測光モードダイヤルをに設定すると、1005分割RGBセンサーから得られる情報に基づいて最適な露出値を得られます。

6 カメラの設定状態を確認する

ピントを合わせる

1 シャッターボタンを半押し（□51）して、ピントを合わせる

- 被写体を中央のフォーカスポイントに合わせ、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）と、被写体に自動的にピントが合います。
- ご購入時の設定では、中央のフォーカスポイントに重なっている被写体に自動的にピントが合います。

2 ファインダー内のピント表示（●）を確認する

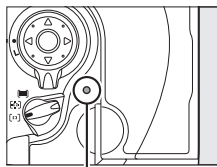
- ピントが合うとファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

ファインダー内ピント表示	意味
●　（点灯）	被写体にピントが合っています。
▶　（点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶　◀（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません。

- シャッターボタンを半押ししている間、ピントは固定されます。
- シャッターボタンを押している間、続けて撮影できるコマ数（連続撮影可能コマ数）がファインダーに表示されます。連続撮影可能コマ数の先頭には、「r」（□111）が付きます。

- ピント合わせができない場合の対処方法については「オートフォーカスの苦手な被写体について」（□104）をご覧ください。

3 シャッターボタンを全押しして、撮影する

- シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）、撮影します。
- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。**メモリーカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。**

メモリーカード
アクセスランプ

シャッターボタンの半押し

シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「**シャッターボタンを半押しする**」といいます。次に、そのまま深く押し込む（これを「**シャッターボタンを全押しする**」といいます）と、シャッターがきれます。

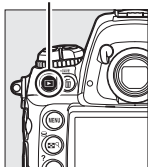
半押しして
ピントを合わせる

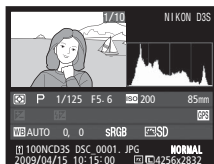
全押しして
撮影する

撮影した画像を確認する

1 ▶ボタンを押す

▶ボタン

- 撮影した画像をカメラ背面の液晶モニターに表示します。
- 表示中の画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。

2 マルチセレクターの◀または▶を押して他の画像を確認する

- ▲または▼を押すたびに、撮影情報の表示が切り替わります（□235）。
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

撮影直後の画像確認について

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（□291）を［**する**］に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。

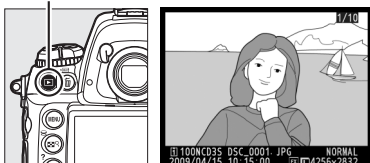
関連ページ

画像を表示するスロットを切り換える→「メモリーカードスロットの切り換えについて」（□234）

画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。

1 削除したい画像を表示する

- ▶ボタンを押して液晶モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀または▶で削除したい画像を選びます。

2 画像を削除する

- 🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度🗑ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。

- 削除する画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。
- 削除確認画面で、▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。

> **再生メニュー［削除］**
>
> 再生メニューの［**削除**］（📖252）では、複数の画像を選択して削除したり、再生フォルダー内の全画像を一括して削除したりできます。また、メモリーカードを2枚使っているときは、全画像を削除するメモリーカードスロットを指定できます。

Lv ライブビューに関する設定

ここでは、液晶モニターで被写体を見ながら撮影する（ライブビュー撮影）方法を説明しています。

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

Lvボタンを押すと、液晶モニターで被写体を見ながら撮影することができます。ライブビュー撮影には次の2つの方法があります。

- **カメラを固定して撮影する（□57）**
  カメラを三脚などに固定して撮影するときに選びます。液晶モニターに表示される画像を拡大表示して厳密なピント合わせができるため、静物などの撮影に適しています。撮像素子からのデータを使ったコントラストAFでピントを合わせます。
- **液晶モニターを見ながら手持ちで撮影する（□61）**
  カメラを手持ちで動きのある被写体を撮影するときに選びます。ローアングルやハイアングルなどファインダーがのぞきにくいときに便利です。通常のオートフォーカス（位相差AF）でピント合わせができます。

位相差AFとコントラストAFについて

このカメラは、通常の撮影では、「位相差AF」でピントを合わせます。位相差AFとは、オートフォーカス専用のセンサーを用いて、ピントのズレ量を検出する方法です。一方、ライブビューの［**三脚撮影**］時は、「コントラストAF」でピントを合わせます。コントラストAFとは、撮像素子からのデータを使って被写体の画像情報を解析し、画像のコントラストが最も高くなるレンズ位置でピントを合わせます。「位相差AF」と比べ、ピントを合わせるのに時間がかかります。

フリッカー低減について

蛍光灯や水銀灯などの光源下では、ライブビュー表示中や動画の撮影時に画面にちらつきや横縞が生じることがあります。この現象を「フリッカー現象」といいます。セットアップメニューの［**フリッカー低減**］を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせて、［**50Hz**］または［**60Hz**］に設定してください。詳しくは、□351をご覧ください。

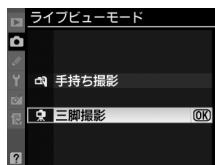
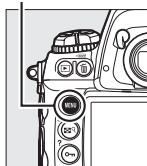
カメラを固定して撮影する（三脚ライブビューの三脚撮影）

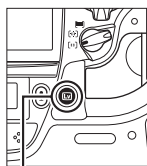
1 三脚などを使ってカメラを固定する

• ファインダーで被写体を確認しながら構図を決め、カメラを固定します。

2 撮影メニューの［ライブビューモード］で［三脚撮影］を選ぶ

• MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ライブビューモード**］で［**三脚撮影**］を選んでOKボタンを押します。

MENUボタン

3 Lvボタンを押す

• ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が見えなくなり、液晶モニターに被写体が表示されます。

Lvボタン

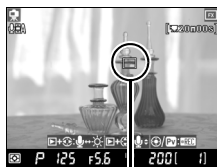
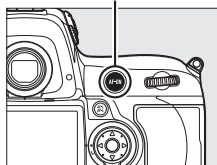
液晶モニターの明るさを設定する

▶ボタンを押しながらマルチセレクターの▶を押すと、画面右の液晶モニターの明るさインジケーターが黄色に変わります。このとき、▶ボタンを押したまま▲または▼を押すと、液晶モニターを好みの明るさに調節できます（露出プレビュー時を除く）。液晶モニターの明るさを調節しても、撮影した画像には反映されません。

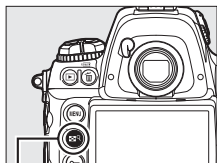
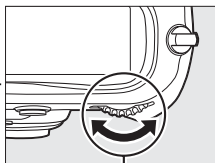
4 ピントを合わせる

コントラストAFポイント

- マルチセレクターを操作して、ピントを合わせたい位置に、赤い枠（コントラストAFポイント）を移動させます。
- コントラストAFポイントが画面中央にあるときは、⊡と表示されます（拡大時を除く）。

- **AF-ON**ボタンを押すと、ボタンを押している間、撮像素子からの情報を使ってオートフォーカス（コントラストAF）を行います。
- オートフォーカス作動中はコントラストAFポイントが緑色に点滅し、ピントが合うと緑色に点灯します。赤色で点滅表示した場合は、ピントが合わなかったことを表します。

撮影時の拡大表示について

- ⊞ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを右方向に回すと、被写体が拡大表示され（最大約13倍）、ピントの状態を細部まで確認できます。

⊞ボタン

メインコマンドダイヤル

- 拡大表示時には、画面の右下に構図の全体が縮小表示され、拡大表示中の部分が薄いグレーで表示されます。
- 拡大表示時に画面をスクロールするには、マルチセレクターを操作します。
- 拡大表示時には、マニュアルフォーカスでも厳密なピント合わせができます。

- ［**三脚撮影**］でのライブビュー表示中に㊞ボタンを押すと、右のような露出プレビュー画面に切り替わり、現在の露出を液晶モニターで確認できます（露出プレビュー画面に切り替わらない場合は、下記の「露出プレビュー画面の制限について」をご覧ください）。

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 液晶モニターが消灯し、画像記録後に再度点灯します。

6 Lvボタンを押して、ライブビューを終了する

露出プレビューの制限について

- 露出プレビュー時の露出補正（□139）は、通常と同じ±5段まで設定できますが、液晶モニターで確認できるのは±3段までになります。
- 露出プレビュー時に撮影すると、測光モードがマルチパターン測光に固定されます。シャッタースピードがbulbの場合、露出プレビュー画面には切り替わりません。また、次の場合は、露出プレビューの表示が実際に撮影される画像と異なります。

  -別売スピードライト装着時

  -［**アクティブD-ライティング**］（□187）を設定した場合

  -シャッタースピードをx 250に設定した場合

  -オートブラケティング撮影時
- 被写体が極端に明るい場合や暗い場合には、画像の明るさを正しく表示できないことがあります。

☑ コントラストAF時のフォーカスモードについて

コントラストAF時には、フォーカスモードの設定やピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれます。また、フォーカスモードが**C**の場合でも、ピントは合わせ続けません。

☑ コントラストAFについてのご注意

- コントラストAFは、通常のオートフォーカス（位相差AF）より、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
  - 画面の長辺側と平行な横線（縦位置の場合は縦線）の被写体
  - 明暗差のない被写体
  - コントラストAFポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
  - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
  - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
  - コントラストAFポイントに対して被写体が小さい場合
  - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓など）
  - 動く被写体
- 三脚などに固定しないでコントラスト AF を行うと、ピントが合わないことがあります。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- コントラストAF作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- AF-S以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、充分なピント精度が出ない場合があります。

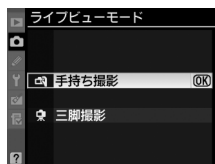
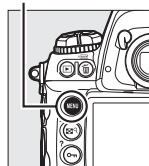
ライブビュー［三脚撮影］時にリモートコードを使用した場合のコントラストAFについて

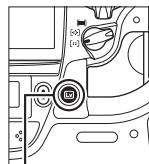
［**三脚撮影**］でのライブビュー表示中に別売のリモートコード（□398）を使用した場合は、リモートコードのシャッターボタンを1秒以上半押しし続けると、コントラストAFが作動します。リモートコードのシャッターボタンを半押しせずに全押しすると、ピントを合わせずに撮影します。

液晶モニターを見ながら手持ちで撮影する（ライブビューの手持ち撮影）

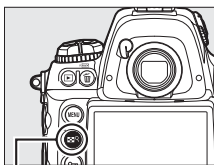
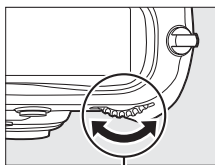
1 撮影メニューの［ライブビューモード］で［手持ち撮影］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ライブビューモード**］で［**手持ち撮影**］を選んでOKボタンを押します。

MENUボタン

2 Lvボタンを押す

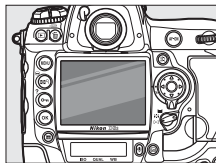
- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が見えなくなり、液晶モニターに被写体が表示されます。

Lvボタン

3 液晶モニターで構図を確認する

ボタン

メインコマンドダイヤル

- ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを右方向に回すと、被写体が拡大表示されます（最大約13倍）。
  - 拡大表示時には、画面の右下に構図の全体が縮小表示され、拡大表示中の部分が薄いグレーで表示されます。
  - 拡大表示時に画面をスクロールするには、マルチセレクターを操作します。AFエリアフレーム内でのみスクロールできます。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間、ライブビューを一時中断して、通常のオートフォーカスによるピント合わせと測光を行います（この間、ミラーがダウンする動作音がして（🕮64）、液晶モニターは消灯します）。**AF-ON**ボタンを押してもピントを合わせられます。
- ボタンを放すと、ミラーアップして液晶モニターが点灯し、再度構図を確認できます。
- マニュアルフォーカス時（🕮105）は、レンズのフォーカスリングでピント合わせができます。

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 撮影する直前に、再度通常のオートフォーカスでのピント合わせと測光を行います。
- 液晶モニターが消灯し、画像記録後に再度点灯します。

6 Lvボタンを押して、ライブビューを終了する

ライブビュー撮影時のご注意

- ライブビュー表示中は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
  - カメラを左右に動かすと画面全体が歪んで見える
  - 輝点が見える
- レンズを取り外すと、ライブビュー撮影は終了します。
- 最長1時間のライブビュー撮影ができますが、長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら）が発生する場合があります。また、カメラボディーの表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 高温によるカメラのダメージを抑えるために、カメラ内部の温度が上昇すると、カメラは自動的にライブビュー撮影を終了します。ライブビュー撮影を終了する30秒前から、カメラは液晶モニターの左上に残り時間のカウントダウンを表示します。撮影時の気温が高い場合は、ライブビュー撮影が始まってすぐにカウントダウンが始まることもあります。
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターを閉じてください（0112）。
- ライブビュー表示中は、ライブビュー開始時の測光値を元にシャッタースピードと絞り値が表示されます。シャッターボタンを全押しすると、再度測光して、そのときの被写体に露出を合わせてから撮影します。
- ライブビュー表示中に HiISO が液晶モニターに表示されているときは、撮影メニューの［**動画の設定**］の［**高感度動画撮影モード**］（074）が［**する**］になっています。ライブビュー表示はISO 6400～Hi 3で制御されますが、静止画は［**ISO感度設定**］（0116）の内容で撮影されます。
- ライブビュー表示中に、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- カメラが絞り値を制御するときにはレンズの動作音が出ることがあります。
- ライブビュー表示中は測光モード（0122）を変更できません。ライブビュー開始前に変更してください。
- ［**三脚撮影**］時はカメラブレを軽減するために、カスタムメニュー d9［**露出ディレーモード**］（0326）を［**する**］に設定することをおすすめします。
- カスタムメニューf8［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］（0342）を［**絞りリング**］に設定して絞りリングのあるCPUレンズを装着した場合、ライブビュー撮影はできません。絞りリングのあるCPUレンズを装着している場合は、［**絞り値の設定方法**］を［**サブコマンドダイヤル**］に設定してください。

Lv

動作音がしても撮影ができていない場合について

次の場合は、ミラーがダウンする音がしますが、撮影はしていません。ライブビュー撮影後は、画像が撮影されているかを確認してください。

- ［**手持ち撮影**］でシャッターボタンを半押しするか**AF-ON**ボタンを押してライブビュー撮影を中断すると、ミラーがダウンしてシャッターをきったような音がしますが、撮影はしていません。
- ［**手持ち撮影**］でフォーカスモードが**S**のときにピントが合わない場合、シャッターボタンを全押ししても撮影されません。

HDMI接続時の撮影画面表示

HDMI対応機器接続時にライブビュー撮影すると、液晶モニターが消灯し、代わりに接続した機器のモニターに被写体が表示されます。HDMI出力時の撮影画面の表示は、右のようになります。

- HDMI接続時の露出プレビュー中（□59）は、info ボタンを押すたびにヒストグラムの表示・非表示が切り替わります。

ライブビュー表示中の情報表示について

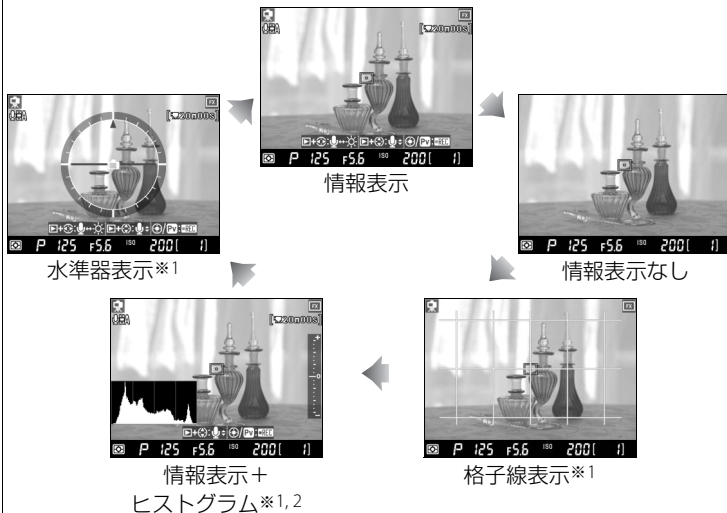
- ライブビュー表示中にinfoボタンを押すと、次のように画面の表示が切り替わります。

情報表示

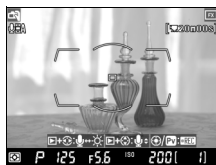
水準器表示※1

情報表示なし

情報表示＋
ヒストグラム※1, 2

格子線表示※1

※1 拡大表示時には表示されません。

※2［**三脚撮影**］での露出プレビュー時（□59）のみ表示されます。

- ［**ライブビューモード**］が［**手持ち撮影**］のときは、ライブビュー表示中にAFエリアフレームが表示されます。［**三脚撮影**］のときは、AFエリアフレームは表示されません。

手持ち撮影

三脚撮影

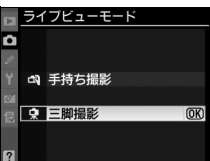
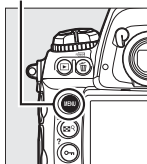
動画に関する設定

ここでは、液晶モニターを見ながら動画を撮影する方法を説明しています。

動画を撮影する

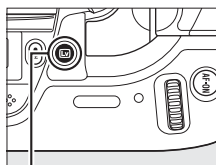
ライブビュー表示中にプレビューボタンを押すと、音声付きの動画を24フレーム/秒で撮影できます。ステレオミニプラグを装備した市販のマイクを外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます。

1 撮影メニューの［ライブビューモード］で設定したいライブビューモードを選ぶ

MENUボタン

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ライブビューモード**］で設定したいライブビューモードを選んで㊊ボタンを押します。
- 動画撮影時の測光モードはマルチパターン測光に固定され、カメラがシャッタースピードやISO感度を決めます。
- ［**三脚撮影**］の場合、露出モードAまたはMでは、設定した絞り値で撮影できます（絞り値の設定方法については□128、131をご覧ください）。［**手持ち撮影**］の場合、被写体の明るさの変化に合わせて、カメラが絞り値を決めます。

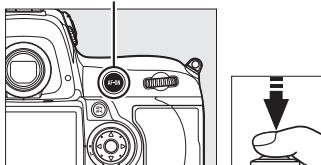
2 Lvボタンを押す

Lvボタン

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。
- ［**三脚撮影**］の場合、ライブビュー表示中も動画撮影中も、㊊ボタンを押して露出プレビューに切り換えられます（□59）。

• ライブビュー表示中や動画撮影中は、画面下部に静止画撮影時のシャッタースピードとISO感度が表示されますが、動画には必ずしも反映されません。

3 撮影前にピントを合わせる

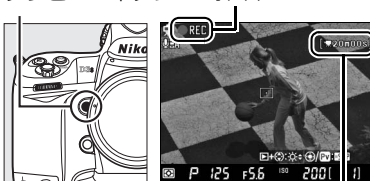
AF-ONボタン

• 動画撮影を始める前に、**AF-ON**ボタンを押すか（[**三脚撮影**]）、シャッターボタンを半押しして（[**手持ち撮影**]）、ピントを合わせます。

• ［**手持ち撮影**］での動画撮影中は、オートフォーカスでピント合わせできません。動画撮影中にピントを合わせたいときは、マニュアルフォーカスをお使いください（🕮105）。シャッターボタンを半押しするか、**AF-ON**ボタンを押すと、動画撮影を終了します。

4 プレビューボタンを押して動画撮影を始める

プレビューボタン　録画中マーク

残り時間

• 録画中は録画中マークが液晶モニターに点滅表示されます。記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。

• カメラボディー前面にある内蔵マイク（🕮4）で音声を記録します（モノラル録音）。録画中は、マイクを指でふさがないようにしてください。

• ［**三脚撮影**］での動画撮影中に**AF-ON**ボタンを押すと、コントラストAFが作動し、選択中のフォーカスポイントに重なる被写体にオートフォーカスでピントを合わせることができます。

- 動画撮影中にAE/AFロックボタンを押すと、**AE-L**マークは表示されますが、露出は固定されません。動画で露出を固定（AEロック、🕮137）したり、露出補正（🕮139）するには、露出プレビュー（🕮59）に切り換えてください。動画撮影中は、±3段の範囲で露出補正ができます。

---

5 もう一度プレビューボタンを押して、撮影を終了する

- 約20分間経過すると撮影を終了します。撮影メニュー［**動画の設定**］の［**画像サイズ**］（🕮72）の設定により、記録できる時間は異なります。また、メモリーカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。
- 動画撮影中にシャッターボタンを全押しすると、動画撮影を終了して静止画撮影し、ライブビュー表示に戻ります。

動画撮影について

- 手順4でプレビューボタンの代わりにマルチセレクターの**中央**ボタンを押しても、動画撮影を開始します。
- マークが表示されているときは、動画撮影できません。
- 1回の動画撮影で記録可能な最大ファイルサイズは2 GBです。
- 使用しているメモリーカードの書き込み速度によっては、設定した［**画像サイズ**］での最長記録時間（🕮72）に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります。
- ［**ピクチャーコントロール**］（🕮176）と［**色空間**］（🕮189）は、ライブビュー開始前に設定してください。

フリッカー低減について

蛍光灯や水銀灯などの光源下では、ライブビュー表示中や動画の撮影時に画面にちらつきや横縞が生じることがあります。この現象を「フリッカー現象」といいます。セットアップメニューの［**フリッカー低減**］を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせて、［**50Hz**］または［**60Hz**］に設定してください。詳しくは、🕮351をご覧ください。

関連ページ

- 動画の画像サイズやマイク感度、記録先のスロット、高感度動画撮影モードを設定する→「動画の設定」(□72)
- マルチセレクターの**中央**ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする
  → f1［**中央ボタンの機能**］(□330)
- AE/AFロックボタンを押し続けなくてもAEロック状態を維持できるようにする
  → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］(□340)

動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
  - ジャギー、偽色、モアレが発生する
  - 輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光された場合、画面の上部や下部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- レンズを取り外すと、動画撮影は終了します。
- 長時間ライブビューや動画撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら）が発生する場合があります。また、カメラボディーの表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 高温によるカメラのダメージを抑えるために、カメラ内部の温度が上昇すると、カメラは自動的に動画撮影を終了します。動画撮影を終了する30秒前から、カメラは液晶モニターの左上に残り時間のカウントダウンを表示します。撮影時の気温が高い場合は、動画撮影が始まってすぐにカウントダウンが始まることもあります。
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 被写体の明るさによっては、露出補正の効果が反映されないことがあります。
- ［**三脚撮影**］での動画撮影中に、オートフォーカスを作動したり、絞り値を変えると、レンズの動作音も記録されます。
- カスタムメニューf8［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］(□342)を［**絞りリング**］に設定して絞りリングのあるCPUレンズを装着した場合、動画撮影できません。絞りリングのあるCPUレンズを装着している場合は、［**絞り値の設定方法**］を［**サブコマンドダイヤル**］に設定してください。

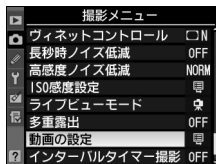
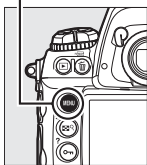
動画の設定

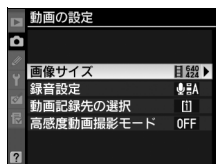
撮影メニューの［**動画の設定**］では、動画を記録するときの画像サイズ、録音の有無やマイクの感度、メモリーカードを2枚使用しているときの記録先を設定できます。また、暗い被写体の撮影に適した、高感度動画撮影モードも選べます。

動画設定の変更方法

1 撮影メニューの［動画の設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**動画の設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 動画の設定項目を選ぶ

- ［**画像サイズ**］、［**録音設定**］、［**動画記録先の選択**］、［**高感度動画撮影モード**］のうちいずれかを選んでマルチセレクターの▶を押すと、設定画面が表示されます。

3 設定したい項目を選ぶ

- ㊙ボタンを押して設定します。

画像サイズ

動画を記録するときの画像サイズを設定します。

画像サイズ	解像度	最長記録時間
1280×720(16:9)※	1280×720ピクセル	5分
640×424(3:2)	640×424ピクセル	20分
320×216(3:2)	320×216ピクセル	20分

※ 撮像範囲（□83）が［**FX (36 × 24)1.0×**］の場合のみ、この画像サイズで動画を記録できます。その他の撮像範囲の場合、［**640×424(3:2)**］で動画を記録します。

録音設定

内蔵マイクまたは市販のマイクの感度を設定します。

マイク感度 オート(A)	設定した感度で録音します。マイク感度が高い順に、［**マイク感度 高(3)**］、［**マイク感度 中(2)**］、［**マイク感度 低(1)**］になります。［**マイク感度 オート(A)**］を選ぶと、カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マイク感度 高(3)	
マイク感度 中(2)	
マイク感度 低(1)	
録音しない	音声は記録しません。

動画記録範囲について

静止画の撮像範囲と動画撮影時のアスペクト比（縦横比）が異なる場合は、ライブビュー表示中にinfoボタンを押して「情報表示なし」（□65）にすると、右図のようなガイドが表示され、動画が記録される範囲を示します（動画の撮影中には、記録されない部分は薄暗く表示されます）。

録音設定について

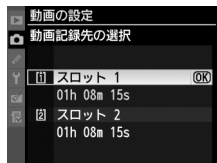
録音設定は、ライブビュー表示中にボタン操作で変更することもできます。「動画を撮影する」の手順4（□69）で動画撮影を始める前に、▶ボタンを押しながらマルチセレクターの◀を押すか、🎙ボタンを押すと、画面左上の録音設定アイコンが黄色に変わります。▶ボタンまたは🎙ボタンを押したまま▲または▼を押すと、マイク感度が切り替わります。

市販のマイクを使った録音について

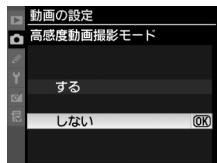
このカメラは、内蔵マイクを装備していますが、市販のマイクを外部マイク入力端子に接続すると、動画撮影中にオートフォーカスでピント合わせをしたときやVRレンズを装着してVR（手ブレ補正）機能をONにしたときに生じるレンズの動作音が録音されるのを軽減できます。ステレオミニプラグ（φ3.5mm）を装備したマイクを使うと、ステレオ録音ができます。

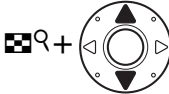
■ 動画記録先の選択

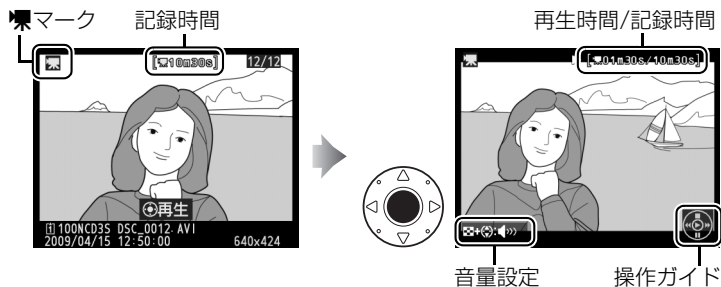
メモリーカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定します。

- それぞれのカードで動画を記録できる残り時間が表示されます。
- 選んだ動画記録先のメモリーカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。

■ 高感度動画撮影モード

動画撮影時には、カメラが周辺の光量に合わせて自動的にISO感度を決めます。高感度動画撮影モードで［**する**］を選ぶと、ISO 6400～Hi 3の範囲でISO感度が制御されるため、肉眼で見づらい暗さで撮影するときに適しています。［**しない**］を選ぶと、ISO 200～ISO 12800の範囲で撮影できます。

- 高感度動画撮影モードを［**する**］に設定すると、動画撮影時とライブビュー表示中に液晶モニターにHiISOが表示されます。

✔ 高感度動画撮影モードについてのご注意

- 高感度動画撮影モードを［**する**］にして撮影すると、被写体によっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）、照明などの明るい部分に残像が見えやすくなることがあります。
- 被写体が明るい場合、高感度動画撮影モードを［**する**］にして撮影すると、白とびが発生することがあります。撮影した動画を確認し、必要に応じて［**しない**］を選んでください。
- 高感度動画撮影モードを［**する**］に設定すると、ライブビュー表示中にHiISOが液晶モニターに表示されますが、静止画は撮影メニューの［**ISO感度設定**］（🕮116）の内容で撮影されます。
- 高感度動画撮影モードを［**する**］にすると、コントラストAFでピントが合いにくくなることがあります。

動画を再生する

1コマ表示モード（🕮232）で🎥マークが表示されている画像が動画です。マルチセレクターの**中央**ボタンを押して動画を再生します。

動画再生中の操作方法

一時停止する	/ OK	▼またはOKを押すと一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中に**中央**ボタンを押すと動画再生を再開します。
巻き戻しする/早送りする（動画再生中）		• 再生中に◀を押すと巻き戻し、▶を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、巻き戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 • ◀ボタンを押し続けると、最初のコマに移動し、▶ボタンを押し続けると、最後のコマに移動します。

コマ戻しする/コマ送りする（一時停止中）		一時停止中に◀または▶を押すと、コマ戻し/コマ送りします。ボタンを押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
音量を調節する	⊠Q＋	⊠Qボタンを押しながら▲を押すと音量が大きくなり、⊠Qボタンを押しながら▼を押すと小さくなります。
動画を編集する	OK	一時停止中に⊛ボタンを押すと、［動画編集］画面を表示します（□77）。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□283）。
再生終了	/ ▶	マルチセレクターの▲または▶ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。

音声が記録されていない動画の表示について

撮影メニュー［**動画の設定**］の［**録音設定**］を［**録音しない**］にして撮影した動画の場合、1コマ表示モード時と再生中に🔇（音声なしマーク）が表示されます（□73）。

動画を編集する

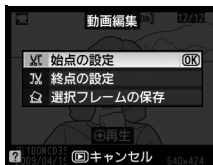
撮影した動画の前または後を削除して必要な部分だけ残したり、動画の1フレームをJPEG画像として保存できます。

動画の必要な部分を残す

1 1コマ表示モード（□232）で編集したい動画を選んで㊙ボタンを押す

- ［動画編集］画面が表示されます。

2 ［始点の設定］または［終点の設定］を選んで㊙ボタンを押す

- ［**始点の設定**］を選ぶと、選択したフレームより前の部分を削除できます。

- ［**終点の設定**］を選ぶと、選択したフレームより後の部分を削除できます。

3 始点または終点を決める

- 動画を再生しながら、削除する始点または終点を決めます。**中央**ボタンを押すと動画を再生します。▼を押すと一時停止します。
- ◀を押すと巻き戻し、▶を押すと早送りします。一時停止中に◀または▶を押すと、コマ送りします。巻き戻し/早送りとコマ送りについては□75をご覧ください。

• 先頭フレームには[icon]アイコンが、最終フレームには[icon]アイコンが画面右上に表示されます。
• [icon]ボタンを押しながら▲を押すと音量が大きくなり、[icon]ボタンを押しながら▼を押すと小さくなります。
• ▲を押すと始点または終点を決定します。

4 動画を作成する

• ［**はい**］を選んで®ボタンを押すと、編集前の動画とは別に、編集した新しい動画として保存します。
• 動画の前後両方を削除するには、まず動画編集で前の部分を削除します。次に、前の部分を削除した動画の後ろの部分を削除してください。
• 編集した動画には、1コマ表示時に[icon]が表示されます。

動画編集時のご注意

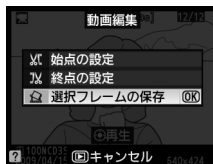
• メモリーカードに充分な空き容量がない場合、動画編集できません。
• ［**始点の設定**］と［**終点の設定**］では、2秒未満の動画は編集できません。手順4で始点または終点を決めるときに、作成される動画が2秒未満になる位置では、再生時間の表示が赤色に変わって警告します。

動画編集を開始する前に

動画を編集するときは、バッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーをお使いください。

動画の1フレームをJPEG画像として保存する

1 ［動画編集］画面で［選択フレームの保存］を選ぶ

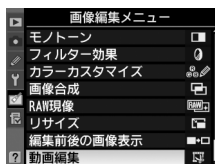
- 「動画の必要な部分を残す」の手順2（□77）の［動画編集］画面で［**選択フレームの保存**］を選んで㊍ボタンを押します。

2 画像として切り出したいフレームを選ぶ

- 動画を再生しながら、画像として切り出したいフレームを選びます。**中央**ボタンを押すと動画を再生します。▼を押すと一時停止します。
- ◀を押すと巻き戻し、▶を押すと早送りします。一時停止中に◀または▶を押すと、コマ送りします。巻き戻し/早送りとコマ送りについては□75をご覧ください。
- 先頭フレームには⏮アイコンが、最終フレームには⏭アイコンが画面右上に表示されます。
- ⊠ボタンを押しながら▲を押すと音量が大きくなり、⊠ボタンを押しながら▼を押すと小さくなります。
- ▲を押すと切り出すフレームを決定します。

3 JPEG画像を作成する

- ［**はい**］を選んで㊙ボタンを押すと、JPEGの画像として保存します。
- 作成したJPEG画像には1コマ表示時に▣が表示されます。

［動画編集］について

動画の編集は画像編集メニュー（□363）からも行えます。

［選択フレームの保存］で作成した画像について

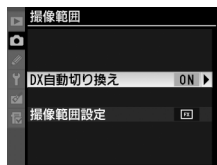
- ［**選択フレームの保存**］で動画から作成したJPEG画像に対して、画像編集することはできません。
- 動画から作成した JPEG 画像の場合、再生時の画像情報で表示されない項目があります。

画像の記録に関する設定

ここでは、撮影したときに記録される範囲や、画質、画像のサイズなど、画像の記録に関する設定について説明します。

撮像範囲を変更する

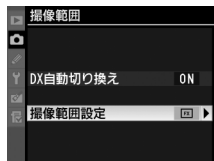
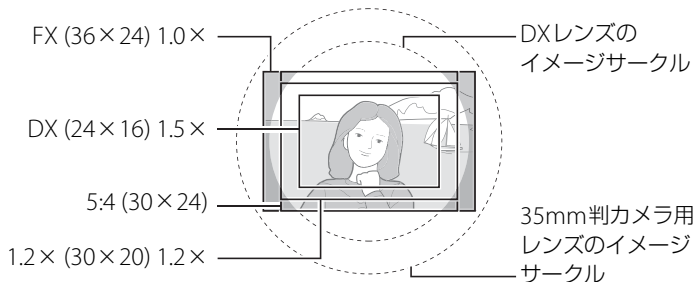
D3Sは、撮像範囲が［**FX （36×24) 1.0×**］（FXフォーマット）の撮像素子（36.0×23.9 mm）を搭載しているため、35mm判カメラに準じた撮影画面サイズ（画角）で撮影できます。DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を［**DX (24×16) 1.5×**］（DXフォーマット）に切り換え、DXレンズの画角で撮影できます。

また、撮影メニューの［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］では、35mm判カメラに準じた画角やDXレンズに対応した画角、FXフォーマットに対して1.2倍の焦点距離相当の画角、または縦横比が5：4の画角から選ぶことができます。

DX自動切り換え

DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を［**DX (24×16) 1.5×**］（DXフォーマット）に切り換えるように設定できます。

する	DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を［**DX (24×16) 1.5×**］に切り換えます。
しない	自動的に切り換えません。

■ 撮像範囲設定

撮像範囲を設定できます（□85）。

FX　**FX (36 × 24) 1.0×（FX フォーマット）**	35mm判カメラに準じた画角のFXフォーマット（36.0×23.9 mm）で画像を記録します。35mm判カメラ用のニッコールレンズを装着して撮影するときに設定します。 • ［**DX自動切り換え**］が［**しない**］のとき、DX レンズを装着して撮影すると、画像の周辺部がケラレます。
1.2x　**1.2× (30 × 20) 1.2×**	30.0×20.0 mmで画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.2倍のレンズに相当する画角になります。 • ［**DX自動切り換え**］が［**しない**］のとき、DX レンズを装着して撮影すると、画像の周辺部がケラレます。
DX　**DX (24 × 16) 1.5×（DX フォーマット）**	DXフォーマット（23.5×15.6 mm）で画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。
5:4　**5:4 (30 × 24)**	縦横比が5：4（30.0×23.9 mm）の画像を記録します。 • ［**DX自動切り換え**］が［**しない**］のとき、DXレンズを装着して撮影すると、画像の周辺部がケラレます。

「ケラレ」について

DXレンズは通常の35mm判カメラ用レンズに比べ、イメージサークルが小さくなっています。このため、DXレンズを装着して［**DX自動切り換え**］を［**しない**］に設定して［**撮像範囲設定**］を［**FX (36 × 24) 1.0 ×**］や［**1.2× (30 × 20) 1.2×**］、［**5:4 (30 × 24)**］にして撮影すると、画面周辺部が黒くなることがあります。これを「ケラレ」といいます。ファインダー上ではケラレがないように見えても、撮影した画像を再生すると周辺部が暗くなっていることや、充分な解像度が得られないことがあります。

ファインダーの表示について

撮像範囲が［**1.2× (30×20) 1.2×**］、［**DX (24×16) 1.5×**］、［**5:4 (30×24)**］のときは、下図のように表示します。記録されない部分は薄暗く表示されます。

1.2× (30×20) 1.2×

DX (24×16) 1.5×

5:4 (30×24)

撮像範囲の表示について

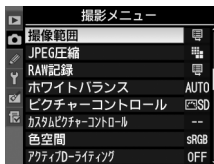
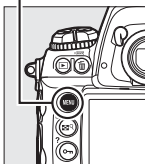
撮像範囲は、インフォ画面に表示されます（□16）。

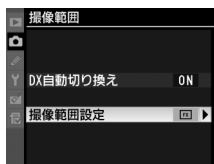
撮像範囲は、撮影メニューの［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］で設定するか、**Fn**（ファンクション）ボタンとコマンドダイヤルで設定します。

■ 撮影メニューの［撮像範囲］で設定する場合

1 撮影メニューの［撮像範囲］を選ぶ

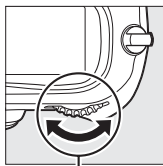
- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**撮像範囲**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［撮像範囲］画面が表示されます。

MENUボタン

2 ［撮像範囲設定］を選ぶ

- ［**撮像範囲設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［撮像範囲設定］画面が表示されます。

3 設定したい撮像範囲を選ぶ

- 設定したい撮像範囲を選んで、㊇ボタンを押します。
- 設定に応じた撮像範囲がファインダー内で確認できます（🕮84）。

▌Fnボタンとコマンドダイヤルで設定する場合

Fnボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す

Fnボタン　メインコマンドダイヤル

- 設定に応じた撮影範囲がファインダー内で確認できます（🕮84）。
- **Fn**ボタンを押すと、上面表示パネルやインフォ画面で撮像範囲の設定を確認できます。

撮像範囲	表示
FX (36 × 24) 1.0×（FXフォーマット）	36 × 24
1.2× (30 × 20) 1.2×	30 × 20
DX (24 × 16) 1.5×（DXフォーマット）	24 × 16
5:4 (30 × 24)	30 × 24

- 多重露出撮影中やライブビュー表示中は、この操作はできません。

撮像範囲の切り換えについて

撮像範囲の［**DX自動切り換え**］を［**する**］（□82）に設定してDXレンズを装着している場合、**Fn**ボタンでは、撮像範囲は切り換えられません。

撮像範囲を変更したときの画像サイズについて

同じ画像サイズに設定した場合でも、［**撮像範囲**］の設定により、撮影画像のピクセル数が変化します。

Fnボタンの機能について

カスタムメニューf4［**Fnボタンの機能**］の［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（□336）では、**Fn**ボタンのコマンドダイヤル併用時の機能を変更できます。［**コマンドダイヤル併用時の動作**］は［**Fnボタン押し時の動作**］の一部の機能とは併用できません（□332）。

関連ページ

- プレビューボタンで撮像範囲を切り換える → f5［**プレビューボタンの機能**］（□339）
- AE/AFロックボタンで撮像範囲を切り換える → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□340）

画質モードを変更する

画質モードについて

画像を記録する際の画質モードを選びます。

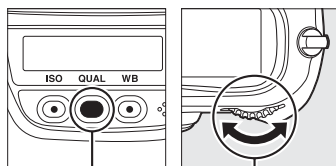
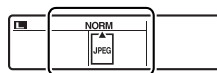
<table>
<tr><th colspan="2">画質モード</th><th>ファイル形式</th><th>内容</th></tr>
<tr><td colspan="2">RAW</td><td>NEF</td><td>撮像素子の生データ（RAW形式）を記録します。画像をパソコンに転送して加工したり、パソコンを使ってプリントする場合などに適しています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">TIFF（RGB）</td><td>TIFF
（RGB）</td><td>画像を8ビット非圧縮のTIFF-RGB形式で記録します。多くの画像アプリケーションで使用できます。</td></tr>
<tr><td>FINE</td><td rowspan="3">高
↑
画質
↓
低</td><td rowspan="3">JPEG</td><td>画像データを約1/4に圧縮して記録します（サイズ優先時）。</td></tr>
<tr><td>NORMAL</td><td>画像データを約1/8に圧縮して記録します（サイズ優先時）。</td></tr>
<tr><td>BASIC</td><td>画像データを約1/16に圧縮して記録します（サイズ優先時）。</td></tr>
<tr><td colspan="2">RAW＋FINE</td><td rowspan="3">NEF ＋ JPEG</td><td>RAWとJPEG（FINE）の2種類の画像を同時に記録します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">RAW＋
NORMAL</td><td>RAWとJPEG（NORMAL）の2種類の画像を同時に記録します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">RAW＋BASIC</td><td>RAWとJPEG（BASIC）の2種類の画像を同時に記録します。</td></tr>
</table>

関連ページ

「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（□448）

■ 画質モードの設定方法

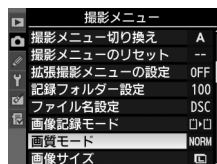
QUALボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 画質モードは、背面表示パネルに表示されます。

背面表示パネル

RAW画像について

画質モードでRAWを選んだ場合、画像サイズは設定できません。RAWで保存した画像を付属のViewNXや別売のCapture NX 2などで表示すると、画像サイズは **L**と同じになります。現像には画像編集メニューの［**RAW現像**］（□376）、または付属のソフトウェアViewNXや別売のCapture NX 2（□397）を使います。ViewNXは付属のSoftware Suite CD-ROMを使ってインストールできます。

［画質モード］について

画質モードは撮影メニュー（□294）でも設定できます。

RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モード［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC**］で撮影したとき、カメラではJPEG画像のみを再生します。メモリーカードを1枚使用している場合、JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
- メモリーカードを1枚使用している場合や、メモリーカードを2枚使用していても［**画像記録モード**］（□94）が［**順次記録**］の場合、RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
- ［**画像記録モード**］を［**RAW+JPEG 分割記録**］に設定してメモリーカードを2 枚使用している場合、RAW画像がスロット1に、JPEG画像がスロット2に記録されます（□94）。RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除しても、RAW画像は削除されません。

JPEG画像の圧縮方式を選ぶ

MENUボタンを押して、撮影メニュー［**JPEG圧縮**］を選んで、画質モードがJPEG（FINE）、JPEG（NORMAL）、JPEG（BASIC）の画像を記録するときの圧縮方式を設定します。

サイズ優先	ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
画質優先	画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。

▮▮ RAW画像の圧縮方式を選ぶ

MENUボタンを押して、撮影メニュー［**RAW記録**］で［**記録方式**］を選んで、RAW画像の記録時の圧縮方式を設定します。

ON **ロスレス圧縮RAW**	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。［**非圧縮RAW**］に対してファイルサイズが約60～80%になります。記録した画像は［**非圧縮RAW**］と同等の画質になります。
ON **圧縮RAW**	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。［**非圧縮RAW**］に対してファイルサイズが約45～60%になります。非可逆圧縮ですが、記録した画像は［**非圧縮RAW**］とほぼ同等の画質になります。
非圧縮RAW	圧縮しないため、［**ロスレス圧縮RAW**］や［**圧縮RAW**］に比べ、ファイルサイズが大きくなります。

▮▮ RAW画像の記録ビット数を選ぶ

MENUボタンを押して、撮影メニュー［**RAW記録**］で［**記録ビットモード**］を選んで、RAW画像の記録ビット数を設定します。

12-bit **12ビット記録**	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit **14ビット記録**	RAW画像を14ビットで記録します。［**12ビット記録**］の場合よりもさらに豊かな階調表現になり、画像のファイルサイズが大きくなります。

画像サイズを変更する

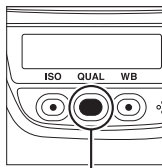
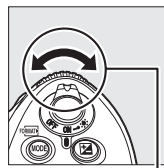
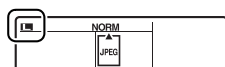
画像を記録する際の画像サイズ（大きさ）を、［**L**］、［**M**］、［**S**］から設定できます。画像サイズは選んだ撮像範囲によって変わります（🕮82）。

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ（出力解像度300dpiの場合）※
FX (36 × 24) 1.0×	**L**（4256×2832ピクセル）	約36.0×24.0 cm
	M（3184×2120ピクセル）	約27.0×17.9 cm
	S（2128×1416ピクセル）	約18.0×12.0 cm
1.2× (30 × 20) 1.2×	**L**（3552×2368ピクセル）	約30.1×20.0 cm
	M（2656×1776ピクセル）	約22.5×15.0 cm
	S（1776×1184ピクセル）	約15.0×10.0 cm
DX (24 × 16) 1.5×	**L**（2784×1848ピクセル）	約23.6×15.6 cm
	M（2080×1384ピクセル）	約17.6×11.7 cm
	S（1392× 920ピクセル）	約11.8× 7.8 cm
5:4 (30 × 24)	**L**（3552×2832ピクセル）	約30.1×24.0 cm
	M（2656×2120ピクセル）	約22.5×17.9 cm
	S（1776×1416ピクセル）	約15.0×12.0 cm

※ ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cmで計算しています。

■ 画像サイズの設定方法

QUALボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

画像サイズは、背面表示パネルに表示されます。

QUALボタン　サブコマンドダイヤル

背面表示パネル

[画像サイズ] について

画像サイズは撮影メニュー（□294）でも設定できます。

2枚のメモリーカードに記録する（画像記録モード）

撮影メニュー（⧉294）の［**画像記録モード**］では、2つのメモリーカードスロットを使って画像を記録するときの画像記録モードを設定できます。

画像記録モード	背面表示パネル	内容
順次記録		スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します。
バックアップ記録		バックアップ用として同じ画像をスロット1、スロット2に記録します。
RAW＋JPEG分割記録		• ［**画質モード**］が［**RAW + FINE**］、［**RAW + NORMAL**］、または［**RAW + BASIC**］の場合、スロット1にRAW画像、スロット2にJPEG画像を記録します。 • その他の画質モードの場合の動作は、［**バックアップ記録**］と同じです。

［バックアップ記録］と［RAW+JPEG分割記録］について

- 上面表示パネルとファインダー内下表示の記録可能コマ数には、記録可能コマ数が少ないスロットのコマ数を表示します。
- どちらか一方のスロットの空き容量がなくなると、シャッターがきれなくなります。
- 音声メモ（⧉256）を録音した場合は、スロット1の画像に記録します。

動画を記録するスロットについて

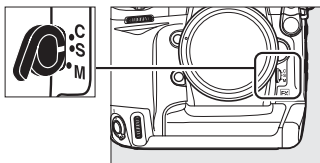
撮影メニュー［**動画の設定**］の［**動画記録先の選択**］で、記録するスロットを設定できます（⧉74）。

フォーカスに関する設定

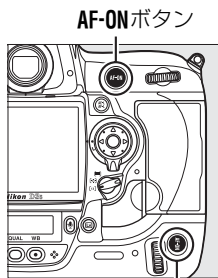
ここでは、カメラのピント合わせ（フォーカス）に関する設定を説明します。

ピントの合わせ方を変更する（フォーカスモード）

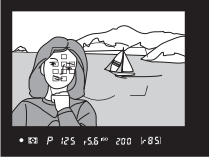
オートフォーカスで撮影するときは、フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**（シングルAFサーボ）または**C**（コンティニュアスAFサーボ）に合わせます。マニュアルフォーカスで撮影するときは、**M**（マニュアルフォーカス）に合わせます。

フォーカスモード
セレクトダイヤル

フォーカスモード	内容
S シングルAFサーボ （AF-S）	ファインダー内のピント表示（●）が点灯すると、ピントはそこで固定（フォーカスロック）します。風景など静止した被写体の撮影に適しています。初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです。
C コンティニュアス AFサーボ （AF-C）	ファインダー内のピント表示（●）がいったん点灯してもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス（□97）に切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先モードです。
M マニュアル フォーカス （□105）	手動でレンズのフォーカスリングを回してピントを合わせるモードです。開放F値がF5.6以上明るいレンズを装着すると、ファインダー内のピント表示（●）によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」（□106）ができます。また、ピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれます。

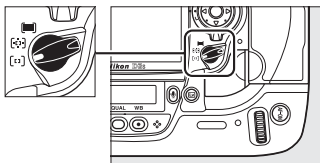
AF-ONボタンについて

- AF-ONボタンを押すと、カメラが自動的に被写体にピントを合わせます。縦位置シャッターボタンロックレバーを解除して縦位置AF-ONボタンを押したときも、同様の動作になります。
- AF-ONボタンでピント合わせをするときは、VRレンズの手ブレ補正スイッチをオンにしていても、手ブレ補正機能は作動しません。

予測駆動フォーカスについて

フォーカスモードセレクトダイヤルを**C**に設定して、シャッターボタンを半押しするか、またはAF-ONボタン（縦位置AF-ONボタン）を押してピントを合わせる場合、被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

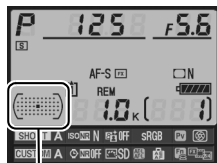
関連ページ

- AF-Cをフォーカス優先モードにする → a1［**AF-Cモード時の優先**］（□307）
- AF-Sをレリーズ優先モードにする → a2［**AF-Sモード時の優先**］（□308）
- シャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動しないようにする → a5［**半押しAFレンズ駆動**］（□311）

AFエリアモードを変更する

AFエリアモードセレクトダイヤルを切り換えて、オートフォーカス（□96）で撮影するときのフォーカスポイント（ピントを合わせる位置）の選び方を設定します。

AFエリアモードセレクトダイヤル

AFエリアモード		フォーカスモード（□96）	
		Sの場合	Cの場合
シングルポイントAFモード	撮影者が選択した1つのフォーカスポイントでピントを合わせます。静止した被写体や動きの少ない被写体に対して、選択したフォーカスポイントで正確にピントを合わせたい場合などに便利です。	フォーカスモードが**S**の場合も**C**の場合も左記の動作になります。	
ダイナミックAFモード	フォーカスモード**C**（□96）との組み合わせで、撮影者が選択した1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。ピント情報を利用するフォーカスポイントは、カスタムメニューa3［**ダイナミックAFエリア**］（□309）で、9点、21点、51点から選択できます。さらに、［**51点（3D-トラッキング）**］に設定すると、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントを自動的に切り換えてピントを合わせ続けます（□310）。	シングルポイントAFモードと同じ動作になります。	ダイナミックAFモードが有効になります。
オートエリアAFモード	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、GタイプまたはDタイプのレンズ（□390）を使用しているときは、人物と背景を自動的に判別して、主要被写体にピントが合う精度が高くなります。	ピントが合ったフォーカスポイント全てを約1秒間表示します。	フォーカスポイントは表示しません。

AFエリアモードの表示について

AFエリアモードは、infoボタンを押すと表示されるインフォ画面で確認できます。

AFエリアモード表示

各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード			インフォ画面
[□] シングルポイントAFモード			
[⊡] ダイナミックAFモード※	カスタムメニュー a3［**ダイナミックAFエリア**］（□309）		
		9点	
		21点	
		51点	
		51点（3D-トラッキング）	3D
[■] オートエリアAFモード			AUTO

※ 実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

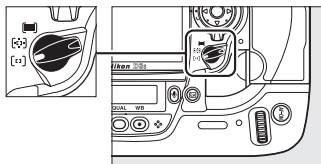
マニュアルフォーカス時のAFエリアモードについて

AFエリアモードは自動的に[□]（シングルポイントAFモード）になります。

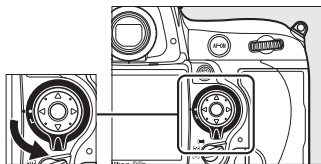
関連ページ

- ダイナミックAF時のフォーカスエリアを変更する → a3［**ダイナミックAFエリア**］（□309）
- AFロックオンを解除する → a4［**AFロックオン**］（□311）

ピントを合わせる位置を選ぶ（フォーカスポイント）

このカメラには、51カ所のフォーカスポイントがあります。AFエリアモードが[⊡]（シングルポイントAFモード）または[⊞]（ダイナミックAFモード）の場合、被写体の位置や構図に合わせて、フォーカスポイントを選ぶことができます。

AFエリアモード
セレクトダイヤル

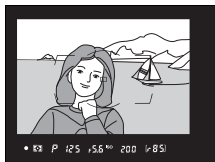
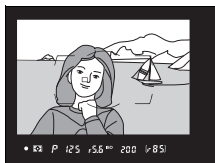
1 フォーカスポイントロックレバーのロックを解除する

- フォーカスポイントロックレバーを回して • に合わせ、ロックを解除すると、マルチセレクターでフォーカスポイントを選べるようになります。

フォーカスポイント
ロックレバー

✔ オートエリアAFモードについて

[▬]（オートエリアAF）の場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に選択するため、自分ではフォーカスポイントを選べません。

2 フォーカスポイントを選ぶ

- マルチセレクターを▲▼◀▶またはななめ方向に押して、フォーカスポイントを選びます。
- **中央**ボタンを押すと、中央部のフォーカスポイントが選択されます。
- フォーカスポイントロックレバーを**L**の位置に回すと、フォーカスポイントをロック（固定）します。

カメラを縦位置で構えるときは

カメラを縦位置で構えるときは、**Fn**ボタンと縦位置コマンドダイヤルを併用してフォーカスポイントを選ぶと便利です。カスタムメニュー f4［**Fnボタンの機能**］の［**コマンドダイヤル併用時の動作**］をご覧ください（🕮336）。

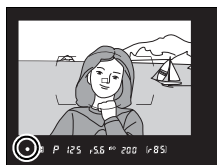
関連ページ

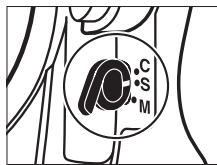
- フォーカスポイントの点灯に関する設定を変更する → ✎ a6［**フォーカスポイント表示**］（🕮312）
- フォーカスポイントの選択を循環方式にする → ✎ a7［**フォーカスポイント循環選択**］（🕮313）
- マルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数を変える → ✎ a8［**AF点数切り換え**］（🕮313）
- 縦位置**AF-ON**ボタンを押したときの機能を変更する → ✎ a10［**縦位置AF-ONボタンの機能**］（🕮315）
- マルチセレクターの**中央**ボタンを押したときの機能を変更する → ✎ f1［**中央ボタンの機能**］（🕮330）

ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体（□104）を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ねる

- 被写体にフォーカスポイントを重ねて、シャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

2 ピントを固定する

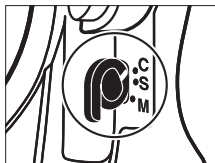
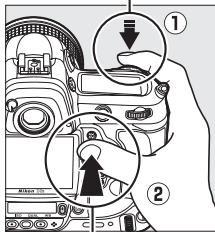
フォーカスモードがSの場合
シャッターボタンを半押ししている間は､ピントがそのまま固定されます。

- シャッターボタンの半押しでピントが合った状態で、AE/AFロックボタンを押してピントを固定することもできます。

シャッターボタンの半押しで露出を固定するには

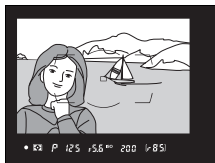
カスタムメニューc1［**半押しAEロック**］を［**する**］に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます（□319）。

フォーカスモードがCの場合

シャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタンを押すと、露出とピントがそのまま固定されます。

- シャッターボタンから指を放しても、AE/AFロックボタンを押している間はピントと露出（AEロック：◻137）が固定され、ファインダー内表示に**AE-L**マークが点灯します。

シャッターボタン

AE/AFロックボタン

3 ピントを固定したまま、構図を決めて撮影する

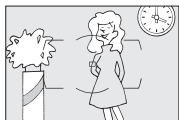
- 被写体との撮影距離を変えないでください。ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）ときは、いったんシャッターボタンやAE/AFロックボタンから指を放し、フォーカスロックを解除してからピントを合わせ直してください。

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

AE/AFロックボタンでフォーカスロックして、AE/AFロックボタンを押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

関連ページ

AE/AFロックボタンを押したときの機能を変更する → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（◻340）

オートフォーカスの苦手な被写体について

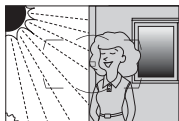
次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、フォーカスモードを**M**（□105）に切り換えてピントを合わせるか、フォーカスロック（□102）を利用してください。

被写体の明暗差がはっきりしない場合

（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）

フォーカスポイント内に遠くのものと近くのものが混在する被写体

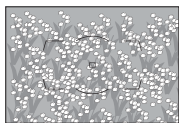
（オリの中の動物など）

連続した繰り返しパターンの被写体

（ビルの窓など）

被写体の明暗差が極端に異なる場合

（太陽を背景にした日陰の人物など）

背景に対して被写体が小さい場合

（遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など）

絵柄が細かい場合

（一面の花畑など）

ピントを手動で合わせる
（マニュアルフォーカス）

使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。

- **AF-Sレンズを使用している場合：**レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。
- **AFレンズを使用している場合：**カメラのフォーカスモードセレクトダイヤルを**M**にしてください。レンズにフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードも**M**にしてください。

フォーカスモードセレクトダイヤル

- **マニュアルフォーカスレンズを使用する場合：**カメラのフォーカスモードセレクトダイヤルを**M**にしてください。

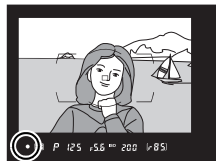
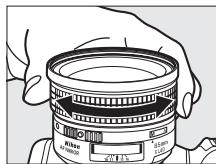
ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。

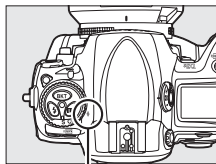
✔ AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合のご注意

AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合は、必ずカメラのフォーカスモードセレクトダイヤルを**M**にしてください。フォーカスモードセレクトダイヤルが**S**または**C**のままマニュアルフォーカスをすると、故障の原因になります。

フォーカスエイドによるピント合わせ

開放F値がF5.6以上明るいレンズ（絞りの最も小さい数値がF5.6以下のレンズ）を使ってマニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは51カ所から選べます。

- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます（□50）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（□104）では、ピントが合っていなくてもピント表示（●）が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。

距離基準マークについて

距離基準マーク -⊖- は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント：□5）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

距離基準マーク -⊖-

レリーズモードに関する設定

ここでは、1コマ撮影や連続撮影をはじめ、静かな場所での撮影に適した静音撮影や、セルフタイマー撮影、撮影時のミラーによる振動を防ぐミラーアップ撮影など、カメラのレリーズモードを説明します。

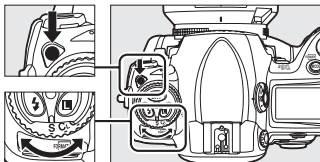
1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、レリーズモードを変更する

シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。

レリーズモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約1～9コマ/秒※で連続撮影できます（🕮110）。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約9コマ/秒（［**撮像範囲**］（🕮82）が［**DX(24×16)1.5×**］の場合は約9～11コマ/秒※）で連続撮影できます。動きのある被写体などに使用すると便利です（🕮110）。
Q 静音撮影	1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。静音撮影では、シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。シャッターボタンを半押し状態に戻すとミラーダウンするため、ミラーダウン音のタイミングを遅らせることができます。また、ミラーダウンする音も1コマ撮影に比べ静かです。 • 静音撮影時には、カスタムメニューd1［**電子音設定**］（🕮321）の設定にかかわらず、電子音も鳴りません。
🕑 セルフタイマー撮影	シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーが作動し、約10秒後にシャッターがきれます。記念撮影などに便利です（🕮112）。
MUP ミラーアップ撮影	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます（🕮114）。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

※カスタムメニューd2［**連続撮影速度**］（🕮322）で設定した連続撮影速度になります。連続撮影速度は、フォーカスモードC、露出モードSまたはM、1/250秒以上の高速シャッタースピードで、その他が初期設定のときの値です。

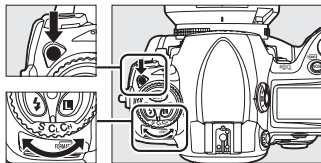
レリーズモードを切り換えるには、レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを回します。

レリーズモードダイヤルロックボタン

レリーズモードダイヤル

連続撮影する

レリーズモードを**CH**（高速連続撮影）または**CL**（低速連続撮影）にすると、シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影できます。

1 レリーズモードダイヤルをCHまたはCLに合わせる

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを**CH**または**CL**に合わせます。

レリーズモードダイヤル

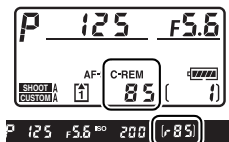
2 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影ができます。
- カスタムメニュー d2［**連続撮影速度**］（□322）で設定した速度で連続撮影できます。

連続撮影速度について

- **CH**時の連続撮影速度は、撮像範囲（□82）が［**FX(36×24)1.0×**］、［**1.2×(30×20) 1.2×**］または［**5:4 (30×24)**］の場合は、常に最大9コマ/秒になります。［**DX (24×16)1.5×**］の場合は、カスタムメニュー d2［**連続撮影速度**］→［**高速連続撮影**］（□322）により、9コマ/秒、10コマ/秒、11コマ/秒のいずれかに設定できます。ただし、連続撮影速度が10コマ/秒または11コマ/秒の場合、ピントは連続撮影開始1コマ目で固定されます。また、被写体が暗い場合、露出は連続撮影開始1コマ目で固定したまま撮影されることがあります。
- VRレンズ使用時にレンズの手ブレ補正スイッチをONにすると、連続撮影速度は遅くなります。また、感度自動制御を［**する**］にして感度が自動制御されているときも連続撮影速度が遅くなることがあります。

連続撮影可能コマ数について

- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が、上面表示パネルとファインダー内に表示されます。右図の場合、最低85コマ続けて撮影できることを示しています。
- 連続撮影は最大130コマまでできます。ただし、「**r00**」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。

連続撮影時の記録について

- メモリーカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度メモリーカードアクセスランプが点灯します。メモリーカードアクセスランプの点灯中にカメラからメモリーカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとメモリーカードに不具合が生じるおそれがあります。
- メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。

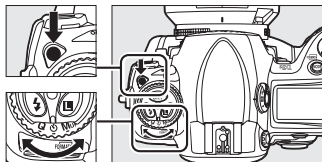
関連ページ

- 連続撮影時に撮影コマ数を制限する → d3［**連続撮影コマ数**］（□322）
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（□448）

セルフタイマーを使って撮影する

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

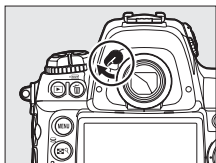
1 レリーズモードダイヤルを ⏲（セルフタイマー撮影）に合わせる

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、⏲に合わせてください。

レリーズモードダイヤル

2 構図を決め、ピントを合わせる

- フォーカスモードが**S**でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。

ファインダーから顔を離して撮影するときは

ライブビューやセルフタイマー、インターバルタイマー撮影時など、ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。

3 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- レリーズモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーは解除されます。

シャッタースピードがbulbにセットされている場合について

露出モードがMで、シャッタースピードがbulbにセットされている場合は、シャッタースピードが約1/5秒でシャッターがきれます。

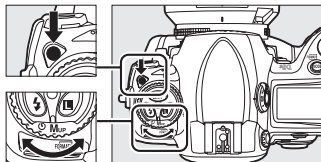
関連ページ

- セルフタイマーの作動時間を変更する → c3［**セルフタイマー**］（🕮319）
- セルフタイマー撮影時の電子音を設定する → d1［**電子音設定**］（🕮321）

ミラーアップして撮影する

ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

1 レリーズモードダイヤルをMUP（ミラーアップ撮影）に合わせる

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、MUPに合わせてください。

レリーズモードダイヤル

2 構図と露出を決めて、シャッターボタンを全押しする

- 半押ししてピントを合わせた後、シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。

> **ミラーアップ中のご注意**
> ミラーアップ中は、ファインダーで構図を確認できません。
> また、オートフォーカスと測光は使えません。

3 撮影する

- もう一度シャッターボタンを全押しすると、撮影できます。
- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押してください。
- 撮影が終了すると、ミラーダウンします。

> **ミラーアップ撮影について**
> - 三脚の利用をおすすめします。
> - ミラーアップ撮影時には、別売のリモートコード (□398) を使うと効果的です。
> - ミラーアップ開始後約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。

ISO

ISO感度に関する設定

ここでは、ISO感度の変更や感度自動制御による撮影方法について説明します。

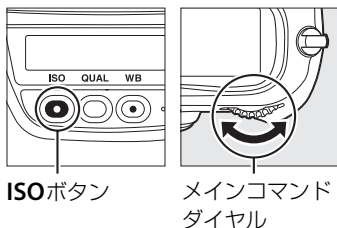
ISO

ISO感度を変更する

ISO感度はISO 200～12800の間で1/3段ステップで設定できます。また、ISO 200から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 12800から約0.3段～約3段の範囲での増感ができます。

ISO感度の設定方法

ISOボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するISO感度を上面表示パネル、背面表示パネル、ファインダー内下表示に表示させます。

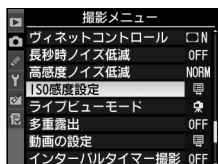
ISOボタン　メインコマンドダイヤル

上面表示パネル

背面表示パネル

ファインダー内下表示

ISO感度：12800

［ISO感度］について

ISO感度は撮影メニュー（◻294）の［**ISO感度設定**］でも設定できます。

高感度（Hi 0.3～Hi 3）に設定した場合

ISO 感度を［**Hi 0.3**］に設定すると、ISO 12800 に対して約 0.3 段分増感し（ISO 16000相当）、［**Hi 3**］では約3段分の増感になります（ISO 102400相当）。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。

低感度（Lo 0.3～Lo 1）に設定した場合

ISO感度を［**Lo 0.3**］に設定すると、ISO 200に対して約0.3段分減感します（ISO 160相当）。［**Lo 1**］では約1段分の減感になります（ISO 100相当）。明るい場所で絞りを開きたい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、やや硬調な仕上がりになりますので、通常の撮影では［**200**］以上をお使いください。

関連ページ

- ISO感度の設定ステップ幅を変更する → b1［**ISO感度設定ステップ幅**］（316）
- 高感度撮影時のノイズを低減する → ［**高感度ノイズ低減**］（303）

ISO

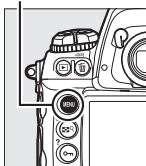
感度自動制御機能を使う

感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

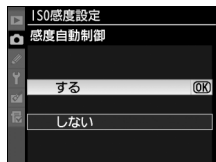
■ 感度自動制御の設定方法

1 撮影メニューの［ISO感度設定］で［感度自動制御］を選ぶ

MENUボタン

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ISO感度設定**］で［**感度自動制御**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 ［する］を選ぶ

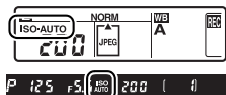
- ［**する**］を選んで㊙ボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- ［**しない**］を選ぶと、［**ISO感度**］で設定したISO感度に固定されます。

ISO

3 感度の制御方法を設定する

- カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。

制御上限感度	感度自動制御する場合の、ISO感度の上限（400～Hi 3）を設定します。ここで設定した値より高い感度に上がることはありません。また、ISO感度の下限は200になります。
低速限界設定	露出モードP、Aで感度自動制御する場合の、シャッタースピードの低速側の限界（1/4000～1秒）を設定します。ただし、ISO感度を上欄の［**制御上限感度**］まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

- ⓞボタンを押して設定します。

［**感度自動制御**］を［**する**］にすると、背面表示パネルとファインダー内下表示に、右のように表示されます。**ISO-AUTO**表示が点灯している場合は、［**ISO感度**］で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されると**ISO-AUTO**表示が点滅し、制御されたISO感度が表示されます。

感度自動制御についてのご注意

- ISO 感度が高くなると、多少ざらついた画像になることがあります。
- ［**ISO感度**］で設定したISO感度よりも、［**制御上限感度**］で設定したISO感度が低い場合、［**制御上限感度**］で設定したISO感度が優先されます。
- フラッシュ撮影時は、［**低速限界設定**］で設定したシャッタースピードよりも、カスタムメニュー e1［**フラッシュ撮影同調速度**］（0327）で設定したシャッタースピードが優先されます。
- 別売スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400の装着時にフラッシュモードをスローシンクロに設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

ISO

測光・露出に関する設定

ここでは、測光モードや露出モード、露出補正、オートブラケティング撮影など、測光・露出に関する設定について説明します。

被写体の測光方法を変更する
（測光モード）

適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。

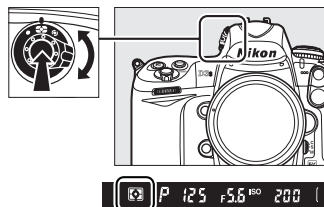
マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
中央部重点測光※1	画面中央のφ12mm相当の円内を重点的に測光します。画面中央に被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 中央部重点測光エリア※2 • 測光範囲はカスタムメニューb5［**中央部重点測光範囲**］（◻318）で変更できます。ただし、非CPUレンズ使用時は、b5の設定を［**画面全体の平均**］にすると画面全体の平均になり、それ以外にするとφ12mm相当になります。
スポット測光※1	フォーカスポイントに重なるφ4mm相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 スポット測光エリア※2 • 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、AFエリアモード（◻98）が▣（オートエリアAFモード）のときや、非CPUレンズ使用時は、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。

※1 非CPUレンズ使用時は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（◻223）で焦点距離と開放絞り値を設定すると、測光の精度が向上します。

※2 測光エリアは実際のファインダー上には表示されません。

測光モードの設定方法

測光モードダイヤルロックボタンを押しながら、測光モードダイヤルを回すと、ファインダー内の測光モード表示が切り替わります。

測光モードダイヤル

マルチパターン測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがのときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

- **CPUレンズ**
  - **「3D-RGBマルチパターン測光II」**：GまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
  - **「RGBマルチパターン測光II」**：GまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。
- **非CPUレンズ**
  - セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（223）でレンズ情報を設定すると、「RGBマルチパターン測光」という測光方式になります。レンズ情報を設定しない場合は、中央部重点測光になります。

関連ページ

- 中央部重点測光の測光範囲を変更する → b5［**中央部重点測光範囲**］（318）
- 測光モードごとに適正露出の基準を決める → b6［**基準露出レベルの調節**］（318）

シャッタースピードや絞り値で露出を設定する（露出モード）

このカメラには、次の露出モードがあります。

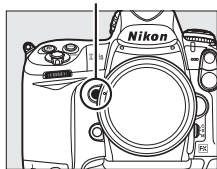
P プログラムオート （□125）	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先オート（□127）	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート （□128）	背景をぼかしたポートレート写真を撮影したり、奥行きのある風景を鮮明に撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル （□130）	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ）撮影も、このモードで行います。

使用レンズについてのご注意

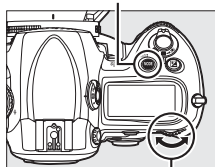
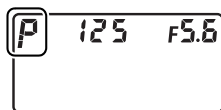
- CPUレンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリング（□390）は、必ず最小絞り（最大値）にセットしてください。
- 露出モードがPまたはSのときに非CPUレンズ（□391）を装着すると、露出モードを自動的にAに切り換えて制御します。このとき、上面表示パネルのPまたはSが点滅して警告し、ファインダー内下表示にAが点灯します。

被写界深度のプレビュー

プレビューボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。別売のニコンクリエイティブライティングシステム（□194）対応スピードライト使用時は、モデリング発光をします。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニューe3［**モデリング発光**］を［**しない**］に設定してください（□328）。

プレビューボタン

P（プログラムオート）：シャッタースピードと絞り値の組み合わせをカメラが決める

被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影など幅広い撮影に適しています。

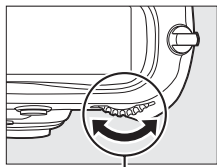
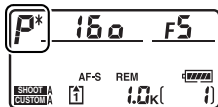
1 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルにPを表示させる

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

シャッタースピード：1/320秒
絞り値：F9

プログラムシフトについて

露出モードPで半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回すと、プログラムシフト（露出を一定にしたままシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える）ができます。プログラムシフト中は上面表示パネルにプログラムシフトマーク✱が点灯します。

メインコマンドダイヤル

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さく設定したい）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードを設定したい）場合には、メインコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きく設定したい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードを設定したい）場合には、メインコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク✱が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたり、他の露出モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

シャッタースピード：1/2000秒　絞り値：F3.5

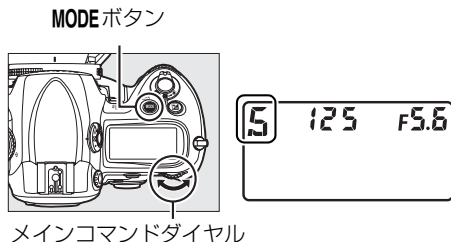
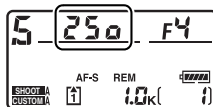
シャッタースピード：1/50秒　絞り値：F22

関連ページ

「露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図」（□420）

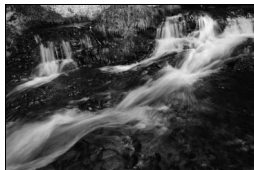
S（シャッター優先オート）：
シャッタースピードを決めて撮影する

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。

1 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルにSを表示させる

2 半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルで好みのシャッタースピードを設定する

- シャッタースピードは1/8000（8000）～30秒（30''）、x 250に設定できます。
- 設定したシャッタースピードはロックできます（□135）。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

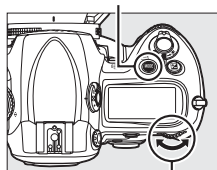
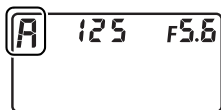
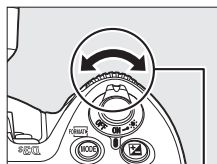
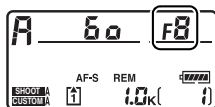
- シャッタースピードを変えることによって、画像は次のように異なります。

速いシャッタースピードのとき：
1/1600 秒

遅いシャッタースピードのとき：
1/6秒

A（絞り優先オート）：絞り値を決めて撮影する

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞りを絞り込むことによって、手前から奥まで鮮明な写真を撮影したり、絞りを開くことによって、背景をぼかして草花や人物を浮かび上がらせて撮影するなど、被写界深度（□124）を優先した撮影に適しています。また、フラッシュ撮影時には、絞り値を変えることにより調光範囲の変更もできます（□203）。

1 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルにAを表示させる

ボタン

2 半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルで好みの絞り値を設定する

- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定した絞り値はロックできます（□136）。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

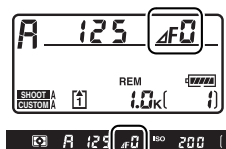
- 絞り値を変えることによって、画像は次のように異なります。

絞りを絞り込んだとき
絞り値：F36

絞りを開いたとき
絞り値：F2.8

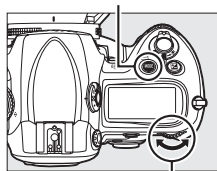
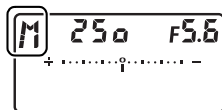
非CPUレンズを取り付けた場合

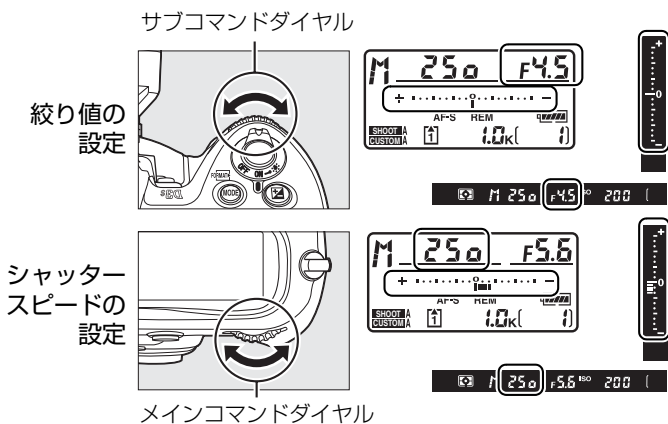
非CPUレンズを装着してセットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（□223）でレンズの開放絞り値（開放F値）を設定した場合は、上面表示パネルとファインダー内下表示に絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、上面表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（**ΔF**、開放絞りは**ΔF0**）となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

M（マニュアル）：

シャッタースピードと絞り値を自分で決めて撮影する

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出撮影（バルブ撮影 □133）する場合には、この露出モードを使います。

1 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルにMを表示させる

2 半押しタイマーがオンのときに、露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定する

- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは、1/8000（8ooo）～30秒（3o''）およびbulb、x 25oに設定できます。
- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定したシャッタースピードと絞り値はロックできます（□135）。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

シャッタースピード：1/250秒

絞り値：F8

AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞り値をサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

露出インジケーターについて

自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、上面表示パネルとファインダー内右表示に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニュー b2［**露出設定ステップ幅**］（□316）の設定によって変化します）。

	［露出設定ステップ幅］が［1/3段］のとき		
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	3 1/3段以上 オーバーの場合
上面表示パネル			
ファインダー内右表示			

- 光量がカメラの測光範囲を超えると、露出インジケーターが点滅して警告します。
- 露出モードSまたはAで適正な露出が得られない場合、HiまたはLoが上面表示パネルとファインダー内下表示に表示され、カメラが測光した露出値との差が露出インジケーターに表示されます。

インジケーター表示の＋/−方向を変更するには

カスタムメニュー f11［**インジケーター表示の＋/−方向**］（□345）では、上面表示パネルおよびインフォ画面（info）での露出、露出補正、オートブラケティングのインジケーターの＋と−方向を入れ換えることができます。

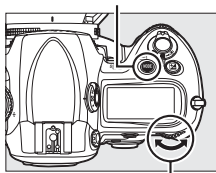
表示	説明
+0−	インジケーターの＋側を左に、−側を右に表示します。
−0+	インジケーターの−側を左に、＋側を右に表示します。

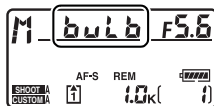
長時間露出で撮影する（バルブ撮影）

シャッタースピードをbulbにセットしてシャッターボタンを押し続けると、シャッターが開いたままとなる長時間露出（バルブ）撮影ができます。

- 花火や夜景、天体写真の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚やリモートコード（□398）が必要です。

1 三脚などを使ってカメラを固定する

2 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルにMを表示させる

3 半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回し、シャッタースピードをbulbにする

- シャッタースピードをbulbに設定すると、露出インジケーターは表示されません。

4 ピントを合わせて、シャッターボタンを全押しする

- 長時間露出撮影をしたい時間まで、シャッターボタンを押し続けてください。
- 手ブレを抑えるために、別売のリモートコード（□398）を使用することをおすすめします。

5 シャッターボタンを放して撮影を終了する

- シャッターボタンを放すと、長時間露出が終了します。

シャッタースピード：35秒
絞り値：F25

長時間露出について

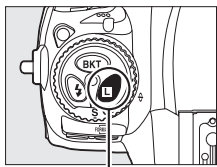
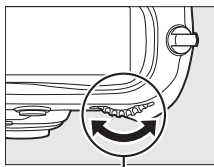
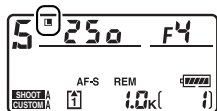
- ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら）が発生することがあります。このノイズ（ざらつき、むら）は、あらかじめ撮影メニューの［**長秒時ノイズ低減**］（□303）を［**する**］にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL4aまたは別売のACアダプター EH-6をお使いいただくことをおすすめします。

シャッタースピードと絞り値をロックする

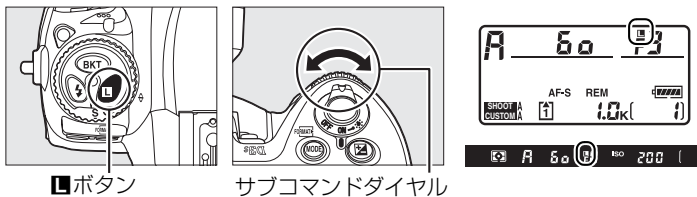
露出モード**S**ではシャッタースピードを、**A**では絞り値を、**M**ではシャッタースピードと絞り値のロックを設定できます。

- **P**では設定できません。

シャッタースピードのロック方法

L（コマンドロック）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルとファインダー内下表示にL（シャッタースピードロック）マークを表示させます。

Lボタン　メインコマンドダイヤル

- 解除する場合は、Lボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、Lマークを消します。

▌絞り値のロック方法

L ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルとファインダー内下表示に L（絞り値ロック）マークを表示させます。

Lボタン　サブコマンドダイヤル

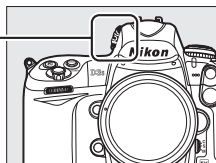
- 解除する場合は、Lボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、Lマークを消します。

露出を固定して撮影する（AEロック）

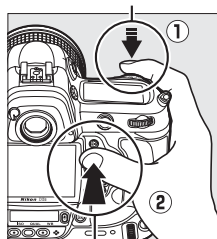
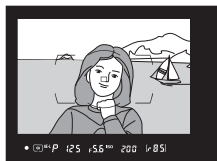
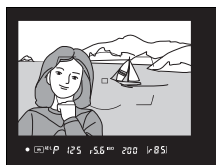
AE ロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

1 測光モード（🕮122）を（中央部重点測光）または（スポット測光）に設定する

- （マルチパターン測光）は充分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

測光モードダイヤル

2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタンを押して、露出を固定する

- AE/AFロックボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内下表示に**AE-L**マークが点灯します。
- フォーカスモードが**S**または**C**の場合、フォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示（●）の点灯も確認してください。

シャッターボタン

AE/AFロックボタン

3 AE/AFロックボタンを押したまま、構図を決めて撮影する

測光エリアについて

- スポット測光で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合（□122）は、選択しているフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- 中央部重点測光に設定した場合は、ファインダー中央部（φ12mmの円内）を重点的に測光した露出が記憶されます。

シャッタースピードと絞り値の変更

AE/AFロックボタンを押している間も次の操作ができます。

露出モード	操作
P	プログラムシフト（□126）
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- 上面表示パネルやファインダー内下表示には、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードダイヤルを切り換えても測光モードは変わりません（AEロックを解除すれば変わります）。

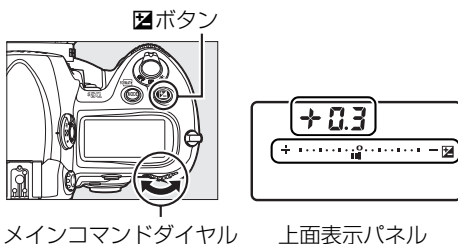
関連ページ

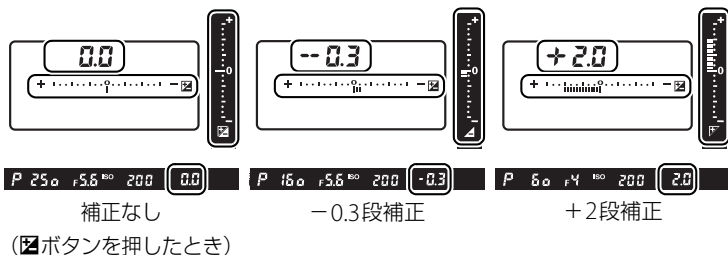
- シャッターボタンの半押しでAEロックできるようにする → c1［**半押しAEロック**］（□319）
- AE/AFロックボタンに別の機能を割り当てる → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□340）

画像の明るさを意図的に変更する（露出補正）

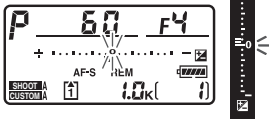
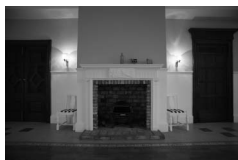
露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることで、画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。

露出補正の設定方法

☒（露出補正）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、上面表示パネルの露出補正表示が変化（1/3段ステップで±5段）します。設定したい補正値に合わせてください。

- ☒ボタンを押すと、上面表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。

補正なし（☒ボタンを押したとき）　－0.3段補正　＋2段補正

- 補正量を設定すると、上面表示パネルとファインダー内右表示に露出補正マーク⊠が表示されます。
- 上面表示パネルとファインダー内右表示には、露出補正インジケーターが表示され、[**0**] が点滅します。

- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正するのが基本です。

－1段補正

露出補正なし

＋1段補正

- 露出補正を解除するには、補正量を 0.0 にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

露出モードMでの露出補正について

露出モードがMのときは、インジケーター表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

別売スピードライト使用時の露出補正

別売スピードライト使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とスピードライトの発光量の両方に補正が行われます。

関連ページ

- 露出補正のステップ幅を変更する → b3［**露出補正ステップ幅**］（316）
- ⊠ボタンを使わずに露出補正する → b4［**露出補正簡易設定**］（317）
- 露出補正値を変えながら撮影する→「露出や調光、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する（オートブラケティング撮影）」（141）

露出や調光、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する（オートブラケティング撮影）

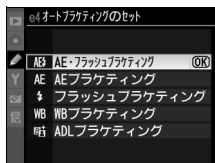
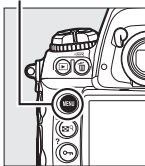
明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

AE、フラッシュブラケティングの撮影方法

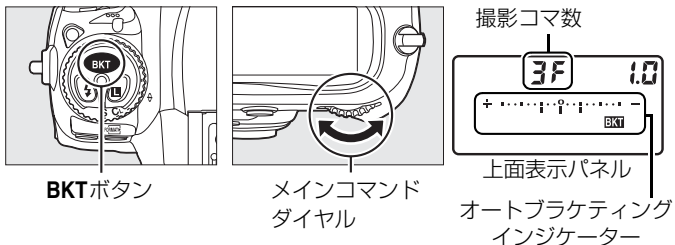
露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。

1 カスタムメニュー e4［オートブラケティングのセット］で［AE・フラッシュブラケティング］を選ぶ

MENUボタン

- MENUボタンを押して、カスタムメニュー e4［**オートブラケティングのセット**］で［**AE・フラッシュブラケティング**］を選んで㊊ボタンを押します。
- ［**AEブラケティング**］、［**フラッシュブラケティング**］を選んだ場合も操作は同じです。

> **AEブラケティング、フラッシュブラケティングについて**
>
> ［**AE・フラッシュブラケティング**］では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。AEブラケティングだけを行いたいときは［**AEブラケティング**］を、フラッシュブラケティングだけを行いたいときは［**フラッシュブラケティング**］を選びます。

2　撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。

- 0F以外に設定すると、上面表示パネルとファインダー内右表示にBKTマークとオートブラケティングインジケーターが表示されます。

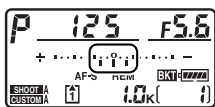
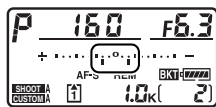
3 補正ステップを設定する

- **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、補正ステップを設定できます。

- 補正ステップは、露出設定ステップ幅が「1/3段」の場合、0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）から選ぶことができます。
- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

上面表示パネル	オートブラケティングインジケーター	撮影コマ数	撮影順序
0F 0.3		0	0
+3F 0.3		3	＋0.3/0/＋0.7
-3F 0.3		3	－0.3/－0.7/0
+2F 0.3		2	0/＋0.3
-2F 0.3		2	0/－0.3
3F 0.3		3	0/－0.3/＋0.3
5F 0.3		5	0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7
7F 0.3		7	0/－1.0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0
9F 0.3		9	0/－1.3/－1.0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0/＋1.3

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 上面表示パネルとファインダー内右表示には、オートブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、オートブラケティングインジケーター上から消えます。

撮影コマ数：3
補正ステップ：0.7

1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正（□139）を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。±4段を超えるAEブラケティング撮影を行うときに便利です。

補正ステップ：0

補正ステップ：–1

補正ステップ：+1

関連ページ

- オートブラケティングの補正ステップ幅を変更する → b2［**露出設定ステップ幅**］（□316）
- オートブラケティングの撮影順を変更する → e6［**BKTの順序**］（□330）
- **BKT**ボタンの機能を変える → f7［**BKTボタンの機能**］（□341）

AE、フラッシュブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して上面表示パネルの撮影コマ数を0Fにしてください（BKTマークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（□208）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

AE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティング撮影について

- レリーズモード（□108）を**CL**または**CH**にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けるとセットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時（□112）には、設定した撮影コマ数のオートブラケティング撮影が1コマずつ行われます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

AEブラケティング

AEブラケティングでは、露出モードによって補正される内容（シャッタースピード、絞り値）が異なります。

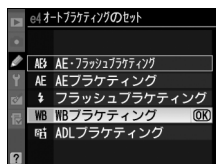
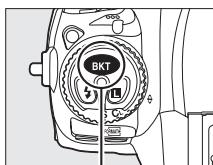
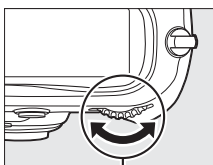
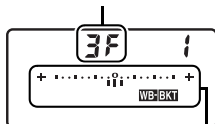
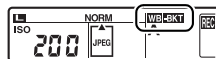
露出モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2

※1［**感度自動制御**］（□118）を［**する**］に設定し、かつ別売スピードライトを装着していない場合、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると、自動的にISO感度が変化します。

※2 カスタムメニューe5［**BKT 変化要素 (M モード)**］により変化する内容をシャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、あるいはフラッシュの調光量のみに変更できます（□329）。

■ WBブラケティングの撮影方法

ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。ホワイトバランスについての説明は、□153をご覧ください。

1 カスタムメニュー e4［オートブラケティングのセット］で［WBブラケティング］を選ぶ

2 撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。

- 0F以外に設定すると、上面表示パネルと背面表示パネルにWB-BKTマークが表示されます。また、上面表示パネルにWBブラケティングインジケーターが表示されます。

> **WBブラケティングの制限について**
> WBブラケティングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

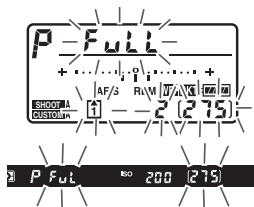
3 補正ステップを設定する

- **BKT**ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。

- 補正ステップは、1（1段）、2（2段）、3（3段）から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります（🕮158）。
- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

上面表示パネル	WB ブラケティングインジケーター	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
0F 1		0	1段	0
b3F 1		3	B方向1段	B1/0/B2
A3F 1		3	A方向1段	A1/A2/0
b2F 1		2	B方向1段	0/B1
A2F 1		2	A方向1段	0/A1
3F 1		3	各方向1段	0/A1/B1
5F 1		5	各方向1段	0/A2/A1/B1/B2
7F 1		7	各方向1段	0/A3/A2/A1/B1/B2/B3
9F 1		9	各方向1段	0/A4/A3/A2/A1/B1/B2/B3/B4

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整にしていた場合は、微調整にWBブラケティングの補正ステップが加算されます。
- WBブラケティングの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、上面表示パネルにFuLLとが、ファインダー内下表示にFuLが右図のように点滅し、シャッターがきれません。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。

■ WBブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して上面表示パネルの撮影コマ数を0Fにしてください（WB-BKTマークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（□208）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

✓ WBブラケティング撮影について

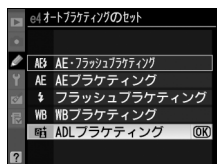
- WBブラケティングでは、色温度（A（アンバー）からB（ブルー）への横方向）の補正のみを行います（□157）。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時（□112）には、1回のセルフタイマー撮影で設定された撮影コマ数が全て記録されます。

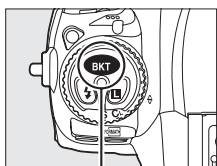
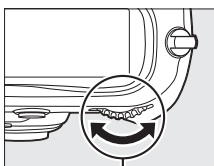
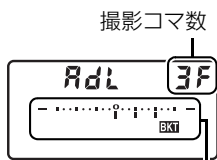
関連ページ

「ミレッド（MIRED）について」（□159）

ADLブラケティングの撮影方法

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。アクティブD-ライティングについての説明は、🕮187をご覧ください。

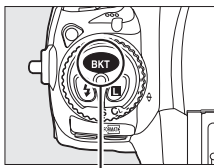
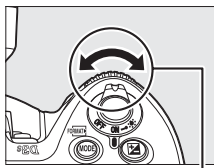
1 カスタムメニュー e4［オートブラケティングのセット］で［ADLブラケティング］を選ぶ

2 撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を設定できます。

- 設定すると、上面表示パネルに**BKT**マークとADLブラケティングインジケーターが表示されます。
- 設定した撮影コマ数により、ブラケティングの内容が次のように異なります。

撮影コマ数	ブラケティングの内容
2コマ	［**しない**］→（手順3で設定するアクティブD-ライティングの度合い）の順に撮影
3コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］の順に撮影
4コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］→［**強め**］の順に撮影
5コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］→［**強め**］→［**より強め**］の順に撮影

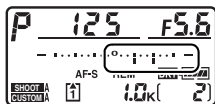
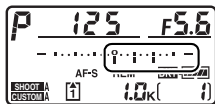
- 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順4に進んでください。

3 アクティブD-ライティングの度合いを設定する

- **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。

- アクティブD-ライティングの度合いは、上面表示パネルのADLブラケティングインジケーターで確認できます。

アクティブD-ライティングの度合い	上面表示パネル
AUTO　オート	AdL 2A BKT
L　弱め	AdL 2F BKT
N　標準	AdL 2F BKT
H　強め	AdL 2F BKT
H⁺　より強め	AdL 2F BKT

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 上面表示パネルには、ADLブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、ADLブラケティングインジケーター上から消えます。

▌ADLブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、撮影コマ数が消えるまでメインコマンドダイヤルを回します。ただし、設定したアクティブD-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツーボタンリセット（🕮208）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定したアクティブD-ライティングの度合いもリセットされます。

☑ ADLブラケティング撮影について

- レリーズモード（🕮108）を **CL** または **CH** にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けるとセットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時（🕮112）には、設定した撮影コマ数のオートブラケティング撮影が1コマずつ行われます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

WB

ホワイトバランスに関する設定

ここでは、ホワイトバランスの設定や、撮影する照明下で最適なホワイトバランスを取得する方法などについて説明します。

ホワイトバランスを変更する

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定のAUTO（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランス		設定される色温度	内容
AUTO オート		約3500～8000K※	AUTO（オート）で充分な効果を得るには、GまたはDタイプレンズをお使いになることをおすすめします。また、別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
電球		約3000K※	白熱電球下での撮影に適しています。
蛍光灯		—	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
	ナトリウム灯混合光	約2700K※	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
	電球色蛍光灯	約3000K※	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
	温白色蛍光灯	約3700K※	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	白色蛍光灯	約4200K※	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	昼白色蛍光灯	約5000K※	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	昼光色蛍光灯	約6500K※	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
	高色温度の水銀灯	約7200K※	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。
晴天		約5200K※	晴天の屋外での撮影に適しています。
フラッシュ		約5400K※	別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
曇天		約6000K※	曇り空の屋外での撮影に適しています。

WB

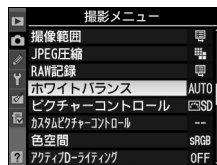
ホワイトバランス	設定される色温度	内容
晴天日陰	約8000K※	晴天の日陰での撮影に適しています。
K 色温度設定	約2500～10000K	色温度を直接指定できます（□161）。
PRE プリセットマニュアル	—	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます（□162）。

※微調整が0の場合の値です。

ホワイトバランスの設定方法

WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、設定したいホワイトバランスのアイコンを背面表示パネルに点灯させせます。

[ホワイトバランス] について

ホワイトバランスは撮影メニュー（□294）でも設定できます。

（蛍光灯）について

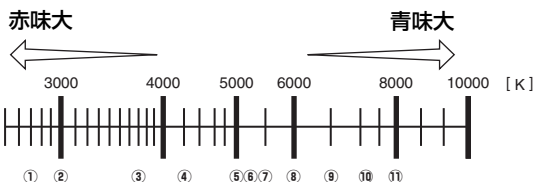
（蛍光灯）の場合は、撮影メニュー（□294）で選んだ種類の蛍光灯になります。

WB

スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、AUTO（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は、（フラッシュ）モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

①	ナトリウム灯混合光（約2700K）	⑥	晴天（約5200K）
②	電球（約3000K） 電球色蛍光灯（約3000K）	⑦	フラッシュ（約5400K）
		⑧	曇天（約6000K）
③	温白色蛍光灯（約3700K）	⑨	昼光色蛍光灯（約6500K）
④	白色蛍光灯（約4200K）	⑩	高色温度の水銀灯（約7200K）
⑤	昼白色蛍光灯（約5000K）	⑪	晴天日陰（約8000K）

関連ページ

ホワイトバランスを変えながら撮影する

→ e4［**オートブラケティングのセット**］（328）
→「WBブラケティングの撮影方法」（146）

ホワイトバランスを微調整する

ホワイトバランスは、さらに微調整できます。

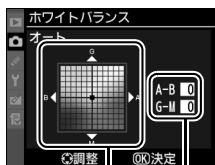
■ 撮影メニューの［ホワイトバランス］で設定する場合

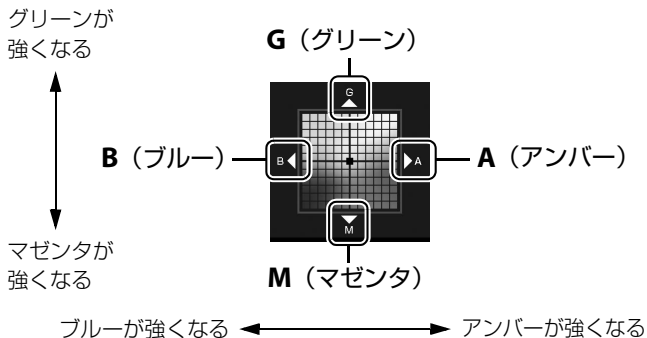
1 設定したいホワイトバランスを選ぶ

MENUボタン

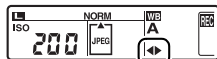
- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］で設定したいホワイトバランスを選びます。
- ホワイトバランスを選んでマルチセレクターの▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**蛍光灯**］の場合は、該当する蛍光灯の種類を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**色温度設定**］の場合は、該当する色温度を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**プリセットマニュアル**］の場合は、該当するプリセットマニュアルデータを設定すると（□171）、微調整画面が表示されます。

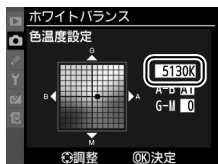
2 微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作すると、A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、各方向6段まで微調整できます。設定した座標上の色に画像を補正します。

座標　設定段数

- 座標とホワイトバランスの効果の関係は次の図のようになります。

- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整ができます。

3 微調整値を決定します

- ㊉ボタンを押して微調整値を決定すると、撮影メニューに戻ります。
- 手順2でAまたはB方向に微調整した場合、背面表示パネルにホワイトバランス微調整表示◀▶が点灯します。

[色温度設定] での微調整について

ホワイトバランスが［**色温度設定**］の場合は、色温度を確認しながら微調整できます。

ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを（電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

ミレッド（MIRED）について

色温度の逆数を百万（10^6）倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例）色温度の差（K：ケルビン）：ミレッドの差 （M：ミレッド）
　　4000K－3000K＝1000 K ：83 M
　　7000K－6000K＝1000 K ：24 M

ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合

WBボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回して現在選択中のホワイトバランスの微調整量を背面表示パネルに表示させます。

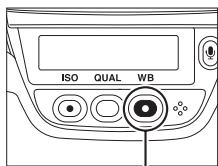
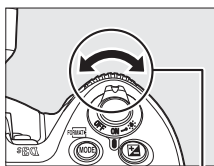
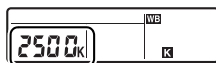
- **WB** ボタンとサブコマンドダイヤルで微調整する場合は、A（アンバー）からB（ブルー）への横軸の方向のみ設定できます（🕮158）。各方向6段まで微調整できます。
- 1段は約5ミレッドに相当します（🕮159）。
- サブコマンドダイヤルを左に回すとA（アンバー）方向に、右に回すとB（ブルー）方向に色温度の高さを微調整できます。
- 微調整値を0以外に設定すると、背面表示パネルにホワイトバランス微調整表示◀▶が点灯します。
- **WB**ボタンの操作では、K（色温度設定）、**PRE**（プリセットマニュアル）のホワイトバランスは微調整できません。撮影メニューで微調整してください（🕮157）。

色温度を指定してホワイトバランスを設定する（色温度設定）

ホワイトバランスを K（色温度設定）にしたときは、ホワイトバランスの色温度を直接数値で指定できます。

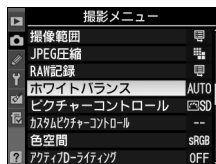
色温度の設定方法

WBボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回して設定したい色温度を背面表示パネルに表示させます。

WB

✔ 色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ （蛍光灯）、（フラッシュ）に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。
- **WB**ボタンとサブコマンドダイヤルで色温度を設定すると、撮影メニュー［**ホワイトバランス**］の［**色温度設定**］で設定した微調整値は解除されます。

［色温度設定］について

色温度設定は撮影メニュー（□294）の[**ホワイトバランス**]でも設定できます。

基準となる白を測定してホワイトバランスを設定する（プリセットマニュアル）

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明や特殊照明下で、前記のAUTO（オート）や電球アイコン（電球）などの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（□164）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	メモリーカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（□169）。

WB

プリセットマニュアルデータは、d-0～d-4の5つの場所に保存できます。また、各プリセットマニュアルデータにはコメントを添付できます（□173）。

d-0

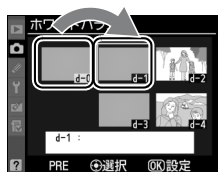
カメラで新規取得（□164）したプリセットマニュアルデータを保存します。新規取得するごとに新しいプリセットマニュアルデータに上書きされます。

d-1～d-4

プリセットマニュアルデータとして保存します。

- d-0に保存されているプリセットマニュアルデータのコピー（□168）

- メモリーカードにある画像のホワイトバランスをコピー（□169）

WB

すでに設定されているプリセットマニュアルデータの変更について

使用するプリセットマニュアルデータの保存場所は、撮影メニュー（A～D）（□295）ごとに設定できます。ただし、各保存場所にあるプリセットマニュアルデータ（d-0～d-4）の内容は、全ての撮影メニューで共用しています。したがって他の撮影メニューで使用されているプリセットマニュアルデータの内容を変更すると、その撮影メニューのホワイトバランスも変更されることになります。d-1～d-4の内容を変更する場合に他の撮影メニューでそのプリセットマニュアルデータが使用されているときは、液晶モニターに警告メッセージが表示されます。

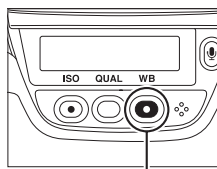
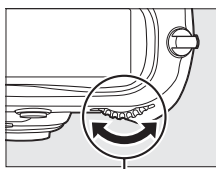
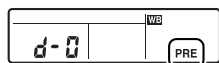
■ プリセットマニュアルデータの新規取得

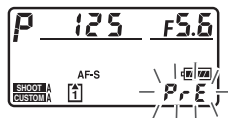
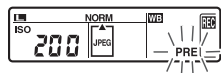
プリセットマニュアルデータは次の方法で新規取得します。

プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 露出モードがMの場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください（□132）。

1 WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、背面表示パネルのホワイトバランス表示をPREに合わせる

WB

2 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん**WB**ボタンから指を放し、再度**WB**ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、上面表示パネルとファインダー内下表示にPrEの文字が、背面表示パネルに**PRE**が、それぞれ約6秒間点滅します。

上面表示パネル

背面表示パネル

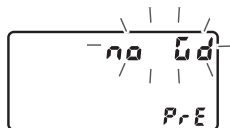
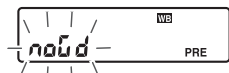
ファインダー内下表示

3 PrEの点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する

- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、d-0に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、メモリーカードに画像は記録されません。

4 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- プリセットマニュアルデータが取得されると、上面表示パネルのシャッタースピード表示部と背面表示パネルにGoodの文字が、ファインダー内下表示のシャッタースピード表示部にGdの文字が、それぞれ約6秒間点滅し、プリセットマニュアル取得モードを終了します。

- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、上面表示パネルとファインダー内下表示のシャッタースピード表示部/絞り値表示部および背面表示パネルにno Gdの文字が、それぞれ約6秒間点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順3）に戻ります。

5 新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用する

- 新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用するには、**WB**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回してd-0を選択します。

WB

プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］（0319）で設定した時間が過ぎると解除されます。

プリセットマニュアルデータについて

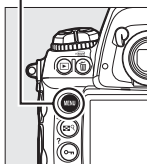
- 新規に取得したプリセットマニュアルデータは常にd-0に保存され、以前のプリセット値は警告なしに上書きされます。他のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-4）を選択している場合、そのままでは新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用できません。新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用するには、プリセットマニュアルデータとしてd-0を選択してください。
- 取得したプリセットマニュアルデータは、d-1～d-4にコピーできます（0168）。
- ご購入時のプリセットマニュアルデータd-0～d-4は、晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。
- 撮影メニューから［**ホワイトバランス**］の［**プリセットマニュアル**］を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが右のような撮影画像のサムネイルで表示されます。

■ 新規取得したプリセットマニュアルデータ（d-0）をコピーする

d-0に保存されたプリセットマニュアルデータを、選択したプリセットマニュアルデータの保存場所にコピーできます。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

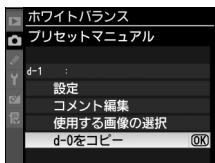
MENUボタン

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］で［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動してd-1～d-4の中からコピー先を選びます。
- **中央**ボタンを押すと設定画面が表示されます。

3 ［d-0をコピー］を選ぶ

- ［**d-0をコピー**］を選んで、㉫ボタンを押します。
- d-0のプリセットマニュアルデータにコメント（□173）がある場合、コメントもコピーされます。

WB

■ 撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

選択したプリセットマニュアルデータの保存場所に、メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ（□168）

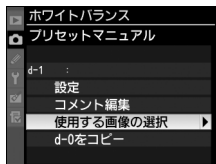
- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

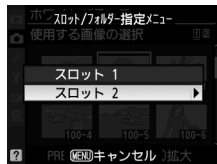
2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動してd-1～d-4の中からコピー先を選びます。
- **中央**ボタンを押すと設定画面が表示されます。
- d-0には、撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーすることはできません。

3 ［使用する画像の選択］を選ぶ

- ［**使用する画像の選択**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、メモリーカード内の画像が一覧表示されます。

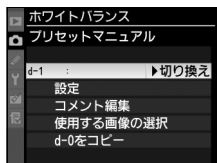
WB

4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 選択した画像は、⊠ボタンを押している間、拡大して確認できます。
- ⊠ボタンを押しながらマルチセレクターの▲を押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます（□234）。

5 ホワイトバランスデータをコピーする

- **中央**ボタンを押すとメモリーカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選択した画像に画像コメント（□353）がある場合、画像コメントもコピーされます。

WB

設定画面でのプリセットマニュアルデータの切り換えについて

設定画面で、マルチセレクターの▲を押してプリセットマニュアルデータ（d-0～d-4）を選び、▶を押すと、プリセットマニュアルデータが切り替わります。

■プリセットマニュアルデータを設定する

選択したプリセットマニュアルデータを撮影で使用するホワイトバランスに設定します。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ（□168）

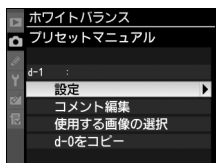
- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

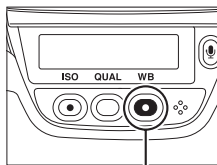
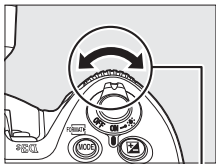
2 プリセットマニュアルデータを選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して、プリセットマニュアルデータを選びます。
- **中央**ボタンを押すと設定画面が表示されます。
- **中央**ボタンを押す代わりに㊚ボタンを押すと、選択されているプリセットマニュアルデータがそのまま設定されて、微調整の画面が表示されます（□157）。

3 ［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選んで▶を押すと、微調整の画面が表示されます（□157）。必要に応じて微調整を行い、㊚ボタンを押して設定します。

WB

プリセットマニュアルデータの選択について

ホワイトバランスを**PRE**（プリセットマニュアル）に設定している場合は、**WB**ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回してプリセットマニュアルデータを選択できます。**WB**ボタンを押している間、選択中のプリセットマニュアルデータ番号が背面表示パネルに表示されます。

プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

選択したプリセットマニュアルデータにコメント（最大36文字）を入力します。

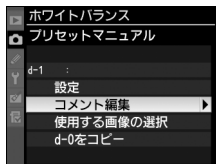
1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ（□168）

- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

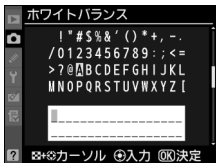
2 プリセットマニュアルデータを選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して、プリセットマニュアルデータを選びます。
- **中央**ボタンを押すと設定画面が表示されます。

3 ［コメント編集］を選ぶ

- ［**コメント編集**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

4 コメントを入力する

- 最大36文字入力できます。コメントの入力方法は、「撮影メニュー切り換え」の「名前編集」をご覧ください（□296）。

WB

画像処理に関する設定

ここでは、画像の仕上がりを撮影目的や撮影者の好みに合わせる「ピクチャーコントロール」や、白とびや黒つぶれの少ない画像にする「アクティブD-ライティング」など、画像処理に関する設定について説明します。

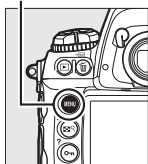
画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール）

「ピクチャーコントロール（Picture Control）システム」とは、対応するカメラまたはソフトウェアで調整した画像調整の設定を相互に利用できるニコン独自の画作りシステムです。

ピクチャーコントロールを選ぶ

ピクチャーコントロールには、被写体や撮影シーンに合わせて選ぶことのできる「ピクチャーコントロール」が搭載されています。

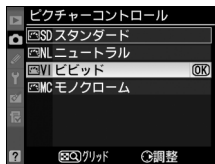
1 撮影メニューの［ピクチャーコントロール］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

［ピクチャーコントロール］と［カスタムピクチャーコントロール］について

- 撮影メニューで［**ピクチャーコントロール**］を選ぶと、ピクチャーコントロールを撮影目的や好みに合わせて調整できます。
- ［**カスタムピクチャーコントロール**］を選ぶと、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり（□182）、メモリーカードを使って、同じ機種のカメラやピクチャーコントロールに対応するソフトウェアと共用する（□185）ことができます。

2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

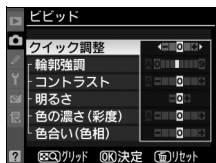
- Ⓞボタンを押して設定します。

SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 • ほとんどの撮影状況に適しています。
NL ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。 • 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。
VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 • 青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。

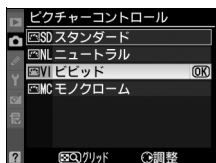
撮影中のピクチャーコントロールの確認について

使用しているピクチャーコントロールは、info ボタンを押すと表示されるインフォ画面で確認できます。

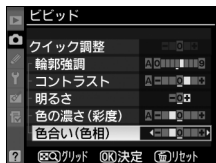
ピクチャーコントロールアイコン

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロール（□182）の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）をバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」ができます。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

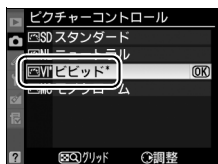
- ピクチャーコントロールの一覧画面（□177）で、マルチセレクターの▶を押します。

2 ピクチャーコントロールを調整する

- ▲または▼で調整する項目（□179）を選んで、◀または▶で値を設定します。

- ［**クイック調整**］を選ぶと、各項目のレベルを自動的に調整します（□179）。
- 🗑ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

3 設定する

- ⓞボタンを押して設定します。

ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンと項目名の末尾にアスタリスク（＊）が表示されます。

■ レベル調整の設定項目

クイック調整※1		輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。［－2］～［＋2］までの調整ができます。 • －側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、＋側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。たとえば［**ビビッド**］を選んで＋側にクイック調整すると、色の鮮やかさを強調します。
手動調整	**輪郭強調**	輪郭の強弱を調整します。［0］（輪郭強調しない）～［9］までの手動調整と、自動で調整する［A］（オート）があります。 • 数字が大きいほどくっきりとした画像になり、小さいほどソフトな画像になります。
	コントラスト※2	画像のコントラストを調整します。［－3］～［＋3］までの手動調整と、自動で調整する［A］（オート）があります。 • －側にすると軟調な画像になり、＋側にすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは－側が、霞んだ遠景の撮影などには＋側が適しています。
	明るさ※2	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。［－1］～［＋1］までの調整ができます。 • －側にすると暗くなり、＋側にすると明るくなります。
	色の濃さ（彩度）※3	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整します。［－3］～［＋3］までの手動調整と、自動で調整する［A］（オート）があります。 • －側にすると鮮やかさが抑えられ、＋側にするとより鮮やかになります。
	色合い（色相）※3	画像の色合いを調整します。［－3］～［＋3］までの調整ができます。 • 肌色を基準にした場合、＋側にすると黄色みが増し、－側にすると赤みが増します。
	フィルター効果※4	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。フィルター効果は［OFF］、［Y］、［O］、［R］、［G］から選べます（🕮181）。
	調色※4	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色は［B&W］、［Sepia］、［Cyanotype］、［Red］、［Yellow］、［Green］、［Blue Green］、［Blue］、［Purple Blue］、［Red Purple］から選べます（🕮181）。

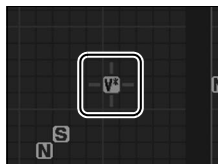
※1 [**ニュートラル**] と [**モノクローム**] はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（□182）の場合も、クイック調整できません。
手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。
※2 ［**アクティブD-ライティング**］（□187）を設定している場合は、調整できません。手動調整した後に［**アクティブD-ライティング**］を設定すると、手動調整で設定した値は無効になります。
※3 [**モノクローム**] や [**モノクローム**] を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときは、表示されません。
※4 [**モノクローム**] や [**モノクローム**] を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示されます。

[コントラスト]、[色の濃さ（彩度)］の［A]（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- 充分な効果を得るには、GタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

ピクチャーコントロール調整時のグリッド表示

- ピクチャーコントロール調整中に ボタンを押している間、調整しているピクチャーコントロールのコントラストと彩度が座標で表示され、他のピクチャーコントロールとの関係がわかります。ボタンを放すと、調整画面に戻ります。

- [**モノクローム**] の場合、グリッド表示はコントラストのみ表示されます。
- [**コントラスト**] または [**色の濃さ（彩度)**] に [A]（オート）が設定されたピクチャーコントロールは、グリッド表示時はアイコンが緑色で表示されます。また、各軸に平行な上下または左右の線が表示されます。

ピクチャーコントロール調整時のアンダーバーについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示されるアンダーバーは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するときに便利です。

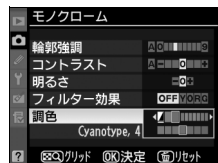
[モノクローム]の[フィルター効果]について

[**フィルター効果**]には、次のような効果があります。

Y（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。[**Y**] → [**O**] → [**R**] の順にコントラストが強くなります。
O（オレンジ※）	
R（赤※）	
G（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。[**フィルター効果**]で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

[モノクローム]の[調色]について

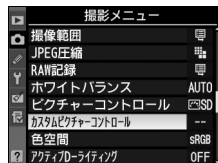
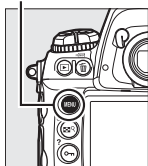
[**調色**]の項目（[**B&W**]以外）を選んでマルチセレクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を7段階から選べます。◀または▶を押して選んでください。

カスタムピクチャーコントロールを登録する

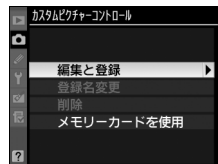
カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

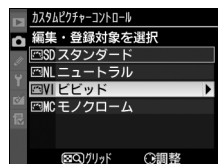
■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

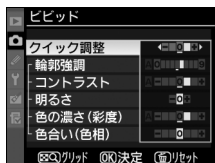
1 撮影メニューの［カスタムピクチャーコントロール］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**カスタムピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 ［編集と登録］を選ぶ

- ［**編集と登録**］を選んで▶を押すと、［編集・登録対象を選択］画面が表示されます。

3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

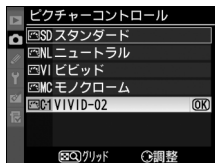
- ピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は㊙ボタンを押します。［登録先の選択］画面が表示されます（手順5へ）。

4 ピクチャーコントロールを調整する

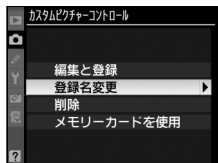
- 項目の内容や調整方法は［**ピクチャーコントロール**］と同じです。
- ㊋ボタンを押すと［登録先の選択］画面が表示されます。
- 🗑ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

5 登録先を選択する

- C-1〜9（カスタム1〜9）の中から登録先を選びます。

6 名前を入力する

- 登録先を選んで▶を押すと、［登録名変更］画面が表示されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。入力画面での入力方法については、「撮影メニュー切り換え」の「名前編集」をご覧ください（□296）。
- 初期状態では、「（元になったピクチャーコントロール名）-XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。

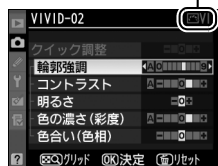
- 登録したカスタムピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。

登録名変更について

［**カスタムピクチャーコントロール**］で［**登録名変更**］を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更できます。

登録したカスタムピクチャーコントロールを削除するには

［**カスタムピクチャーコントロール**］で［**削除**］を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

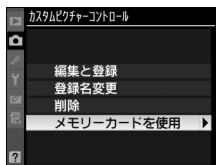
元になった
ピクチャーコントロール

カスタム1〜9で調整できる項目について

カスタム1〜9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

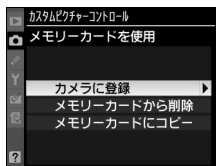
メモリーカードを使ってピクチャーコントロールを対応ソフトウェアと共用する

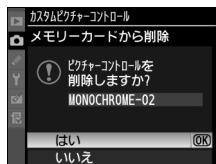
付属のViewNXや別売のCapture NX 2のピクチャーコントロールユーティリティー（Picture Control Utility）で作成したカスタムピクチャーコントロールを、メモリーカードからカメラに読み込んで登録したり、カメラで作成したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーすることができます。また、メモリーカード上の不要なカスタムピクチャーコントロールを削除することもできます。

1 ［カスタムピクチャーコントロール］画面で［メモリーカードを使用］を選ぶ

- ［**メモリーカードを使用**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［メモリーカードを使用］画面が表示されます。

2 ［カメラに登録］、［メモリーカードから削除］または［メモリーカードにコピー］を選ぶ

［**カメラに登録**］：

- メモリーカードにあるカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。

［**メモリーカードから削除**］：

- メモリーカードにあるカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。右のような確認画面が表示されるので、［**はい**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

［**メモリーカードにコピー**］：

- カメラにあるカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーできます。メモリーカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1 ～ 99）を選んでⓄⓀボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがメモリーカードにコピーされます。

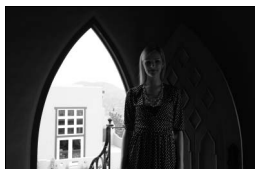
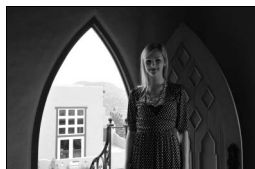
メモリーカードへのコピー /メモリーカードからの削除について

- カメラに搭載されているピクチャーコントロール（スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム）は、コピーや削除ができません。
- カメラにメモリーカード上のカスタムピクチャーコントロールを登録するときや、カメラ上のカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーするときは、メモリーカードをスロット1に入れてください。スロット2に入っているメモリーカードは認識されません。
- メモリーカードに保存できるカスタムピクチャーコントロールは、99個までです。

オプションピクチャーコントロールについて

カメラにあらかじめ搭載されているピクチャーコントロールのほかに、ニコンのホームページから「オプションピクチャーコントロール」としてピクチャーコントロールをダウンロードすることができます。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する（アクティブD-ライティング）

撮影の前にあらかじめ［**アクティブD-ライティング**］を設定しておくと、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。

アクティブD-ライティング［**しない**］

アクティブD-ライティング［**AUTO オート**］

アクティブD-ライティング［**しない**］

アクティブD-ライティング［**H 強め**］

アクティブD-ライティング設定時の測光モードについて

アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードを（マルチパターン測光）に設定して撮影することをおすすめします（□122）。

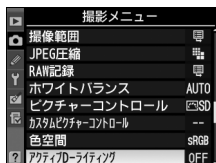
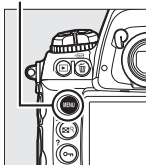
撮影メニュー［アクティブD-ライティング］と画像編集メニュー［D-ライティング］の違い

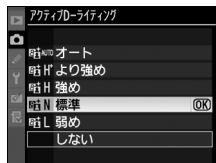
［**アクティブD-ライティング**］を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、［**D-ライティング**］は、すでに撮影済みの画像に対して、階調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

アクティブD-ライティングを設定する

1 撮影メニューの［アクティブD-ライティング］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**アクティブD-ライティング**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 効果の度合いを選び、㊋ボタンを押す

- ［AUTO **オート**］に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に効果の度合いを設定します。

アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブ D-ライティングで撮影する場合は、記録に時間がかかります。また、連続撮影可能コマ数も少なくなります（□448）。
- ［**ピクチャーコントロール**］の［**コントラスト**］と［**明るさ**］のレベル調整は選択できません（□180）。
- アクティブD-ライティングを設定して高感度で撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- アクティブD-ライティングを設定していても、ISO感度がHi 0.3以上の場合、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 露出モードが M のときは、［AUTO **オート**］に設定していても［**N標準**］相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。

関連ページ

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影する → 「ADLブラケティングの撮影方法」（□150）

画像の色空間を設定する（色空間）

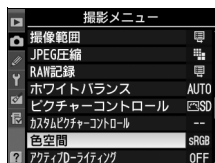
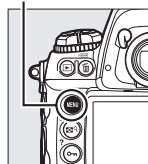
記録する画像の色空間を指定します。
画像の用途によって、適した色空間を選択できます。

設定	内容
sRGB sRGB	画像をsRGB色空間で記録します。画像調整などを行わずに再生やプリントする場合に適しています。
Adobe Adobe RGB	画像をAdobe RGB色空間で記録します。sRGBに比べて色域が広いため、商業印刷に適しています。

色空間の設定方法

1 撮影メニューの［色空間］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**色空間**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 設定したい色空間を選ぶ

- ⓞⓚボタンを押して設定します。

色空間についてのご注意

- カラーマネージメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、sRGB色空間をおすすめします。
- Adobe RGB色空間で記録したJPEG画像は、DCFオプション色空間に対応しています。DCFオプション色空間に対応しているアプリケーションやプリンターの場合、自動的に正しい色空間が設定されます。DCFオプション色空間に対応していないアプリケーションやプリンターの場合は、Adobe RGB色空間に設定してください。詳細については、アプリケーションやプリンターの説明書をご覧ください。
- Adobe RGB色空間で記録したTIFF画像には、ICCプロファイルが埋め込まれています。Adobe Photoshopなどのカラーマネージメント機能を持ったアプリケーションで画像を開く場合、自動的に正しい色空間が設定されます。詳細については、アプリケーションの説明書をご覧ください。
- ExifPrint、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、sRGB色空間をおすすめします。Adobe RGB色空間で記録すると、彩度が低下する場合があります。

ViewNXまたはCapture NX 2をお使いの場合

付属のViewNXや別売のCapture NX 2をお使いいただくと、正しい色空間での処理が自動的に行われます。

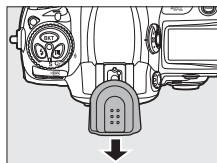
フラッシュ撮影に関する設定

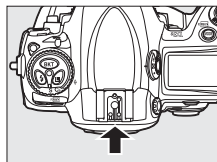
ここでは、ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトを使ったフラッシュ撮影について説明します。

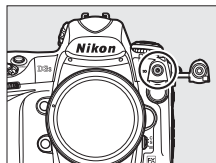
フラッシュ撮影について
（別売スピードライト）

このカメラは、アクセサリーシューに別売スピードライト（□194）を装着することでフラッシュ撮影が可能になります。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影などでも、逆光時や主要被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としても使用できます。お使いのスピードライトで使用できる機能については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

別売スピードライトの装着方法

1 アクセサリーシューカバーを取り外す（□18）

2 別売のスピードライトをアクセサリーシューに取り付ける

- SB-900、SB-800、SB-600、SB-400などのセーフティーロックピン付きのスピードライトを取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。
- スピードライトの取り付け方は、お使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

シンクロターミナル

シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時に、シンクロコードをシンクロターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、後幕シンクロ撮影ができるスピードライトをアクセサリーシューに装着して後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行わないでください。

他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）対応スピードライト

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。このカメラでは、次のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトを使って撮影できます。

SB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200

	SB-900※1	SB-800	SB-600	SB-400	SB-R200※2
ガイドナンバー（ISO 100・m/ISO 200・m、20℃）	34/48（照射角35mm、スタンダード配光時）	38/53（照射角35mm時）	30/42（照射角35mm時）	21/30	10/14

※1 カメラのホワイトバランスをAUTO（オート）または⚡（フラッシュ）に設定し、SB-900用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

※2 リモート発光用スピードライトSB-R200を使用するには、SB-900、SB-800、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。

SU-800

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800は、CLS対応カメラに装着すると、ワイヤレスでSB-900、SB-800、SB-600、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離（m）」（ISO感度が100の場合）という関係があります。SB-800 はガイドナンバーが38（ISO感度100、20℃）なので、ISO 感度が100で絞り値がF5.6 なら、38 ÷ 5.6 = 約6.8mまでフラッシュの光が届くことになります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4 倍（$\sqrt{2}$ 倍）になります。たとえば、D3S でISO感度200 でSB-800 を使用すると、絞り値がF5.6なら38 ÷ 5.6 × 1.4 = 約9.5mまで光が届きます。

SB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200との組み合わせで使用できる機能

スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200 を使用する場合、スピードライトとレンズの組み合わせによって次の機能が使用できます。

			1灯のみで使用			アドバンストワイヤレスライティング				
						主灯として使用		補助灯として使用		
スピードライト			SB-900 SB-800	SB-600	SB-400	SB-900 SB-800	SU-800※1	SB-900 SB-800	SB-600	SB-R200
発光モード	i-TTL	i-TTL-BL調光	○※2	○※2	○※2	○	○	○	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○※3	○※3	○※3					
	AA	絞り連動外部自動調光	○※4			○※5	○※5	○※5		
	A	外部自動調光	○※4			○※5		○※5		
	GN	距離優先マニュアル発光	○							
	M	マニュアル発光	○	○		○	○	○	○	○
	RPT	リピーティングフラッシュ	○			○	○	○	○	
機能		オートFPハイスピードシンクロ※6	○	○		○	○	○	○	○
		FVロック	○	○	○	○	○	○	○	○
		マルチエリアAF補助光※7	○	○		○	○			
		発光色温度情報伝達	○	○	○	○				
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○
	👁	赤目軽減発光	○	○	○	○				
		オートパワーズーム	○	○		○				

※1 SU-800本体に発光機能はありません。表中の○は、SU-800がコマンダーとして補助灯を制御できる機能です。

※2 スポット測光時は設定できません。

※3 SB-900、SB-800、SB-600の場合は、スピードライト側でも設定できます。

※4 **AA**モードと**A**モードの選択は、SB-900、SB-800のカスタム設定で行います。ただし、**AA**モード設定時でも、非CPUレンズを装着し、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない場合は、自動的に**A**モードになります。

※5 SB-900、SB-800のカスタム設定にかかわらず、優先的に**AA**モードになります。ただし、非CPUレンズを装着し、［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない場合は、自動的に**A**モードになります。

※6 カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］（□327）を［**1/250秒(オートFP)**］に設定してください。

※7 非CPUレンズ装着時は機能しません。

モデリング発光について

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト（SB-900、SB-800、SB-600など）装着時には、D3Sのプレビューボタンを押すとモデリング発光が行われます。アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時には、使用する全てのスピードライトのモデリング発光が行われるので、照射光の効果を簡単に確認できます。プレビュー時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニューe3［**モデリング発光**］（□328）を［**しない**］に設定してください。

その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。TTLにセットすると、カメラのシャッターボタンはロックされ、撮影できません。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト			SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27※1 SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29※2 SB-21B※2 SB-29S※2
区分	**A**	外部自動調光	○		○	○	
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
		マルチフラッシュ	○		○		
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 D3SとSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードになりますが、TTLモードでは使えません。SB-27を強制Aモードに設定し直してください。

※2 SB-29S・29・21B 使用時のオートフォーカス撮影は、一部のAFマイクロ（60mm・105mm・200mm）レンズ装着時のみ可能です。

スピードライト使用時のご注意

- スピードライトを装着すると、撮影状況にかかわらず、撮影時は常に発光します。
- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、D3SはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にレディーライト⚡が約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。撮影した画像を確認してから、撮影距離、絞り値、ISO感度などをもう一度調整して、撮影し直してください。
- i-TTLモード時のISO 感度連動範囲はISO 200～12800 相当です。
- ISO感度を12800よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- スピードライト SB-900、SB-800、SB-600、SB-400 の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- D3SとSB-900、SB-800、SB-600以外のスピードライトの組み合わせでは、オートパワーズーム機能は使用できません。
- スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800の使用時に、AF補助光の照射条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。

- スピードライトSB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離で全てのフォーカスポイントを照射しますが、オートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

17～19mmの場合	20～105mmの場合	106～135mmの場合

- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離で照射とオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

24～34mmの場合	35～49mmの場合	50～105mmの場合

- 露出モードが*P*の場合、カメラが自動で設定する開放側の限界絞りは、使用するISO感度によって次のように制御されます。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）						
200	**400**	**800**	**1600**	**3200**	**6400**	**12800**
4.8	5.6	6.7	8	9.5	11	13

※感度1段に対して絞り値は1/2段変化します。制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。
- スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400を使用するとき、測光モードを⊡（スポット測光）にセットすると、スタンダードi-TTL調光になります。

スピードライトの調光方式について

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトをカメラに装着し、スピードライトの発光モードをTTLにセットすると、モニター発光を行う専用TTLモード（i-TTLモード）になり、i-TTL-BL調光などによるフラッシュ撮影ができます。ニコンクリエイティブライティングシステム非対応のスピードライトでは、i-TTLモードでの撮影はできません。

i-TTLモード時は、次のような調光方式が利用できます。

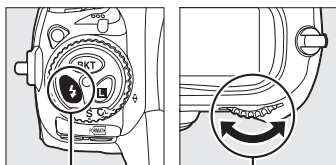
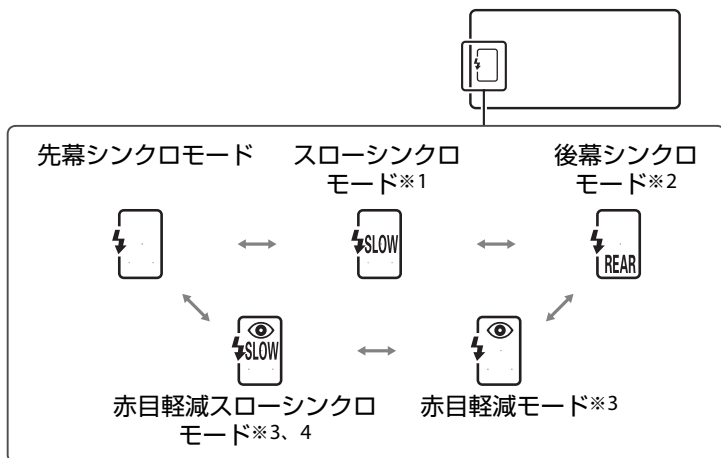
i-TTL-BL調光	マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、シャッターの開く直前にスピードライトがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。 • GまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も利用して最適な発光量を決定します。 • 非CPUレンズ装着時は、レンズ情報（開放絞り値、焦点距離）を設定することにより、より精度が向上します（□223）。 • 測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。 • 測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。

フラッシュモードを設定する

モード	内容
先幕シンクロモード	通常のフラッシュ撮影時にはこのモードを設定します。露出モードをPまたはAにセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/250～1/60秒（オートFPハイスピードシンクロ時は1/8000 ～ 1/60秒）に自動的にセットします。
スローシンクロモード	露出モードをPまたはAに設定してフラッシュ撮影すると、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらスピードライトを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影ができます。 • シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
後幕シンクロモード	シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にスピードライトが発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌道などを表現したい場合などに適しています。 • 露出モードを P または A に設定すると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
赤目軽減モード	赤目軽減発光機能付きのスピードライトを使用することにより、暗いところで人物の目が赤く写るのを軽減できます（SB-900、SB-800、SB-600、SB-400使用時のみ）。 • シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。

モード	内容
赤目軽減スローシンクロモード	赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードは P または A に設定してください（SB-900、SB-800、SB-600、SB-400使用時のみ）。夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。 • シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。

フラッシュモードを切り換える

フラッシュモードは⚡ボタンとメインコマンドダイヤルでセットします。⚡ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するフラッシュモードを上面表示パネルに表示させます。

※1 露出モードが S または M の場合、スローシンクロモードは設定できません。このモードを選択した場合は自動的に「先幕シンクロモード」に変更されます。

※2 露出モードがPまたはAの場合は、スローシンクロモードも自動的にセットされ、⚡ボタンから指を放すと右のように表示されます。

※3 スピードライト側が赤目軽減発光機能に対応していない場合は、フラッシュモード表示の赤目軽減マーク👁が点滅します。

※4 露出モードがSまたはMの場合、赤目軽減スローシンクロモードは設定できません。このモードを選択した場合は自動的に「赤目軽減モード」に変更されます。

スタジオ用大型ストロボ使用時について

スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

別売スピードライト使用時のシャッタースピードと絞り値

別売のスピードライト使用時にカメラで設定できるシャッタースピードと絞り値は、次の通りです。

露出モード	設定可能なシャッタースピード	設定可能な絞り値	📖
P	カメラが自動的に1/250〜1/60秒にセット※1	カメラが自動的に設定	125
S	1/250〜30秒※2		127
A	カメラが自動的に1/250〜1/60秒にセット※1	任意の絞り値※3	128
M	1/250〜30秒、bulb※2		130

※1 スローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード選択時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。また、カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］（📖327）を［**1/250秒（オートFP）**］に設定してSB-900、SB-800、SB-600を装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。

※2 カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］（📖327）を［**1/250秒（オートFP）**］に設定してSB-900、SB-800、SB-600を装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで設定できます。

※3 調光範囲は設定しているISO感度と絞り値によって決まります。AまたはM時の絞り値の設定はスピードライトの調光範囲を考慮して行ってください。

関連ページ

- フラッシュ同調速度を変更する → ✎ e1［**フラッシュ撮影同調速度**］（📖327）
- フラッシュ時のシャッタースピードを制限する → ✎ e2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］（📖328）

調光量を固定して撮影する
（FV ロック）

別売のニコンクリエイティブライティングシステム（□194）対応スピードライト（SB-900、SB-800、SB-600、SB-400など）使用時は、調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。
- ニコンクリエイティブライティングシステム非対応の別売スピードライト使用時は、FVロックは機能しません。

1 カスタムメニュー f4［Fnボタンの機能］（□332）の［Fnボタン押し時の動作］を［FV-L］に設定する

2 スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800をカメラのアクセサリーシューに装着する

3 スピードライトの電源をONにし、発光モードをTTLまたはAAにセットする

- 詳しくはスピードライトの使用説明書をご覧ください。

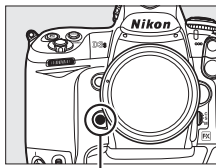
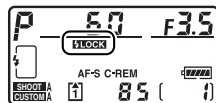
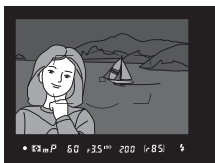
4 被写体にピントを合わせる

- 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

5 モニター発光を行う

- ファインダー内下表示に⚡が点灯していることを確認し、**Fn**ボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。

Fnボタン

- FVロックが行われ、上面表示パネルとファインダー内下表示にFVロックマーク（⚡LOCK、⚡L）が表示されます。

6 構図を変更する

7 シャッターボタンを全押しして撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影できます。必要に応じて手順6～7を繰り返してください。

8 FVロックを解除する

- もう一度**Fn**ボタンを押すと、FVロックが解除され、上面表示パネルとファインダー内下表示のFVロックマーク（⚡LOCK、⚡L）が消灯します。

FVロック時の測光エリアについて

FVロック時の測光エリアは次のようになります。

<table>
<tr><th>撮影状態</th><th>発光モード</th><th>測光エリア</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1灯撮影時</td><td>i-TTLモード</td><td>画面中央φ5mm相当</td></tr>
<tr><td>絞り連動外部自動調光</td><td>スピードライトの
外部測光エリア</td></tr>
<tr><td rowspan="3">アドバンストワイヤレス
ライティングによる
増灯時</td><td>i-TTLモード</td><td>全画面</td></tr>
<tr><td>絞り連動外部自動調光</td><td rowspan="2">スピードライトの
外部測光エリア</td></tr>
<tr><td>外部自動調光
（マスタースピード
ライト）</td></tr>
</table>

関連ページ

- プレビューボタンでFVロックをする → f5［**プレビューボタンの機能**］（□339）
- AE/AFロックボタンでFVロックをする → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□340）

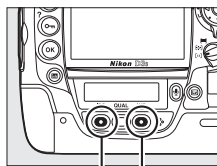
撮影の便利な機能

ここでは、カメラを初期設定の状態に戻すツーボタンリセットや、多重露出、インターバルタイマー撮影など、撮影に便利な機能を説明します。

基本的な機能を初期設定に戻す（ツーボタンリセット）

ツーボタンリセットにより、簡単にカメラの設定を初期状態に戻すことができます。

ISOボタンと**WB**ボタン（それぞれのボタンに緑色の●が付いています）を2秒以上同時に押すと、一瞬上面/背面表示パネルの表示が消え、カメラの各機能が次のように初期設定に戻ります。

ISO ボタン　**WB** ボタン

機能	初期設定
フォーカスポイント	中央
露出モード	P
プログラムシフト	解除
露出補正	解除
AEロックのホールド状態	解除※1
コマンドロック（絞り）	解除
コマンドロック（シャッタースピード）	解除
オートブラケティング	解除※2
フラッシュモード	先幕シンクロ
FVロック	解除
多重露出※3	解除

※1 カスタムメニューf6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□340）はリセットされません。

※2 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュブラケティングの補正ステップは1になります。WBブラケティングの補正ステップは1になります。ADLブラケティングで撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いは、［AUTO **オート**］になります。

※3 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが［**する（連続）**］または［**する（1回）**］の場合は［**しない**］に設定されます。コマ数と自動ゲイン補正は初期設定には戻りません。

ツーボタンリセットでは、撮影メニュー［**撮影メニュー切り換え**］（□295）で選択されている撮影メニュー（A～Dのいずれか）の項目の内容も初期状態に戻ります。現在選択されていない撮影メニューの項目は初期状態に戻りません。

撮影メニュー項目	初期設定
画質モード	NORMAL
画像サイズ	サイズL
ホワイトバランス	オート
ホワイトバランス微調整	解除

撮影メニュー項目	初期設定
ピクチャーコントロールの調整値	解除※
ISO感度	200

※ 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

関連ページ

「初期設定一覧」（□415）

1つの画像に重ねて写し込む（多重露出撮影）

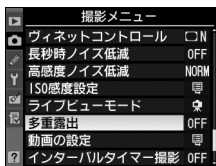
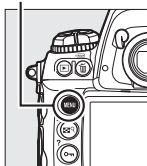
多重露出撮影は2～10コマまで重ねて写し込み、1つの画像として記録します。多重露出は全ての画質モードで撮影できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

■ 多重露出の撮影方法

多重露出撮影中に、何も操作しないで30秒経過すると、カメラが待機状態に入り、撮影は中断して、撮影した画像を記録します。

1 撮影メニューの［多重露出］を選ぶ

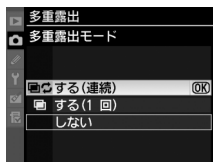
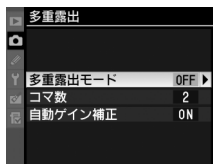
- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**多重露出**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

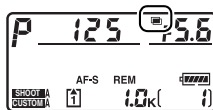
MENUボタン

撮影間隔が長くなる場合について

撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニューc2［**半押しタイマー**］（□319）を長めに設定することをおすすめします。カメラが待機状態に入るまでの時間が、c2で設定した時間に30秒を加えたものに延長されます。

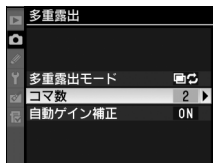
2 ［多重露出モード］を設定する

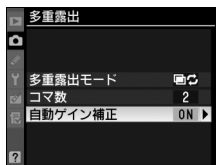
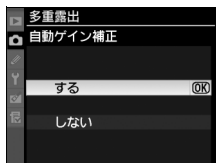
- ［**多重露出モード**］を選んで、▶を押します。

- ▲または▼を押して多重露出モードを設定し、Ⓞボタンを押します。

する（連続）	同じ設定で続けて多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度［**多重露出モード**］を選んで［**しない**］を選択してください。
する（1回）	多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。
しない	多重露出撮影を解除します。

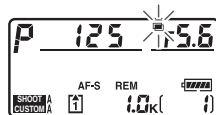
- ［**する（連続）**］または［**する（1回）**］を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、上面表示パネルに▣マークが点灯します。

3 ［コマ数］（露光回数）を設定する

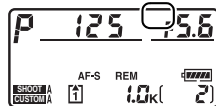
- ［**コマ数**］を選んで、▶を押します。

- ▲または▼を押して露光回数を設定し、Ⓞボタンを押します。

4 ［自動ゲイン補正］を設定する

- ［**自動ゲイン補正**］を選んで、▶を押します。

- 自動ゲイン補正の設定後、㉿ボタンを押します。

する	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。ただし、背景が暗いときは［**しない**］にすることをおすすめします。 • 各コマのゲインは、「1÷露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。
しない	ゲインを補正せず、全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。

5 1回目の撮影をする

- 撮影を始めると、▣マークが点滅します。

6 2回目以降の撮影をする

- 多重露出モードが［**する（1回）**］の場合、設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、▣マークが消灯します。［**する（連続）**］の場合は、多重露出モードで［**しない**］を選ぶまで、引き続き多重露出撮影できます。

BKTボタンとコマンドダイヤルで多重露出モードとコマ数を設定する

カスタムメニューf7［**BKTボタンの機能**］（□341）を［**多重露出**］に設定すると、**BKT**ボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の［**多重露出モード**］と手順3の［**コマ数**］を設定できます。

- **BKT**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、上面表示パネルの多重露出アイコンを［**しない**］（アイコンなし）、■［**する（1回）**］、■L［**する（連続）**］に切り換えられます。

- **BKT**ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、上面表示パネルのコマ数が切り替わります。

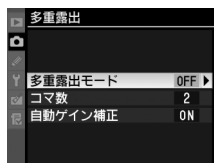
多重露出撮影時のご注意

- 1回の多重露出で複数のコマに音声メモを録音した場合、最後に録音された音声メモのみ記録されます。
- 多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で液晶モニターを点灯した場合、液晶モニターが消灯してから操作のないまま30秒が経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。
- 多重露出撮影中は、ライブビュー撮影ができません（□431）。
- 多重露出モードを［**する（連続）**］または［**する（1回）**］に設定していても、ライブビュー表示にすると［**しない**］になります。
- 多重露出による撮影中は、メモリーカードを交換しないでください。
- レリーズモード（□108）を**CL**または**CH**に設定して撮影する場合、多重露出モードが［**する（1回）**］のときは、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数の撮影後、多重露出撮影を解除します。［**する（連続）**］のときは、シャッターボタンを押し続けている間、多重露出で設定された撮影コマ数で多重露出撮影を繰り返します。
- 多重露出の撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、1コマ目の内容になります。

多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- 多重露出を設定してから 1 コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影（□216）を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影ができます。この場合、[**インターバルタイマー撮影**] で設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、[**多重露出**] で設定されたコマ数の撮影が終了すると、インターバルタイマー撮影を解除します。多重露出が [**する（1回）**] の場合は、多重露出も解除されます。
- 多重露出を途中で解除した場合は、インターバルタイマー撮影も解除されます。
- インターバルタイマー撮影の撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニューc2 [**半押しタイマー**]（□319）を撮影間隔より長く設定することをおすすめします。

■ 多重露出撮影を中断するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を中断するには、多重露出モードを［**しない**］に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（［**自動ゲイン補正**］を［**する**］にしていたときは、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。

このほか、次の場合も、多重露出は中断されます。

- ツーボタンリセット（🕮208）を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき

多重露出撮影時に利用できない機能について

多重露出撮影中はメモリーカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選択できません。

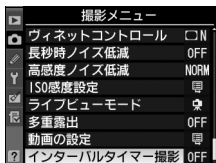
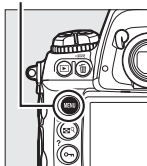
設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）

このカメラは、設定した開始方法（即時または設定時刻）と撮影間隔で自動的に撮影を行う、インターバルタイマー撮影が可能です。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です。インターバルタイマー撮影は、レリーズモードを**S**、**CL**、**CH**または**Q**に設定して撮影してください。

■ インターバルタイマー撮影の開始

1 撮影メニューの［インターバルタイマー撮影］を選ぶ

MENUボタン

- **MENU**ボタンを押して、撮影メニューの［**インターバルタイマー撮影**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。［インターバルタイマー撮影］画面が表示されます。

2 ［開始トリガー］（開始方法）を設定する

- **すぐに撮影する場合、［即時スタート］**を選んで▶を押します（手順4へ）。
- **開始時間を決めて撮影する場合、［開始時刻設定］**を選んで▶を押します（手順3へ）。

3 ［開始時刻］を設定する

- ◀または▶を押して時、分を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- ［**開始トリガー**］で［**即時スタート**］を選んだ場合、この画面は表示されません。

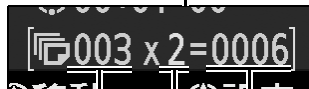
4 ［撮影間隔］（インターバル）を設定する

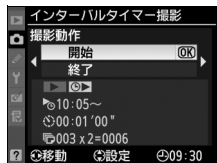
- ◀または▶を押して時間、分、秒を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

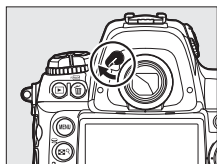
インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをすることをおすすめします。特にフォーカスモードが**S**で撮影する場合、被写体にピントが合わないと、その回の撮影がキャンセルされますのでご注意ください。
- あらかじめセットアップメニューの［**地域と日時**］（🕮34）で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーをお使いください。

5 ［撮影回数×コマ数］を設定する

- ◀または▶を押して撮影回数と1回のコマ数を1桁ずつ選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。

6 インターバルタイマー撮影を開始する

- ［**開始**］を選んで㊍ボタンを押します。［**開始トリガー**］で［**即時スタート**］を選んだ場合は、約3秒後に撮影を開始します。［**開始時刻設定**］を選んだ場合は、設定した時刻に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。
- 設定のみを行いたいときは、［**終了**］を選んで㊍ボタンを押すと、撮影メニューに戻ります。

ファインダーから顔を離して撮影するときは

ライブビューやセルフタイマー、インターバルタイマー撮影時など、ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。

インターバルタイマー撮影についてのご注意

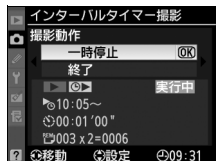
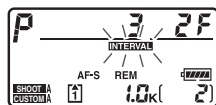
- 実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 設定した［**開始時刻**］が現在時刻後1分以内の場合や、シャッタースピードがbulb（バルブ）の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- メモリーカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるメモリーカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください（□220）。

オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時にAE･フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティングまたはADLブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時にWBブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。

インターバルタイマー撮影の待機状態について

インターバルタイマー撮影の待機状態では、上面表示パネルに INTERVAL マークが点滅します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。

- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。
- 撮影メニューから［**インターバルタイマー撮影**］を選ぶと、液晶モニターのインターバル設定画面に撮影動作、開始時刻、撮影間隔、残りの撮影回数と撮影コマ数が表示されます。ただし、［**撮影動作**］（次ページ参照）以外の設定変更はできません。

■ インターバルタイマー撮影の一時停止と再開

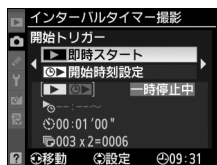
次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。

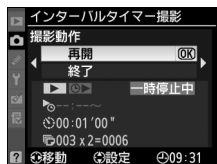
- 撮影待機中に㊋ボタンを押したとき
- ［**撮影動作**］で［**一時停止**］を選んで、㊋ボタンを押したとき
- 電源をOFFにして、再度ONにしたとき（電源がOFFの間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します。）
- レリーズモードを🕒またはMUPに切り換えたとき
- LVボタンを押したとき

インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

1 ［開始トリガー］（**□216****）を設定する**

- ［**開始トリガー**］を選んですぐに撮影する場合は［**即時スタート**］を、開始時刻を設定する場合は［**開始時刻設定**］を選んで▶を押します。

- ［**開始時刻設定**］を選んだときは、開始時刻を設定します。

2 インターバルタイマー撮影を再開する

- ［**再開**］を選んで㊋ボタンを押すと撮影を再開します。
- 撮影途中の回で停止状態になった場合、その回の残りのコマはキャンセルされます。再開した場合は、次の回の1コマ目から撮影されます。

インターバルタイマー撮影の終了

次の場合はインターバルタイマー撮影が終了します。

- ［**撮影動作**］で［**終了**］を選び、㊙ボタンを押したとき
- ツーボタンリセット（□208）を行ったとき
- ［**撮影メニューのリセット**］（□297）を［**する**］にしたとき
- オートブラケティング（□141）を設定、または解除したとき
- バッテリーの残量がなくなったとき

インターバルタイマー撮影終了後は通常の撮影待機状態に戻ります。

撮影のキャンセル

前の回から設定撮影間隔が経過し、次の回の撮影開始時刻になったときに次の状態にある場合は、その回の撮影を全コマキャンセルします。撮影はその次の回から再開します。

- 前の回のコマを撮影中
- 連続撮影可能コマ数が0のとき
- メモリーカードに空きがないとき
- フォーカスモードが**S**で、被写体にピントが合わないとき（撮影ごとにピントを合わせます。）

レリーズモードについて

- レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。
- **CH**では9コマ/秒（撮像範囲が［**DX (24×16) 1.5×**］のときはカスタムメニューd2［**連続撮影速度**］の［**高速連続撮影**］（□322）で設定された速度）、**S**または**CL**ではカスタムメニューd2［**連続撮影速度**］の［**低速連続撮影**］（□322）で設定された速度で、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数を撮影します。
- **Q**の場合、撮影時の動作音を抑えて撮影します。

インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像を再生することができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に液晶モニターを消灯して、撮影に入ります。

撮影メニューの切り換えとリセットについて

インターバルタイマー撮影設定画面の内容は、全ての撮影メニュー（「A」～「D」）（🕮295）で共通です。このため、撮影メニューの［**撮影メニュー切り換え**］で撮影メニューを切り換えても、インターバルタイマー撮影は続行します。また、［**撮影メニューのリセット**］を選ぶと、確認画面が表示されます。

- ［**はい**］を選ぶと、全ての撮影メニューでインターバルタイマー撮影設定が初期状態（開始トリガー：即時スタート、撮影間隔：1分、設定：1回/1コマ、撮影動作：開始しない）にリセットされ、実行中のインターバルタイマー撮影は終了します。
- ［**いいえ**］を選ぶと、撮影メニューのリセットは行われず、インターバルタイマー撮影は続行します。

非CPUレンズを使う
（レンズ情報手動設定）

レンズの情報をカメラに登録することにより、非CPUレンズを使って撮影するときに、次の機能が使用できます。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
  - 別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600のオートパワーズーム
  - 再生画面での焦点距離表示（焦点距離に＊印が付きます）
- **開放絞り値（開放F値）を設定して使用できる機能：**
  - レンズで設定した絞り値表示（上面表示パネル、ファインダー内下表示）
  - スピードライトの絞り連動外部自動調光
  - 再生画面での絞り値表示（絞り値に＊印が付きます）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
  - RGB マルチパターン測光※

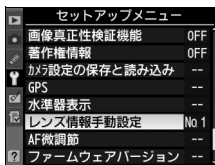
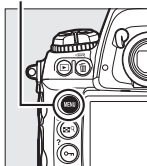
  ※ レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では充分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光に設定して撮影してください。
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
  - 中央部重点測光
  - スポット測光
  - i-TTL調光

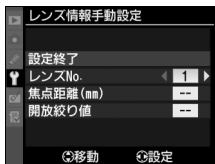
ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

▌レンズ情報の登録方法

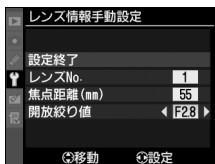
1 セットアップメニューの［レンズ情報手動設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

2 ［レンズNo.］を選ぶ

- ◀または▶を押して、登録したいレンズNo.（1～9）を選びます。

3 ［焦点距離（mm）］を選ぶ

- ◀または▶を押して、レンズの焦点距離（6～4000）を選びます。

4 ［開放絞り値］を選ぶ

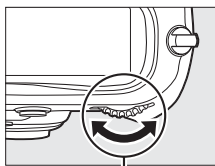
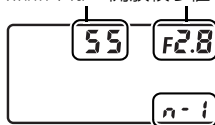
- ◀または▶を押して、レンズの開放絞り値（F1.2～F22）を選びます。

5 設定を終了する

- ［**設定終了**］を選んで㊉ボタンを押します。
- レンズの設定が保存されて、セットアップメニュー画面に戻ります。

■手動設定済みレンズ情報の選択方法

1 カスタムメニュー f4［Fnボタンの機能］（□336）の［コマンドダイヤル併用時の動作］を［手動設定済みレンズの選択］に設定する

- **Fn**ボタンとメインコマンドダイヤルの組み合わせに対して、レンズの選択機能が割り当てられます。

2 Fnボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回す

- レンズNo.は上面表示パネルに表示されます。使用したいレンズの番号が表示されるまでメインコマンドダイヤルを回します。

ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、もう一度レンズ情報を設定してください。

関連ページ

- プレビューボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える → f5［**プレビューボタンの機能**］（□339）
- AE/AFロックボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□340）

GPSデータを画像に記録する

このカメラは、10ピンターミナル（□4）に接続したGPS機器により、GPSデータを画像に記録することができます。GPSデータを記録するには、次の2つの方法があります。

- **別売のGPSユニットGP-1と接続する**
  GP-1を接続すると、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。
- **他社製のGPS機器と接続する（□227）**
  別売のGPS変換コードMC-35を介してGPS機器と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）、撮影方位を記録できます。

■ 別売のGPSユニットGP-1と接続する

別売のGPSユニットGP-1は、ニコンデジタルカメラ専用のGPS機器です。カメラとGP-1の接続方法については、GP-1の使用説明書をご覧ください。

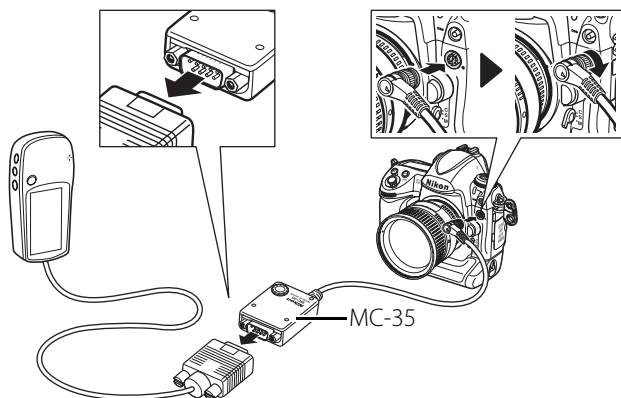
■■ 他社製のGPS機器と接続する

- データ形式がNMEA（National Marine Electronics Association）0183 ver.2.01およびver.3.01を満たすGPS機器※ と接続が可能です。

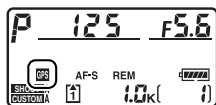
  ※ GARMIN社製:「eTrex」シリーズ、「geko」シリーズなど（PC-Interface Cableが接続可能な機種）

  対応するGPS機器の最新情報については、下記アドレスのホームページでご覧いただけます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/

- GPS変換コードMC-35は、GPS機器メーカーのPCケーブル（D-sub9ピンタイプ）に接続します。詳しくはMC-35の使用説明書をご覧ください。

GPS機器との通信について

- GPS機器の通信形式を、NMEAに設定してください（Baud rateは4800です）。
- GPS機器の使用方法については、GPS機器の使用説明書をご覧ください。
- GPS機器との通信が開始されると、上面表示パネルにGPS通信マークGPSが表示されます。GPS通信マークGPSが点灯しているときに撮影すると、画像にGPSデータが記録されます。GPS機器の電源を入れた直後など、GPS通信マークGPSが点滅する場合は、GPS機器が取得している情報が確定していないため、GPSデータは記録されません。GPS通信マークGPSが点灯するまでお待ちください。

- GPS機器との通信が2秒以上途絶えると、上面表示パネルからGPS通信マークGPSが消灯します。この状態で撮影した画像データにはGPSデータは記録されません。
- GPS機器と通信して撮影した画像には、再生時の画像情報にGPSデータのページ（🕮243）が追加されます。

GPS機器接続時のカメラの設定について

セットアップメニューの［**GPS**］で、GPS機器と接続時の半押しタイマー、取得したGPSデータの表示、GPSによる日時合わせを設定できます。

- ［**半押しタイマー**］では、カメラとGPS機器を接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

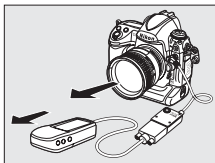
有効	カメラを操作していないときは、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］で設定された時間でオフになります。 • カメラの電池の消耗を少なくすることができます。 • 電源をONにした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラがGPSデータを取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。
無効	GPS機器と接続中は、半押しタイマーがオフになりません。いつ撮影してもGPSデータを記録できます。

- ［**情報表示**］では、GPS機器接続時に取得した情報を表示します。

緯度	緯度を表示
経度	経度を表示
標高	標高を表示
方位	撮影方位を表示
UTC	UTC（協定世界時）を表示

- ［**GPSによる日時合わせ**］が［**する**］の場合、GPS機器接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。GPS機器を使用して日時を合わせないときは、［**しない**］を選んでください。

撮影方位について

- 撮影方位は、電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ記録されます。
- GP-1を接続した場合、撮影方位は記録されません。
- 撮影方位を正確に記録したい場合は、カメラからGPS機器を20cm以上離し、撮影する方位にGPS機器の向きを合わせてください。

UTCについて

UTC（Coordinated Universal Time＝協定世界時）は、GPS機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

GPSによる日時合わせについて

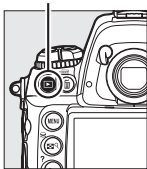
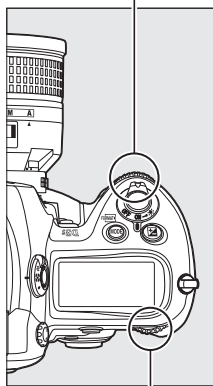
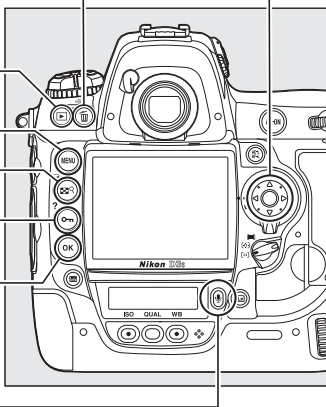
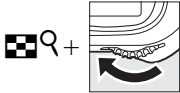
［**GPSによる日時合わせ**］で取得した日時は、セットアップメニューの［**地域と日時**］の［**現在地の設定**］、［**日付の表示順**］、［**夏時間の設定**］の内容で表示、記録されます。

画像の再生

ここでは、撮影した画像を再生する方法や再生中の操作について説明します。

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

▶ボタン

マルチセレクター
サブコマンドダイヤル
🗑ボタン
▶ボタン
MENUボタン
⊞Qボタン
O-nボタン
OKボタン
🎤ボタン
メインコマンドダイヤル

縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの［**縦位置自動回転**］（□291）を［**する**］に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。

1コマ表示モードでの操作方法

前後の画像を見る		◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の表示		表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（□235）。
複数画像を一覧表示する	+	サムネイル表示モード（□245）に切り替わります。
画像を拡大する	+	表示中の画像を拡大表示します（□247）。
画像を削除する		表示中の画像を削除します（□250）。
音声メモを録音する/再生する		選択中の画像に音声メモを録音/再生します（□259）。
画像を保護する		表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（□249）。
メモリーカードのスロット/フォルダーを切り換える	+	［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示され、画像を表示するスロット/フォルダーを切り換えられます（□234）。
撮影に戻る	/	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□283）。
動画を再生する		🎥マークが表示されている画像の場合、動画を再生します（□75）。
動画編集メニューを表示する	OK	🎥マークが表示されている画像の場合、動画編集メニュー（□77）が表示されます。

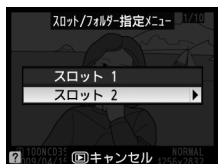
撮影直後の画像確認について

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（□291）を［**する**］に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。

- レリーズモードが**S**、**Q**、ꀀ、**MUP**のときは、1コマずつ表示されます。
- レリーズモードが**CH**や**CL**のときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの［**縦位置自動回転**］（□291）を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

メモリーカードスロットの切り換えについて

1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードで⊠ボタンを押しながらマルチセレクターの▲を押すと、右のような［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示されます。

- スロットを選んでマルチセレクターの▶を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んで㊋ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
- すでに撮影した画像のホワイトバランスデータをコピーするとき（□170）や、再生メニュー（□284）または画像編集メニュー（□363）で画像を選択するときも、同様の操作でスロットを切り換えられます。

関連ページ

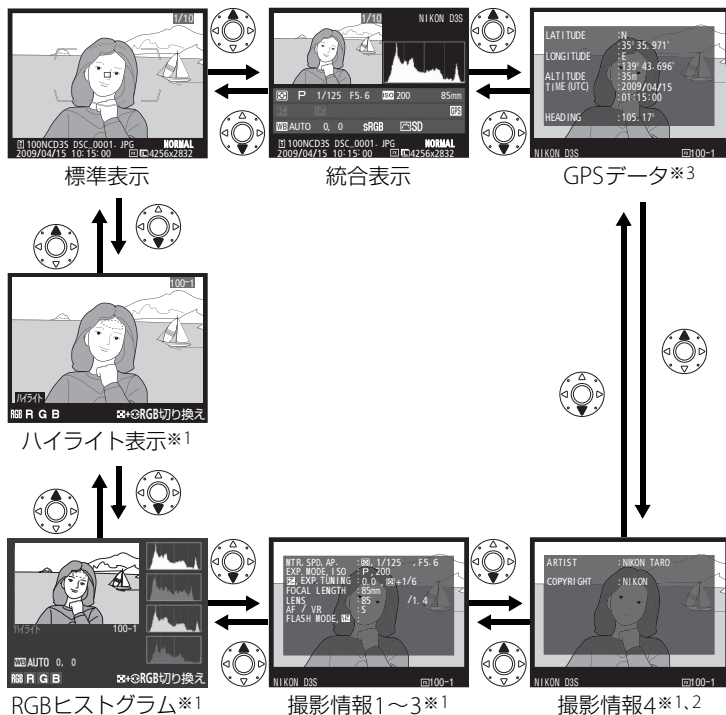
- 液晶モニターの表示時間を変更する → ✎ c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（□320）
- マルチセレクターの▲▼◀▶の機能を入れ換える → ✎ f3［**上下左右機能入れ換え**］（□332）

画像情報を表示する

1コマ表示モードでは、マルチセレクターの▲または▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わり、画像についての詳しい情報を見ることができます。

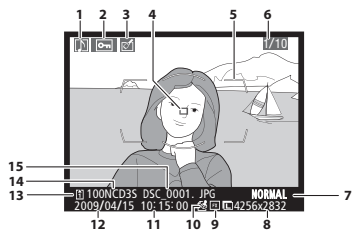
標準表示　統合表示　GPSデータ※3

ハイライト表示※1

RGBヒストグラム※1　撮影情報1～3※1　撮影情報4※1、2

※1　再生メニューの［**再生画面設定**］（□286）で設定している場合のみ表示します。

※2　セットアップメニューの［**著作権情報**］（□357）を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

※3　GPS（□226）を使用して撮影した画像の場合のみ表示します。

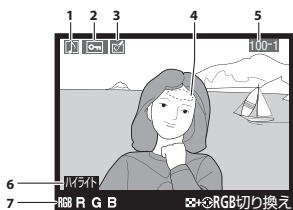
標準表示

1	音声メモの有無............................256
2	プロテクト設定の有無 249
3	画像編集の有無............................363
4	フォーカスポイント※1、2 100
5	AFエリアフレーム※1 43
6	コマ番号/ フォルダー内全画像数
7	画質モード.......................................88
8	画像サイズ.......................................92
9	撮像範囲※3 82
10	画像真正性検証情報の有無.........356
11	撮影時刻...34
12	撮影日付...34
13	スロット番号.......................................37
14	フォルダー名................................298
15	ファイル名....................................301

※1　再生メニューの［**再生画面設定**］（□286）で［**フォーカスポイント**］を設定している場合のみ表示します。

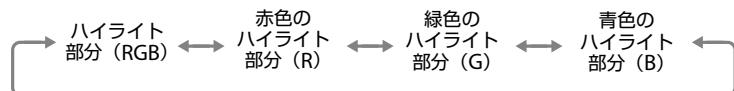
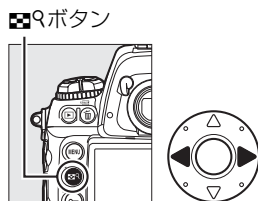
※2　表示されるフォーカスポイントは、撮影時の設定により、次のように異なります。

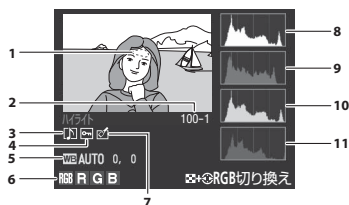
- **フォーカスモードが S の場合、**最初にロックしたフォーカスポイントを赤く表示します。
- **フォーカスモードがCで、AFエリアモード（□98）がシングルポイントAFおよびダイナミックAFモードの場合、**ピントが合ったときはフォーカスポイントを赤く表示し、ピントが合っていないときは表示しません。
- **フォーカスモードがCでオートエリアAF モードの場合、**フォーカスポイントを表示しません。

※3　撮影メニューの［**撮像範囲**］（□82）を［**1.2× (30×20) 1.2×**］、［**DX (24×16) 1.5×**］または［**5:4 (30×24)**］に設定して撮影した画像の場合、黄色で表示します。

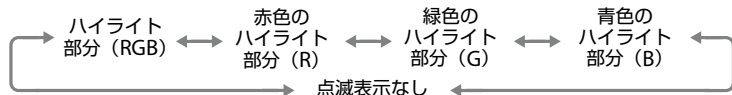
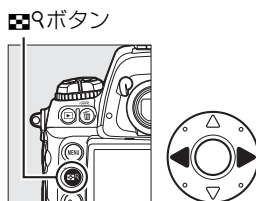
ハイライト表示※1

1	音声メモの有無	256
2	プロテクト設定の有無	249
3	画像編集の有無	363
4	画像のハイライト部分を各色ごとに点滅表示します※2	
5	フォルダー番号-コマ番号※3	298
6	ハイライト表示	286
7	ハイライト部分が点滅表示している色※2	

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□286）で［**ハイライト**］を設定している場合のみ表示します。

※2 ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。

※3 撮影メニューの［**撮像範囲**］（□82）を［**1.2× (30×20) 1.2×**］、［**DX (24×16) 1.5×**］または［**5:4 (30×24)**］に設定して撮影した画像の場合、黄色で表示します。

RGBヒストグラム※1

1 画像のハイライト部分を各色ごとに点滅表示します※2 ...237
2 フォルダー番号-コマ番号※3 298
3 音声メモの有無 256
4 プロテクト設定の有無 249
5 ホワイトバランス 154
ホワイトバランス色温度 161
ホワイトバランス微調整 157
プリセットマニュアル 162
6 ハイライト部分が点滅表示している色※2
7 画像編集の有無 363
8 RGBのヒストグラム
9 赤色（R）のヒストグラム
10 緑色（G）のヒストグラム
11 青色（B）のヒストグラム

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□286）で［**RGBヒストグラム**］を設定している場合のみ表示します。

※2 ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。

※3 撮影メニューの［**撮像範囲**］（□82）を［**1.2× (30×20) 1.2×**］、［**DX (24×16) 1.5×**］または［**5:4 (30×24)**］に設定して撮影した画像の場合、黄色で表示します。

拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で⊞ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを右に回してから⊞ボタンを放すと、拡大領域のRGBヒストグラムを表示します。また、拡大表示中にマルチセレクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。⊞ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを左に回すと画像を縮小表示します。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

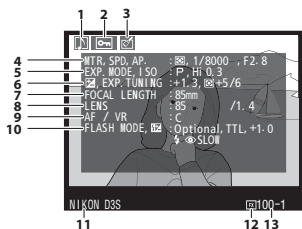
- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。

露出補正を＋側にすれば山が右側に寄り、－側にすれば山が左側に寄ります。

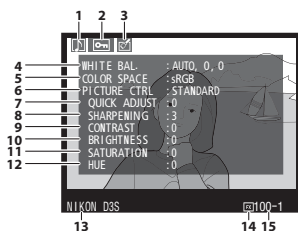
屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

D3Sのヒストグラム表示について

- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- D3Sのヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

撮影情報1※1

1	音声メモの有無 256
2	プロテクト設定の有無 249
3	画像編集の有無 363
4	測光モード ....122 シャッタースピード ....127、130 絞り値 ....128、130
5	露出モード ....124 ISO感度※2 116
6	露出補正値 ....139 基準露出レベルの調節値※3 318
7	焦点距離 ....223、392
8	レンズ情報 223
9	フォーカスモード ....96 レンズのVR（手ブレ補正）機能のON/OFF※4 388
10	フラッシュモード ....201 調光補正量 コマンダーモード※5
11	カメラ名
12	撮像範囲※6 82
13	フォルダー番号-コマ番号※6 298

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□286）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。
※2 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
※3 カスタムメニュー b6［**基準露出レベルの調節**］（□318）を0以外に設定している場合のみ表示します。
※4 VRレンズ装着時のみ表示します。
※5 別売のスピードライト SB-900、SB-800、SB-600 またはリモートスピードライト SB-R200使用時にのみ表示します。
※6 撮影メニューの［**撮像範囲**］（□82）を［**1.2×(30×20) 1.2×**］、［**DX (24×16) 1.5×**］または［**5:4 (30×24)**］に設定して撮影した画像の場合、黄色で表示します。

■■ 撮影情報2※1

1	音声メモの有無 256
2	プロテクト設定の有無..........249
3	画像編集の有無 363
4	ホワイトバランス ....154 ホワイトバランス色温度..........161 ホワイトバランス微調整..........157 プリセットマニュアル..........162
5	色空間 189
6	ピクチャーコントロール 176
7	クイック調整※2 ....179 元になった ピクチャーコントロール※3 176
8	輪郭強調..........179
9	コントラスト..........179
10	明るさ 179
11	色の濃さ（彩度）※4 ....179 フィルター効果※5 179
12	色合い（色相）※4 ....179 調色※5 179
13	カメラ名
14	撮像範囲※6 82
15	フォルダー番号-コマ番号※6 298

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□286）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。

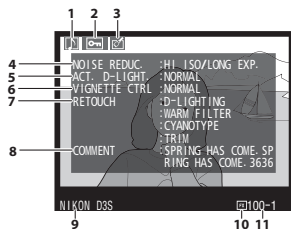
※2 ［**スタンダード**］、［**ビビッド**］のとき表示します。

※3 ［**ニュートラル**］、［**モノクローム**］、カスタムピクチャーコントロールのとき表示します。

※4 ［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合、表示しません。

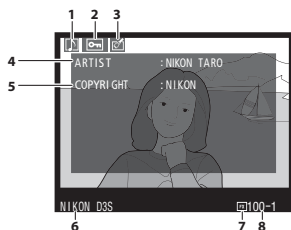
※5 ［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示します。

※6 撮影メニューの［**撮像範囲**］（□82）を［**1.2× (30×20) 1.2×**］、［**DX (24×16) 1.5×**］または［**5:4 (30×24)**］に設定して撮影した画像の場合、黄色で表示します。

撮影情報3※1

1	音声メモの有無……256
2	プロテクト設定の有無……249
3	画像編集の有無……363
4	高感度ノイズ低減……303 長秒時ノイズ低減……303
5	アクティブD-ライティング……187
6	ヴィネットコントロール……302
7	画像編集メニュー（□363）で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
8	画像コメント……353
9	カメラ名
10	撮像範囲※2……82
11	フォルダー番号-コマ番号※2……298

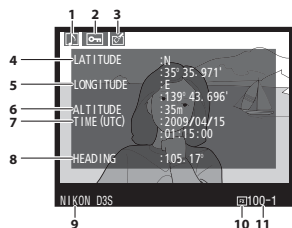
※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□286）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。

※2 撮影メニューの［**撮像範囲**］（□82）を［**1.2×（30×20）1.2×**］、［**DX（24×16）1.5×**］または［**5:4（30×24）**］に設定して撮影した画像の場合、黄色で表示します。

撮影情報4※1

1	音声メモの有無……256
2	プロテクト設定の有無……249
3	画像編集の有無……363
4	撮影者名……357
5	著作権者名……357
6	カメラ名
7	撮像範囲※2……82
8	フォルダー番号-コマ番号※2……298

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□286）で［**撮影情報**］を設定していて、セットアップメニューの［**著作権情報**］（□357）を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

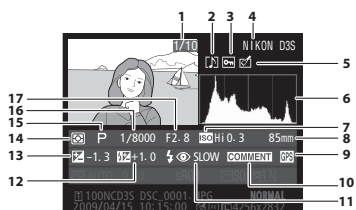
※2 撮影メニューの［**撮像範囲**］（□82）を［**1.2×（30×20）1.2×**］、［**DX（24×16）1.5×**］または［**5:4（30×24）**］に設定して撮影した画像の場合、黄色で表示します。

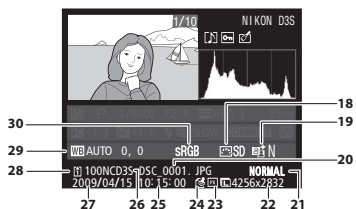
GPSデータ※1

1	音声メモの有無	256
2	プロテクト設定の有無	249
3	画像編集の有無	363
4	緯度	
5	経度	
6	標高	
7	UTC（協定世界時）	
8	撮影方位※2	
9	カメラ名	
10	撮像範囲※3	82
11	フォルダー番号-コマ番号※3	298

※1 GPS（226）を使用して撮影した画像の場合のみ表示します。

※2 電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ表示します。

※3 撮影メニューの［**撮像範囲**］（82）を［**1.2× (30×20) 1.2×**］、［**DX (24×16) 1.5×**］または［**5:4 (30×24)**］に設定して撮影した画像の場合、黄色で表示します。

統合表示

1	コマ番号/ フォルダー内全画像数
2	音声メモの有無 256
3	プロテクト設定の有無................249
4	カメラ名
5	画像編集の有無 363
6	画像のヒストグラムを表示します（239）。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を表します。
7	ISO感度※1 116
8	焦点距離............223、392
9	GPSデータの有無 226
10	画像コメントの有無 353
11	フラッシュモード............201
12	調光補正量
13	露出補正値............139
14	測光モード............122
15	露出モード............124
16	シャッタースピード......... 127、130
17	絞り値 .... 128、130

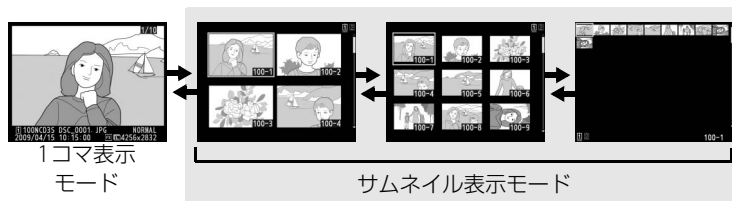
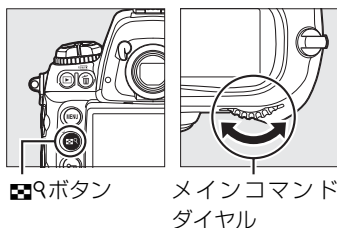
※1　感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

18	ピクチャーコントロール※2............176
19	アクティブD-ライティングの強度 188
20	ファイル名............301
21	画質モード............88
22	画像サイズ............92
23	撮像範囲※3 82
24	画像真正性検証情報の有無.........356
25	撮影時刻............34
26	フォルダー名............298
27	撮影日付............34
28	スロット番号............94
29	ホワイトバランス............154 ホワイトバランス色温度 ....161 ホワイトバランス微調整 ....157 プリセットマニュアル 162
30	色空間 189

※2　撮影時に使用したオプションピクチャーコントロール（186）が、その後削除などを行ったことにより、再生時にカメラに登録されていない場合は、「--」と表示されます。

※3　撮影メニューの［**撮像範囲**］（82）を［**1.2×(30×20) 1.2×**］、［**DX (24×16) 1.5×**］または［**5:4 (30×24)**］に設定して撮影した画像の場合、黄色で表示します。

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）

1コマ表示モードのときに⊞ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを左方向に回すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

⊞ボタン

メインコマンドダイヤル

サムネイル表示モードでの操作方法

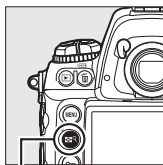
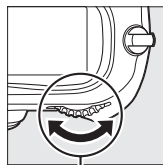
表示コマ数を増やす		⊞ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを左方向に回すと、表示コマ数（1コマ/4コマ/9コマ/72コマ）が切り替わります。
表示コマ数を減らす		⊞ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを右方向に回すと、72コマ表示のときは9コマ表示に、9コマ表示のときは4コマ表示に、4コマ表示のときは1コマ表示に切り替わります。
サムネイル表示と1コマ表示を切り換える		サムネイル表示で**中央**ボタンを押すと、1コマ表示画面に戻ります。もう一度**中央**ボタンを押すと、直前に表示していたコマ数でサムネイル表示します。

画像を選ぶ		マルチセレクターを操作すると、黄色の枠（カーソル）が動いて、拡大表示（□247）や削除（□250）の対象となる画像を選べます。
ページ送りする	＋	ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、設定されたコマ数（4コマ/9コマ/72コマ）単位でページ送りされます。
画像を削除する		選んだ画像を削除します（□250）。
音声メモを録音する/再生する		選んだ画像に音声メモを録音/再生します（□259）。
画像を保護する		選んだ画像にプロテクト（保護）を設定します（□249）。
メモリーカードのスロット/フォルダーを切り換える	＋	［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示され、画像を表示するスロット/フォルダーを切り換えられます（□234）。
撮影に戻る	/	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□283）。

関連ページ

マルチセレクターの**中央**ボタンの機能を変更する → f1［**中央ボタンの機能**］（□330）

画像を拡大表示する

1コマ表示モードのときに⊠Qボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを右方向に回すと、画像サイズが**L**のときは最大約27倍、**M**のときは約20倍、**S**のときは約13倍まで拡大表示できます（撮像範囲が［**FX (36×24) 1.0×**］の場合）。

⊠Qボタン

メインコマンドダイヤル

拡大表示中の操作方法

拡大率を上げる	⊠Q＋	• ⊠Qボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを右方向に回すと、黄色い拡大エリア選択枠が表示されます。そのままメインコマンドダイヤルを回すと、拡大エリア選択枠の大きさが変わります。 • ⊠Qボタンから指を放すと、拡大エリア選択枠内の部分が拡大表示されます。
拡大率を下げる	⊠Q＋	
拡大エリアを選ぶ	⊠Q＋	⊠Qボタンを押しながらマルチセレクターを操作して、拡大エリア選択枠を動かすと、画像の拡大したい部分を選べます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。
前後の画像を見る		メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の画像を表示します。

画像を保護する	O┳	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（□249）。
撮影に戻る	/ ▶	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□283）。

画像を保護する（プロテクト）

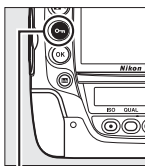
大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、メモリーカードを初期化（フォーマット：□41、347）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。

- サムネイル表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセレクターで選びます。

2 O‑n ボタンを押す

- 🔑アイコン が表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、O‑n ボタンを押します。

O‑n ボタン

音声メモ付き画像のプロテクトについて

音声メモが録音された画像にプロテクトをかけると、画像と音声メモの両方にプロテクトがかかります。個別に設定することはできません。

プロテクトの一括解除について

O‑n ボタンと🗑ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像を削除する

メモリーカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。

表示中の画像を削除する

🗑ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

1　削除する画像を選ぶ

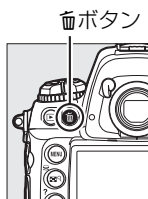
- 1コマ表示モードのときは、削除する画像を表示します。
- サムネイル表示モードのときは、削除する画像を選択します。

2　🗑ボタンを押す

- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。

🗑ボタン　　1コマ表示モード　　サムネイル表示モード

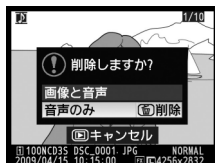
3　もう一度🗑ボタンを押すと、表示中の画像が削除されます

🗑ボタン

✔ 削除についてのご注意

プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。

✓ 音声メモ付き画像の削除について（□261）

音声メモ付きの画像を削除する場合は、🗑ボタンを押すと右のような削除確認画面が表示されます。

- ［**画像と音声**］を選択して🗑ボタンを押すと、表示中の画像と音声メモを削除します。
- ［**音声のみ**］を選択して🗑ボタンを押すと、音声メモのみを削除します。
- 削除確認画面の表示中に▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルして、再生画面に戻ります。

関連ページ

- 複数の画像をまとめて削除する → ▶［**削除**］（□252）
- 画像の削除後に表示される画像を変更する → ▶［**削除後の次再生画像**］（□291）

複数の画像をまとめて削除する

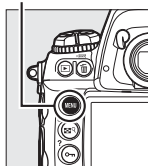
再生メニューの［**削除**］では、複数の画像を一括して削除できます。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

選択画像削除	選択した画像を削除します。
ALL **全画像削除**	［**再生フォルダー設定**］（284）で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。 • メモリーカードを2枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。

選択画像削除

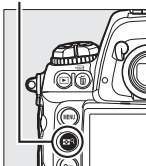
1 再生メニューの［削除］で［選択画像削除］を選ぶ

MENUボタン

- MENUボタンを押して再生メニューの［**削除**］で［**選択画像削除**］を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、削除画像の選択画面が表示されます。

2 削除する画像を選ぶ

- マルチセレクターを▲▼◀▶、ななめ方向に押して画像を選びます。
- ボタンを押しながらマルチセレクターの▲を押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示されます（234）。

- ⊠ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

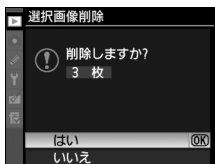
⊠ボタン

3 設定する

- マルチセレクターの**中央**ボタンを押して設定します。設定すると🗑が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、🗑が消えます。

- 削除する画像全てに設定してください。

4 設定を完了する

- ⓞボタンを押して、設定を終了します。

- 確認画面で［**はい**］を選んでⓞボタンを押すと、選択した画像が全て削除されます。

☑ 再生メニュー［削除］についてのご注意

音声メモ付き画像を削除する場合、音声メモも同時に削除されます。

音声メモ機能

ここでは、撮影した画像に音声を録音したり、録音した音声を再生したりできる音声メモ機能について説明します。

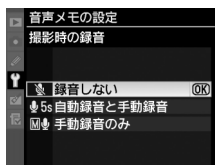
音声メモを録音する

撮影した画像に、最長で約60秒の音声メモを録音できます。

音声メモに関する設定を行う

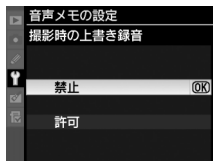
音声メモを録音する前に、セットアップメニューの［**音声メモの設定**］で［**撮影時の録音**］（□256）、［**撮影時の上書き録音**］（□257）、［**音声ボタンの操作**］（□257）を設定します。

■ 撮影時の録音

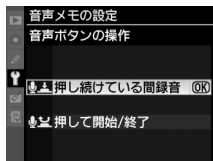
画像を撮影するたびに音声メモを自動的に録音するか、手動で録音するかを設定できます。

録音しない	撮影時には、音声メモを録音できません。
5s 自動録音と手動録音	撮影直後に音声メモを自動的に録音します（□258）。 • ［**自動録音と手動録音**］を選ぶと、右の画面が表示されます。録音時間を［**5秒**］、［**10秒**］、［**20秒**］、［**30秒**］、［**45秒**］、［**60秒**］から選びます。ただし、再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］を［**する**］に設定している場合（□291）は、自動録音しません。
M 手動録音のみ	最後に撮影した画像に対して音声メモを手動で録音します（□258）。

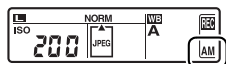
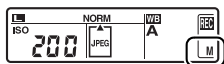
撮影時の上書き録音

撮影時に、すでに音声メモが録音されている画像に対して、音声メモを上書き録音できるように設定できます。

禁止	すでに音声メモが録音されている画像に上書き録音はできません。
許可	最後に撮影された画像に音声メモが録音されていても、音声メモを手動で上書き録音できます（□258）。

音声ボタンの操作

音声メモ録音時の🎙ボタンの操作方法について設定します。

押し続けている間録音	🎙ボタンを押し続けている間のみ録音します（最長約60秒）。
押して開始/終了	🎙ボタンを押して録音を開始し、もう一度押すか、約60秒経過すると録音を終了します。

撮影時の録音設定表示について

［**撮影時の録音**］が［**自動録音と手動録音**］または［**手動録音のみ**］に設定されている場合、背面表示パネルに設定が表示されます。

自動録音と手動録音

手動録音

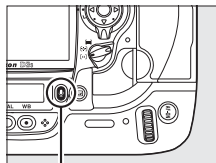
撮影時に自動的に録音する

［**撮影時の録音**］（□256）を［**自動録音と手動録音**］に設定すると、撮影した画像に対して自動的に音声メモを録音します。

- 撮影後にシャッターボタンから指を放すと（半押しを解除すると）、音声メモが自動的に録音されます。
- ボタンを押すか、設定した時間が経過すると、音声メモの録音を終了します。

撮影時に手動で録音する

［**撮影時の録音**］（□256）を［**自動録音と手動録音**］または［**手動録音のみ**］に設定すると、最後に撮影した画像に対して手動で音声メモを録音できます。

- ボタンを押し続けている間（1秒以上）、音声メモが録音されます。

ボタン

撮影直後の画像確認についてのご注意

- 再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（□291）が［**する**］の場合は、自動録音されません。
- 撮影直後の画像確認時は、［**撮影時の録音**］が［**録音しない**］になっていても、再生中の画像に音声を記録することができます。

画像記録モードが［バックアップ記録］または［RAW＋JPEG分割記録］のときの音声メモの録音先について

メモリーカードを2枚使用しており、撮影メニューの［**画像記録モード**］が［**バックアップ記録**］または［**RAW＋JPEG分割記録**］の場合、音声メモはスロット1の画像に記録されます。

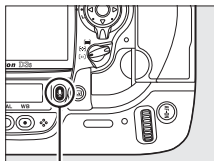
再生時に音声メモを録音する

1 音声メモを録音する画像を選ぶ（□232）

- 画像の再生時は、すでに音声メモが録音されている画像（♪アイコンが表示されている画像）に対して音声メモを録音することができません。音声メモを削除してから録音してください（□261）。

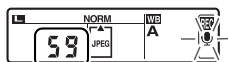
2 🎙ボタンを押し続ける

🎙ボタン

- 🎙ボタンを押し続けている間（1秒以上）、音声メモが録音されます。

音声メモ録音中の表示について

音声メモ録音中は、背面表示パネルで🎙アイコンが点滅し、背面表示パネルに録音可能な残り時間のカウントダウンが秒単位で表示されます。

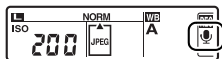
背面表示パネル

音声メモ録音中は、画像上に🎙アイコンが表示されます。

音声メモの録音終了について

次の場合、音声メモの録音が自動的に終了します。

- MENUボタンを押してメニュー画面を表示したとき
- ▶ボタンを押したとき
- シャッターボタンを半押ししたとき
- 電源をOFFにしたとき
- インターバルタイマー撮影中に、撮影時刻の約2秒前になったとき

撮影時、再生時の音声メモ録音後の表示について

最後に撮影された画像に、音声メモが録音されている場合は、背面表示パネルでアイコンが点灯します。

背面表示パネル

音声メモが録音された画像にはアイコンが表示されます。

音声メモのファイル名について

音声メモを録音すると、DSC_nnnn.WAVという名称の音声ファイルが作成されます。nnnnには対応する画像ファイルの名称と同じ数字が入ります。たとえば、DSC_0002.JPGという画像ファイルに音声メモを録音した場合、DSC_0002.WAVという名称の音声ファイルが作成されます。音声ファイル名はパソコンで確認することができます。

- 撮影メニューの［**色空間**］（□189）で［**Adobe RGB**］に設定して撮影した画像の場合、音声ファイル名は_DSCnnnn.WAVになります。
- 撮影メニューの［**ファイル名設定**］（□301）でファイル名の［DSC］の3文字を変更して撮影した画像の場合、音声ファイルの［DSC］の3文字も同様に変更されます。

音声メモを再生する

画像の再生時（□232）に、[♪]アイコンの付いた画像を選んで、🎙ボタンを押すと、音声メモを再生できます。

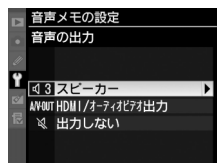
音声メモの再生/終了		🎙ボタンを押すと、音声メモを再生します。もう一度🎙ボタンを押すか、録音内容が終了すると再生を終了します。
音声メモの削除	🗑	🗑ボタンを押すと、右のような削除確認画面が表示されます。 • ［**画像と音声**］を選んで🗑ボタンを押すと、画像と音声メモの両方を削除します。 • ［**音声のみ**］を選んで🗑ボタンを押すと、音声メモだけを削除します。 • 削除確認画面の表示中に▶を押すと、画像の削除をキャンセルして、再生表示画面に戻ります。

音声メモの再生終了について

次の場合、音声メモの再生が自動的に終了します。

- MENUボタンを押してメニュー画面を表示したとき
- ▶ ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しして液晶モニターが消灯したとき
- 電源をOFFにしたとき
- 他の画像を選んだとき

再生方法と音量の設定について

セットアップメニュー［**音声メモの設定**］の［**音声の出力**］では、音声の出力方法を設定できます。

<table>
<tr><td>スピーカー</td><td>カメラ本体に内蔵のスピーカーで音声メモを再生します。［スピーカー］を選ぶと、右の画面が表示されます。
• マルチセレクターの ▲ または▼を押して、音量を［1］～［5］から選びます。
• 選択した音量でサンプル音が鳴ります。数値が大きくなるほどサンプル音も大きくなります。
• Ⓞボタンを押すと設定を終了します。</td></tr>
<tr><td>A/V-OUT HDMI/オーディオビデオ出力</td><td>HDMI機器またはオーディオビデオ機器から、音声メモを一定音量で出力します。</td></tr>
<tr><td>出力しない</td><td>ボタンを押しても、音声を出力しません。音声メモが録音されている画像には、アイコンが表示されます。</td></tr>
</table>

パソコン、プリンター、テレビとの接続

ここでは、D3Sで撮影した画像をパソコンに転送したり、プリンターでプリントしたり、テレビで再生する方法について説明します。

画像をパソコンに転送する

このカメラでは、付属のUSBケーブルUC-E4をカメラに接続して、撮影した画像をパソコンに転送できます。ここでは、転送時に必要な操作について説明します。

- 最初に付属のSoftware Suite（ソフトウェア スイート）CD-ROMから、ソフトウェアをパソコンにインストールしてください。Software Suiteをインストールすると、USBケーブルを使ってカメラとパソコンを接続したときにNikon Transferが起動して、撮影した画像をパソコンに転送することができます。詳しい使い方は、それぞれのソフトウェアのヘルプをご覧ください。
  - Nikon Transfer：撮影した画像をカメラからパソコンに転送するためのソフトウェアです。バックアップの保存や著作権情報などの画像への埋め込みなどができます。
  - ViewNX：パソコンに転送した画像を表示するためのソフトウェアです。表示した画像の整理や調整、RAW画像の現像、ファイル形式の変換などができます。
- ソフトウェアの動作環境やインストール手順は、付属のソフトウェアインストールガイドをご覧ください。
- カメラとパソコンを接続するときは、フル充電されたバッテリーまたは別売のACアダプター EH-6をお使いになることをおすすめします。

■ 対応OSについて

付属のソフトウェアは、次のパソコンのOS（オペレーティングシステム）に対応しています。

Windows

Windows Vista Service Pack 2（Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate）※、Windows XP Service Pack 3（Home Edition/ Professional）

※64bit版Windows Vista用で使用する場合、32bit互換環境での動作になります。

Macintosh

Mac OS X（version 10.3.9、10.4.11、10.5.7）

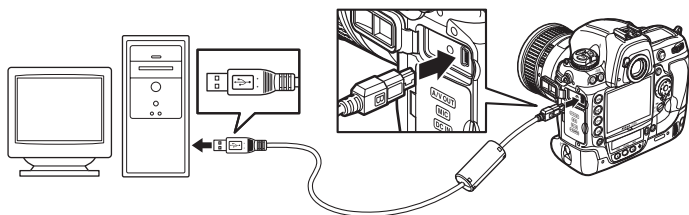
※対応 OS に関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報（🕮xxv）でご確認ください。

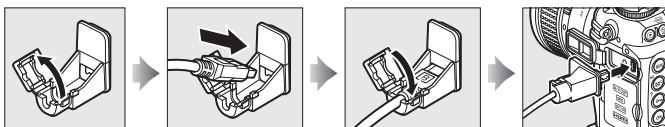
USB接続でパソコンに画像を転送する

付属のUSBケーブルUC-E4を使ってカメラとパソコンを接続します。カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。

1　カメラの電源をOFFにする

2　パソコンを起動する

3　カメラとパソコンを接続する

USBケーブルクリップについて

付属のUSBケーブルクリップを取り付けると、カメラからUSBケーブルが不用意に外れることを防ぐことができます。

USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

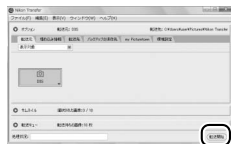
端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

4 カメラの電源をONにする

5 画像を転送する

[**転送開始**]ボタン

- Nikon Transferが自動的に起動しますので、[**転送開始**]ボタンをクリックして画像を転送してください。
- Nikon Transferの使い方については、Nikon Transferのヘルプ をご覧ください。ヘルプは、Nikon Transferを起動し、メニューバーの[**ヘルプ**]メニューから[**Nikon Transfer ヘルプ**]を選んで表示してください。

6 転送が終わったら、カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜く

- 転送が終わると、Nikon Transferは自動的に終了します。

ワイヤレストランスミッター WT-4を使って無線でパソコンに画像を転送する

別売のワイヤレストランスミッター WT-4（□394）をカメラと接続して使うことにより、画像の転送や印刷を無線で行えます。また、イーサネットケーブルを接続することにより、有線でも同様の操作が可能です。

WT-4には次の4つの機能があります。

画像送信	メモリーカードに記録した画像や、撮影直後の画像をパソコンやFTPサーバーに保存できます。
サムネイルセレクトモード	撮影した画像をパソコン画面で確認しながら、必要な画像だけを選んでパソコンに保存できます。
PCモード	別売のCamera Control Pro 2で、カメラをコントロールしたり、撮影した画像をパソコンに保存できます。
プリンター接続	メモリーカード内のJPEG画像を送信して、パソコンに接続しているプリンターでプリントできます。

- WT-4の使用方法などについては、WT-4の使用説明書をご覧ください。
- WT-4のファームウェアや付属のソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

動画の転送について

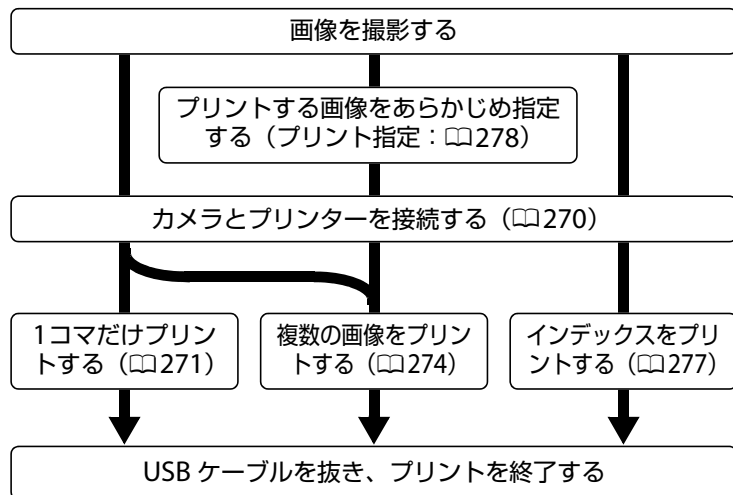
WT-4をお使いの場合、動画は画像送信モードでパソコンに転送できます（［**送信設定**］が［**撮影後自動送信**］または［**フォルダー送信**］の場合を除く）。サムネイルセレクトモードでは、動画を転送できません。

別売のCamera Control Pro 2について

別売のCamera Control Pro 2（□397）で、パソコンからカメラをコントロールできます。Camera Control Pro 2を起動すると、上面表示パネルの記録可能コマ数表示部に、PCが表示され、PC接続中インジケーターが点滅します。

画像をプリンターで印刷する

カメラとプリンターを直接つないでプリントする（ダイレクトプリント）

PictBridge（ピクトブリッジ：□444）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接接続してメモリーカード内の画像をプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントは、次の手順で行います。

次のページから、それぞれの手順について詳しく説明します。

ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のACアダプター EH-6をお使いになることをおすすめします。
- 直接プリントする画像は、撮影メニューの［**色空間**］を［**sRGB**］に設定して撮影してください（□189）。

USBハブについて

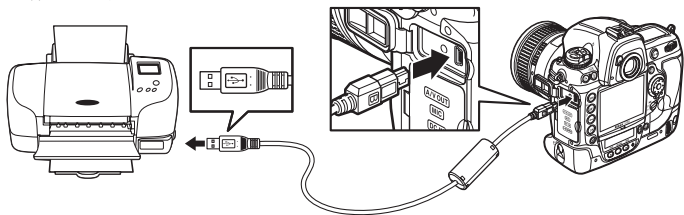
USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

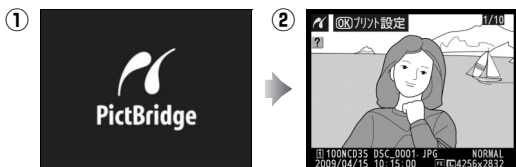
▮カメラとプリンターを接続する

付属のUSBケーブルUC-E4を使ってカメラとプリンターを接続します。

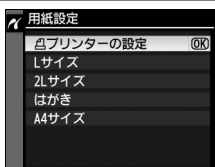
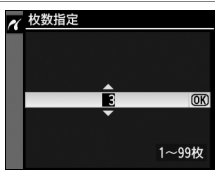
1 カメラの電源をOFFにしてからプリンターの電源をONにする

2 カメラとプリンターを接続する

- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。

3 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、液晶モニターに①の画面が表示された後、②の画面が表示されます。

▮▮1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選ぶ

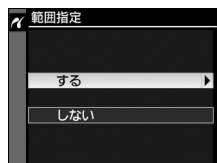
- マルチセレクターの◀または▶を押してプリントしたい画像を選びます。
- マルチセレクターの**中央**ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。もう一度**中央**ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを右方向に回すと、表示中の画像を拡大表示します（247）。▶ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- ボタンを押しながらマルチセレクターの▲を押すと、［スロット/ フォルダー指定メニュー］画面が表示されます（234）。
- ▲または▼を押すと、画像情報（235）が表示されます。

2 プリント設定画面を表示する

- ボタンを押すとプリント設定画面が表示されます。

3 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押して、プリントする用紙のサイズを選びます。 ［**プリンターの設定**］、［**Lサイズ**］、［**2Lサイズ**］、［**はがき**］、［**100×150 mm**］、［**4×6 in.**］、［**203 × 254 mm**］、［**Letter**］、［**A3サイズ**］、［**A4サイズ**］のうち、プリンターが対応するサイズのみが表示されます。 OKボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。
枚数指定	▼または▲を押して、プリントする枚数（1～99枚）を設定します。OKボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。
フチ設定	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（フチありプリント）または［**なし**］（フチなしプリント）を選びます。 OKボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。
日付プリント	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（日付を印刷する）または［**なし**］（日付を印刷しない）を選びます。 OKボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

範囲指定	プリント範囲を指定します。 ［**する**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。 右のような画面が表示されます。 黄色の枠は、プリントされる範囲を示しています。 • メインコマンドダイヤルを右方向へ回すと枠が小さく（プリント範囲が狭く）なり、メインコマンドダイヤルを左方向へ回すと枠が大きく（プリント範囲が広く）なります。 • マルチセレクターを操作すると、プリント範囲が移動します。 • ⓄⓀボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

4 プリントを開始する

- ［**プリント実行**］を選んで、ⓄⓀボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度ⓄⓀボタンを押してください。

ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像およびTIFF画像（□88）はダイレクトプリントできません。RAW画像の場合は画像編集メニューの［**RAW現像**］（□376）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- ［**フチ設定**］と［**範囲指定**］は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選べません。なお、［**範囲指定**］で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

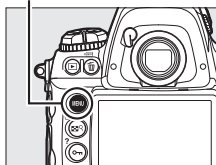
プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

［**用紙設定**］、［**フチ設定**］、［**日付プリント**］の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に［**プリンターの設定**］を選んでください。

■ 複数の画像をプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（□270）、次の手順でプリントしてください。

1 右の画面でMENUボタンを押す

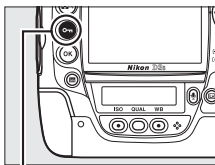
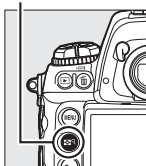
MENUボタン

2 ［プリント画像選択］または［DPOFプリント］を選ぶ

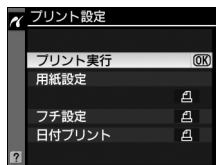
- ［**プリント画像選択**］または［**DPOFプリント**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。
- 事前に再生メニューの［**プリント指定（DPOF）**］（□278）を行った場合、［**DPOFプリント**］を選ぶと、手順3の画面にプリント指定で設定したプリント枚数が反映されます。

3 プリントする画像と枚数を設定する

O‒nボタン

ボタン

- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、O‒nボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。
- プリントされる画像には、アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- ボタンを押しながらマルチセレクターの▲を押すと、［スロット/ フォルダー指定メニュー］画面が表示されます（□234）。
- ボタンを押している間は、選択中の画像を拡大表示します。
- 画像と枚数を設定したら、OKボタンを押します。

4 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押して、プリントする用紙のサイズを選びます。 Ⓞボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。表示される用紙サイズはプリンターによって異なります（□272）。
フチ設定	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（フチありプリント）、［**なし**］（フチなしプリント）を選びます。Ⓞボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。
日付プリント	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（日付を印刷する）、［**なし**］（日付を印刷しない）を選びます。Ⓞボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。

5 プリントを開始する

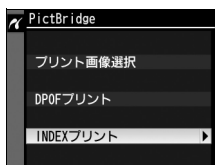
- ［**プリント実行**］を選んでⓄボタンを押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを中断したいときは、もう一度Ⓞボタンを押してください。

関連ページ

プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」（□435）をご覧ください。

■ INDEX（インデックス）プリントする

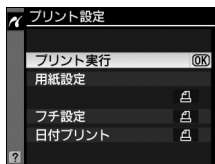
メモリーカード内の全てのJPEG画像（□88）が一覧できる「インデックス」をプリントできます。

1 ［PictBridge］画面（□274）で［INDEXプリント］を選ぶ

- ［**INDEXプリント**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［INDEXプリント］画面が表示されます。
- インデックスプリントできるのは256コマまでです。メモリーカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

2 プリント設定画面を表示する

- ㊚ボタンを押すと、プリント設定画面が表示されます。

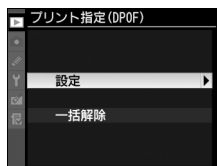
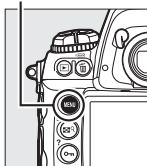
3 プリント設定の項目を設定する

- 「複数の画像をプリントする」（□276）の手順4と同様に、プリント設定の項目を設定してから、プリントしてください。
- 用紙サイズによっては、インデックスプリントができない場合があります（警告画面が表示されます）。

▌プリントしたい画像を指定する（プリント指定）

メモリーカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき（□269）に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。プリント指定の方法は次の通りです。

1 再生メニューの［プリント指定（DPOF）］で［設定］を選ぶ

MENUボタン

- MENUボタンを押して、再生メニューの［**プリント指定（DPOF）**］で［**設定**］を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、プリント画像の選択画面が表示されます。

2 プリントする画像と枚数を設定する

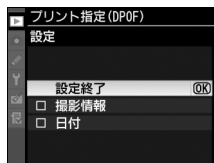
O╖ボタン

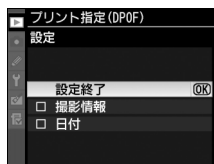
- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、O╖ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。

- 設定した画像には、凸アイコンとプリント枚数が表示されます。
- 枚数を0にすると凸アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- ボタンを押しながらマルチセレクターの▲を押すと、［スロット/ フォルダー指定メニュー］画面が表示されます（□234）。

- ⊠ボタンを押している間は、選択中の画像を拡大表示します。
- 画像と枚数を設定したら、Ⓞボタンを押します。
- MENUボタンを押すと、画像選択を中止して、再生メニューに戻ります。

3 プリント指定の項目を設定する

- 撮影情報や日付を画像に写し込まない場合は、そのまま［**設定終了**］を選んでⓄボタンを押してください。
- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、［**撮影情報**］または［**日付**］を選んで▶を押して☐に✔を入れてください。

4 プリント指定を終了する

- ［**設定終了**］を選んで、Ⓞボタンを押します。

✔ プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、［**プリント指定（DPOF）**］の［**撮影情報**］、［**日付**］の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの［**日付プリント**］を［**あり**］にしてください。
- メモリーカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像（□88）は、プリント指定ができません。
- プリント指定を行ったメモリーカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

設定したプリント指定を一括で解除したいときは

前ページの手順1の画面で［**一括解除**］を選ぶと、［**プリント指定（DPOF）**］で設定した内容を全て解除します。

画像をテレビで見る

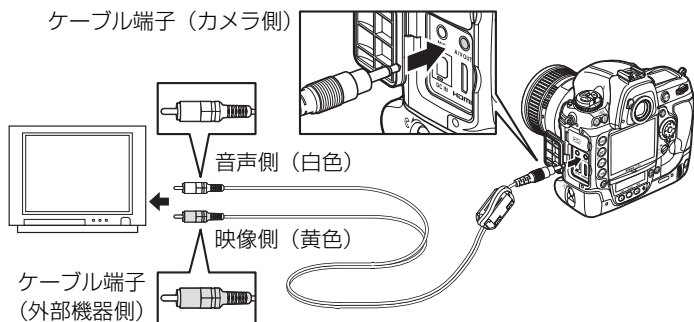
カメラをテレビやビデオなどに接続して、撮影した画像をテレビ画面に表示したり、録画したりできます。接続には付属の専用オーディオビデオケーブルEG-D2（以下、AVケーブル）を使う方法と、市販のHDMIミニ端子用ケーブル（Type C）を使う方法の2種類があります。

AVケーブルを使ってテレビと接続する

カメラをテレビやビデオデッキに接続する手順を説明します。
接続には付属のAVケーブルをお使いください。

1 カメラの電源をOFFにする

- AVケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 カメラとテレビを接続する

3 テレビの入力をビデオ入力に切り換える

4 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- カメラをテレビに接続している間、液晶モニターは点灯します。

画像がテレビに映らないとき
AVケーブルでカメラとテレビを正しくつないでも、画像がテレビに映らないときは、セットアップメニューの［**ビデオ出力**］（□350）がお使いのテレビに合っているかを確認してください。

テレビでの画像の再生について
- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のAC アダプターEH-6をお使いになることをおすすめします。ACアダプター接続中は、液晶モニターのパワーオフ設定は10 分に固定されます。

音声の出力について
セットアップメニュー［**音声メモの設定**］の［**音声の出力**］（□262）を［**HDMI/オーディオビデオ出力**］に設定すると、音声メモをテレビのスピーカーで再生したり、ビデオデッキで録音することができます。

スライドショー
再生メニューの［**スライドショー**］（□292）では、撮影した画像を1コマずつ連続再生できます。

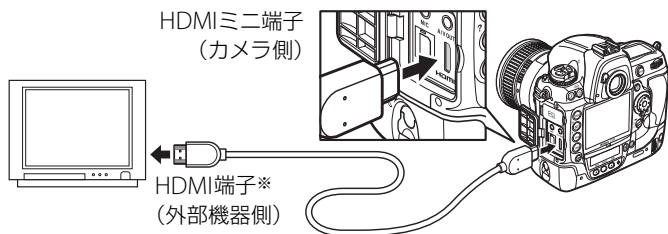
動画の音声について
- 動画撮影時にステレオ録音した音声は、AV ケーブルでカメラとテレビをつないで動画を再生すると、モノラル再生されます。HDMIケーブルでカメラとHDMIテレビをつないだときは、ステレオ再生されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。

HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビやビデオデッキと接続することができます。接続には市販のHDMIミニ端子用ケーブル(Type C)が必要です。別途お買い求めください。

1 カメラの電源をOFFにする

- HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 カメラとハイビジョンテレビを接続する

※使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

3 テレビの入力をHDMI入力に切り換える

4 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- カメラをテレビに接続している間、液晶モニターは消灯します。

HDMI接続時の動画の再生画面表示

HDMI対応機器に接続して動画を再生しているときにinfoボタンを押すと、画面上のガイドの表示/非表示を切り換えられます。

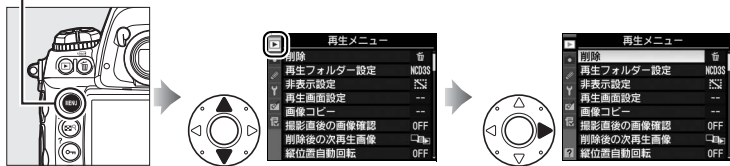
HDMIについて（□444）

HDMIの初期設定は［**オート**］です。接続先のHDMI機器に合わせて自動で映像信号形式を設定します。セットアップメニューの［**HDMI**］（□350）では、手動で設定することもできます。

メニューガイド

ここでは、カメラの各種設定を変更できる各メニューについて説明します。MENUボタンを押すとメニュー画面が表示され、マルチセレクターの◀を押すとメニューを切り換えるタブに移動します。

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	🕮
削除	252
再生フォルダー設定	284
非表示設定	285
再生画面設定	286
画像コピー	287

メニュー項目	🕮
撮影直後の画像確認	291
削除後の次再生画像	291
縦位置自動回転	291
スライドショー	292
プリント指定（DPOF）	278

関連ページ

「再生メニューの初期設定」（🕮415）

再生フォルダー設定

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

画像はメモリーカード内のフォルダーに保存されます。
再生する画像のフォルダーを設定します。

NCD3S	D3Sで作成された全てのフォルダー内の画像を再生します。
全てのフォルダー	メモリーカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

非表示設定

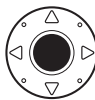
非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。

1 ［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。

2 非表示する画像を選ぶ

- マルチセレクターを操作して画像を選び、**中央**ボタンを押して設定します。設定すると⊠が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、⊠が消えます。

- 非表示にする画像全てに設定してください。
- ⊞ボタンを押しながらマルチセレクターの▲を押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示されます（□234）。
- ⊞ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

3 設定を完了する

- ⊛ボタンを押して、設定を終了します。

✔ 非表示設定についてのご注意

- メモリーカードを初期化すると、非表示設定した画像も削除されますのでご注意ください。
- プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

設定した非表示設定を一括で解除したいときは

［非表示設定］画面で［**一括解除**］を選ぶと、［**非表示設定**］で設定した内容を全て解除します。

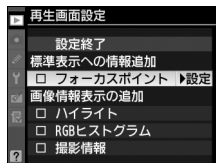
再生画面設定

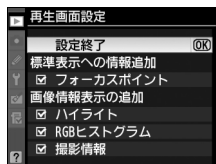
MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

画像情報（□235）に、フォーカスポイント表示やハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報を追加できます。

1 項目を選ぶ

- 画像情報に表示したい項目を選択し、マルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。

- もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ □になります。

2 ［設定終了］を選ぶ

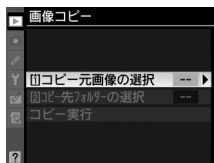
- ［**設定終了**］を選んで㊗ボタンを押すと、設定を完了します。

画像コピー

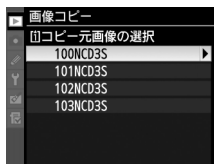
スロット1のメモリーカードにある画像を、スロット2のメモリーカードへコピーします。

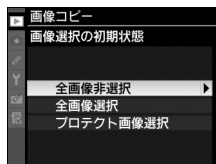
コピー元画像の選択	スロット1にあるコピー元の画像を選択します。
コピー先フォルダーの選択	スロット2のコピー先フォルダーを選択します。
コピー実行	コピーを実行します。

画像コピー方法

1 [コピー元画像の選択]を選ぶ

- ［**コピー元画像の選択**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［コピー元画像の選択］画面が表示されます。

2 コピー元画像があるフォルダーを選ぶ

- コピー元画像のあるフォルダーを選んで▶を押すと、［画像選択の初期状態］画面が表示されます。

3 画像の選択方式を選ぶ

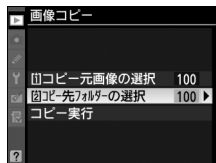
- コピー画像の選び方は、次の3通りがあります。

全画像非選択	フォルダー内全ての画像が選ばれていない状態で表示されます。 • コピーする画像を 1 枚ずつ自分で選びたい場合に適しています。
全画像選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれた状態で表示されます。 • フォルダー内の全画像をコピーしたい場合に適しています。
プロテクト画像選択	フォルダー内のプロテクトされている画像だけが選ばれた状態で表示されます。

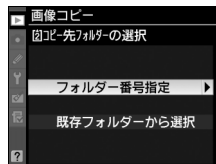
4 コピーする画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選んで**中央**ボタンを押すと、✔が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、✔が消えます。

- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- コピーしたい全ての画像に✔を入れてからⓞボタンを押すと、［画像コピー］画面に戻ります。

5 ［コピー先フォルダーの選択］を選ぶ

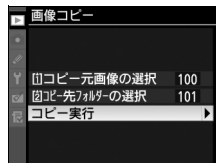
- ［**コピー先フォルダーの選択**］を選んで▶を押すと、［コピー先フォルダーの選択］画面が表示されます。

6 コピー先フォルダーの選択方法を選ぶ

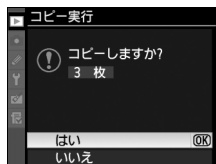
- コピー先フォルダーの選択方法を選んで▶を押します。

フォルダー番号指定	コピー先のフォルダー番号を入力して指定します（□298）。	
既存フォルダーから選択	既存フォルダーの一覧表示から、コピー先フォルダーを選択します。	

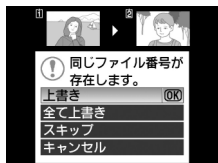
7 コピー先フォルダーを選ぶ

- それぞれの画面で、フォルダー番号を指定または選んでⓄボタンを押すと、コピー先フォルダーを設定して［画像コピー］画面に戻ります。

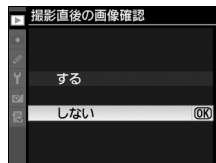
8 ［コピー実行］を選ぶ

- ［**コピー実行**］を選んで▶を押すと、コピーの確認画面が表示されます。

9 ［はい］を選ぶ

- ［コピーしますか？］というメッセージと、コピーする枚数が表示されます。
- ［**はい**］を選んで㊎ボタンを押すと、コピーを実行します。
- コピーが終了したら、もう一度㊎ボタンを押してコピーを完了します。

✔ 画像コピーについてのご注意

- コピー先メモリーカードの残量がない場合、コピーできません。
- コピー先フォルダーに同じファイル番号が存在する場合、右のような画面が表示されます。このとき、［**上書き**］または［**全て上書き**］を選択すると、コピー元の画像に上書きされますのでご注意ください。ただし、コピー先の画像にプロテクトまたは非表示が設定されている場合は、上書きできません。［**スキップ**］を選択すると、上書きせずに残りの画像のコピーを続けます。［**キャンセル**］を選択すると、コピーを中止します。
- プロテクト設定と音声メモはコピー先の画像に引き継がれます。
- ［**プリント指定（DPOF）**］（□278）で設定した情報は、コピー先画像には引き継がれません。
- 非表示設定した画像はコピーできません。
- 動画をコピーするときは、バッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーをお使いください。

撮影直後の画像確認

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。［**しない**］を選択した場合に撮影画像を表示確認するには、▶ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

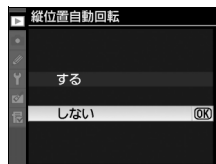
MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

後ろのコマ	削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
前のコマ	削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
直前コマ送り方向に従う	• 直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、［**後ろのコマ**］と同じ動作になります。 • 直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、［**前のコマ**］と同じ動作になります。

縦位置自動回転

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示します。

縦位置自動回転についてのご注意

- ［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、セットアップメニューの［**縦横位置情報の記録**］（🕮354）を［**しない**］にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

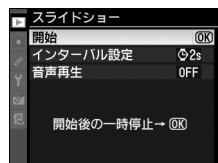
スライドショー

MENUボタン → ▶再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。[**再生フォルダー設定**]（□284）で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、[**非表示設定**]（□285）されている画像は再生されません。

開始	スライドショーを開始します。
インターバル設定	1コマの画像を表示する時間を設定します。
音声再生	スライドショー中の音声メモを自動的に再生できます（□293）。

スライドショーを再生する

[**開始**] を選んでⓄボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。

1コマ進む/戻る		◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の切り換え		画像情報の切り換えができます（□235）。
一時停止/再開	OK	スライドショーが一時停止します（音声メモの再生は停止しません）。もう一度Ⓞボタンを押すと再開します。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶	スライドショーを中止して、1コマ表示モード（□232）またはサムネイル表示モード（□245）に戻ります。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

再生が終わると、右のような画面が表示されます。[**再開**] を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが再開します。[**終了**] を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが終了します。

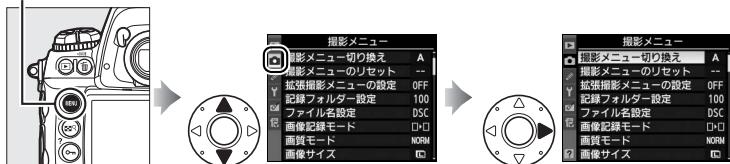
▌音声再生

画像に音声メモが録音されている場合、スライドショー中に音声メモを自動的に再生できます。

<table>
<tr><td rowspan="3">する</td><td colspan="2">スライドショー中に音声メモを再生します。マルチセレクターの▶を押すと音声メモ再生について設定できます。</td></tr>
<tr><td>インターバル設定優先</td><td>音声メモの録音時間が［インターバル設定］（□292）で設定した画像の表示時間よりも長い場合、音声メモの再生は途中で終了します。</td></tr>
<tr><td>音声時間優先</td><td>音声メモの録音時間が［インターバル設定］で設定した画像の表示時間よりも長い場合、音声メモの再生が完了してから次の画像を再生します。</td></tr>
<tr><td>しない</td><td colspan="2">スライドショー中に音声メモを再生しません。</td></tr>
</table>

撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの📷アイコンを選ぶと、撮影メニューが表示されます。

MENUボタン

撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	🕮
撮影メニュー切り換え	295
撮影メニューのリセット	297
拡張撮影メニューの設定	298
記録フォルダー設定	298
ファイル名設定	301
画像記録モード	94
画質モード	88
画像サイズ	92
撮像範囲	82
JPEG圧縮	90
RAW記録	91
ホワイトバランス	154

メニュー項目	🕮
ピクチャーコントロール	176
カスタムピクチャーコントロール	182
色空間	189
アクティブD-ライティング	187
ヴィネットコントロール	302
長秒時ノイズ低減	303
高感度ノイズ低減	303
ISO感度設定	116
ライブビューモード	57、61
多重露出	210
動画の設定	72
インターバルタイマー撮影	216

関連ページ

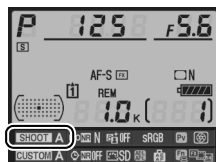
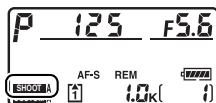
「撮影メニューの初期設定」（🕮415）

撮影メニュー切り換え

カメラは、撮影メニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれの撮影メニューで設定した内容は、他の撮影メニューには反映されません。ただし、ピクチャーコントロールの調整値（クイック調整および手動調整）、［**多重露出**］、［**インターバルタイマー撮影**］、［**拡張撮影メニューの設定**］での設定は、全ての撮影メニューで共通になります。

［**撮影メニュー切り換え**］で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから撮影メニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。

撮影メニュー設定表示について

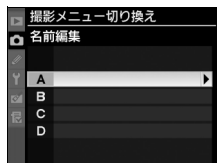
上面表示パネルとインフォ画面には、SHOOTと撮影メニュー名（「A」～「D」）が表示されます。

関連ページ

- 露出モード、シャッタースピード、絞り値も撮影メニューに記憶する
  → ［**拡張撮影メニューの設定**］（□298）
- ボタン操作で、撮影メニューの設定を切り換えられるようにする
  → f4［**Fnボタンの機能**］の［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（□336）

■ 名前編集

［撮影メニュー切り換え］画面から［**名前編集**］を選んで、マルチセレクターの▶を押すと、メニュー「A」～「D」の名前が一覧で表示されます。

1 名前を変更する項目を選ぶ

- 名前を変更する項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［名前編集］画面が表示されます。

2 名前を入力する

- 20文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、マルチセレクターの**中央**ボタンを押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、⊠ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押します。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1文字削除する場合は、⊠ボタンを押しながらマルチセレクターを操作して削除する文字の上にカーソルを移動させ、🗑ボタンを押します。
- 名前を変更しない場合は、MENUボタンを押すと撮影メニューに戻ります。

3 名前の編集を終了する

- 名前を入力し終えたら㊗ボタンを押します。

- 編集した名前が反映され、撮影メニュー名の一覧表示画面に戻ります。

撮影メニューのリセット

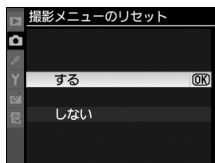
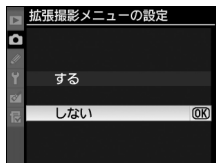
MENUボタン ➜ 撮影メニュー

現在選択している撮影メニュー（「A」～「D」）の設定をリセットして初期設定に戻します。

関連ページ

「撮影メニューの初期設定」（□415）

拡張撮影メニューの設定

MENUボタン ➜ 📷撮影メニュー

［**する**］を選ぶと、撮影メニュー（「A」～「D」）ごとに露出モード、シャッタースピード（露出モード**S**、**M**のみ）、絞り値（露出モード**A**、**M**のみ）を記憶できます。

- ［**撮影メニュー切り換え**］で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから露出モード、シャッタースピード、絞り値の設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。
- ［**しない**］を選ぶと、［**する**］を選ぶ前に設定した露出モード、シャッタースピード、絞り値に戻ります。

記録フォルダー設定

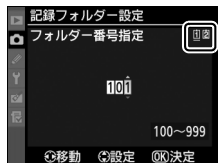
MENUボタン ➜ 📷撮影メニュー

記録フォルダーの新規作成や既存フォルダーからの選択を行います。新規作成の場合は［**フォルダー番号指定**］でフォルダー番号を設定します。既存フォルダーから選択する場合は［**既存フォルダーから選択**］を選びます。

■フォルダー番号指定

フォルダーを新規に作成します。

1 ［フォルダー番号指定］を選ぶ

- ［**フォルダー番号指定**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［フォルダー番号指定］画面が表示されます。
- ［フォルダー番号指定］画面の右上には、フォルダーを作成するスロットが下線で強調されて表示されます。フォルダーを作成するスロットは、［**画像記録モード**］（🕮94）の設定によって異なります。

2 フォルダー番号の桁を選ぶ

- ◀または▶を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。

3 フォルダー番号を変更する

- ▲または▼を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

4 フォルダー番号を設定する

- ⓞボタンを押すと、新規フォルダーを作成して撮影メニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、作成した新規フォルダーに保存します。
- 作成済みのフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク（□、□、□）が表示されます。
  □または□を選んでⓞボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定して撮影メニューに戻ります。
- キャンセルしたい場合は、MENUボタンを押すと撮影メニューに戻ります。

フォルダーマークについて

［フォルダー番号指定］画面では、フォルダー番号の左に、画像の入っていないフォルダーのときは□、フォルダー内のファイル数が999個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは□、その他のフォルダーのときは□のフォルダーマークが表示されます。□が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

■既存フォルダーから選択

既存のフォルダーから選択します。

1 **［既存フォルダーから選択］を選ぶ**

- ［**既存フォルダーから選択**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［既存フォルダーから選択］画面が表示されます。

2 **フォルダーを選ぶ**

- ▲または▼を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 **画像を記録するフォルダーを設定する**

- Ⓞボタンを押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存します。

フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

フォルダー番号が999に達しているときに、ファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達した場合は、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。ただし、次の場合、メモリーカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。

- フォルダー番号が 999 以下で、そのうちのファイル数が 999 に達していないフォルダーを記録フォルダーとして選んだ場合
- フォルダー番号が999 以下のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合

大容量のメモリーカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているメモリーカードを使用する場合、メモリーカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。[**ファイル名設定**]では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。ファイル名の設定方法は、「撮影メニュー切り換え」の「名前編集」をご覧ください（□296）。

ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
  - NEF：RAWの場合
  - TIF：TIFF(RGB)の場合
  - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
  - AVI：動画の場合
  - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 撮影メニューの[**色空間**]で[**Adobe RGB**]（□189）を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

ヴィネットコントロール

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ・Dタイプレンズを装着しているときのみ機能します（DXレンズ、PCレンズを除く）。

設定	内容
H 強め	効果が強い順に、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
N 標準	
L 弱め	
しない	周辺光量の低下を補正しません。

ヴィネットコントロールについてのご注意

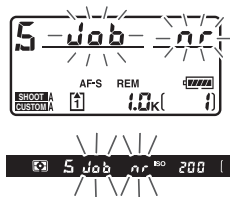
- 次の場合、ヴィネットコントロールの効果は適用されません。
  - 撮影メニューの［**撮像範囲**］（□82）を［**DX (24×16) 1.5×**］に設定しているとき
  - 撮影メニューの［**多重露出**］（□210）を設定しているとき
  - 画像編集メニューの［**画像合成**］（□373）で画像を合成するとき
  - ライブビュー表示中の液晶モニターや外部モニター接続時のライブビュー画面（撮影した画像には適用されます）
  - 動画撮影時
- TIFFおよびJPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。初期設定は［**標準**］ですが、試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選択することをおすすめします。

長秒時ノイズ低減

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（ざらつき、むら）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、ノイズ（ざらつき、むら）の低減処理を行います。
しない	ノイズ（ざらつき、むら）の低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、上面表示パネルとファインダー内下表示にJob nrが表示されます。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理には、撮影時のシャッタースピードとほぼ同等の時間がかかります。

長秒時ノイズ低減についてのご注意

- 連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- 処理中に電源をOFFにすると、処理は行われません。

高感度ノイズ低減

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

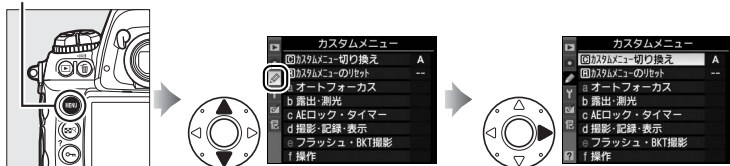
高感度で撮影したときに発生するノイズを低減します。

HIGH 強め	ISO感度が3200よりも高くなると、ノイズの低減処理が行われます。このとき、連続撮影可能コマ数が少なくなります（448）。 ノイズ低減の効果は、強い順に[**強め**]、[**標準**]、[**弱め**]になります。
NORM 標準	
LOW 弱め	
しない	ノイズの低減処理を行いません。ただし、ISO感度がHi 0.3以上の高感度になったときは、常にノイズ低減処理が行われます。この場合のノイズ低減効果は[**弱め**]よりもさらに弱くなります。

- 動画撮影時には、高感度ノイズ低減は機能しません。

カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定

MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。

MENUボタン

カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

＜第1階層＞

カスタムメニュー
Ⓒカスタムメニュー切り換え A
Ⓡカスタムメニューのリセット --
a オートフォーカス
b 露出･測光
c AEロック・タイマー
d 撮影･記録･表示
e フラッシュ・BKT撮影
f 操作

Ⓒカスタムメニュー切り換え
A
B
C
D
ABC名前編集

Ⓡカスタムメニューのリセット
する
しない

Ⓒ：カスタムメニュー切り換え（306）

Ⓡ：カスタムメニューのリセット（306）

＜第2階層＞

a オートフォーカス
a1 AF-Cモード時の優先
a2 AF-Sモード時の優先
a3 ダイナミックAFエリア
a4 AFロックオン

b 露出･測光
b1 ISO感度設定ステップ幅 1/3
b2 露出設定ステップ幅 1/3
b3 露出補正ステップ幅 1/3
b4 露出補正簡易設定 OFF

c AEロック・タイマー
c1 半押しAEロック OFF
c2 半押しタイマー 6s
c3 セルフタイマー 10s
c4 液晶モニターのパワーオフ時間

d 撮影･記録･表示
d1 電子音設定 OFF
d2 連続撮影速度
d3 連続撮影コマ数 130
d4 連番モード ON

e フラッシュ・BKT撮影
e1 フラッシュ撮影同調速度 1/250
e2 フラッシュ時シャッタースピード制限 1/60
e3 モデリング発光 ON
e4 オートブラケティングのセット

f 操作
f1 中央ボタンの機能
f2 マルチセレクターの半押し起動 OFF
f3 上下左右機能入れ換え OFF
f4 Fnボタンの機能

カスタムメニューの項目は次の通りです。※

メニュー項目	🕮
Ⓒカスタムメニュー切り換え	306
Ⓡカスタムメニューのリセット	306
a オートフォーカス	
a1 AF-Cモード時の優先	307
a2 AF-Sモード時の優先	308
a3 ダイナミックAFエリア	309
a4 AFロックオン	311
a5 半押しAFレンズ駆動	311
a6 フォーカスポイント表示	312
a7 フォーカスポイント循環選択	313
a8 AF点数切り換え	313
a9 AF-ONボタンの機能	314
a10 縦位置AF-ONボタンの機能	315
b 露出・測光	
b1 ISO感度設定ステップ幅	316
b2 露出設定ステップ幅	316
b3 露出補正ステップ幅	316
b4 露出補正簡易設定	317
b5 中央部重点測光範囲	318
b6 基準露出レベルの調節	318
c AEロック・タイマー	
c1 半押しAEロック	319
c2 半押しタイマー	319
c3 セルフタイマー	319
c4 液晶モニターのパワーオフ時間	320
d 撮影・記録・表示	
d1 電子音設定	321
d2 連続撮影速度	322
d3 連続撮影コマ数	322
d4 連番モード	323
d5 表示情報の切り換え	324
d6 インフォ画面の表示設定	325
d7 インフォ画面のガイド表示	325
d8 イルミネーター点灯	326
d9 露出ディレーモード	326
e フラッシュ・BKT撮影	
e1 フラッシュ撮影同調速度	327
e2 フラッシュ時シャッタースピード制限	328
e3 モデリング発光	328
e4 オートブラケティングのセット	328
e5 BKT変化要素(Mモード)	329
e6 BKTの順序	330
f 操作	
f1 中央ボタンの機能	330
f2 マルチセレクターの半押し起動	332
f3 上下左右機能入れ換え	332
f4 **Fn**ボタンの機能	332
f5 プレビューボタンの機能	339
f6 AE/AFロックボタンの機能	340
f7 **BKT**ボタンの機能	341
f8 コマンドダイヤルの設定	341
f9 ボタンのホールド設定	344
f10 カードなし時レリーズ	344
f11 インジケーター表示の＋/－方向	345

※設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク（*）を表示します。

関連ページ

「カスタムメニューの初期設定」（🕮417）

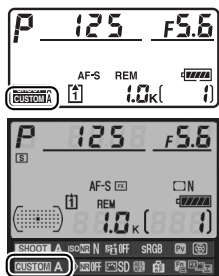
Ⓒ：カスタムメニュー切り換え　MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

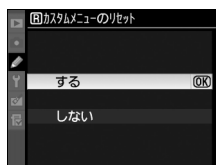
カメラは、カスタムメニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれのカスタムメニューで設定した内容は、他のカスタムメニューには反映されません。

［**カスタムメニュー切り換え**］で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでからカスタムメニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時のカスタムメニューを選び直すことで呼び出せます。

「A」～「D」には、［**名前編集**］でそれぞれ最長20文字の名前を付けることができます。編集した名前は、［カスタムメニュー切り換え］画面に表示されます。名前の編集方法については、撮影メニューの「撮影メニュー切り換え」の「名前編集」（□296）をご覧ください。

カスタムメニュー設定表示について

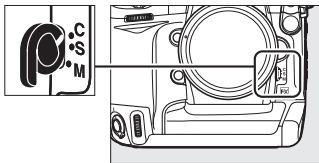
上面表示パネルとインフォ画面には、CUSTOMとカスタムメニュー名（「A」～「D」）を表示します。

Ⓡ：カスタムメニューのリセット　MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

現在選択しているカスタム（「A」～「D」）の設定をリセットして初期設定（□417）に戻します。ツーボタンリセット（□208）とは内容が異なりますので、ご注意ください。

a：オートフォーカス

a1：AF-Cモード時の優先

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

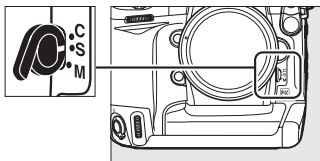
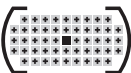
フォーカスモードセレクトダイヤルを**C**に設定してシャッターボタンを押したときの動作を設定できます。

フォーカスモード
セレクトダイヤル

レリーズ	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
レリーズ/フォーカス	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するときは、連続撮影速度を落としてピント合わせを行います。連続撮影時に撮影速度よりもピント合わせを優先したいときにお使いください。
フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

- フォーカスモードが**C**のときは、［**AF-Cモード時の優先**］の設定にかかわらず、ピント表示（●）が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2：AF-Sモード時の優先

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

フォーカスモードセレクトダイヤルをSに設定してシャッターボタンを押したときの動作を設定できます。

フォーカスモード
セレクトダイヤル

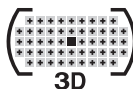
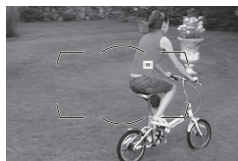
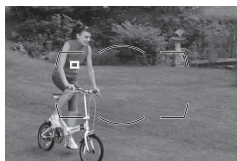
レリーズ	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

- フォーカスモードが**S**のときは、［**AF-Sモード時の優先**］の設定にかかわらず、ピント表示（●）が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスロックが行われます。

a3：ダイナミックAFエリア　MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ダイナミックAFモード（98）時にピント合わせを行うフォーカスポイントを、被写体の動きに合わせて設定できます。フォーカスモードC（96）との組み合わせで、選択したフォーカスポイントから被写体が一時的に外れたときでも、周辺のフォーカスポイントを利用してピントを合わせます。ピント情報を利用するフォーカスポイントは、被写体の動きに合わせて9点、21点、51点から選べます。

実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。

9 **9点**		選択した1点のフォーカスポイントと、その周辺の8点のピント情報を利用してピントを合わせます。構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体を捉えやすい撮影に適しています。 • 例：陸上競技やモータースポーツ
21 **21点**		選択した1点のフォーカスポイントと、その周辺の20点のピント情報を利用してピントを合わせます。動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています。 • 例：フィールドスポーツ
51 **51点**		選択した1点のフォーカスポイントと、その周辺の50点のピント情報を利用してピントを合わせます。被写体の動きが速く、選択したフォーカスポイントで被写体を捉えにくい場合の撮影に適しています。 • 例：野鳥撮影

[⊡]3D **51点（3D-トラッキング）**		51点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾する3D-トラッキングになります。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています。 • カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度被写体にフォーカスポイントを合わせてください。 • 例：テニス

3D-トラッキングについて

3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選択したフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいとうまく動作しない場合があります。

関連ページ

FnボタンとコマンドダイヤルでダイナミックAFエリアを変更する → f4［**Fnボタンの機能**］→［**コマンドダイヤル併用時の動作**］→［**ダイナミックAFエリア**］（□337）

a4：AFロックオン

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

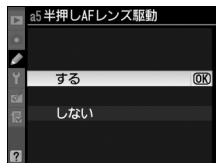
フォーカスモードCでのオートフォーカス撮影時に、被写体との距離が瞬時に大きく変わったときのピント合わせの動作について設定できます。

設定	内容
AF 5（強め）	被写体との距離が瞬時に大きく変わったとき、一定時間経過してから被写体を追従するピント合わせを行います。被写体とカメラの間を障害物が横切るような撮影など、意図に反して障害物にピント合わせを行うことを防止します。 • 被写体との距離が瞬時に大きく変わってから、追従するピント合わせを開始するまでの時間が長い順に、［**5（強め）**］、［**4**］、［**3（標準）**］、［**2**］、［**1（弱め）**］になります。
AF 4	
AF 3（標準）	
AF 2	
AF 1（弱め）	
しない	被写体との距離が瞬時に大きく変わったときは、すぐに追従するようにピント合わせを行います。距離の異なる複数の被写体を次々と撮影するようなときに便利です。

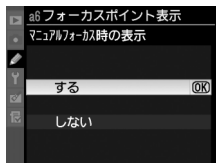
a5：半押しAFレンズ駆動

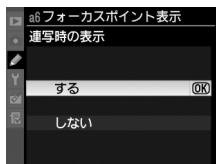
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

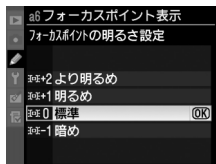
シャッターボタンを半押ししたときの、ピント合わせの動作を設定できます。［**しない**］を選んだ場合は、**AF-ON**を押したときだけピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。

a6：フォーカスポイント表示 MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

ファインダー内のフォーカスポイントの点灯に関する設定ができます。

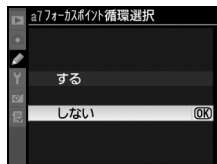
▌▌マニュアルフォーカス時の表示

［**する**］に設定すると、マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが点灯します。

▌▌連写時の表示

［**する**］に設定すると、**CH**または**CL**での連続撮影時にフォーカスポイントが点灯します。

▌▌フォーカスポイントの明るさ設定

ファインダー内のフォーカスポイントの明るさを設定できます。

a7：フォーカスポイント循環選択

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

フォーカスポイントをマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

［**する**］を選んだ場合、一番端のフォーカスポイント（①）を選んでいるときに、さらにマルチセレクターを同方向（右図の場合は▶）に押すと、反対側の端のフォーカスポイント（②）に移動します。

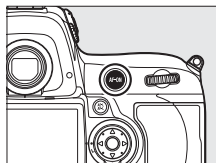
a8：AF点数切り換え

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

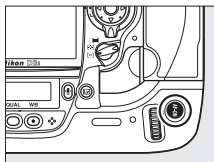
AF51 51点	51点全てのフォーカスポイントを選べます。	
AF11 11点	11点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置をすばやく動かしたいときに便利です。	

a9：AF-ONボタンの機能

AF-ONボタンを押しているときの機能を設定します。

AF-ON	AF-ONボタンを押すと、自動的にピントを合わせます。
AE-L/AF-L	AF-ONボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
AE-L	AF-ONボタンを押している間、AEロックを行います。
AE-L（レリーズでリセット）	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態を維持します。もう一度AF-ONボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AE-L（ホールド）	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態を維持します。シャッターをきってもAEロックを解除しません。ただし、もう一度AF-ONボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AF-L	AF-ONボタンを押している間、フォーカスロックを行います。

a10：縦位置AF-ONボタンの機能

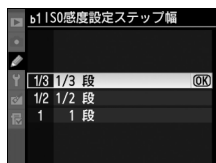
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

縦位置AF-ONボタンの機能を設定します。

= AF-ONボタンと同じ	AF-ONボタンの設定と同じです。
AF-ON	縦位置AF-ONボタンを押すと、自動的にピントを合わせます。
AE-L/AF-L	縦位置AF-ONボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
AE-L	縦位置AF-ONボタンを押している間、AEロックを行います。
AE-L（レリーズでリセット）	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態を維持します。もう一度縦位置AF-ONボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AE-L（ホールド）	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態を維持します。シャッターをきってもAEロックを解除しません。ただし、もう一度縦位置AF-ONボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AF-L	縦位置AF-ONボタンを押している間、フォーカスロックを行います。

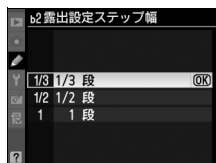
b：露出・測光

b1：ISO感度設定ステップ幅

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ISO感度のステップ幅を設定できます（116）。ISO感度のステップ幅を変更したとき、設定されているISO感度が変更後のステップ幅に存在しない場合は、最も近い値に変更されます。

b2：露出設定ステップ幅

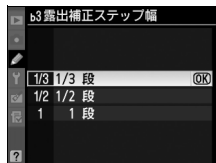
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、およびオートブラケティング補正量のステップ幅を設定できます。

b3：露出補正ステップ幅

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

露出補正のステップ幅を設定できます。

b4：露出補正簡易設定

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

☒ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

露出補正簡易設定を［**する（自動リセット）**］または［**する**］に設定すると、露出インジケーターの「0」が点滅します。

RESET する（自動リセット）	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 • コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
する	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 • 電源をOFFにしても、半押しタイマーがきれても、設定した露出補正値はリセットされません。
しない	☒ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

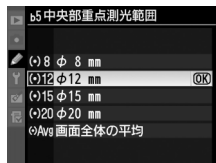
b4［露出補正簡易設定］とf8［メインとサブの入れ換え］の併用について

［**露出補正簡易設定**］とカスタムメニューf8［**コマンドダイヤルの設定**］（□341）の［**メインとサブの入れ換え**］との併用により、次の表で記載しているコマンドダイヤルで露出補正ができるようになります。

		カスタムメニュー f8→メインとサブの入れ換え	
		しない	**する**
露出モード	P	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	M	機能しません	

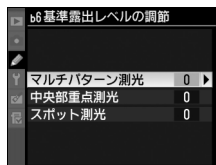
b5：中央部重点測光範囲

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光の範囲を変更できます。

- 非CPUレンズを装着しているときの測光範囲は、[**画面全体の平均**]に設定すると画面全体の平均になり、それ以外に設定すると[**φ12mm**]相当になります。

b6：基準露出レベルの調節

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

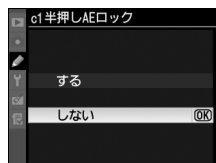
適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（＋側）または暗め（－側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±１段の範囲で設定できます。初期設定は0です。

基準露出レベルの調節について

- カスタムメニューb6［**基準露出レベルの調節**］は、カスタムメニュー「A」～「D」ごとに設定します。カスタムメニューを切り換えるときは、カスタムメニューb6の設定の違いにご注意ください。
- カスタムメニューb6［**基準露出レベルの調節**］を0以外に設定しても、マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニューb6の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

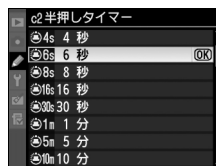
c：AEロック・タイマー

c1：半押しAEロック

MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

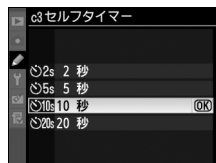
シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。

c2：半押しタイマー

MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

- 待機状態になると、上面表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

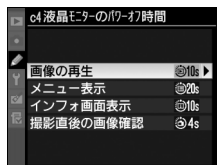
c3：セルフタイマー

MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時（🕮112）にシャッターがきれるまでの時間を設定できます。

c4：液晶モニターのパワーオフ時間

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

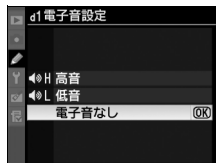
- ［**画像の再生**］、［**メニュー表示**］、［**インフォ画面表示**］、［**撮影直後の画像確認**］で液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を個別に設定できます。
- 初期設定は、［**画像の再生**］と［**インフォ画面表示**］の場合は10秒、［**メニュー表示**］は20秒、［**撮影直後の画像確認**］は4秒です。
- 液晶モニターのパワーオフ時間を長く設定すると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 別売のACアダプターEH-6を接続しているときには、［**画像の再生**］、［**メニュー表示**］、［**インフォ画面表示**］の設定にかかわらず、液晶モニターは、操作終了後約10分で自動的に消灯します。［**撮影直後の画像確認**］の場合、設定したパワーオフ時間で液晶モニターが消灯します（再生メニュー［**撮影直後の画像確認**］が［**する**］になっているとき）。

d：撮影・記録・表示

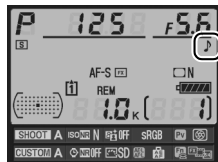
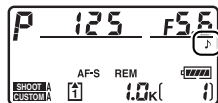
d1：電子音設定

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

電子音を鳴るようにしたり、鳴らないようにしたりできます。［**高音**］または［**低音**］に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。

- セルフタイマー作動中
- オートフォーカスのピントが合ったとき（フォーカスモードが**S**でカスタムメニューa2［**AF-Sモード時の優先**］が［**フォーカス**］の場合のみ）

レリーズモードが**Q**（静音撮影）の場合や動画撮影中は電子音は鳴りません。

電子音設定時の表示について

［**高音**］または［**低音**］のときは、上面表示パネルとインフォ画面に♪マークが表示されます。

d2：連続撮影速度

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

CH（高速連続撮影）時とCL（低速連続撮影）時の連続撮影速度を設定できます。

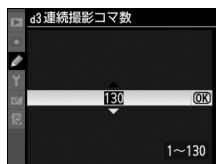
高速連続撮影	撮像範囲を［**DX (24×16) 1.5×**］（□82）に設定して高速連続撮影（**CH**）するときの連続撮影速度を［**11コマ/秒**］、［**10コマ/秒**］、［**9コマ/秒**］のいずれかに設定できます。［**DX (24×16) 1.5×**］以外の撮像範囲で高速連続撮影する場合は、連続撮影速度は最大9コマ/秒になります。
低速連続撮影	低速連続撮影（**CL**）時の連続撮影速度を、［**9コマ/秒**］～［**1コマ/秒**］の間で設定できます。

連続撮影速度について

シャッタースピードが低速の場合や、VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合、感度自動制御が［**する**］のときに感度が自動制御されている場合は、設定した連続撮影速度で撮影できないことがあります。

d3：連続撮影コマ数

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。マルチセレクターの▲または▼を押して、1コマ～130コマの間で設定します。

連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d3［**連続撮影コマ数**］で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります（□448）。このコマ数を超えると、連続撮影速度は低下します。

d4：連番モード

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	メモリーカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	メモリーカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 • 連番モードを［**する**］から［**しない**］に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に［**する**］に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
RESET リセット	カメラが記憶しているファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

ファイル番号について

- ファイル番号が 9999 に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときにファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は、カスタムメニュー d4［**連番モード**］を［**リセット**］した後、メモリーカードを初期化するか、交換してください。

フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に 999 個のファイルが記録された場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号＋1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 撮影中にファイル番号が 9999 となった場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号＋1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。

d5：表示情報の切り換え

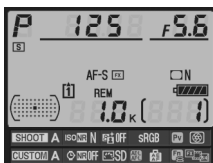
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

背面表示パネルおよびファインダー内下表示に表示される内容を設定できます。

背面表示パネルの表示	ISO ISO感度設定	ISO感度を表示します。
	記録可能コマ数	記録可能コマ数を表示します。ISO感度は、**ISO**ボタンを押すと表示します。
ファインダー内の表示	[88] 撮影コマ数※	撮影コマ数を表示します。
	記録可能コマ数※	記録可能コマ数を表示します。

※シャッターボタンを半押しまたは全押しし続けている間は、連続撮影可能コマ数が表示されます。

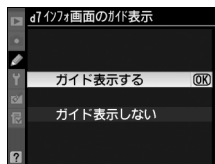
d6：インフォ画面の表示設定 MENUボタン ➜ カスタムメニュー

明るい場所や暗い場所で液晶モニターが見づらいときにインフォ画面（□14）の見え方を設定できます。

黒文字表示

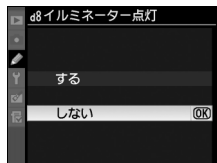
白文字表示

<table>
<tr><td>AUTO 自動</td><td colspan="2">インフォ画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">手動</td><td colspan="2">手動でインフォ画面の表示を切り換えます。</td></tr>
<tr><td>B 黒文字</td><td>明るい場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、液晶モニターが点灯し、文字を黒く表示します。</td></tr>
<tr><td>W 白文字</td><td>暗い場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、液晶モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。</td></tr>
</table>

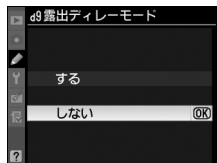
d7：インフォ画面のガイド表示 MENUボタン ➜ カスタムメニュー

インフォ画面で選んだ項目の文字表示ガイドを表示するかどうかを設定します（□17）。

d8：イルミネーター点灯

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

［**しない**］に設定すると、電源スイッチを☀に合わせたときだけ、上面表示パネルや背面表示パネルのイルミネーター（照明）が点灯します（📖10）。［**する**］に設定すると、このほか、半押しタイマー（📖47）の作動中にも、イルミネーターが点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。

d9：露出ディレーモード

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ライブビューモードが［**三脚撮影**］（📖57）のときや顕微鏡撮影時などに、カメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1秒後にシャッターがきれるように変更できます。

e：フラッシュ・BKT撮影

e1：フラッシュ撮影同調速度

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

1/250秒（オートFP）	フラッシュ撮影時の同調速度を1/250秒に設定します。別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600またはリモートスピードライトSB-R200使用時は1/250秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります。※
1/250秒	フラッシュ撮影時の同調速度を、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。
1/200秒	
1/160秒	
1/125秒	
1/100秒	
1/80秒	
1/60秒	

※露出モードが P または A で、上面表示パネルまたはファインダー内下表示のシャッタースピードが1/250秒を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが1/250秒よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。

シャッタースピードの同調速度を固定するには

露出モードがSまたはMのときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］で設定した値に固定するには、最も低速側（30秒またはbulb）の次の位置を選んでください。上面表示パネルとファインダー内下表示に**X**（フラッシュシンクロマーク）と設定した同調速度が表示されます。

FP発光について

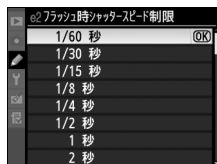
スピードライト撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます（□203）。［**1/250秒（オートFP）**］に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。

- FP発光に切り替わると、インフォ画面のフラッシュモードに「FP」が表示されます（□15）。

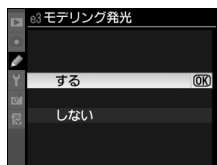
e2：フラッシュ時シャッタースピード制限

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

露出モードがPまたはAの場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を、［**1/60秒**］～［**30秒**］から設定できます。

- スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や露出モードがS、Mの場合には、シャッタースピードの低速側の制限が自動的に30秒まで延長されます。

e3：モデリング発光

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ニコンクリエイティブライティングシステム（0194）に対応しているスピードライト使用時に、カメラのプレビューボタンを押したときに、照明光の効果を確認するためのモデリング発光を行わないように設定できます。

e4：オートブラケティングのセット

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

オートブラケティング（0141）の種類を設定できます。

AE⚡	**AE・フラッシュブラケティング**	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AE	**AEブラケティング**	露出値を変えながら撮影します。
⚡	**フラッシュブラケティング**	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。

WB **WBブラケティング**（146）	1回の撮影でホワイトバランス（WB）を変えた画像を記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスを決めにくいときや、微妙な白の色味を好みで選びたいときなどに便利です。RAW画像を含む画質モードを設定したときは、WBブラケティングは使用できません。
ADLブラケティング（150）	アクティブD-ライティング（187）の効果の度合いを変えながら撮影します。

e5：BKT変化要素（Mモード） MENUボタン ➜ カスタムメニュー

露出モードMでオートブラケティングを行うときに変化する内容は、カスタムメニューe4［**オートブラケティングのセット**］とe5［**BKT変化要素（Mモード）**］との組み合わせによって次のようになります。

カスタムメニュー e5［BKT変化要素（Mモード）］	**カスタムメニュー e4［オートブラケティングのセット］**	
	AE・フラッシュブラケティング※	**AEブラケティング※**
フラッシュ・シャッタースピード	シャッタースピードとフラッシュの調光レベル	シャッタースピード
フラッシュ・シャッタースピード・絞り値	シャッタースピード、絞り値、フラッシュの調光レベル	シャッタースピードと絞り値
フラッシュ・絞り値	絞り値とフラッシュの調光レベル	絞り値
フラッシュ	フラッシュの調光レベル	–

※カスタムメニューe5が［**フラッシュ・シャッタースピード**］、［**フラッシュ・シャッタースピード・絞り値**］、［**フラッシュ・絞り値**］のいずれかのときに、［**感度自動制御**］（118）が［**する**］に設定され、フラッシュを使用していない場合、ブラケティング1コマ目のISO感度で固定されます。

フラッシュ調光レベルについて

フラッシュブラケティング中は、フラッシュ調光レベルは、i-TTL調光時または絞り連動外部自動調光時のみ変化します。

e6：BKTの順序

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

N [0] → [−] → [+]	「補正なし」→「−側に補正」→「＋側に補正」の順になります。
−→+ [−] → [0] → [+]	「−側に補正」→「補正なし」→「＋側に補正」の順になります。

- カスタムメニューe4［**オートブラケティングのセット**］が［**ADLブラケティング**］の場合、e6の設定を変更しても補正順序は変わりません。

f：操作

f1：中央ボタンの機能

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

撮影時と再生時にマルチセレクターの**中央**ボタンを押したときの機能を設定できます（1コマ表示中の画像が動画の場合、［**再生モード**］の設定にかかわらず、**中央**ボタンを押すと動画を再生します）。

撮影モード

RESET **フォーカスポイント中央リセット**	マルチセレクターの**中央**ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
使用しない	マルチセレクターの**中央**ボタンは機能しません。

再生モード

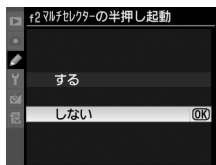
1コマとサムネイルの切り換え	マルチセレクターの**中央**ボタンを押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
ヒストグラム表示	マルチセレクターの**中央**ボタンを押している間、ヒストグラム（□239）を表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
拡大画面との切り換え	マルチセレクターの**中央**ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度**中央**ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • ［**拡大画面との切り換え**］を選んで▶を押すと、拡大率を［**低倍率**］、［**中倍率**］、［**高倍率**］から選べます。 • サムネイル表示時も拡大表示できます。

ライブビュー

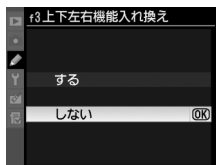
RESET フォーカスポイント中央リセット	ライブビュー表示中にマルチセレクターの**中央**ボタンを押すと、フォーカスポイントが画面中央に移動します。
拡大画面との切り換え	ライブビュー表示中にマルチセレクターの**中央**ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度**中央**ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • ［**拡大画面との切り換え**］を選んで▶を押すと、拡大率を［**低倍率**］、［**中倍率**］、［**高倍率**］から選べます。
●REC 動画記録開始	ライブビュー表示中にマルチセレクターの**中央**ボタンを押すと、動画の撮影を開始します。
使用しない	マルチセレクターの**中央**ボタンは機能しません。

f2：マルチセレクターの半押し起動

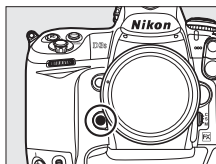
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

半押しタイマー（47）がきれたときにマルチセレクターを操作すると、半押しタイマーが起動するように設定できます。

f3：上下左右機能入れ換え

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

1コマ表示時のマルチセレクターの機能を変更できます。[**する**]を選ぶと、▲または▼を押して表示画像を、◀または▶を押して画像情報のページを切り換えられるようになります。

f4：Fnボタンの機能

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

Fnボタンを単独で押したときの機能と、**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

Fnボタン押し時の動作

Fnボタンを押したときの機能を設定できます。

プレビュー※	レンズの絞り羽根が絞り込まれ、被写界深度が確認できます（124）。
FV-L※	別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400、またはリモートスピードライトSB-R200の使用時は、FVロック（204）を行い、もう一度**Fn**ボタンを押すと解除します。

	AE-L/AF-L	**Fn**ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
	AE-L	**Fn**ボタンを押している間、AEロックを行います。
	AE-L（レリーズでリセット）※	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度**Fn**ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがきれると、解除されます。
	AE-L（ホールド）※	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度**Fn**ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。
	AF-L	**Fn**ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
	フラッシュ発光禁止	**Fn**ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。
BKT	**BKT自動連写**	カスタムメニュー e4の［**オートブラケティングのセット**］が［**WB ブラケティング**］以外の場合でレリーズモードが**CH**または**CL**のときは、**Fn**ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1回分のブラケティング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きブラケティング撮影をします。また、レリーズモードが**S**または**Q**のときは、**Fn**ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1回分のブラケティング設定コマ数を連続撮影します（レリーズモードが**S**の場合は、約8コマ/秒）。 ［**オートブラケティングのセット**］が［**WB ブラケティング**］の場合は、**Fn**ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対してWBブラケティングを行います。
	マルチパターン測光簡易設定	**Fn**ボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光になります。
	中央部重点測光簡易設定	**Fn**ボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光になります。
	スポット測光簡易設定	**Fn**ボタンを押している間、測光モードがスポット測光になります。

🔲	**水準器表示**※	1回押すと、上面表示パネルとファインダー内右表示に水準器インジケーターを表示します（🕮335）。もう一度**Fn**ボタンを押すと、水準器表示を終了します。
▶	**再生**※	**Fn**ボタンに▶ボタンと同じ機能を割り当てます。望遠レンズなどを使用していて、▶ボタンを左手で操作できないときに便利です。
	マイメニューのトップ項目先へジャンプ※	マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
	設定しない	**Fn**ボタンは機能しません。

［**コマンドダイヤル併用時の動作**］を［**ダイナミックAFエリア**］（🕮337）に設定した場合は、［**Fnボタン押し時の動作**］の全ての機能と併用できません。

※これらの機能は、［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（🕮336）とは併用できません。設定するとメッセージが表示され、［**コマンドダイヤル併用時の動作**］が自動的に［**設定しない**］になります。また、これらの機能が選ばれているときに［**コマンドダイヤル併用時の動作**］を［**設定しない**］以外に設定すると、［**Fnボタン押し時の動作**］の設定が自動的に［**設定しない**］になります。

水準器インジケーターについて

［**Fnボタン押し時の動作**］を［**水準器表示**］に設定して**Fn**ボタンを押すと、カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、上面表示パネルとファインダー内右表示に水準器インジケーターを表示します。この「水準器インジケーター」の見方は次の通りです。

	カメラが時計回りに傾いている場合	カメラが正位置の場合（傾いていない場合）	カメラが反時計回りに傾いている場合
上面表示パネル			
ファインダー内右表示			

• カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。

コマンドダイヤル併用時の動作

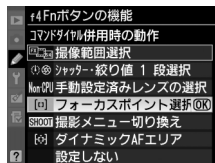
Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

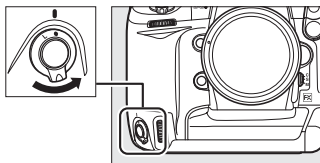
撮像範囲選択	**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、［**撮像範囲**］（82）の設定を切り換えられます。 • 切り換えたい撮像範囲を選択し、マルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。［**設定終了**］を選んでⓄボタンを押すと、設定を完了します。
シャッター・絞り値1段選択	カスタムメニューb2［**露出設定ステップ幅**］の設定にかかわらず、シャッタースピードまたは絞り値を1段ステップで設定できます。 • 露出モードが**S**または**M**のとき、**Fn**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを1段ステップで設定します。 • 露出モードが**A**または**M**のとき、**Fn**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を1段ステップで設定します。
Non-CPU **手動設定済みレンズの選択**	**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（223）で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
フォーカスポイント選択	**Fn**ボタンを押しながら縦位置コマンドダイヤルを回すと、フォーカスポイントを切り換えられます（337）。
SHOOT **撮影メニュー切り換え**	**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、撮影メニューを切り換えられます（295）。

[⊡] **ダイナミックAFエリア**	AFエリアモードセレクトダイヤルを[⊡]（ダイナミックAFモード）に合わせ、フォーカスモードセレクトダイヤルを**C**に設定し、**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して、ダイナミックAFエリア（□309）を切り換えます。 • カスタムメニューa3［**ダイナミックAFエリア**］で［**9点**］、［**21点**］、［**51点**］を選択している場合、**Fn**ボタンを押している間、補助的にピント情報を利用する周辺のフォーカスポイントがファインダー内で確認できます。［**51点（3D-トラッキング）**］の場合は、ファインダー内に「3D」と表示されます。
設定しない	**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

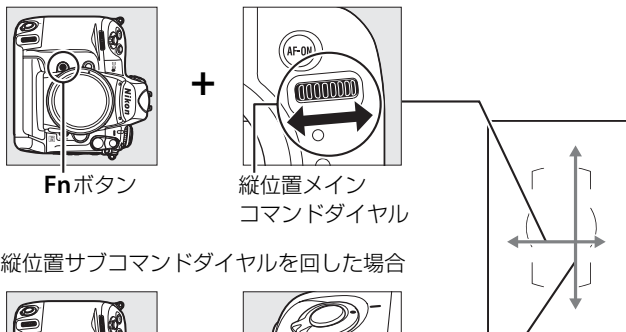
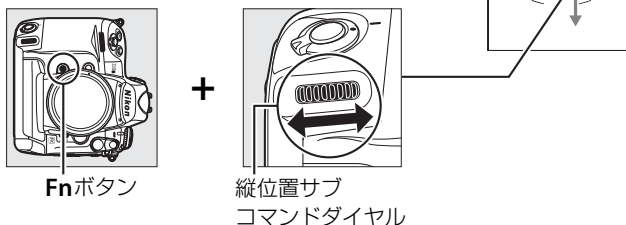
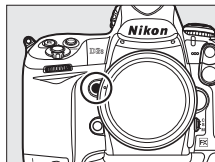
■ Fnボタンと縦位置コマンドダイヤルでフォーカスポイントを選択する

カメラを縦位置で構えるときは、縦位置コマンドダイヤルでフォーカスポイントを選択できます。

1 カスタムメニューf4［Fnボタンの機能］の［コマンドダイヤル併用時の動作］を［フォーカスポイント選択］に設定する

2 縦位置シャッターボタンロックレバーを解除する

縦位置シャッターボタンロックレバー

3 Fnボタンを押しながら、縦位置コマンドダイヤルを回す

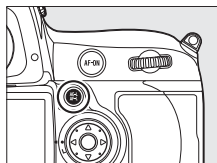
- 縦位置でカメラを構えた状態で、**Fn**ボタンを押しながら縦位置コマンドダイヤルを回します。
- 縦位置メインコマンドダイヤルを回すと横方向にフォーカスポイントが移動します。
- 縦位置サブコマンドダイヤルを回すと縦方向にフォーカスポイントが移動します。

f5：プレビューボタンの機能　MENUボタン ➜ ✐カスタムメニュー

プレビューボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。

■ プレビューボタン押し時の動作

プレビューボタンを押したときの機能は、カスタムメニュー f4［**Fnボタンの機能**］→［**Fnボタン押し時の動作**］（□332）と同じです。ただし、初期設定は［**プレビュー**］です。

■ コマンドダイヤル併用時の動作

プレビューボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニュー f4［**Fnボタンの機能**］→［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（□336）とほぼ同じですが、［**フォーカスポイント選択**］は選べません。初期設定は［**設定しない**］です。

AE/AFロックボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。

AE/AFロックボタン押し時の動作

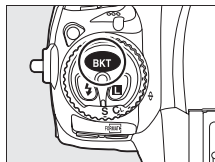
AE/AFロックボタンを押したときの機能は、カスタムメニューf4［**Fnボタンの機能**］→［**Fnボタン押し時の動作**］（□332）とほぼ同じですが、その他に［**AF-ON**］も選べます。［**AF-ON**］に設定した場合、AE/AFロックボタンを押している間、**AF-ON**ボタンを押し続けたときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。この機能は、［**コマンドダイヤル併用時の動作**］とは併用できません。

初期設定は［**AE-L/AF-L**］です。

コマンドダイヤル併用時の動作

AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニューf4［**Fnボタンの機能**］→［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（□336）とほぼ同じですが、［**シャッター・絞り値1段選択**］と［**フォーカスポイント選択**］は選べません。初期設定は［**設定しない**］です。

f7：BKTボタンの機能 MENUボタン ➜ カスタムメニュー

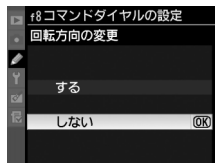
BKTボタンを押したときの機能を設定できます。

BKT **オートブラケティング**	**BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回すと、ブラケティング撮影時の撮影コマ数、補正ステップ、アクティブD-ライティングの度合いを設定できます（□141）。
多重露出	**BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、多重露出モードを設定できます。**BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、多重露出のコマ数を設定できます（□213）。

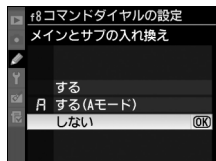
f8：コマンドダイヤルの設定 MENUボタン ➜ カスタムメニュー

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルに関する設定ができます。

■ 回転方向の変更

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの回転方向を逆方向に変更できます。

- 縦位置コマンドダイヤルの回転方向も、同時に変更されます。

メインとサブの入れ換え

シャッタースピードを設定するメインコマンドダイヤルと、絞り値を設定するサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。

する	メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。
A する(Aモード)	露出モードAのときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定します。
しない	メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを、サブコマンドダイヤルで絞り値を設定します。

- 縦位置コマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に露出モードがAまたはMの場合、レンズの絞りリングで絞り値を設定できるように変更できます。

サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤルで絞り値をセットします（［**メインとサブの入れ換え**］を［**する**］に設定した場合は、メインコマンドダイヤルでセットします）。
絞りリング	レンズの絞りリングで絞り値をセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞り値の表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ（Gタイプレンズ）装着時は、［**絞り値の設定方法**］での設定にかかわらず、絞り値はサブコマンドダイヤルで設定します。
- 非CPUレンズ装着時は、［**絞り値の設定方法**］での設定にかかわらず、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。

• 絞りリングのあるCPUレンズ（□390）装着時は、［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定すると、ライブビュー撮影ができません。

> **✔ ライブビュー撮影をする場合のご注意**
> 絞りリングのあるCPUレンズでライブビュー撮影をする場合は、［**絞り値の設定方法**］を［**サブコマンドダイヤル**］に設定してください。

再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセレクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

する	**再生時**： • 1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルで画像情報の表示ページを切り換えます。 • サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、上下に移動します。 **メニュー画面表示時**※**：** メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。
しない	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセレクターを操作して行います。

※サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、Ⓚボタンか、マルチセレクターの▶または**中央**ボタンを押してください。

f9：ボタンのホールド設定

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ボタンを押しながらコマンドダイヤルを操作するときに、指を放しても設定できる状態が維持できます。

［**ボタンのホールド設定**］の対象ボタンは、**MODE**ボタン、**⊠**ボタン、**BKT**ボタン、**⚡**ボタン、**ISO**ボタン、**QUAL**ボタンおよび**WB**ボタンです。

する	1回ボタンを押すと、ボタンを放しても設定できる状態が維持され、コマンドダイヤルで設定できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがきれると、解除されます。 • カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］が［**制限なし**］に設定されている場合には、自動的に解除されません。
しない	ボタンを押し続けている間のみ設定できる状態となります。

f10：カードなし時レリーズ

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

カメラにメモリーカードを入れていないときのレリーズ操作を設定できます。

LOCK レリーズ禁止	メモリーカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK レリーズ許可	メモリーカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には［デモモード］と表示され、画像は記録できません。

f11：インジケーター表示の＋/－方向

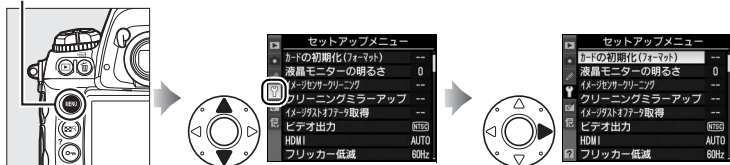
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

上面表示パネルとインフォ画面（info）での露出、露出補正、オートブラケティングのインジケーターの＋と－方向を入れ換えることができます。

+0-	インジケーターの＋側を左に、－側を右に表示します。
-0+	インジケーターの－側を左に、＋側を右に表示します。

セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定

MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。

MENUボタン

セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	🕮
カードの初期化（フォーマット）	347
液晶モニターの明るさ	347
イメージセンサークリーニング	401
クリーニングミラーアップ※	404
イメージダストオフデータ取得	348
ビデオ出力	350
HDMI	350
フリッカー低減	351
地域と日時	352
言語（Language）	352
画像コメント	353
縦横位置情報の記録	354

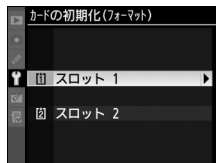
メニュー項目	🕮
音声メモの設定	256
電池チェック	355
ワイヤレストランスミッター	268
画像真正性検証機能	356
著作権情報	357
カメラ設定の保存と読み込み	358
GPS	229
水準器表示	360
レンズ情報手動設定	223
AF微調節	361
ファームウェアバージョン	362

※バッテリー残量表示が以下のときは選べません。

関連ページ

「セットアップメニューの初期設定」（🕮419）

カードの初期化（フォーマット）　MENUボタン ➜ セットアップメニュー

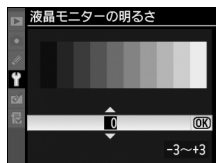
メモリーカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで［**はい**］を選ぶと、選んだスロットのメモリーカードを初期化します。**初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。

カードの初期化についてのご注意

［**カードの初期化（フォーマット）中です。**］のメッセージが液晶モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、メモリーカードを取り出さないでください。

ボタン操作による初期化

FORMATボタン（ボタンとMODEボタンの2つ）を2秒以上同時に押して初期化することもできます（□41）。

液晶モニターの明るさ　MENUボタン ➜ セットアップメニュー

液晶モニターの明るさを、マルチセレクターの▲または▼を押して調整できます。+にすると明るく、−にすると暗くなります。

関連ページ

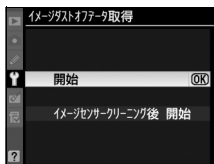
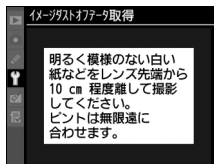
ライブビュー表示中の液晶モニターの明るさを設定する ➞「液晶モニターの明るさを設定する」（□57）

イメージダストオフデータ取得　MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

別売のCapture NX 2（□397）の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX 2 の使用説明書をご覧ください。

イメージダストオフデータ取得の手順

1　イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- ［**開始**］を選んで⊛ボタンを押すと、［イメージダストオフデータ取得］画面が表示されます。

- ［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選んで⊛ボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、［イメージダストオフデータ取得］画面が表示されます。

- 液晶モニターと上面表示パネル、ファインダー内下表示に右のように表示されます。

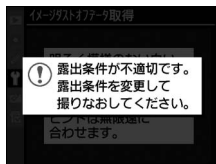
- データ取得を取り消したいときは、MENUボタンを押してください。

> **イメージセンサークリーニングについてのご注意**
>
> イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、Capture NX 2のイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選択後に撮影することをおすすめします。

2 レンズ先端から10cm 程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。

✓ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、[**イメージダストオフデータ取得**] を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のレンズ（DXレンズを除く）をおすすめします（🕮388）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。

ビデオ出力

MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を設定します。

NTSC	NTSC方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。通常、日本国内でお使いの場合は、こちらを選択します。
PAL	PAL方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。

HDMI

MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

HDMIを備えたハイビジョンテレビやモニターへの出力方式を設定できます。

AUTO **オート**	出力先の映像信号形式を自動的に検出します。
480p **480p（プログレッシブ）**	640×480 ピクセルのプログレッシブ出力方式です。
576p **576p（プログレッシブ）**	720×576 ピクセルのプログレッシブ出力方式です。
720p **720p（プログレッシブ）**	1280×720 ピクセルのプログレッシブ出力方式です。
1080i **1080i（インターレース）**	画像再生時に1920×1080 ピクセルのインターレース出力方式で出力します。ライブビュー表示や動画は1280×720 ピクセルで出力します。

- 画像をHDMIで再生しているときは、カメラの液晶モニターでは再生できません。

HDMIとは

High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。このカメラでは市販のHDMIミニ端子ケーブル（Type C）を使ってHDMI対応機器と接続できます。

フリッカー低減

MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

蛍光灯や水銀灯などの光源下で、ライブビュー表示中（□56）や動画撮影時（□68）に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。お使いの地域の電源周波数に応じて、［**50 Hz**］と［**60 Hz**］から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では［**50 Hz**］を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では［**60 Hz**］を選んでください。

☑ フリッカー低減についてのご注意

- 電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをすることをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- ［**三脚撮影**］時の露出プレビュー（□59）では、設定したISO感度、シャッタースピードが必ずしも反映されないため、フリッカー低減効果が得られないことがあります。そのような場合も、露出モードを**S**か**M**に設定し、シャッタースピードを変更することで、効果が得られることがあります。
- 高感度動画撮影モードを［**する**］にして撮影すると、フリッカー低減効果が得られないことがあります。

地域と日時

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。日時設定の手順については、「日付と時刻を設定する」をご覧ください（📖34）。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、［**日時の設定**］で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	［**現在地の設定**］で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、［**年/月/日**］、［**月/日/年**］、［**日/月/年**］から選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は［**する**］に、そうでない場合は［**しない**］に設定します。［**する**］にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は［**しない**］です。

- 日時が設定されていない場合、上面表示パネルに時刻未設定マークCLOCKが点滅して警告します。

言語（Language）

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を、次の中から選べます。

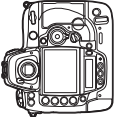
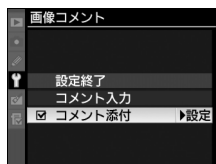
Cz	Čeština	チェコ語
Dk	Dansk	デンマーク語
De	Deutsch	ドイツ語
En	English	英語
Es	Español	スペイン語
Fr	Français	フランス語
Id	Indonesia	インドネシア語
It	Italiano	イタリア語
Nl	Nederlands	オランダ語
No	Norsk	ノルウェー語
Pl	Polski	ポーランド語
Pt	Português	ポルトガル語
Ru	Русский	ロシア語
Fi	Suomi	フィンランド語
Sv	Svenska	スウェーデン語
Tr	Türkçe	トルコ語
繁	中文(繁體)	繁体中国語
简	中文(简体)	簡体中国語
日	日本語	日本語
한	한글	韓国語

画像コメント

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、付属のViewNXや別売のCapture NX 2（□397）のメタデータで確認できます。

コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。［**コメント入力**］を選ぶと、画像コメントの入力画面が表示されます。コメントを入力し、Ⓞボタンを押すと、コメントが登録されます。入力画面での文字の入力方法については、「撮影メニュー切り換え」の「名前編集」をご覧ください（□296）。

コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、［**コメント添付**］を選んでマルチセレクターの▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。［**設定終了**］を選んでⓄボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。

画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報3」の「画像コメント」に表示されます（□242）。

縦横位置情報の記録

MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

<table>
<tr><td>する</td><td>液晶モニターや付属のViewNX、別売のCapture NX 2（□397）で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。
記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3 種類です。
 横位置
 縦位置 時計回りに 90º回転
 縦位置 反時計回りに 90º回転</td></tr>
<tr><td>しない</td><td>縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。</td></tr>
</table>

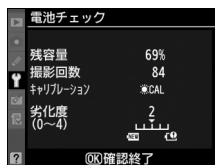
縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

再生メニュー［縦位置自動回転］

再生メニューの［**縦位置自動回転**］（□291）では、［**縦横位置情報の記録**］を［**する**］に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。ただし、撮影直後の画像確認時は、縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、自動回転しません。

電池チェック

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。

残容量	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
撮影回数	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
キャリブレーション	キャリブレーションの必要性の有無を表示します。キャリブレーションはバッテリー容量をより正確に測定するための機能で、充放電をある程度繰り返すと［CAL］が表示されます。 • ［CAL］が表示されているときは、キャリブレーションをすることをおすすめします（□445）。 • ［--］が表示されているときは、キャリブレーションの必要はありません。
劣化度	バッテリーの劣化度合いが5 段階のバーグラフで表示されます。 • バーグラフが「0」（NEW）のときは、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」（）のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

［**撮影回数**］に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1 ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、［**電池チェック**］で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

画像真正性検証機能

MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

画像が撮影後に改ざんされていないことを判別する「真正性検証情報」を画像に埋め込むことができます（真正性を検証するには、別売の「画像真正性検証ソフトウェア」が必要です）。高い信頼性が求められる業務などでの使用に便利です。詳しくは画像真正性検証ソフトウェアの使用説明書（PDF）をご覧ください。なお、すでに撮影した画像には、後から真正性検証情報を埋め込むことはできません。

ON する	撮影する全ての画像に真正性検証情報を埋め込むことができます。
しない	真正性検証情報を埋め込みません。

真正性検証情報が埋め込まれた画像には、画像情報の「標準表示」と「統合表示」にを表示します（□236、244）。

✔ 転送時のご注意

別売のCamera Control Pro 2を用いてパソコンに画質モードが［**TIFF (RGB)**］の撮影画像を転送する場合、［**画像真正性検証機能**］は無効となります。

画像編集機能で作成された画像について

画像編集メニュー（□363）の各機能で作成した画像には、真正性検証情報は埋め込まれません。

著作権情報

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。撮影者名を36文字まで、著作権者名を54文字まで登録できます。添付された著作権情報は、付属のViewNXや別売のCapture NX 2（□397）のメタデータで確認できます。

撮影者名入力、著作権者名入力

撮影者名、著作権者名を登録するには、［**撮影者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと表示される入力画面で名前を入力し、㊍ボタンを押します。

- 入力画面での文字の入力方法については、「撮影メニュー切り換え」の「名前編集」をご覧ください（□296）。

著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、［**著作権情報添付**］を選んでマルチセレクターの▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。［**設定終了**］を選んで㊍ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。

✔ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、［**著作権情報添付**］の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- ［**著作権情報**］の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報4」に表示されます（□242）。

カメラ設定の保存と読み込み MENUボタン ➔ Y セットアップメニュー

カメラの各機能の設定データをメモリーカードに保存できます。また、メモリーカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数のD3Sを同じ設定で使う場合などに便利です。

- **ここで使用するメモリーカードはスロット1に入れてください。スロット2に入っているメモリーカードは認識されません。**

設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

再生メニュー	再生画面設定
	撮影直後の画像確認
	削除後の次再生画像
	縦位置自動回転
撮影メニュー（A～D全メニュー）	撮影メニュー切り換え
	拡張撮影メニューの設定
	ファイル名設定
	画像記録モード
	画質モード
	画像サイズ
	撮像範囲
	JPEG圧縮
	RAW記録
	ホワイトバランス（微調整量、プリセットマニュアルデータ）
	ピクチャーコントロール
	色空間
	アクティブD-ライティング
	ヴィネットコントロール
	長秒時ノイズ低減
	高感度ノイズ低減
	ISO感度設定
	ライブビューモード
	動画の設定
カスタムメニュー（A～D全メニュー）	[**カスタムメニューのリセット**]を除く全メニュー

セットアップメニュー	イメージセンサークリーニング
	ビデオ出力
	HDMI
	フリッカー低減
	地域と日時（日時の設定を除く）
	言語（Language）
	画像コメント
	縦横位置情報の記録
	音声メモの設定
	画像真正性検証機能
	著作権情報
	GPS
	レンズ情報手動設定
マイメニュー / 最近設定した項目	マイメニューに登録したメニュー項目
	最近設定したメニュー項目
	このタブの機能変更

■ 保存

カメラの設定データをメモリーカードに保存します。メモリーカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

■ 読み込み

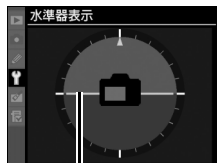
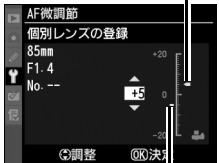
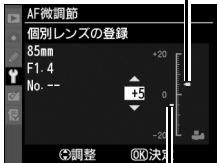
メモリーカードからカメラの設定データを読み込みます。メモリーカードが装着されていないときや、メモリーカードに設定データが記録されていないときは、［**読み込み**］は選べません。

> **設定データについてのご注意**
>
> メモリーカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSETUP6」です。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

水準器表示

基準線

カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、液晶モニターに右図のような水準器を表示します。

- カメラが水平や垂直になると、水準器表示の基準線が緑色に変わります。

☑ 水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。

関連ページ

- 上面表示パネルとファインダー内右表示に水準器インジケーターを表示する → ✎ f4［**Fnボタンの機能**］（🕮332、335）
- ライブビュー表示中に水準器を表示する →「ライブビュー表示中の情報表示について」（🕮65）

AF微調節

MENUボタン ➔ セットアップメニュー

装着したレンズごとに最適なピント合わせを行いたいときに、自分でピント位置を調節できます。通常はAF微調節を行う必要はありません。必要な場合のみ調節を行ってください。正常なレンズを調整すると、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

AF微調節 (する/しない)	する	AF微調節の設定が有効になります。
	しない	AF微調節を行いません。
個別レンズの登録	装着しているCPUレンズの微調節値を登録できます。マルチセレクターの▲または▼を押して、＋20～－20の範囲で調節できます。最大20種類のレンズを登録できます。 • 非CPUレンズや、すでに登録してあるレンズと同じ種類のレンズは登録できません。	今回の微調節値 ピントが合う位置がカメラから遠ざかります。
その他レンズの登録	［**個別レンズの登録**］で登録していないCPUレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。▲または▼を押して、＋20～－20の範囲で調節できます。	前回設定した微調節値 ピントが合う位置がカメラに近づきます。

AF微調節
個別レンズの登録
85mm
F1.4
No. --
+20
+5
0
-20
調整
OK決定

個別レンズ登録リスト	［**個別レンズの登録**］で登録したレンズを一覧表示します。現在装着しているレンズには、レンズ名の左側に▮が表示されます。登録リストからレンズを選んで▶を押すと、右の画面が表示されます。 • ［識別番号入力］画面では、レンズの識別番号を変更できます。▲または▼を押して識別番号を選んで、Ⓚボタンを押します。［**個別レンズの登録**］は同じ種類のレンズを複数登録できないため、たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号の末尾2桁などを設定しておくと、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。

☑ AF微調節設定時のご注意

AF微調節を行うと、レンズの無限遠側または至近側で、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

☑ ライブビュー撮影（三脚撮影）時のAF微調節について

［**三脚撮影**］（📖57）でのライブビュー表示中にコントラストAFでピント合わせを行うときは、［**AF微調節**］で設定した微調節値は適用されません。

📎 個別レンズの登録について

同じ種類のレンズは複数登録できませんが、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。

📎 登録したレンズを削除するには

［**個別レンズの登録**］で登録したレンズを削除するには、［個別レンズ登録リスト］画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、🗑ボタンを押します。

ファームウェアバージョン

MENUボタン ➔ 🔧 セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー：
撮影した画像に行う編集機能

MENUボタンを押して、タブの アイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。

画像編集メニューでは、メモリーカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像として記録されます。また、［**動画編集**］を選ぶと、動画も編集できます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

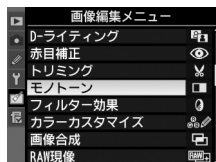
メニュー項目	📖
D-ライティング※	367
赤目補正※	368
トリミング	369
モノトーン※	371
フィルター効果※	371
カラーカスタマイズ※	372

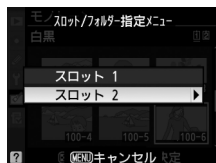
メニュー項目	📖
画像合成	373
RAW現像	376
リサイズ	378
編集前後の画像表示	380
動画編集	77

※撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］（📖176）を［**モノクローム**］にして撮影した画像に対して、これらの画像編集を行うことはできません。

画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

- マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選び、▶を押します。
- 画像の選択画面が表示されます。
- メニュー項目によっては、さらに詳細なメニューが表示される場合があります。

2 画像を選ぶ

- マルチセレクターを▲▼◀▶、ななめ方向に押して画像を選びます。
- ⊠ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- ⊠ボタンを押しながらマルチセレクターの▲を押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます（□234）。

3 編集画面を表示させる

- 画像を選んで㊉ボタンを押すと、編集画面が表示されます。

4 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、MENUボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

5 編集した画像を記録する

- ⓞボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には☑が付きます。

☑ 画像編集についてのご注意

- カメラにメモリーカードが入っていない場合やメモリーカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューは表示されません。
- D3S以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、D3Sでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまま20 秒経過すると、液晶モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニュー c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（□320）の［**メニュー表示**］の時間を長く設定することをおすすめします。

繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、褪色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません（［**画像合成**］、［**動画編集**］の［**始点の設定**］と［**終点の設定**］を除く）。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- ［**トリミング**］、［**リサイズ**］、［**動画編集**］の［**選択フレームの保存**］で作成した画像に対してさらに画像編集を行うことはできません。
- ［**モノトーン**］で作成した画像に対して、さらに［**D- ライティング**］、［**赤目補正**］、［**フィルター効果**］、［**カラーカスタマイズ**］の画像編集を行うことはできません。

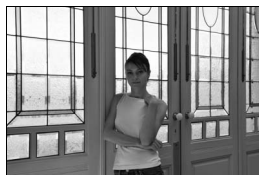
画質モードと画像サイズについて

［**D-ライティング**］、［**赤目補正**］、［**モノトーン**］、［**フィルター効果**］、［**カラーカスタマイズ**］で作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録します。ただし、元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、［**画質モード**］が［**FINE**］、［**画像サイズ**］が［**サイズL**］のJPEG 画像を作成します。TIFF（RGB）で撮影された画像の場合、画質モードは［**FINE**］になりますが、元画像と同じ画像サイズで記録します。また、どの画質モードで撮影した画像も、［**JPEG圧縮**］は［**サイズ優先**］になります。

D-ライティング

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。

D-ライティング前

D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクターの▲または▼を押して、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］の3段階から選びます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- OKボタンを押すと、編集した画像を記録します。

赤目補正

MENUボタン → 画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

編集画面では、プレビュー画像が表示され、次の操作ができます。

操作	ボタン	説明	
拡大率を上げる	＋	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを右に回すと、拡大率が上がります。	赤目補正 拡大表示中にこれらの操作を行うと、画像全体が表示され、拡大部分が黄色い枠で囲んで示されます。ボタンを放すと、黄色い枠の部分を拡大表示します。
拡大率を下げる	＋	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを左に回すと、拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）する	＋	画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
拡大表示を終了する	OK	拡大表示中にボタンを押すと、拡大表示を終了します。	
画像を保存する	OK	補正した画像を記録します。	

赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

操作	ボタン	説明
切り抜く範囲を狭くする	＋	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを右に回すと、枠が小さくなります。 • トリミングで切り抜かれる範囲は狭くなります。
切り抜く範囲を広くする	＋	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを左に回すと、枠が大きくなります。 • トリミングで切り抜かれる範囲は広くなります。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、縦横比を3：2、4：3、5：4、1：1、16：9に変更できます。
画面をスクロール（移動）させる		トリミングで切り抜く範囲を移動します。
画像のプレビューを見る		トリミングした画像のイメージを見ることができます。
トリミングを実行して画像を保存する	OK	トリミングした画像を記録します。

トリミング画像の画質モードと画像サイズについて

- トリミング画像の画質モード（□88）は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードや［**TIFF (RGB)**］のときは［**FINE**］になり、［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］のときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは、トリミング時の拡大率とアスペクト比により異なります。

アスペクト比	画像サイズ
3：2	3424×2280、2560×1704、1920×1280、1280×856、960×640、640×424
4：3	3424×2568、2560×1920、1920×1440、1280×960、960×720、640×480
5：4	3216×2568、2400×1920、1808×1440、1200×960、896×720、608×480
1：1	2560×2560、1920×1920、1440×1440、960×960、720×720、480×480
16：9	3424×1920、2560×1440、1920×1080、1280×720、960×536、640×360

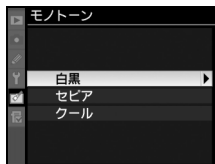
トリミング画像についてのご注意

トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。

モノトーン

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

［**モノトーン**］を選ぶと、右のメニューが表示され次の色調を選ぶことができます。

白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

編集画面では、プレビュー画像を表示します。

- ［**セピア**］または［**クール**］を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- OKボタンを押すと、編集した画像を記録します。

フィルター効果

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

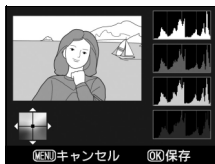
画像全体の色調を演出できます。

スカイライト	スカイライトフィルターと同様に、画像の青みを抑える効果があります。	編集画面では、プレビュー画像を表示します。
ウォームトーン	画像を暖色にする効果があります。	

- OKボタンを押すと、編集した画像を記録します。

カラーカスタマイズ

画像全体の色調を調整できます。

右のような画面が表示され、マルチセレクターで画像全体の色調を調整できます。▲▼◀ ▶を押すたびに、画面全体の色調が次のように変わります。

色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム（色の分布図：239）に反映されます。

- ⓞⓚボタンを押すと、編集した画像を記録します。

プレビュー画像の拡大表示について

調整画面で ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを右方向に回してから ボタンを放すと、プレビュー画像を拡大表示し、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。 ボタンを押しながらマルチセレクターを▲▼◀▶またはななめ方向に押して拡大エリア選択枠を動かすと、画像の拡大したい部分を選べます。 ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを左方向に回すと、拡大率が下がります。

画像合成

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

メモリーカードに記録されているRAW 画像2 コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

- 合成画像の画質モード（□88）と画像サイズ（□92）は、合成時のカメラの設定と同じになります。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW 画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。

画像合成の手順は次の通りです。

1 ［画像合成］を選んでマルチセレクターの▶を押す

- ［**画像合成**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、右のような画面が表示され、［**画像1**］欄がハイライト表示されます。

2 合成する画像の1 コマ目を選ぶ

- ⊛ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
- ⊞ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

3 1コマ目の画像を決定する

- ⊛ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、［**画像1**］欄にプレビューが表示されます。

4 2コマ目の画像を選ぶ

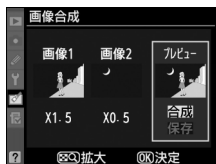
- ▶を押して［**画像2**］を選び、手順2～3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。

5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に［**画像1**］と［**画像2**］を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、［**画像1**］または［**画像2**］を選んでから▲または▼を押してゲイン（出力）を設定します。

- ゲインは0.1 ～ 2.0 の範囲で、0.1 刻みで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。

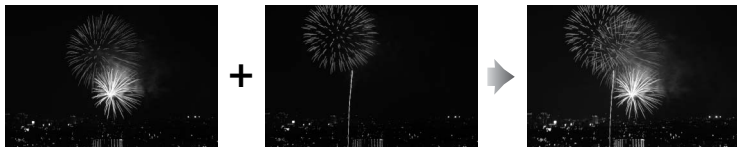
6 ［プレビュー］欄に移動する

- ◀または▶を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、［**保存**］を選んで㊍ボタンを押してください。

7 合成画像を確認する

- ［**合成**］を選び、㊍ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、⊠Qを押してください。手順5の画面に戻ります。

8 合成画像を保存する

- もう一度㊋ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。

 +

画像合成についてのご注意

- 合成できる画像は、D3Sで撮影したRAW 画像だけです。機種の異なるカメラやRAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- ［**撮像範囲**］と［**記録ビットモード**］が同じRAW画像のみ合成できます。
- 非表示設定されている画像は選べません。
- 合成時に RAW を含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、記録方式は合成時のカメラの設定になります。
- 合成時の画質モードがJPEGの場合、［**JPEG圧縮**］は［**サイズ優先**］になります。
- 合成画像のホワイトバランス、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、［**画像1**］で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

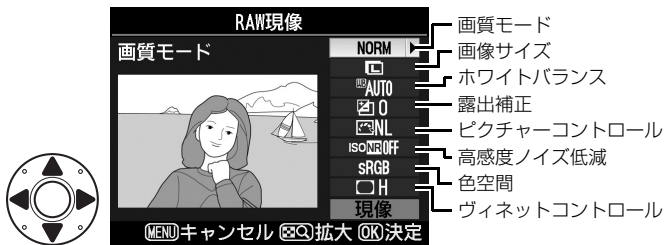
画質モード［**RAW**］または［**RAW+FINE**］、［**RAW+NORMAL**］、［**RAW+BASIC**］（□88）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 ［RAW現像］を選んでマルチセレクターの▶を押す

- ［**RAW現像**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。

2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセレクターを操作してRAW現像する画像を選んでOKボタンを押します。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

3 ［画質モード］（□88）、［画像サイズ］（□92）、［ホワイトバランス］（□154）、［露出補正］（□139）、［ピクチャーコントロール］（□176）、［高感度ノイズ低減］（□303）、［色空間］（□189）、［ヴィネットコントロール］（□302）をそれぞれ設定する

4 RAW現像する

- ［**現像**］を選んで㊙ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存されます。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、MENUボタンを押してください。

☑ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、D3Sで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 多重露出撮影した画像や［**画像合成**］で編集した画像の場合、［**ホワイトバランス**］と［**ヴィネットコントロール**］は選べません。
- ［**露出補正**］で設定できる明るさ（−3〜＋3）は、通常の露出補正の段数とは異なります。
- RAW 現像の［**ピクチャーコントロール**］では、調整時のグリッド表示はできません(□180)。

リサイズ

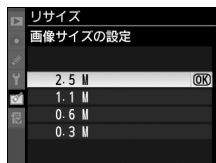
MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

サイズの小さい画像を作成します。

1 ［リサイズ］を選んでマルチセレクターの▶を押す

- ［**リサイズ**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、右の画面が表示されます。

2 画像サイズを設定する

- ［**画像サイズの設定**］を選んで▶を押すと、［**画像サイズの設定**］画面が表示されます。
- 画像サイズのピクセルはそれぞれ次のようになります。

画像サイズ	ピクセル
2.5M	1920×1280
1.1M	1280×856
0.6M	960×640
0.3M	640×424

- ▲または▼で、画像サイズを選んでOKボタンを押します。

3 ［画像選択］を選ぶ

- ［**画像選択**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。

4 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターを操作して、リサイズしたい画像を選びます。
- ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

5 設定する

- マルチセレクターの**中央**ボタンを押して設定します、設定するとが表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、が消えます。

- リサイズする画像全てに設定したら、ボタンを押します。

6 リサイズ画像を作成する

- ▲または▼で、［**はい**］を選んでボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。

リサイズ画像についてのご注意

- リサイズ画像は拡大表示できないことがあります。
- リサイズ画像の画質モード（88）は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードや［**TIFF（RGB）**］のときは［**FINE**］になり、［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］のときは元画像と同じ画質モードになります。
- 撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］（83）を［**5:4 (30 × 24)**］にして撮影した画像は、リサイズできません。

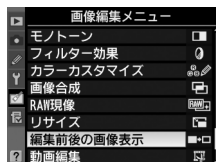
編集前後の画像表示

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

画像編集を行った画像を、編集元の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。

編集前後の画像表示方法

1 ［編集前後の画像表示］を選ぶ

- ［**編集前後の画像表示**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像選択画面を表示します。

2 画像を選ぶ

- 6コマサムネイルで表示します。マルチセレクターを操作して画像を選び、OKボタンを押します。
- 画像編集で作成した画像（が表示されている画像）または画像編集の元画像のみを選べます。
- ボタンを押している間、画像を拡大表示します。

3 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクターの◀または▶で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲または▼で2枚の元画像を切り換えられます。
- ⊠ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ⓚボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を選択した状態で、6コマサムネイル表示に戻ります。
- MENUボタンを押すと、画像編集メニュー画面に戻ります。

☑ 編集前後の画像表示についてのご注意

- 次の画像を編集した場合は、編集前の画像は表示されません。
  - -プロテクト（□249）が設定されている画像
  - -真正性検証情報（□356）が埋め込まれている画像
- 編集元の画像を削除した場合や非表示設定（□285）にした場合、画像の入ったカードが画像編集時とは違うスロットに入っている場合も、編集前の画像には表示されません。

マイメニュー：
よく使うメニューを登録する

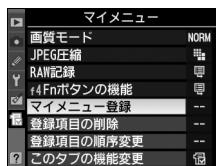
MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、［マイメニュー］画面が表示されます。

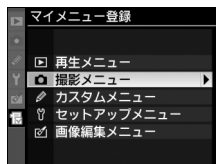
MENUボタン

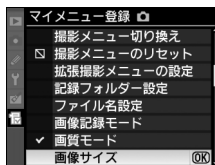
再生、撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。また、マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更することもできます（□386）。

■マイメニューを登録する

1 ［マイメニュー］画面で［マイメニュー登録］を選ぶ

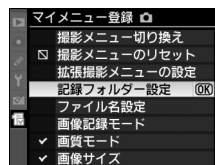
- ［**マイメニュー登録**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

2 登録したいメニューを選ぶ

- 登録したいメニューを選んで▶を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。

3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

- マイメニューに登録する項目を選んで㊙ボタンを押します。

4 登録する項目の表示位置を選ぶ

- ▲または▼で登録する項目の表示位置を選んで、㊙ボタンを押します。

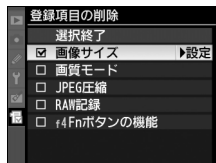
5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

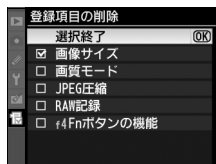
- ✔が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に⧄が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録し㊙ボタンを押すと、マイメニューに一覧表示されます。

登録した項目を削除する

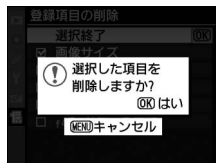
1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の削除］を選ぶ

- ［**登録項目の削除**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- ▶を押すと、項目の左側のチェックボックスが☑になります。
- 削除したい全ての項目に✔を入れます。

3 ［選択終了］を選ぶ

- ［**選択終了**］を選んで㊉ボタンを押すと、確認画面が表示されます。

4 選んだ項目を削除する

- ㊉ボタンを押すと、選択した項目が削除されます。

ボタン操作で登録した項目を削除するには

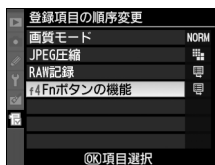
［マイメニュー］画面で削除したい項目を選んで🗑ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

▮▮登録した項目の表示順序を変える

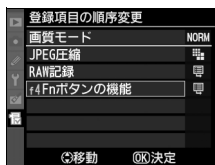
1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の順序変更］を選ぶ

- ［**登録項目の順序変更**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、Ⓞボタンを押します。

3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

- ▲または▼で移動したい位置を選んで、Ⓞボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。

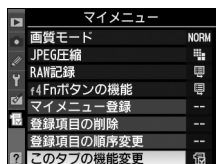
- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。

ボタン操作で登録した項目の表示順序を変えるには

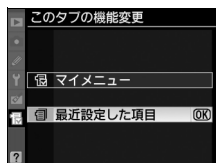
［マイメニュー］画面で項目を選んでボタンを押すと、選んだ項目が黄色い枠で囲んで表示されます。ボタンを押したままマルチセレクターの▲または▼を押して、移動したい位置に移動します。ボタンを放すと順序が決定します。

▌マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更する

マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更すると、最後に設定したメニュー項目から順番に20項目が自動的に表示されます。

1 ［マイメニュー］画面で［このタブの機能変更］を選ぶ

- ［このタブの機能変更］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 ［最近設定した項目］を選ぶ

- ［このタブの機能変更］画面で［**最近設定した項目**］を選んで、ボタンを押します。
- マイメニューが「最近設定した項目」に切り替わります。

3 通常のメニュー操作を行う

- メニューを設定するたびに、「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。

最近設定した項目を削除するには

［最近設定した項目］画面で削除したい項目を選んでボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

「最近設定した項目」からマイメニューに戻すには

「最近設定した項目」の［**このタブの機能変更**］を選択すると、手順2と同じ画面が表示されます。［**マイメニュー**］を選んでボタンを押すと、マイメニューに切り替わります。

資料

このカメラで使えるアクセサリーやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

レンズ＼モード		フォーカスモード			露出モード		測光モード		
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	P S	A M	マルチパターン測光		中央部重点測光/スポット測光
							3D-RGB	RGB	
CPUレンズ※1	Gタイプレンズ※2、Dタイプレンズ※2、AF-Iレンズ、AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	○	×	○※3
	PC-E NIKKORシリーズ	×	○※5	○	○※5	○※5	○※5	×	○※3、5
	PCマイクロ 85mm F2.8D※4	×	○※5	○	×	○※6	○	×	○※3、5
	AF-S/AF-Iテレコンバーター※7	○※8	○※8	○	○	○	○	×	○※3
	Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○※9	○※9	○	○	○	×	○	○※3
	AI-Pニッコール	×	○※10	○	○	○	×	○	○※3
非CPUレンズなど※11	AI-S、AI、AI改造レンズ、シリーズEレンズ※12	×	○※10	○	×	○※13	×	○※14	○※15
	メディカル120mm f/4	×	○	○	×	○※16	×	×	×
	レフレックスレンズ	×	×	○	×	○※13	×	×	○※15
	PCニッコール	×	○※5	○	×	○※17	×	×	○
	AI-S、AIテレコンバーター※18	×	○※8	○	×	○※13	×	○※14	○※15
	ベローズPB-6 ※19	×	○※8	○	×	○※20	×	×	○
	オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	×	○※8	○	×	○※13	×	×	○

※1　IXレンズは装着できません。

※2　このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。

※3　フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（□122）。

※4　カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作（シフトまたはティルト）をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。

※5　アオリ操作をしていない場合のみ可能。

※6　露出モードはMで使用可能。

※7　AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用（🕮391）。

※8　合成絞り値がF5.6 以上明るい場合に使用可能。

※9　AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S（New）、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

※10 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

※11 一部装着不可能なレンズ（🕮390）があります。

※12 AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。

※13 レンズ情報手動設定（🕮223）でレンズの開放絞り値を設定することにより上面表示パネル、ファインダー内下表示に絞り値が表示されます。

※14 レンズ情報手動設定（🕮223）でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても充分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選択して撮影してください。

※15 レンズ情報手動設定（🕮223）で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。

※16 露出モードがMでフラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードのときに使えます。

※17 絞り込み測光で使用します。露出モードがAの場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後にアオリ操作を行ってください。露出モードがMの場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。

※18 AI 28–85mm f/3.5–4.5S、AI 35–105mm f/3.5–4.5S、AI 35–135mm f/3.5–4.5S、AF-S 80–200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。詳細はテレコンバーターの使用説明書をご覧ください。

※19 オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。

※20 絞り込み測光で使用可能、露出モードがAの場合はベローズ側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。

- 複写装置PF-4へはカメラアダプター PA-4を併用すると装備できます。

使用できないレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

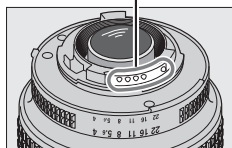
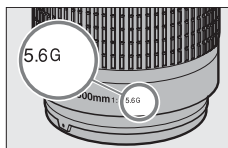
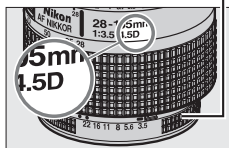
- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360–1200mm f/11 （製品 No.174031～174127）
- 200–600mm f/9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品 No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品 No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品 No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品 No.200111～200310）

レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5–5.6」などと記されています。

CPUレンズ、Gタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。G タイプレンズには、絞りリングがありません。

CPUレンズ

Gタイプレンズ

Dタイプレンズ

AF-S/AF-Iテレコンバーターについて

AF-S/AF-Iテレコンバーターは、AF-Sレンズと AF-Iレンズ専用のテレコンバーターです。使用できるレンズは、次の通りです。

AF-S VR マイクロED 105mm f/2.8G ※1
AF-S VR ED 200mm f/2G
AF-S VR ED 300mm f/2.8G
AF-S ED 300mm f/2.8D II
AF-S ED 300mm f/2.8D
AF-I ED 300mm f/2.8D
AF-S ED 300mm f/4D ※2
AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
AF-S ED 400mm f/2.8D II
AF-S ED 400mm f/2.8D
AF-I ED 400mm f/2.8D
AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR※2
AF-S ED 500mm f/4D II ※2
AF-S ED 500mm f/4D ※2
AF-I ED 500mm f/4D ※2
AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR※2
AF-S ED 600mm f/4D II ※2
AF-S ED 600mm f/4D ※2
AF-I ED 600mm f/4D ※2
AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8G ED VR II
AF-S VR ED 70–200mm f/2.8G
AF-S ED 80–200mm f/2.8D
AF-S VR ED 200–400mm f/4G ※2

※1 AF撮影はできません。
※2 AF-Sテレコンバーター TC-17E II/TC-20E II との組み合わせでは、AF撮影はできません。

非CPUレンズを使用する場合は

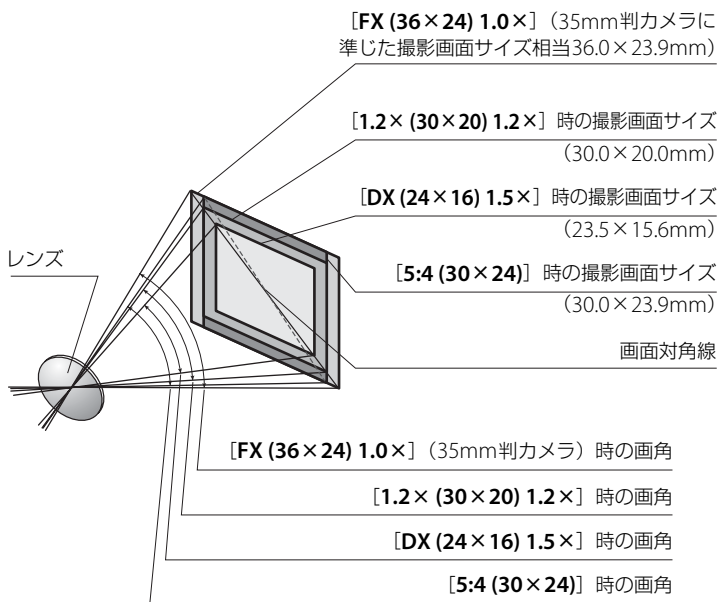
非CPUレンズを使用する場合は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（□223）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などCPUレンズをカメラに装着した場合の機能の一部が使用できるようになります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、RGBマルチパターン測光が使用できなくなり、RGBマルチパターン測光にセットした場合は、自動的に中央部重点測光で測光されます。

また、非CPUレンズは、露出モードがA、Mのときのみ使用できます。絞り値はレンズの絞りリングでのみ設定できます。［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値を設定しない場合、上面表示パネルとファインダー内下表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞り値は、レンズの絞りリングで確認してください。露出モードをPまたは Sに設定したときは、露出モードを自動的にAに切り換えて制御します。この場合は、上面表示パネルのPまたはSが点滅して警告し、ファインダー内下表示にAが点灯します。

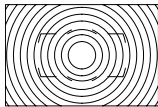
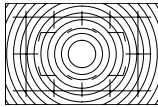
レンズの画角と焦点距離について

D3Sでは、さまざまなニコン製35mm判カメラ用レンズが使用できます。［**DX自動切り換え**］（□82）を［**する**］に設定している場合、35mm判カメラのレンズを装着すると、35mm判カメラと同じ画角（フィルム面に写し込む範囲）の［**FX (36×24) 1.0×**］で撮影できます。DXレンズを装着すると、カメラが判別して自動的に［**DX (24×16) 1.5×**］に切り換えます。

［**DX自動切り換え**］の設定を変えて、使用しているレンズと異なる画角で撮影することもできます。たとえば、35mm判カメラのレンズの使用時に、［**DX (24×16) 1.5×**］や［**1.2× (30×20) 1.2×**］に設定して画角を狭くしたり、［**5:4 (30×24)**］に設定して縦横比の異なる画像を撮影することもできます。

このため、［**撮像範囲**］の設定によっては、同じレンズで撮影しても、画角と画面サイズが異なることにご注意ください。

35mm判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さで［**DX (24×16) 1.5×**］のときの約1.5倍、［**1.2× (30×20) 1.2×**］のときの約1.2倍、［**5:4 (30×24)**］のときの約1.1倍です。したがって、D3Sに35mm判カメラのレンズを装着したときのレンズに表記されている焦点距離は、［**DX (24×16) 1.5×**］のときが約1.5倍、［**1.2× (30×20) 1.2×**］のときが約1.2倍、［**5:4 (30×24)**］のときが約1.1倍に相当します。

たとえば、焦点距離50 mmのレンズを装着したときは、［**DX (24×16) 1.5×**］では約75 mm、［**1.2× (30×20) 1.2×**］では約60 mm、［**5:4 (30×24)**］では約55 mmの焦点距離に相当する画角になります。

使用できるアクセサリー

D3Sには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

電源	• **Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a、EN-EL4**（□26、29） ニコンデジタルカメラD3S用のバッテリーです。EN-EL4aとEN-EL4は、クイックチャージャーMH-22、MH-21を使用して充電、キャリブレーションが行えます。 • **クイックチャージャー MH-22、MH-21**（□26） Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a/EN-EL4用のチャージャーです。キャリブレーション機能（□445）も装備しています。 • **ACアダプター EH-6** D3Sで使用できるACアダプターです。
無線LAN アダプター	• **ワイヤレストランスミッター WT-4** - USB ケーブルでカメラと接続することにより、カメラで撮影した画像をワイヤレスで転送したり、別売のCamera Control Pro 2を使ってパソコンからカメラを遠隔操作できます。また、イーサネットケーブルを接続することにより有線でも通信できます。 - WT-4 には、カメラ本体とは別に電源が必要です。別売の Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eまたはACアダプター EH-6をお使いください。 - WT-4をお使いいただく場合は、無線LANの知識および環境が必要です。

ファインダー用アクセサリー

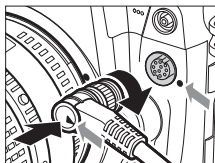
- **ファインダースクリーン（⊡407）**
  D3Sファインダースクリーンとして、D3シリーズ用B型クリアマットスクリーンVI、D3シリーズ用E型方眼マットスクリーンVIが使用できます。

Bマット式		標準装備されているスクリーンです。
E方眼マット式		B型マットスクリーンに方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定などに役立ちます。特にPCニッコールを使用する場合に、このスクリーンを用いると便利です。

- **接眼目当てDK-19**
  接眼部に取り付けて使用する、ゴム製の接眼目当てです。ファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れを軽減します。
- **接眼補助レンズDK-17C（脱落防止機能付き）**
  遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。－ 3、－ 2、0、＋1、＋2m^{-1}の5種類が用意されています。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。D3Sには視度調節機能が付いています（－3～＋1m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。
- **マグニファイングアイピースDK-17M（脱落防止機能つき）**
  ファインダー接眼部に取り付けることにより、ファインダー倍率を約1.2倍に拡大します。
- **マグニファイヤー DG-2**
  ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。
- **アイピースアダプター DK-18**
  D3SにマグニファイヤーDG-2やアングルファインダーDR-3を取り付けるためのアダプターです。

ファインダー用アクセサリー	• **アンティフォグ　ファインダーアイピース　DK-14、DK-17A（脱落防止機能付き）** 寒いときや湿度が高い場合など、ファインダーのくもりの発生を防止し、クリアーなファインダー像を提供します。 • **変倍アングルファインダー DR-5** 変倍アングルファインダー DR-5をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。全視野が見える1倍と、より精密なピント確認作業が可能な2倍※の2種類の倍率を選択できます。また、視度調節も可能です。 ※ 2倍では周辺部にケラレが生じます。 • **アングルファインダー DR-4** アングルファインダーDR-4をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
フィルター	• フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、NCフィルターをお使いください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL）をお使いください。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。 • 他社製の特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。

スピードライト	**• ニコンスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400** **• ニコンワイヤレスリモートスピードライトSB-R200**※ **• ニコンワイヤレススピードライトコマンダー SU-800** ※D3Sで使用する場合は、別売のスピードライトSB-900、SB-800、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。
ウォーターガード	**• ウォーターガードWG-AS1** D3SとスピードライトSB-900の組み合わせで使用するウォーターガードです。SB-900の脚部に被せて、アクセサリーシュー部接点への水滴の浸入を防ぎ、防滴効果を高めます。
PCカードアダプター	**• PCカードアダプター EC-AD1** CFカード（Type I）と組み合わせて、PC Card Standard-ATAに準拠したPCカードとして使用できます。CFカードの画像を、PCMCIAカードスロットを装備したパソコンに直接読み込めます。
ニコンデジタルカメラ専用ソフトウェア	**• Capture NX 2** ※ 画像編集用ソフトウェアです。選択コントロールポイントや自動レタッチブラシなどさまざまな機能を備えています。 **• Camera Control Pro 2** ※ パソコンからカメラを操作して画像を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。 **• 画像真正性検証ソフトウェア** ※ 「画像真正性検証機能」（🕮356）を使用して撮影した画像の真正性を判定するソフトウェアです。 ※ 必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。お使いのパソコンがインターネットに接続されていれば、ソフトウェアの起動時にニコンメッセージセンター（Nikon Message Center）が自動的に更新情報をチェックします。 • 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報（🕮xxv）でご確認ください。
ボディーキャップ	**• ボディーキャップBF-1B、BF-1A** レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

10ピン ターミナルに 接続する アクセサリー	10ピンターミナルに次のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影や無人撮影などができます。 使用しない場合は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。 10ピンターミナルへの接続は、図のように指標を合わせて接続します。 • **リモートコードMC-22**（長さ：約1 m） コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。 • **リモートコードMC-30**（長さ：約80 cm） カメラブレを避けたいときや、カメラから離れてレリーズ操作をしたいときに便利です。 • **リモートコードMC-36**（長さ：約85 cm） 一定間隔で撮影するインターバルタイマー機能を備えたリモート撮影用コードです。 • **延長コードMC-21**（長さ：約3 m） MC-20、MC-22、MC-23、MC-25、MC-30、MC-36、ML-3に併用できる延長コードです（MC-21を2本以上接続して使用することはできません）。 • **接続コードMC-23**（長さ：約40 cm） 10ピンターミナルを装備するカメラを2台同時に作動させるための接続コードです。

10ピンターミナルに接続するアクセサリー	• **変換コードMC-25**（長さ：約20 cm） 2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーター MT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。 • **GPSユニットGP-1** 10ピンターミナルでカメラとGP-1を接続することにより、撮影時の緯度、経度、標高、協定世界時（UTC：⧉230）を画像データに記録することができます（⧉226）。 • **GPS変換コードMC-35**（長さ：約35 cm） カメラとGPS機器で通信を行うための接続コードです（⧉226）。MC-35とGPS機器との接続には、GPSメーカーのPC接続ケーブルが必要です。 • **ルミコントロールセットML-3** 最大で約8m離れたところから、信号（赤外パルス光）による遠隔操作ができます。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 **ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。**
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶タイプのブロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

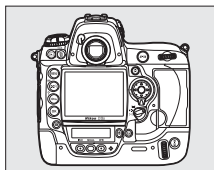
ローパスフィルターを自動で掃除する（イメージセンサークリーニング）

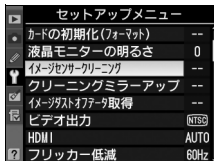
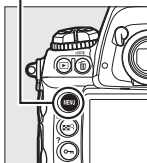
レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすことができます。

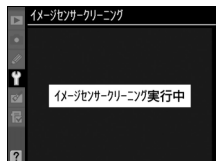
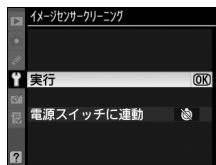
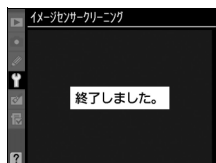
イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

■ セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］から操作する

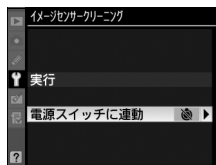
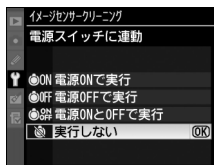
1 カメラを右図のように正位置に置く

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてイメージセンサークリーニングを行ってください。

2 セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］を選ぶ

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**イメージセンサークリーニング**］を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、［イメージセンサークリーニング］画面が表示されます。

3 ［実行］を選ぶ

- ［**実行**］を選んで▶を押すと、右の画面が表示され、イメージセンサークリーニングを開始します。

- イメージセンサークリーニングが完了すると、右の画面が表示されます。

■電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニングする

1 ［イメージセンサークリーニング］で［電源スイッチに連動］を選ぶ

- ［**電源スイッチに連動**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［電源スイッチに連動］画面が表示されます。

2 次の項目から選んで、㉇ボタンを押す

電源ONで実行	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
電源ONとOFFで実行	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

イメージセンサークリーニングについてのご注意

- イメージセンサークリーニング作動中にカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のブロアーで掃除する（□404）か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

ローパスフィルターをブロアーで掃除する

イメージセンサークリーニング（□401）でゴミやほこりを取りきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

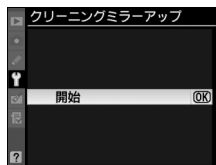
作業中のバッテリー切れを防ぐため、フル充電したバッテリー、または別売のACアダプター EH-6をお使いください。

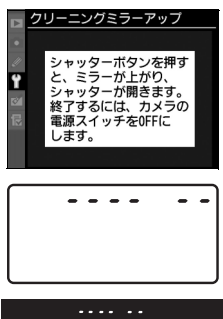
1 **レンズを取り外す**

レンズの取り付け、取り外しの際には、カメラの電源をOFFにしてください。

2 **セットアップメニューで［クリーニングミラーアップ］※を選ぶ**

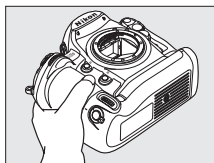
- ［**クリーニングミラーアップ**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

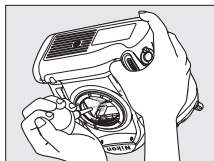
※バッテリー残量表示が（60%）以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

3 **㊚ボタンを押す**

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 液晶モニター、上面表示パネル、ファインダー内下表示に右のように表示されます。
- ローパスフィルターのお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。

4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、上面表示パネルは右のような点滅表示になります。背面表示パネル、ファインダー内の表示は消灯します。

5 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。

6 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払う

- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✔ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、直ちに作業を終了してください。

✔ ローパスフィルター上のゴミ付着について

ニコンデジタルカメラは撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造しています。しかし、このカメラはレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子の前面のローパスフィルターに付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。その際、ボディーキャップのゴミも必ず除去してください。ローパスフィルターに付着したゴミを、イメージセンサークリーニング（🕮401）で取り除ききれないときは、404ページの手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のCapture NX 2（🕮397）や画像加工アプリケーションなどで修正できます。

✔ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

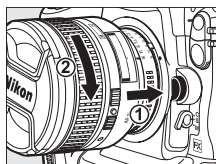
カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

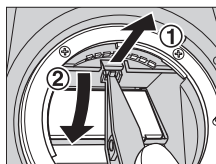
- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

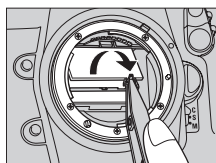
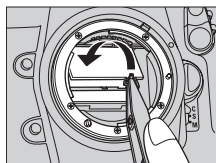
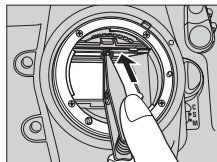
ファインダースクリーンの交換について

このカメラは標準でB型クリアマットスクリーンVIを装備しています。建築写真の構図設定などには、別売のD3シリーズ用E型方眼マットスクリーンVIを使用すると便利です（□395）。

ファインダースクリーンの交換方法

1　カメラの電源をOFFにして、レンズを取り外す

2　スクリーン交換レバーを専用ピンセットで手前に引く

- ファインダースクリーンが枠ごと下がります。

3　ファインダースクリーンの突起部を専用ピンセットではさんで取り出す

- スクリーン周辺に傷を付けないようにご注意ください。

4　新たに装着するファインダースクリーンの突起部を専用ピンセットではさんで枠の上に載せる

5 カチッと音がするまで枠を押し上げ、ファインダースクリーンを固定する

ファインダースクリーン交換時のご注意

ミラーやファインダースクリーンの表面に手を触れないでください。

ファインダースクリーンの装着について

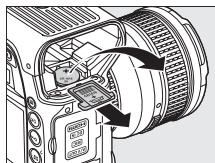
E型方眼マットスクリーンVIの装着状態によっては、ファインダー内に見える枠線の位置がずれることがありますのでご注意ください。

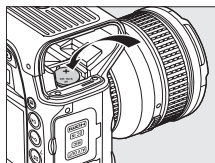
時計用電池の交換について

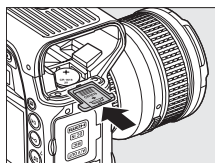
カメラ内蔵の時計は、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4aとは別のCR1616型リチウム電池で作動しています。この電池の寿命は約4年です。半押しタイマー作動時間中に上面表示パネルに時計用バッテリーチェックマーク（CLOCK）が点灯した場合は、電池残量が残りわずかですので、市販の新しいCR1616型リチウム電池に交換してください。さらに残量が減って、時計用バッテリーチェックマーク（CLOCK）が点滅した場合は、撮影は可能ですが日付時刻は正しく記録されず、インターバルタイマーが正常に機能しません。

■ 時計用電池の交換方法

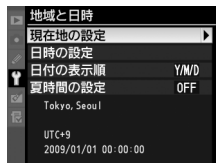
1 カメラの電源をOFFにして、バッテリーを取り外す

2 バッテリー室内の上部にある時計用電池カバーを外側に引き出す

3 古い時計用電池を取り出す

4 新しいCR1616型リチウム電池を、＋側（型番が印字されている側）が見えるように向け、くぼみにはめ込む

5 時計用電池カバーをスライドして、奥まで差し込む

- カチッと音がするまで差し込んでください。

6 Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL4aをカメラに装着する

7 場所と日時を設定する（□34）

- 電池交換後は場所と日時の設定をするまで上面表示パネルの時計用バッテリーチェックマーク（CLOCK）が点滅します。

時計用電池の向きについて

時計用電池は正しい向きで入れてください。内蔵時計が機能しないばかりでなく、故障の原因となります。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● **強いショックを与えない**

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● **水にぬらさない**

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● **急激な温度変化を与えない**

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● **強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない**

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● **長時間、太陽に向けて撮影または放置しない**

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● **カメラ本体のお手入れについて**

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について

撮像素子の前面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法については🕮401、404ページをご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

- シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。
- シャッター幕に色むらが見える場合がありますが、異常ではありません。また、撮影した画像には影響ありません。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態で、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、常時点灯あるいは非点灯の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。また、記録される画像には影響ありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしほこりやゴミ等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● 付属のアクセサリーシューカバーについて

カメラを雨の中で使用すると、付属のアクセサリーシューカバー BS-2内に水分が入り込む場合があります。雨天時にカメラを使用した後は、アクセサリーシューカバーを取り外して水分を拭き取ってください。

バッテリーの取り扱いについて

● 接点の汚れについて

バッテリーの接点が汚れている場合は、乾いた布などで拭いてください。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● バッテリーの残量について

電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。

● 使用上のご注意

バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

- バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
- バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
- 必ず指定のバッテリーを使う。
- バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
- カメラから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● バッテリーのリサイクルについて

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは廃棄せず、再利用のためリサイクルにご協力ください。端子カバーを装着してからテープなどで固定して、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へご持参ください。

数字の有無と数値は、電池によって異なります。

初期設定一覧

再生、撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。ツーボタンリセット（□208）、撮影メニュー［**撮影メニューのリセット**］（□297）、またはカスタムメニュー［**カスタムメニューのリセット**］（□306）を行うと、それぞれ別の項目の設定をリセットできます。ツーボタンリセットで初期設定に戻る項目については、「基本的な機能を初期設定に戻す（ツーボタンリセット）」（□208）をご覧ください。

再生メニューの初期設定

再生メニュー項目		初期設定
［**再生フォルダー設定**］（□284）		NCD3S
［**撮影直後の画像確認**］（□291）		しない
［**削除後の次再生画像**］（□291）		後ろのコマ
［**縦位置自動回転**］（□291）		しない
［**スライドショー**］（□292）		
	［**インターバル設定**］（□292）	2 秒
	［**音声再生**］（□293）	しない

撮影メニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、撮影メニューの［**撮影メニューのリセット**］を行います（□297）。※1

撮影メニュー項目		初期設定
［**拡張撮影メニューの設定**］（□298）		しない
［**ファイル名設定**］（□301）		DSC
［**画像記録モード**］（□94）		順次記録
［**画質モード**］（□88）		NORMAL
［**画像サイズ**］（□92）		サイズL
［**撮像範囲**］（□82）		
	［**DX自動切り換え**］（□82）	する
	［**撮像範囲設定**］（□83）	FX （36×24）1.0×
［**JPEG圧縮**］（□90）		サイズ優先

項目	初期設定
［**RAW記録**］（□91）	
［**記録方式**］（□91）	ロスレス圧縮RAW
［**記録ビットモード**］（□91）	12ビット記録
［**ホワイトバランス**］（□154）	オート
微調整値（□157）	解除
色温度設定（□161）	5000K
［**ピクチャーコントロール**］（□176）	スタンダード
［**色空間**］（□189）	sRGB
［**アクティブD-ライティング**］（□188）	しない
［**ヴィネットコントロール**］（□302）	標準
［**長秒時ノイズ低減**］（□303）	しない
［**高感度ノイズ低減**］（□303）	標準
［**ISO感度設定**］（□116）	
［**ISO感度**］（□116）	200
［**感度自動制御**］（□118）	しない
［**ライブビューモード**］（□56、68）	三脚撮影
［**多重露出**］（□210）※2	
［**多重露出モード**］（□211）	しない
［**コマ数**］（□211）	2
［**自動ゲイン補正**］（□212）	する
［**動画の設定**］（□72）	
［**画像サイズ**］（□72）	640×424(3:2)
［**録音設定**］（□73）	マイク感度 オート(A)
［**動画記録先の選択**］（□74）	スロット1
［**高感度動画撮影モード**］（□74）	しない
［**インターバルタイマー撮影**］（□216）	設定解除※3

※1 ［**撮影メニューのリセット**］で初期設定に戻るのは、撮影メニューの［**撮影メニュー切り換え**］(□295)で選択されている撮影メニュー（「**A**」～「**D**」のいずれか）の内容だけです（［**多重露出**］、［**インターバルタイマー撮影**］を除く）。

※2 ［**撮影メニューのリセット**］を行うと、全ての撮影メニューで初期状態（しない、コマ数：2、自動ゲイン補正：する）にリセットされます。なお、多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから設定したコマ数分撮影し終えるまで［**撮影メニューのリセット**］を選択できません。

※3 ［**撮影メニューのリセット**］を行うと、実行中のインターバル撮影は終了します。全ての撮影メニューで初期状態（開始トリガー：即時スタート、撮影間隔：1分、設定：1回×1コマ、撮影動作：開始しない）にリセットされます。

カスタムメニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、カスタムメニューの［**カスタムメニューのリセット**］を行います（□306）。※

カスタムメニュー項目			初期設定
a1	［**AF-Cモード時の優先**］（□307）		レリーズ
a2	［**AF-Sモード時の優先**］（□308）		フォーカス
a3	［**ダイナミックAFエリア**］（□309）		9 点
a4	［**AFロックオン**］（□311）		3 （標準）
a5	［**半押しAFレンズ駆動**］（□311）		する
a6	［**フォーカスポイント表示**］（□312）		
		［**マニュアルフォーカス時の表示**］	する
		［**連写時の表示**］	する
		［**フォーカスポイントの明るさ設定**］	標準
a7	［**フォーカスポイント循環選択**］（□313）		しない
a8	［**AF点数切り換え**］（□313）		51点
a9	［**AF-ONボタンの機能**］（□314）		AF-ON
a10	［**縦位置AF-ONボタンの機能**］（□315）		AF-ON
b1	［**ISO感度設定ステップ幅**］（□316）		1/3 段
b2	［**露出設定ステップ幅**］（□316）		1/3 段
b3	［**露出補正ステップ幅**］（□316）		1/3 段
b4	［**露出補正簡易設定**］（□317）		しない
b5	［**中央部重点測光範囲**］（□318）		φ 12 mm
b6	［**基準露出レベルの調節**］（□318）		
		［**マルチパターン測光**］	0
		［**中央部重点測光**］	0
		［**スポット測光**］	0
c1	［**半押しAEロック**］（□319）		しない
c2	［**半押しタイマー**］（□319）		6 秒
c3	［**セルフタイマー**］（□319）		10 秒
c4	［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（□320）		
		［**画像の再生**］	10 秒
		［**メニュー表示**］	20 秒
		［**インフォ画面表示**］	10 秒
		［**撮影直後の画像確認**］	4 秒
d1	［**電子音設定**］（□321）		電子音なし

	カスタムメニュー項目	初期設定
d2	[**連続撮影速度**](□322)	
	[**高速連続撮影**]	9コマ/秒
	[**低速連続撮影**]	5コマ/秒
d3	[**連続撮影コマ数**](□322)	130
d4	[**連番モード**](□323)	する
d5	[**表示情報の切り換え**](□324)	
	[**背面表示パネルの表示**]	ISO感度設定
	[**ファインダー内の表示**]	撮影コマ数
d6	[**インフォ画面の表示設定**](□325)	自動
d7	[**インフォ画面のガイド表示**](□325)	ガイド表示する
d8	[**イルミネーター点灯**](□326)	しない
d9	[**露出ディレーモード**](□326)	しない
e1	[**フラッシュ撮影同調速度**](□327)	1/250 秒
e2	[**フラッシュ時シャッタースピード制限**](□328)	1/60 秒
e3	[**モデリング発光**](□328)	する
e4	[**オートブラケティングのセット**](□328)	AE・フラッシュ ブラケティング
e5	[**BKT変化要素(Mモード)**](□329)	フラッシュ・ シャッタースピード
e6	[**BKTの順序**](□330)	[0]→[−]→[+]
f1	[**中央ボタンの機能**](□330)	
	[**撮影モード**]	フォーカスポイント 中央リセット
	[**再生モード**]	1コマとサムネイルの 切り換え
	[**ライブビュー**]	動画記録開始
f2	[**マルチセレクターの半押し起動**](□332)	しない
f3	[**上下左右機能入れ換え**](□332)	しない
f4	[**Fnボタンの機能**](□332)	
	[**Fnボタン押し時の動作**](□332)	設定しない
	[**コマンドダイヤル併用時の動作**](□336)	撮像範囲選択
f5	[**プレビューボタンの機能**](□339)	
	[**プレビューボタン押し時の動作**]	プレビュー
	[**コマンドダイヤル併用時の動作**]	設定しない

カスタムメニュー項目		初期設定
f6	［**AE/AFロックボタンの機能**］（□340）	
	［**AE/AFロックボタン押し時の動作**］	AE-L/AF-L
	［**コマンドダイヤル併用時の動作**］	設定しない
f7	［**BKTボタンの機能**］（□341）	オートブラケティング
f8	［**コマンドダイヤルの設定**］（□341）	
	［**回転方向の変更**］（□341）	しない
	［**メインとサブの入れ換え**］（□342）	しない
	［**絞り値の設定方法**］（□342）	サブコマンドダイヤル
	［**再生/メニュー画面で使用**］（□343）	しない
f9	［**ボタンのホールド設定**］（□344）	しない
f10	［**カードなし時レリーズ**］（□344）	レリーズ許可
f11	［**インジケーター表示の＋/－方向**］（□345）	

※ 初期設定に戻るのは、カスタムメニューの［**カスタムメニュー切り換え**］（□306）で選択されているカスタムメニュー（「A」～「D」のいずれか）の内容だけです。

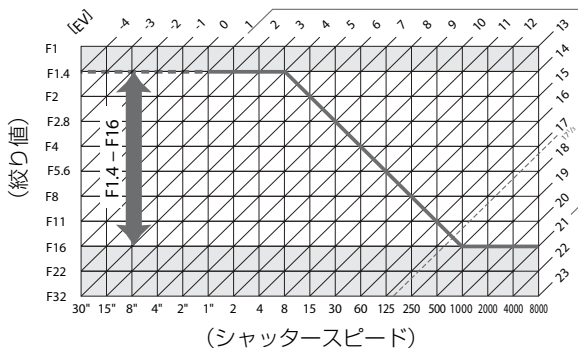
■ セットアップメニューの初期設定

セットアップメニュー項目	初期設定
［**液晶モニターの明るさ**］（□347）	0
［**イメージセンサークリーニング**］（□401）	
［**電源スイッチに連動**］（□402）	実行しない
［**HDMI**］（□350）	オート
［**地域と日時**］（□352）	
［**夏時間の設定**］（□352）	しない
［**縦横位置情報の記録**］（□354）	する
［**音声メモの設定**］（□256）	
［**撮影時の録音**］（□256）	録音しない
［**撮影時の上書き録音**］（□257）	禁止
［**音声ボタンの操作**］（□257）	押し続けている間録音
［**音声の出力**］（□262）	スピーカー
［**画像真正性検証機能**］（□356）	しない
［**GPS**］（□229）	
［**半押しタイマー**］	有効
［**GPSによる日時合わせ**］	する

露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、露出モードがPのとき（🕮125）の露出制御プログラム（ISO 200の場合）を表しています。

ISO 200、開放絞りF1.4・最小絞りF16のレンズ
（例：AF 50mm f/1.4D）の場合

測光範囲：EV 1～21

- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 200の場合17 1/3を超えるEV値では、全て17 1/3として制御されます。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

表示関連

● **ファインダー内がはっきり見えない**

視度調節ノブで調節してください。調節後も見え方が不充分な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いください（□43、395）。

● **ファインダー内が暗い**

バッテリー残量は充分ですか？バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量がない場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります（□26、45）。

● **ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう**

カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］やc4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］で、表示が消えるまでの時間を設定できます（□319、320）。

● **上面表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しない**

下記の「デジタルカメラの特性について」をご覧ください。

● **表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い**

低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し（ACアダプター使用時はいったん外してから付け直し）、もう一度電源をONにしてください。このときバッテリーが熱くなっていることがあるので、取り扱いには充分にご注意ください。さらに不具合が続く場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

- **電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる**

  メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

- **シャッターがきれない**

  - 残量のあるメモリーカードが入っていますか？（🕮37、46）
  - Gタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。上面表示パネルにFEEと表示されている場合、カスタムメニューf8［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます（🕮342）。
  - 露出モードMでシャッタースピードをbulbに設定し、そのまま露出モードをSに変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください（🕮431）。

- **シャッターがきれるのが遅い**

  カスタムメニューd9［**露出ディレーモード**］を［**しない**］にしてください（🕮326）。

- **ピントが合わない**

  - マニュアルフォーカスになっていませんか？オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**、または**C**に合わせてください（🕮96）。
  - 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください（🕮102、105）。
    明暗差がはっきりしない/遠くのものと近くのものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい
  - ライブビューモードが［**三脚撮影**］の場合、シャッターボタンの半押しではピントを合わせません。**AF-ON**ボタンを押してください。

- **設定できるシャッタースピードの範囲が狭い**

  フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］で、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。［**1/250秒（オートFP）**］に設定して、別売のスピードライト SB-900、SB-800、SB-600、SB-R200 を使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFP ハイスピードシンクロが可能です（🕮327）。

● **シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない**

フォーカスモードセレクトダイヤルが**C**に設定されている場合、AE/AFロックボタンを押してフォーカスをロックしてください（□103）。

● **フォーカスポイントを選択できない**

- フォーカスポイントロックレバー（マルチセレクター）が **L**（ロック）の位置になっていませんか？（□100）
- AF エリアモードがオートエリア AF モードのときは、選択できません（□98）。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選択できません（□231、283）。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選択するには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください（□47）。

● **画像サイズを変更できない**

［**画質モード**］が［**RAW**］のときは、画像サイズを変更できません（□89）。

● **画像の記録に時間がかかる**

撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］が［**する**］になっていませんか？（□303）

● **ライブビューで撮影した画像が記録されていない**

- ［**手持ち撮影**］でシャッターボタンを半押しすると、ミラーがダウンしてピントを合わせられるようになります。シャッター音はしますが、全押ししない限り撮影されません（□61、64）。
- ［**手持ち撮影**］でフォーカスモードが **S** の場合、ピントが合っていないとシャッターボタンを全押ししても画像は記録されません。カスタムメニュー a2［**AF-Sモード時の優先**］を［**レリーズ**］に設定すると、ピント状態に関係なくシャッターがきれます（□61、64、308）。

● **ライブビュー表示中や動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる**

セットアップメニュー［**フリッカー低減**］の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください（□351）。

● **ライブビュー表示中や動画撮影時に横帯状の明るい部分が生じる**

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光された場合には、画面の上部や下部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● **ライブビュー表示や動画が白とびする**

明るい場所で高感度動画撮影モードを［**する**］にして撮影していませんか？高感度動画撮影モードを［**しない**］にしてください（□74）。

● **画像がざらつく**

- ISO 感度が高くなっていませんか？ ISO 3200 を超える高感度で撮影する場合、撮影メニュー［**高感度ノイズ低減**］を［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］のいずれかに設定すれば、ざらつきを低減できます（□303）。
- 長時間露出時には、ざらつきが発生しやすくなります。シャッタースピードが1秒より長い場合は、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］にして撮影すると、ざらつきを低減できます（□303）。

● **画像にゴミが写り込む**

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください（□401）。

● **画像の色合いがおかしい**

- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？（□154）
- 撮影メニュー［**ピクチャーコントロール**］は正しく設定されていますか？（□176）

● **ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない**

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□166）。

● **ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある**

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（□169）。

● **ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない**

- RAW または RAW を含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません（□88、146）。
- ホワイトバランスブラケティングと多重露出による撮影を同時に行うことはできません（□210）。

● **［ピクチャーコントロール］の効果が安定しない**

［**ピクチャーコントロール**］、［**カスタムピクチャーコントロール**］の調整画面で、［**輪郭強調**］、［**コントラスト**］、［**色の濃さ（彩度）**］のいずれかが［**A**］（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を［**A**］（オート）以外に設定してください（□180）。

● **ピクチャーコントロールで［コントラスト］や［明るさ］を調整できない**

［**アクティブD-ライティング**］が［**しない**］以外の場合、ピクチャーコントロールの［**コントラスト**］と［**明るさ**］は調整できません。［**アクティブD-ライティング**］を［**しない**］にしてから調整してください（□180、188）。

● **測光モードが変更できない**

AEロック中、ライブビュー表示中、または動画撮影中は、測光モードを変更できません（□63、68、138）。

● **露出補正ができない**

露出モードが**M**の場合、露出補正を行っても、露出インジケーターの表示が変化するだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません（□140）。

● **画像の一部が赤っぽくなる**

シャッタースピードを**bulb**にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで低減できます（□303）。

● **画像にむらが出る**

シャッタースピードを**bulb**にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部にむらが出ることがあります。この現象は、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで低減できます（□303）。

● **動画に音声が録音されない**

- 撮影メニュー［**動画の設定**］の［**録音設定**］が［**録音しない**］になっていませんか？（□73）
- 別売の外部マイクを接続して動画撮影を始めて、途中で外部マイクが抜けると、音声は記録されません。

再生関連

● **画像の一部がチカチカと点滅する**

画像情報の設定がハイライト表示になっています（□235、286）。

● **画像と重なって文字が表示される**

画像情報の設定が撮影情報表示になっています（□235、286）。

● **グラフが表示される**

画像情報の設定がRGBヒストグラム表示になっています（□235、286）。

● **RAW画像が表示されない**

［**画質モード**］を［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC**］にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません（□90）。

● **他のカメラで撮影した画像が表示されない**

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● **全ての画像が表示されない**

再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください（□284）。

● **画像の縦位置・横位置が正しく表示されない**

- 再生メニュー［**縦位置自動回転**］が［**しない**］になっていませんか？（□291）
- セットアップメニュー［**縦横位置情報の記録**］が［**しない**］になっていませんか？（□354）
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません（□291）。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、姿勢情報が正しく得られない場合があります（□354）。

● **画像が削除できない**

画像にプロテクトが設定されていませんか？（□249）

● **画像が編集できない**

- D3Sでは編集できない画像です（□365）。

● **［撮影画像がありません］と表示される**

メモリーカードの交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください（□284）。

● **プリント指定ができない**

メモリーカードの空き容量が不足していませんか？（□46）

● **ダイレクトプリントができない**

RAW画像やTIFF画像はダイレクトプリントできません（□273）。

● **RAW画像をプリントできない**

- 画像編集メニューの［**RAW現像**］などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください（□376）。
- RAW画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアや別売のCapture NX 2などのソフトウェアを使ってプリントしてください（□397）。

● **画像がテレビに映らない**

セットアップメニュー［**ビデオ出力**］が正しく設定されていますか？（□350）

● **画像がHDMI機器で再生できない**

市販のHDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください（□282）。

● **Capture NXでRAW画像が表示されない**

このカメラの機能は、Capture NXでは使用できません。最新版にバージョンアップしたCapture NX 2をお使いください（□397）。

● **Capture NX 2でイメージダストオフ機能が動作しない**

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、ローパスフィルター表面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき（□348）

● **［ピクチャーコントロール］、［アクティブD-ライティング］、［ヴィネットコントロール］の効果がパソコンで確認できない**

RAW画像で記録した場合、ニコン製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像は付属のViewNXや、別売のCapture NX 2をお使いください。

● **Nikon Transferで画像が転送できない**

Nikon Transferに対応しているOSについては、□265をご覧ください。対応していないOSをお使いの場合は、カードリーダーなどの機器を使って、メモリーカードの画像をパソコンに転送してください。

その他

- **撮影日時が正しく表示されない**

  カメラの内蔵時計は合っていますか？　カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします（□34、352）。

- **表示されているメニュー項目が選択できない**

  - 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選択できない場合があります。
  - セットアップメニュー［**電池チェック**］は電源に別売のACアダプターEH-6を使用している場合は選択できません（□355）。

警告メッセージ

上面表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

こんなとき		原因	対処方法	📖
上面表示パネル	ファインダー内下表示			
FEE（点滅）	FEE（点滅）	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	33
（バッテリー残量少表示）	（バッテリー残量少表示）	バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	45
（バッテリー表示）（点滅）	（バッテリー表示）（点滅）	• バッテリーが消耗しています。	• バッテリーを交換してください。	29
			• バッテリーを充電してください。	26
		• バッテリーとの情報通信ができません。	• このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。	462
			• 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。	26
		• カメラと通信できないバッテリーを使用しています。	• カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。	xxv、31、394
CLOCK（点滅）	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	34

こんなとき		原因	対処方法	📖
上面表示パネル	ファインダー内下表示			
FEE	FEE	開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	223
—	▶ ◀ （点滅）	オートフォーカスでピント合わせができません。	マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	105
HI	HI	被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を低くしてください。 • 露出モードがPのときは市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 露出モードがSのときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 露出モードがAのときは絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。	116 396 127 128

こんなとき		原因	対処方法	📖
上面表示パネル	ファインダー内下表示			
Lo	Lo	被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を高くしてください。 • 露出モードがPのときは別売スピードライトを使用してください（S、A のときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 露出モードがSのときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 露出モードがAのときは絞りを開いて（より小さい数値にして）ください。	116 194 127 128
bulb （点滅）	bulb （点滅）	露出モードがS のときにシャッタースピードが bulb にセットされています。	bulb 以外のシャッタースピードにセットするか、露出モードを Mにセットしてください。	127、130
busy （点滅）	bSY （点滅）	多重露出撮影中に[Lv]ボタンを押しています。	多重露出撮影中は、ライブビュー表示できません。	213
⚡ （点滅）	⚡ （点滅）	i-TTL対応していないスピードライト（別売）をTTLモードにセットしています。	TTLモード以外のモードにセットしてください。	197

こんなとき		原因	対処方法	📖
上面表示パネル	ファインダー内下表示			
—	⚡（点滅）	スピードライトがフル発光しました。	撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO 感度などをご確認ください。	198
👁（点滅）	—	赤目軽減モードまたは赤目軽減スローシンクロモードが設定され、赤目軽減発光機能が不可能なスピードライトが装着されています。	赤目軽減発光機能が可能な専用スピードライトをお使いください。	195
FuLL（点滅）	FuL（点滅）	• 画像を記録する空き容量がありません。 • カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。	• メモリーカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。	250、264 37
Err（点滅）	Err（点滅）	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	462

こんなとき		原因	対処方法	📖
液晶モニター	上面表示パネル			
メモリーカードが入っていません。	[-E-]	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。	メモリーカードを正しくセットしてください。	37
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	[CHA]（点滅）	• メモリーカードへのアクセス異常です。	• このカメラ用のメモリーカードであるかどうかを確認してください。 • メモリーカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。	447 462
		• 新規フォルダーが作成できません。	• メモリーカードに記録されている画像を削除して、メモリーカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。	250、264 37
このメモリーカードは初期化(フォーマット)されていません。フォーマットしてください。	[For]（点滅）	メモリーカードが正しく初期化されていません。	• メモリーカードを初期化してください。 • 正しく初期化されたメモリーカードに交換してください。	41、347 37

こんなとき		原因	対処方法	📖
液晶モニター	上面表示パネル			
接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。サービス機関にお問い合わせください。	—	バージョンアップに失敗したスピードライトがカメラに装着されています。	接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。	462
撮影画像がありません。	—	• 撮影画像がありません。 • 再生するフォルダーの指定に問題があります。	• 画像が記録されているメモリーカードを入れてください。 • 再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で、表示可能な画像があるフォルダーを選択してください。	37 284
全ての画像が非表示に設定されています。	—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニューの［**非表示設定**］で、画像の非表示設定を解除してください。	285
このファイルは表示できません。	—	• アプリケーションソフトで編集された画像やDCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。	—
このファイルは選択できません。	—	編集できない画像です。	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	365、366

こんなとき		原因	対処方法	📖
液晶モニター	上面表示パネル			
プリンターの状態を確認してください。※	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、［**継続**］を選べない場合があります）。	269
用紙を確認してください。※	—	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押して、プリントを再開してください。	269
紙詰まりです。※	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押して、プリントを再開してください。	269
用紙がありません。※	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押して、プリントを再開してください。	269
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押して、プリントを再開してください。	269
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押して、プリントを再開してください。	269

※プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D3S

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
有効画素数	
有効画素数	12.1 メガピクセル
撮像素子	
方式	36.0 × 23.9 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	12.87 メガピクセル、ニコンFXフォーマット
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（別売Capture NX 2必要）
記録形式	
記録画素数	• 撮像範囲［FX (36×24) 1.0×］の場合： 4256×2832ピクセル（サイズL） 3184×2120ピクセル（サイズM） 2128×1416ピクセル（サイズS） • 撮像範囲［1.2× (30×20) 1.2×］の場合： 3552×2368ピクセル（サイズL） 2656×1776ピクセル（サイズM） 1776×1184ピクセル（サイズS） • 撮像範囲［DX (24×16) 1.5×］の場合： 2784×1848ピクセル（サイズL） 2080×1384ピクセル（サイズM） 1392×920ピクセル（サイズS） • 撮像範囲［5:4 (30×24)］の場合： 3552×2832ピクセル（サイズL） 2656×2120ピクセル（サイズM） 1776×1416ピクセル（サイズS）

記録形式	
画質モード	• RAW 12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮、非圧縮） • TIFF（RGB） • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先時、画質優先選択可能 • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード/ニュートラル/ビビッド/モノクロームから選択可能、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	コンパクトフラッシュカード（Type I、UDMA対応）
ダブルスロット	メモリーカードの順次記録、同時記録、RAW＋JPEG分割記録ならびにカード間コピー可能
対応規格	DCF 2.0（Design rule for Camera File system）、DPOF（Digital Print Order Format）、Exif 2.21（Exchangeable image file format for digital still cameras）、PictBridge

ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	• **FX**：上下左右とも約100%（対実画面） • **1.2×**：上下左右とも約97%（対実画面） • **DX**：上下左右とも約97%（対実画面） • **5：4**：上下約100%、左右約97%（対実画面）
倍率	約0.7倍（50mm f/1.4レンズ使用、∞、–1.0 m^{-1}のとき）
アイポイント	18 mm（–1.0 m^{-1}のとき）
視度調節範囲	–3～＋1 m^{-1}
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンVI（AFエリアフレーム付）
ミラー	クイックリターン式
プレビュー	プレビューボタンによる絞り込み可能、露出モードA、Mでは設定絞り値まで絞り込み可能、P、Sでは制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ	
交換レンズ	• **DXレンズ**：撮像範囲［DX (24×16) 1.5×］でフル機能使用可 • **GまたはDタイプレンズ**（IXニッコールを除く）：フル機能使用可（PCマイクロニッコールを除く） • **GまたはDタイプ以外のAFレンズ**（F3AF用を除く）：3D-RGBマルチパターン測光IIを除く機能使用可 • **Pタイプレンズ**：3D-RGBマルチパターン測光IIを除く機能使用可 • **非CPUレンズ**：露出モードA、Mで可、レンズ情報手動設定でRGBマルチパターン測光、絞り値表示など使用可（非AIレンズは使用不可） • **開放F値がF5.6以上明るいレンズ**：フォーカスエイド可能

シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	1/8000～30秒（1/3、1/2、1段ステップ）、Bulb、X250
フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/250秒、1/250秒以下の低速シャッタースピードで同調

レリーズ機能	
レリーズモード	**S**（1コマ撮影）、**CL**（低速連続撮影）、**CH**（高速連続撮影）、**Q**（静音撮影）、セルフタイマーマーク（セルフタイマー撮影）、**MUP**（ミラーアップ撮影）
連続撮影速度	• **［DX (24×16) 1.5×］時：** **CL**：約1～9コマ/秒 **CH**：約9～11コマ/秒 • **［DX (24×16) 1.5×］以外：** **CL**：約1～9コマ/秒 **CH**：約9コマ/秒
セルフタイマー	作動時間2、5、10、20秒に設定可能

露出制御	
測光方式	1005分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式

露出制御	
測光モード	• **マルチパターン測光**：3D-RGBマルチパターン測光II（GまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光II（その他のCPUレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光（非CPUレンズのレンズ情報手動設定時） • **中央部重点測光**：φ12 mm相当を測光（中央部重点度約75%）、φ8 mm、φ15 mm、φ20 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能（非CPUレンズ使用時はφ12 mm、または画面全体の平均） • **スポット測光**：約φ4 mm相当（全画面の約1.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動（非CPUレンズ使用時は中央に固定）
測光範囲	• **マルチパターン測光、中央部重点測光**：0～20 EV • **スポット測光**：2～20 EV （ISO 100換算、f/1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用
露出モード	P：プログラムオート（プログラムシフト可能）、S：シャッター優先オート、A：絞り優先オート、M：マニュアル
露出補正	範囲：±5段、補正ステップ：1/3、1/2、1段ステップ
オートブラケティング	• AE、フラッシュブラケティング時、撮影コマ数：2～9コマ、補正ステップ：1/3、1/2、2/3、1段ステップ • ホワイトバランスブラケティング時、撮影コマ数：2～9コマ、補正ステップ：1～3段ステップ • アクティブD-ライティングブラケティング時、撮影コマ数：2～5コマ、撮影コマ数が2コマの場合のみアクティブD-ライティングの効果の度合いをオート、より強め、強め、標準、弱めから選択可能
AEロック	AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式
ISO感度（推奨露光指数）	ISO 200～12800（1/3、1/2、1段ステップ）、ISO 200に対し約0.3、0.5、0.7、1段（ISO 100相当）の減感、ISO 12800に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段、3段（ISO 102400相当）の増感、感度自動制御が可能
アクティブD-ライティング	オート、より強め、強め、標準、弱め、しないから選択可能

オートフォーカス	
方式	TTL位相差検出方式：フォーカスポイント51点（うち、クロスタイプセンサー15点）、マルチCAM 3500FXオートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF微調節可能

オートフォーカス	
検出範囲	–1～＋19 EV （ISO 100換算、常温（20℃））
レンズサーボ	• **オートフォーカス**：シングルAFサーボ（AF-S）またはコンティニュアスAFサーボ（AF-C）、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • **マニュアルフォーカス(M)**：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	• **AF51点設定時**：51点のフォーカスポイントから1点を選択 • **AF11点設定時**：11点のフォーカスポイントから1点を選択
AFエリアモード	シングルポイントAF モード、ダイナミックAF モード、オートエリアAFモード
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し

フラッシュ	
調光方式	• **1005分割RGBセンサーによる以下のTTL調光制御**：SB-900、SB-800、SB-600またはSB-400との組み合わせでi-TTL-BL調光、スタンダードi-TTL調光 • **絞り連動外部自動調光（AA）**：SB-900、SB-800とCPUレンズとの組み合わせ時 • **外部自動調光（A）**：SB-900、SB-800、SB-28、SB-27、SB-22Sなどとの組み合わせ時 • **距離優先マニュアル発光（GN）**：SB-900、SB-800との組み合わせ時
フラッシュモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ
レディーライト	SB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-80DX、SB-28DX、SB-50DXなど使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリーシュー	ホットシュー （ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	• SB-900、SB-800、SB-600、SB-R200 との組み合わせでアドバンストワイヤレスライティング（SB-600、SB-R200 はリモートのみ）可能 • オートFPハイスピードシンクロ、発光色温度情報伝達、モデリング発光、FVロックに対応（SB-400は発光色温度情報伝達、FVロックのみ対応）
シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO 519）装備（外れ防止ネジ付）

ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート、電球、蛍光灯（7種）、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル（5件登録可）、色温度設定（2500K～10000K）、いずれも微調整可能

ライブビュー機能	
撮影モード	三脚撮影モード、手持ち撮影モード
フォーカス	• **三脚撮影モード**：コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能 • **手持ち撮影モード**：TTL 位相差検出方式、フォーカスポイント51点（うち、クロスタイプセンサー 15点）
フリッカー低減	50、60Hz

動画機能	
記録画素数	• 1280×720/24fps • 640×424/24fps • 320×216/24fps
ファイル形式	AVI
圧縮方式	Motion-JPEG
録音設定	マイク感度設定可能
感度	ISO 200～ISO 12800 （高感度動画撮影モード時：ISO 6400～Hi 3）

液晶モニター	
液晶モニター	3型低温ポリシリコンTFT液晶、約92万ドット（VGA）、視野角170°、視野率100%、明るさ調整可能

再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル（4、9、72分割）、拡大再生、動画再生、スライドショー、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影画像の縦位置自動回転、画像コメント入力可能（英数字36文字まで）、音声メモ入力/再生可能

インターフェース	
USB	Hi-Speed USB
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能、ビデオ出力と液晶モニターの同時再生可能
HDMI出力	HDMIミニ端子（Type C）装備、HDMI出力と液晶モニターの同時再生不可
外部マイク入力	ステレオミニジャック（φ3.5mm）

インターフェース	
10ピンターミナル	• **リモートコントロール**：10ピンターミナルに接続 • **GPS**：GPSユニットGP-1（別売）を10 ピンターミナルに接続。または、10 ピンターミナルに接続したGPS変換コードMC-35（別売）を介して、NMEA0183 Ver. 2.01およびVer. 3.01に準拠したGPS機器（D-sub 9 ピンケーブル併用）に接続
表示言語	
表示言語	チェコ語、デンマーク語、ドイツ語、英語、スペイン語、フランス語、インドネシア語、イタリア語、オランダ語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語、フィンランド語、スウェーデン語、トルコ語、繁体中国語、簡体中国語、日本語、韓国語
電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL4a 1個使用
ACアダプター	ACアダプター EH-6（別売）
三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4 （ISO 1222）
寸法・質量	
寸法（W×H×D）	約159.5×157× 87.5 mm
質量	約1240 g（バッテリー本体、メモリーカード、ボディーキャップ、アクセサリーシューカバーを除く）
動作環境	
温度	0～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

• 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、全て常温（20 ℃）フル充電バッテリー使用時のものです。

• 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

クイックチャージャー MH-22	
電源	AC 100 ～ 240 V（50/60 Hz）
充電出力	DC 12.6 V、1200 mA
適応電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL4a および EN-EL4
充電時間（1 本あたり）	約2時間25 分（EN-EL4a）/ 約1時間40 分（EN-EL4） ※残量のない状態からの充電時間
使用温度	0～40 ℃
寸法（W × H × D）	約160×85×50.5 mm
電源コード	長さ約1.8 m、日本国内専用AC 100V対応
質量	約260 g（電源コードを除く）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL4a	
形式	リチウムイオン充電池
定格容量	11.1 V、2500 mAh
寸法（W × H × D）	約56.5×27×82.5 mm
質量	約180 g（端子カバーを除く）

- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

このカメラの準拠規格

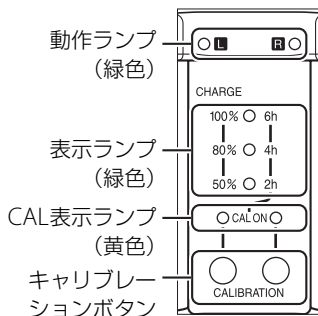
- **Design rule for Camera File system（DCF）Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF（Digital Print Order Format）**：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.21**：（Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge**：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)**：家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。
  1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

クイックチャージャー MH-22の キャリブレーションについて

クイックチャージャーMH-22は、バッテリー容量を正確に表示できるかどうか検査し、調整するキャリブレーション機能を装備しています。

キャリブレーションの必要性と進行状況は、右図のランプの点灯状況で確認できます。

CAL表示ランプが点滅している場合は、点滅した側に装着したバッテリーにキャリブレーションの必要があることを示しています。

キャリブレーションを行うには、点滅しているCAL表示ランプの真下にあるキャリブレーションボタンを約1秒押してください。キャリブレーション中は、バッテリーを装着した側の動作ランプが点滅します。キャリブレーションに必要な時間は、次の表の通りです。

		キャリブレーションに必要な時間			
		約2時間以内	約2～4時間	約4～6時間	約6時間以上
表示ランプ（緑色）	2h	● 消灯	○ 点灯	○ 点灯	○ 点灯
	4h	● 消灯	● 消灯	○ 点灯	○ 点灯
	6h	● 消灯	● 消灯	● 消灯	○ 点灯
CAL表示ランプ（黄色）CAL ON (L)/(R)		○ 点灯	○ 点灯	○ 点灯	○ 点灯

CAL表示ランプが点滅しても、必ずしもキャリブレーションボタンを押してバッテリーのキャリブレーションを行う必要はありません。また、キャリブレーションは途中で中断することもできます。

- CAL表示ランプの点滅時にキャリブレーションボタンを押さなかった場合は、約10 秒後に通常の充電を開始します。
- 途中でキャリブレーションを中断する場合は、もう一度キャリブレーションボタンを押します。測定が中断され、充電が開始されます。

キャリブレーションが完了すると、CAL表示ランプおよび全ての表示ランプが消灯し、充電を開始します。

こんなときは…

- **バッテリーを装着していないのにL およびR の動作ランプとCAL 表示ランプが交互に点滅する**

  クイックチャージャーに異常が発生しました。直ちに電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- **バッテリー装着時にL またはR の動作ランプとCAL 表示ランプが交互に点滅する**

  充電時にバッテリーまたはクイックチャージャーの異常が発生しました。直ちにバッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いた後、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

2本のバッテリーを装着した場合

L 側、R 側の両方にバッテリーを装着している場合、装着した順番に1 本ずつ充電します。CAL 表示ランプが点滅しているときにキャリブレーションボタンを押すと、まずは最初に装着したバッテリーのキャリブレーションを行い、その後充電を行います。1 本目のバッテリーの充電が終わるまで、他のバッテリーはキャリブレーションも充電もできません。

使用できるCFカード

次の容量のCFカード（Type I）が使用できます。

SanDisk製	Extreme IV	SDCFX4	2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
	Extreme III	SDCFX3	1 GB、2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
	Ultra II	SDCFH	1 GB、2 GB、4 GB、8 GB
	Standard	SDCFB	1 GB、2 GB、4 GB
LEXAR MEDIA社製	Professional UDMA	300×	2 GB、4 GB、8 GB
	Professional	233×	2 GB、4 GB、8 GB
		133×	1 GB、2 GB、4 GB
	Platinum II	80×	1 GB、2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
		60×	4 GB

- 上記メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のメモリーカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。
- Type IIのCFカードやマイクロドライブは使用できません。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮影された画像のファイルサイズは、撮像範囲（🕮82）、画質モード（🕮88）、画像サイズ（🕮92）によって決まります。そのため、メモリーカードに記録できる画像のコマ数は、撮像範囲、画質モード、画像サイズの組み合わせによって変化します。SanDisk社のExtreme IV（SDCFX4）の4 GBのメモリーカードを使用した場合、撮影できるコマ数は次のようになります。

■［撮像範囲］が［FX（36×24）1.0×］の場合※1

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※3
RAW（ロスレス圧縮RAW/12ビット記録）	—	約11.3 MB	202コマ	42コマ
RAW（ロスレス圧縮RAW/14ビット記録）	—	約14.3 MB	155コマ	36コマ
RAW（圧縮RAW/12ビット記録）	—	約10.1 MB	277コマ	43コマ
RAW（圧縮RAW/14ビット記録）	—	約12.6 MB	229コマ	36コマ
RAW（非圧縮RAW/12ビット記録）	—	約19.1 MB	202コマ	38コマ
RAW（非圧縮RAW/14ビット記録）	—	約24.9 MB	155コマ	35コマ
TIFF（RGB）	L	約36.1 MB	107コマ	36コマ
	M	約20.3 MB	191コマ	42コマ
	S	約9.1 MB	423コマ	59コマ
FINE※4	L	約5.9 MB	559コマ	82コマ
	M	約3.3 MB	995コマ	130コマ
	S	約1.5 MB	2.1Kコマ	130コマ
NORMAL※4	L	約2.9 MB	1.0Kコマ	122コマ
	M	約1.7 MB	1.9Kコマ	130コマ
	S	約0.8 MB	4.1Kコマ	130コマ
BASIC※4	L	約1.5 MB	2.1Kコマ	124コマ
	M	約0.9 MB	3.6Kコマ	130コマ
	S	約0.4 MB	7.8Kコマ	130コマ

■■［撮像範囲］が［DX (24×16) 1.5×］の場合※5

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※3
RAW（ロスレス圧縮RAW/12ビット記録）	—	約5.2 MB	460コマ	62コマ
RAW（ロスレス圧縮RAW/14ビット記録）	—	約6.4 MB	356コマ	54コマ
RAW（圧縮RAW/12ビット記録）	—	約4.5 MB	626コマ	78コマ
RAW（圧縮RAW/14ビット記録）	—	約5.6 MB	522コマ	59コマ
RAW（非圧縮RAW/12ビット記録）	—	約8.3 MB	460コマ	58コマ
RAW（非圧縮RAW/14ビット記録）	—	約10.8 MB	356コマ	52コマ
TIFF（RGB）	L	約15.5 MB	249コマ	46コマ
	M	約8.7 MB	441コマ	57コマ
	S	約4.0 MB	964コマ	95コマ
FINE※4	L	約2.5 MB	1.2Kコマ	130コマ
	M	約1.4 MB	2.2Kコマ	130コマ
	S	約0.7 MB	4.8Kコマ	130コマ
NORMAL※4	L	約1.3 MB	2.5Kコマ	130コマ
	M	約0.7 MB	4.1Kコマ	130コマ
	S	約0.4 MB	8.9Kコマ	130コマ
BASIC※4	L	約0.7 MB	4.8Kコマ	130コマ
	M	約0.4 MB	7.8Kコマ	130コマ
	S	約0.2 MB	15.6Kコマ	130コマ

※1 ［**撮像範囲**］の［**DX 自動切り換え**］が［**する**］で DX レンズ以外のレンズを装着した場合を含みます。

※2 撮影条件により、記録可能コマ数は増減することがあります。

※3 ISO 感度が ISO 200 の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- ［**JPEG圧縮**］を［**画質優先**］に設定してJPEG画像を撮影した場合
- ISO感度（□116）をHi 0.3以上に設定した場合

- ISO感度をISO 3200より高く設定し、［**高感度ノイズ低減**］（□303）を［**しない**］以外に設定した場合
- ［**アクティブD-ライティング**］（□187）を［**しない**］以外に設定した場合
- ［**長秒時ノイズ低減**］（□303）を［**する**］に設定した場合
- ［**感度自動制御**］（□118）を［**する**］に設定し、［**高感度ノイズ低減**］を［**しない**］以外に設定した場合
- ［**画像真正性検証機能**］（□356）を［**する**］に設定した場合

※4　1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、［**JPEG圧縮**］（□90）が［**サイズ優先**］に設定されている場合です。［**JPEG圧縮**］を［**画質優先**］に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。

※5［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］が［**する**］でDXレンズを装着した場合を含みます。

カスタムメニュー d3［連続撮影コマ数］（□322）

カスタムメニュー d3［**連続撮影コマ数**］では、連続撮影時の連続撮影コマ数を1～130コマの範囲で設定できます。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL4a（2500mAh）による撮影可能コマ数（電池寿命）

- 1コマ撮影モード：約4200コマ（CIPA基準準拠※1）
- 連写モード：約4700コマ（当社試験条件※2）

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。装着レンズAF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED、温度23（± 2）℃。

※2 画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続レリーズした後、液晶モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S VR ED 70–200mm f/2.8G（VR機能OFF）、温度20℃。

※充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAW、TIFF（RGB）に設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- ワイヤレストランスミッター WT-4を使用した場合
- GPSユニットGP-1を使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4aの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。
- 定期的にセットアップメニューの［**電池チェック**］（□355）で、バッテリーの状態をご確認いただくことをおすすめします。「キャリブレーション：☀CAL」と表示された場合は、クイックチャージャー MH-22で、EN-EL4aのキャリブレーションを行ってください。また、半年以上使用していないバッテリーは、キャリブレーションしてから充電してください。

索 引

マーク・英数字

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

アフターサービスについて

この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、さらにご質問がございましたらニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

修理を依頼される場合は

この製品の修理を依頼される場合は、ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン　サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- カメラを修理に出される場合は、メモリーカードをカメラから取り出してください。

補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店、またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社Webサイトでご覧いただくことができます。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/

製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:03-5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：　　　　　　年　　月　　日
お買い上げ日：　　　　　　年　　月　　日
製品名：　　　　　　シリアル番号：
フリガナ お名前：
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL: FAX:
ご使用のパソコンの機種名： メモリー容量：　　　　ハードディスクの空き容量： OS のバージョン： ご使用の当社ソフトウェアの名称およびバージョン名： ご使用のアプリケーションソフト名：
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）

※ このページはコピーしてお使いください。

※ 整理番号：

製品の使い方に関するお問い合わせ

<ニコン カスタマーサポートセンター>

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話･公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30～18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03）5977-7499 に送信ください。

修理サービスのご案内

インターネットでの修理のお申し込み

下記 URL から「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みができます。宅配便などでお送りいただいた場合などの「修理金額見積り」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/repair/　※インターネットでの修理のお申し込みの場合、送料割引がございます。

修理品のお引き取りを依頼される場合は

<ニコン ピックアップサービス>

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け･修理品のお引き取り、修理後のお届け･集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の配送料金にて承ります。
※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。

0120-02-8155

営業時間：9：30～18：00（年末年始12/29～1/4を除く毎日）
※左記のフリーダイヤルは、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。

製品に関するお問い合わせは、上記のカスタマーサポートセンターへお願いいたします。
修理に関するお問い合わせは、下記の修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

<（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター>

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話･公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30～17：30（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577（ニコンカスタマーサポートセンター）におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Japan
SB9J02(10)
6MB07410-02